

辰野町

SAWAJIRIHIGASHIBARA

沢尻東原遺跡

北沢東工場適地の開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2024. 2

辰野町

長野県埋蔵文化財センター



遺跡遠景（北東から）



遺跡遠景（南から）



集落全景



集落（主要部）



豎穴建物跡（SB10）出土土器



豎穴建物跡（SB13）出土土器



顔面把手付土器 (SB10 No.53) 顔面部拡大



双口土器 (SB12 No.115)

例 言








- 1 本書は、長野県上伊那郡辰野町に所在する沢尻東原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、北沢東工場適地の開発事業に伴う記録保存調査として、一般財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターが実施した。受委託については第1章を参照願いたい。
- 3 遺跡の概要は、長野県埋蔵文化財センター刊行の「長野県埋蔵文化財センター年報」36～39で紹介しているが、本書の記述をもって本報告とする。
- 4 本書で使用した地図は、国土地理院発行の地形図1：50,000「塩尻」・「諏訪」・「伊那」・「高遠」および該当範囲の電子地形図をもとに作成した。
- 5 本書で取り扱っている国土座標は、国土地理院の定める平面直角座標系第Ⅷ系の原点を基準点としている。座標値は世界測地系（測量成果2019）を用いている。
- 6 発掘、整理作業において以下の機関に業務を委託した。

測量・空中写真撮影	：株式会社 小林コンサル	（2019年度）
遺物洗浄・注記	：株式会社 第一合成	（2019年度）
遺物実測	：株式会社 AB.do	（2020年度）土器
	株式会社 ラング	（2021・22年度）土器
	株式会社 アルカ	（2021年度）石器
遺物写真撮影	：信毎書籍株式会社	（2022年度）
- 7 発掘、整理作業において以下の方々と機関に御指導、御協力を頂きました。記して感謝の意を表します（五十音順、敬称略）。

会田 進、市澤英利、伊藤正人、岡田圭助、尾崎大真、長田友也、上條信彦、川島 周、柴 秀毅、高橋龍三郎、福島 永、松島信幸、米田 穰、辰野町産業振興課、辰野町教育委員会、辰野美術館、辰野町文化財保護審議会、長野県文化財保護審議会史跡・考古資料部会、長野県立歴史館、箕輪町郷土博物館
- 8 発掘調査・整理作業の担当者等は第1章第2節4に記載した。
- 9 本報告書の執筆分担等は以下のとおりである。

第4章第1節	寺内隆夫
第4章第2節	上條信彦 米田 穰 尾崎大真
遺物一覧表所見	寺内隆夫
上記以外	廣田和穂
校閲 調査部長	川崎 保 調査第一課長 西 香子
- 10 本書に添付したDVDには、以下の内容を取録した。
報告書PDF、挿表データ（遺構一覧表、遺物一覧表）他

凡 例

- 1 遺跡全体図、遺構分布図等に示した国家座標は世界測地系の値である。
- 2 遺構番号は遺構種ごとに付している。
- 3 遺物番号は本文、挿表、遺物図版、遺構図版の遺物出土状況図、写真図版のすべてに共通する。この中には、写真図版のみ掲載し遺物図版に実測図が掲載されていない遺物の番号も含まれる。
- 4 掲載した実測図の縮尺は、原則として以下のとおりである。
遺構実測図 竪穴建物跡 1:60、1:30
土坑・焼土跡 1:30
ただし、調査区全体図・遺構配置図・挿図などは任意である。
遺物実測図 土器（土器拓影を含む） 1:3、1:4
土偶・土製品 1:2
石器 1:2、1:3、2:3、1:4、1:6
遺物写真 遺物実測図と概ね共通である。
写真のみ掲載した石器は縮尺を個別に掲載した。
- 5 遺構図版のPは土器、Sは石器または自然礫を示す。
- 6 基本層序および遺構埋土の色調と土器の色調は「新版 標準土色帖」による。
- 7 本報告書で使用したスクリーントーン等の凡例は以下の通りである。
 - (1) 遺構図

● 土器 ▲ 石器
..... 推定 - - - - 貼り床範囲 - - - - 遺物集中範囲
 - (2) 遺物図

土器  赤彩範囲 - - - - 推定 剥離
 土製品摩耗範囲 ↑ 貫通痕
石器  摩耗範囲  節理面  磨き範囲
- 8 遺物の器種名については細分せず、過去の長野県埋蔵文化財センター報告書等を参考にして一般的と思われる名称を付けた。

目 次

巻頭写真
例 言
凡 例
目 次

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至る経過

1 事業計画の概要	1
2 過去の調査と保護措置の調整	1
3 行政手続の経過	3

第2節 発掘調査の経過

1 発掘作業	4
2 整理等作業	4
3 普及啓発活動	5
4 発掘作業と整理等作業の体制	6
5 作業日誌抄録	7

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	9
-----------	---

第2節 歴史的環境	12
-----------	----

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

1 発掘作業の方法	15
2 整理作業の方法	18

第2節 遺跡の概要と基本層序

1 遺跡の概要	19
2 基本層序	19

第3節 縄文時代中期の遺構と遺物

1 概要	21
2 遺構	21
3 遺物	59

第4節 古墳時代前期の遺構と遺物

1 概要	60
2 遺構・遺物	60

第4章 総括	
第1節 縄文時代中期の集落	
1 時期区分の手順	61
2 各時期の土器様相	61
3 縄文中期集落の変遷	69
第2節 自然科学分析	
沢尻東原遺跡出土石皿・台石類の残存デンプン粒分析および年代測定、炭素・窒素安定同位体比分析	
1 分析の目的	76
2 残存デンプン粒分析	76
3 年代測定、炭素・窒素安定同位体比分析	80
4 黒色物の由来	82
5 まとめ	83
第3節 成果と課題	84
参考・引用文献	87
付表（遺構・遺物一覧表）	88
遺構図版	
遺物図版	
写真図版	
報告書抄録	
添付DVD：報告書PDF、挿表データ（遺構一覧表、遺物一覧表）他	

挿図目次

第1図	辰野町による試掘・確認調査等位置	2	第14図	第3期集落	70
第2図	遺跡位置図	10	第15図	第4期集落	70
第3図	遺跡周辺横断模式図	10	第16図	第5期集落	70
第4図	辰野町周辺地質図	11	第17図	第6期集落	74
第5図	地質図凡例	11	第18図	第7期集落	74
第6図	辰野町時代別遺跡数	12	第19図	第8期集落	74
第7図	辰野町南部主要遺跡地図	13	第20図	第9期集落	74
第8図	沢尻東原遺跡の調査区	16	第21図	沢尻東原遺跡出土デンプン検出礫 石器	78
第9図	基準線とグリッドの設定	17	第22図	沢尻東原遺跡出土礫石器検出デ ンプンおよび比較標本	79
第10図	基本土層図	20	第23図	炭素・窒素安定同位体比	82
第11図	遺構間接合図	62	第24図	炭素・窒素同位体比と相対濃度 (C/N比とN/C比)の結果	82
第12図	土器変遷概念図	65			
第13図	中期初頭における沢尻東原遺跡周 辺の地形・遺跡	70			

挿表目次

第1表	辰野町による試掘・確認調査等一覧	2	第10表	縄文中期集落 竪穴建物跡時期変遷	63
第2表	受委託契約の経過	3	第11表	観察資料と検出デンプン粒	80
第3表	土木工事のための発掘にかかわる 行政手続	3	第12表	分析資料	80
第4表	調査のための発掘にかかわる行政 手続	3	第13表	前処理の結果	81
第5表	埋蔵物の発見にかかわる行政手続	3	第14表	元素および安定同位体比の分析結果	81
第6表	辰野町南部主要遺跡一覧	13	第15表	グラファイト化の結果	81
第7表	竪穴建物跡における土器出土状況 一覧	46	第16表	放射性炭素年代測定の結果	81
第8表	竪穴建物跡出土石器遺構別組成一覧	49	第17表	推定される較正年代と注記 (cal BP表記)	82
第9表	屋外埋設土器一覧	57	第18表	推定される較正年代と注記 (BC/AD表記)	82

付 表

付表1	縄文時代堅穴建物跡	(SB)	一覧	付表6	縄文時代土器一覧
付表2	縄文時代土坑	(SK)	一覧	付表7	縄文時代土偶一覧
付表3	縄文時代焼土跡	(SF)	一覧	付表8	縄文時代ミニチュア土器一覧
付表4	縄文時代屋外埋設土器	(UG)	一覧	付表9	縄文時代土製品一覧
付表5	縄文時代土器集中	(DS)	一覧	付表10	縄文時代石器一覧

遺構・遺物図版目次

遺構配置図	図版1～6	縄文時代の遺物 (土器)	図版75～151
縄文時代の遺構 (SB)	図版7～66	縄文時代の遺物 (土偶)	図版152～155
縄文時代の遺構 (SF)	図版67	縄文時代の遺物 (土製品)	図版156～157
縄文時代の遺構 (SK)	図版68～70	縄文時代の遺物 (石器)	図版158～180
縄文時代の遺構 (UG)	図版71～73	古墳時代の遺構 (SB)	図版181
縄文時代の遺構 (DS)	図版74	古墳時代の遺物 (土器)	図版182

写真図版目次

縄文時代の遺構 (SB)	PL1～21	縄文時代の遺物 (土偶)	PL108～111
縄文時代の遺構 (UG)	PL22～27	縄文時代の遺物 (土製品)	PL112
縄文時代の遺構 (UG・DS)	PL28	縄文時代の遺物 (石器)	PL113～123
縄文時代の遺構 (DS・SF・SK)	PL29	古墳時代の遺構 (SB)	PL124
縄文時代の遺構 (SK)	PL30	古墳時代の遺物 (土器)	PL125
縄文時代の遺物 (土器)	PL31～107		

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至る経過

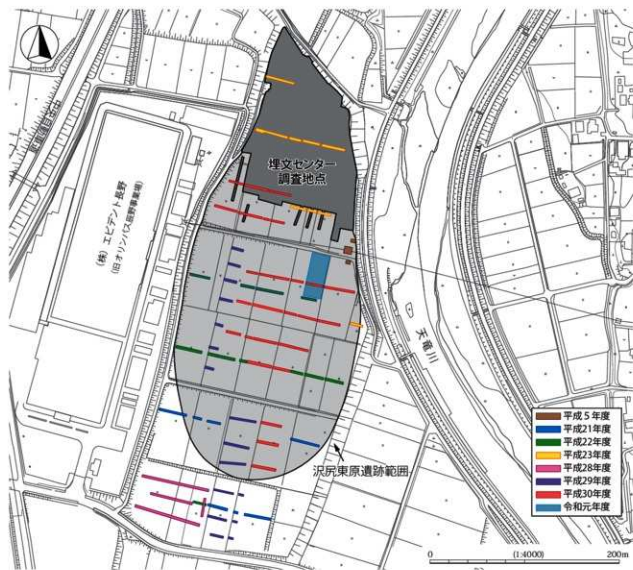
1 事業計画の概要

長野県上伊那郡辰野町大字伊那富に立地する北沢工業団地は中央道伊北 IC の東側に位置する。昭和57(1982)年から造成を開始し、平成初め頃にはすべて売却された。現在では上伊那郡の中でも有数の工業団地として発展を遂げている。その後も地理的な利便性から隣接地への工場進出の要望があるものの、農業振興地域であるため町の土地開発公社も工場の誘致ができない状況にあった。今回の調査地点である北沢東工場適地については、平成15(2003)年に長野オリンパス株式会社長野本社の東側の造成計画が浮上し、農業振興地域のため地権者の同意を得て平成18(2006)年から農業振興地域の除外を開始し、平成21(2009)年にすべての除外が完了した。企業からの問い合わせの増加等に伴い、平成29(2017)年には、土地開発公社から企業誘致支援室(現産業振興課)に担当部署を変更して、当該地の開発が事業化された。

2 過去の調査と保護措置の調整

過去の調査 「辰野町誌」(辰野町誌刊行委員会1990)には、昭和56年の水路埋設工事中に古墳時代中期ごろの土器と堅穴建物跡と思われる遺構を確認したとの話や、近接地域に古墳が2基存在した伝承が残るものの、明確な記録がない。辰野町教育委員会(以下町教委という)による調査は平成5年以降に実施されている。特に工業団地造成の計画浮上後は、段丘面において、町教委が断続的に遺跡の試掘・範囲確認調査を実施した(第1図、第1表)。平成21(2009)年以降は水田区画ごとにトレンチを設定し、重機による耕作土の掘削の後、遺物が出土した時点で手掘り作業に変え、遺物包含層や遺構検出面を確認した。その結果、遺跡範囲内の北端部において、地表下約50cmで縄文時代中期の遺物包含層を確認、堅穴建物跡を7軒検出した。

保護措置の調整と受委託契約 町教委による試掘結果を受け、平成30(2018)年には町産業振興課と長野県教育委員会(以下県教委という)による保護協議が行われ、記録保存が適当との結論に至った。調査対象範囲は造成工事計画地内の北部とし、平成31年(令和元年)度中に発掘することとなった。しかし町教委が1年間で18,000㎡を発掘することは困難であるため、平成31(2019)年1月18日、県教委、町産業振興課、町教委、長野県埋蔵文化財センター(以下埋文センターという)による保護協議が行われ、町は記録保存調査を埋文センターへ委託して実施することで合意し、町は県教委および埋文センターと受委託契約を締結することとなった。記録保存調査の対象面積は18,000㎡で、発掘開始は平成31年度(令和元年)4月とした。



第1図 辰野町による試掘・確認調査等位置

第1表 辰野町による試掘・確認調査等一覧

年度	期間	調査面積	町文書番号	県文化財認定	備考
平成5	1993.10.25 ～10.27	約80㎡	5 教社第659号	1994.3.31 5 教文第6-25号	縄文時代：土器1点、黒曜石3点
平成21	2009.2.22 ～3.18	約270㎡	21 辰第3078号	2009.3.30 21 教文第20-139号	縄文時代：土器1点
平成22	2010.5.11	約20㎡	22 辰第592号		
平成22	2010.12.25 ～2011.3.25	約400㎡	22 辰第592号	2011.3.31 22 教文第20-145号	縄文時代：土器5点
平成23	2011.11.21 ～12.16	約360㎡	23 辰第2827号	2012.1.4 23 教文第20-119号	縄文時代：土器約600点 竪穴建物跡7軒
平成28	2017.2.3 ～2.27	約420㎡	28 辰第2241号		
平成29	2017.12.13 ～1.15	約322㎡	29 辰第1615号		
平成30	2018.11.12 ～11.27	約350㎡	30 辰第1352号		
平成31 令和元	2019.3.18 ～4.22	約980㎡	31 辰第322号	2019.5.23 元教文第20-26号	縄文時代：土器1袋 時期不明：土坑1基

3 行政手続の経過

協議結果を受けて、埋文センターは年度ごと辰野町と第2表の通り受委託契約を締結した。事業期間は5か年におよんだ。

沢尻東原遺跡の発掘調査にかかわる行政手続きは第3～5表のとおりである。

第2表 受委託契約の経過

年度	契約日	当初予算	完了日	精算
2019 (H31・R1)	2019.4.1	133,545,441円	2020.3.31	133,545,441円
2020 (R2)	2020.4.1	29,918,174円	2021.3.31	29,918,174円
2021 (R3)	2021.4.1	24,992,000円	2022.3.31	24,992,000円
2022 (R4)	2022.4.1	29,997,000円	2023.3.31	29,997,000円
2023 (R5)	2023.4.1	6,996,000円	2024.3.31	6,996,000円

第3表 土木工事のための発掘にかかわる行政手続（文化財保護法第94条関係）

年月日	文書番号	施行者	文書名	あて先	備考
2019.1.28	30辰第1570号	辰野町	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について	県教委	沢尻東原遺跡での土木工事を通知
2019.2.12	30教文第8-251号	県教委	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について	埋文センター	埋文センターが上記遺跡の発掘調査を受託するよう通知

第4表 調査のための発掘にかかわる行政手続（文化財保護法第92条関係）

年月日	文書番号	施行者	文書名	あて先	備考
2019.3.7	30長埋第2-6号	埋文センター	埋蔵文化財発掘調査の届出	県教委	沢尻東原遺跡
2019.3.27	30教文第6-9号	県教委	埋蔵文化財の発掘調査について通知	埋文センター	上記発掘調査の実施および終了報告提出等を指示
2020.2.5	元長埋第4-6号	埋文センター	発掘調査終了報告	県教委	沢尻東原遺跡 18,000㎡

第5表 埋蔵物の発見にかかわる行政手続（文化財保護法第102・105・108条関係）

年月日	文書番号	施行者	文書名	あて先	備考
2020.2.5	元長埋第2-6号	埋文センター	埋蔵物発見届	県教委	沢尻東原遺跡 土器270箱 石器50箱
2020.2.21	元教文第20-110号	県教委	埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属通知	埋文センター	沢尻東原遺跡

第2節 発掘調査の経過

1 発掘作業

2019（令和元）年度 町教委による試掘調査において、縄文時代中期の竪穴建物跡が複数確認されているため、比較的密度の高い縄文集落が広がっていると予想した。

調査地区名は水田区画ごとに1区～13区と便宜的に区分し、調査範囲北西端の1区から調査を開始した。

各地区の調査は、まず重機によりトレンチを入れ、包含層の有無と検出面を把握した後に表土を剥ぎ、人力による面的精査を実施した。

調査範囲は昭和の圃場整備による削平により遺物包含層はほとんど残存せず、耕土直下から遺構検出面となる部分が大半を占めた。特に1・2区は削平が激しく、耕土直下で竪穴建物跡の炉石が露出する状態であった。しかし、3区より南側では、遺構の残存状況もよく、竪穴建物跡のプランも確認できた。遺構は調査範囲全体で検出されたが、7区および8～11区の南側は、トレンチ調査の結果、遺構、遺物ともに皆無であったため、町教委と協議の結果、面的精査の必要なしと判断した。

調査の結果、縄文時代中期の集落のほぼ全体を調査することができた。このほか古墳時代前期の竪穴建物跡を1軒検出したが、当該期の遺構と認定できるものは1軒だけである。

基礎整理作業では、遺構図、写真台帳ほか各種記録類の点検と台帳整備、遺構図の修正、遺物の分類等を実施した。遺物の洗浄は一部発掘現場で実施したが出土量が膨大なため調査終了後、業者に業務委託した。

2 整理等作業

2020（令和2）年度 報告書刊行に向けた本格整理作業を開始した。遺構記録については、現場記録図のデジタルトレースを行った。遺物については、土器は接合、分類、報告書掲載遺物の抽出と復元を行った。石器は器種分類と台帳作成を行った。また7月には早稲田大学の高橋龍三郎教授（当時）から、集落や土器について調査指導をいただいた。

2021（令和3）年度 遺構記録については、現場記録図のデジタルトレースと遺構配置図等の作成を行った。遺物については、土器は復元、色塗り、実測を行った。土偶、土製品、石器は実測を行った。土器の実測については、作業の効率化を図るため、外部委託による写真実測を実施した。

2022（令和4）年度 遺構記録については、遺構図の版組と遺物出土状況図の作成、挿図等の作成を行った。遺物については、実測、トレース、版組、写真撮影、遺物一覧表作成等を行った。

2023（令和5）年度 報告書刊行に向けて、遺構記録、遺物共に版組を行い、原稿を作成した。原稿、図版の完成後に校正および印刷製本を行い、関係各所に配布するとともに、出土資料・記録類は資料移管に備えて、整理収納し、移管台帳等を作成した。

3 普及啓発活動

			参加者
(1) 遺跡説明会および発掘体験等			
2019.6.19	辰野町立辰野南小学校6年生体験授業		28名
2019.7.23	辰野町立辰野南小学校5年生体験授業		21名
2019.8.21	箕輪町立箕輪中学校2年生職場体験		2名
2019.9.5	辰野町立川島小学校全校児童体験授業		20名
2019.9.21	遺跡説明会		256名
(2) 展示会および講演会等			
2020.3	埋文センター速報展で出土品等展示	埋文センター	58名
2020.3.25～6.14	春季展「長野県の考古学」で出土品等展示	長野県立歴史館	882名
2020.3.30	辰野町地権者説明会で調査成果を報告	辰野町北大出ふれあいセンター	40名
2020.8.7～8	「夏休み考古学教室」で出土品等展示	埋文センター	241名
2020.11.8	発掘調査成果報告会で調査成果を報告	辰野町公民館	70名
2021.3	埋文センター速報展で出土品等展示	埋文センター	60名
2021.3.13～5.9	「掘るしん2021」で出土品等展示	長野県立歴史館	1993名
2021.6.5～7.18	「掘るしん in たつの」で出土品等展示	辰野美術館	725名
2021.6.6	「掘るしん in たつの」で調査成果を報告	辰野町民会館	104名
2021.8.6～7	「夏休み考古学教室」で出土品等展示	埋文センター	238名
2022.3	埋文センター速報展で出土品等展示	埋文センター	41名
2022.3.13～6.12	「掘るしん2022」で出土品等展示	長野県立歴史館	3427名
2022.8.5～6	「夏休み考古学教室」で出土品等展示	埋文センター	333名
(3) 調査概要等の発行			
2019.5.27	「発掘だより」1号		
2019.7.19	「発掘だより」2号		
2019.9.17	「発掘だより」3号		
2019.12.10	「発掘だより」4号		
2020.3.23	「発掘作業の概要 沢尻東原遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報』36		
2021.2.16	「縄文時代中期の環状堅穴建物群」『信州の遺跡』第16号		
2021.3.23	「整理作業の概要 沢尻東原遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報』37		
2022.3.25	「整理作業の概要 沢尻東原遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報』38		
2023.3.17	「整理作業の概要 沢尻東原遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報』39		
(4) マスコミ等対応			
2020.5.20	信濃歴史再見「奇妙な形と文様の土器」『信濃毎日新聞』		
2020.10.6	「辰野の遺跡縄文中期の環状集落」『信濃毎日新聞』		
2021.7	「長野県埋蔵文化財センター地域展」『広報たつの』7月号		
2021.7.19, 21, 30	「掘るしん in たつの」講演会の放送 諏訪LVC		
(5) その他			
埋文センター公式ホームページ・facebook等に調査情報を掲載			

4 発掘作業と整理等作業の体制

本報告書に掲載した遺跡の発掘調査にかかわる作業体制は以下のとおりである。

2019（令和元）年度

所 長：	原田秀一	副 所 長：	関崎修二	調査部長：	平林 彰	担当課長：	園村秀雄
調査担当：	廣田和徳	大竹憲昭	田中一徳				
作 業 員：	青木沙保	青木重雄	赤羽勝幸	赤羽義幸	有賀昭男	井澤広行	市川正男
	今岡 蒼	宇賀村節子	歌代若菜	小根山貞子	唐沢英一郎	窪木保夫	熊谷 彰
	小池美香	小林とも子	小林奈美江	小林義郎	小山太一	小山幹生	柴 正徳
	鳥田清文	鳥田茂子	清水秋子	菅原瑞穂	竹入修二	田中勇一	中根秀子
	中村朝雄	中村克実	中村 誠	中谷正夫	西川道子	西原達雄	野嶋一平
	林 功	林 今朝夫	林 伯郎	半田純子	増田千加代	松田 弘	宮澤俊作
	村澤宏美	両角太一	森下晃治	柳澤令一	山崎千尋	吉江美恵子	若林孝広

2020（令和2）年度

所 長：	原田秀一	副 所 長：	山田秀樹	調査部長(担当課長兼務)：	川崎 保
調査担当：	廣田和徳	寺内隆夫			
作 業 員：	伊藤由美	原 恵美	山下千幸		

2021（令和3）年度

所 長：	原田秀一	副 所 長：	山田秀樹	調査部長(担当課長兼務)：	川崎 保		
課長補佐：	河西克造	調査担当：	廣田和徳				
作 業 員：	荒井君江	大澤紅美	清宮利花	塩野入奈美	清水秋子	清水栄子	清水陽向
	陶山明子	田中富子	中島英子	原 恵美	山下千幸		

2022（令和4）年度

所 長：	原田秀一	副 所 長：	山田秀樹	調査部長(担当課長兼務)：	川崎 保		
課長補佐(調査担当兼務)：	廣田和徳						
作 業 員：	大澤紅美	大澤正明	窪田 順	坂井美徳	塩野入奈美	清水秋子	寺澤政俊
	中澤克子	中村智恵子	原 恵美	堀内慎一	山下千幸		

2023（令和5）年度

所 長：	原田秀一	副 所 長：	草間ちづる	調査部長：	川崎 保	担当課長：	西 香子
課長補佐(調査担当兼務)：	廣田和徳						

5 作業日誌抄録

2019（令和元）年度

4月1日	辰野町と受委託契約を締結	8月19日	竪穴建物跡確認総数50軒、屋外埋設土器は40基を超えることが判明
4月9日	県教委、町教委、町産業振興課、埋文センターの4者で調査対象地について協議	8月21日	箕輪町立箕輪中学校2年生職場体験学習受け入れ
4月22日	発掘作業開始	9月5日	辰野町立川島小学校全校児童体験発掘受け入れ
4月26日	産業振興課視察	9月10日	古墳時代前期の竪穴建物跡を確認
6月3日	伊那谷自然友の会理事松島信幸氏、飯田市美術館博物館長市澤英利氏による、地形・地質指導	9月18日	現地説明会事前報道公開
6月14日	ニュージーランド姉妹都市視察団来路	9月21日	現地説明会
6月19日	辰野町立辰野南小学校6年生体験発掘受け入れ	11月15日	遺物洗浄・注記業務委託契約締結
6月25日	町産業振興課と埋文センターによる2者で調査範囲内にある町道の扱いについて協議	11月19日	業務委託による測量空中写真撮影実施
6月26日	辰野町文化財保護審議委員、教育長ほか視察	11月26日	町、県教委、埋文センターによる3者で調査区引き渡しと次年度以降の整理作業について協議
6月27日	竪穴建物跡確認総数が30軒となる	11月29日	発掘作業終了
7月11日	県文化財保護審議会史跡考古資料部会委員による現地指導	12月2日	冬季基礎整理作業開始
7月22日	辰野町長・副町長・産業振興課長視察	12月19日	遺物洗浄・注記業務委託中間検査
7月23日	辰野町立辰野南小学校5年生体験発掘受け入れ	3月12日	測量業務委託成果納品
		3月25日	長野県立歴史館において春季展示(6.14日まで)
		3月31日	基礎整理作業終了、本年度受委託契約完了

2020（令和2）年度

4月1日	辰野町と受委託契約を締結	9月18日	遺物オルソ画像等作成業務納品
4月8日	本格整理作業開始、土器接合、復元ほか	9月24日	長野市立藤ノ井東中学校3年生職場体験受け入れ
7月2日	県教委、辰野町、埋文センターによる3者で次年度以降の整理費用について協議	11月8日	辰野町で発掘調査成果報告会
7月20日	遺物オルソ画像等作成業務委託契約	11月20日	辰野町と埋文センターによる2者で次年度以降の整理費用と整理期間の延長について協議
7月27日	早稲田大学教授高橋龍三郎先生による整理指導	3月13日	長野県立歴史館で開催の「掘るしん2021」に出土品を展示（5月9日まで）
8月7日	夏休み考古学教室に遺物を展示	3月31日	整理作業終了、本年度受委託契約完了

2021（令和3）年度

4月1日	辰野町と受委託契約を締結	9月27日	土器断面手実測開始、復元土器色塗り開始
4月6日	本格整理作業開始。土器復元、石器計測ほか	10月27日	石器手実測開始
5月14日	辰野町、埋文センターによる2者で今後の整理費用と整理期間について協議	11月15日	遺構写真真図版作成開始
6月5日	辰野美術館にて「掘るしん in たつの2021」に出土品を展示（7月18日まで）	11月25日	遺物実測業務委託（その3）開始
6月6日	辰野町民会館にて「掘るしん in たつの2021講演会を実施（早稲田大学教授高橋龍三郎先生）	12月28日	土器復元終了
7月15日	遺物実測業務委託（その1）開始	1月17日	石器デジタルトレース開始
8月6日	夏休み考古学教室に遺物を展示	1月25日	遺物実測業務委託（その4）開始
9月15日	遺物実測業務委託（その2）開始	3月12日	埋文センター速報展に出土品を展示
		3月13日	長野県立歴史館で開催の「掘るしん2022」に出土品を展示（6月12日まで）
		3月31日	整理作業終了、本年度受委託契約完了

2022（令和4）年度

4月1日	辰野町と受委託契約を締結	11月7日	遺物写真撮影委託業務開始
4月11日	本格整理作業開始。遺物実測、デジタル等	1月5日	遺物写真撮影委託納品
5月16日	遺物実測業務委託開始	1月5日	遺構・遺物一覧表作成
8月5日	夏休み考古学教室に遺物を展示	3月31日	整理作業終了、本年度受委託契約完了

2023（令和5）年度

4月1日	辰野町と受委託契約を締結	2月29日	報告書刊行
4月6日	本格整理作業開始 原稿執筆、校正、取納	3月4日	出土遺物等移管完了
10月17日	報告書印刷製本業務委託締結	3月31日	整理作業終了、本年度受委託契約完了



松島信幸氏による地形・地質指導



松野町文化財保護審議委員による視察



松野町立松野南小学校6年生体験発掘風景



現地説明会風景



高橋龍三郎氏による講演
「甕るしん in たつの」(2021.6.6)



松野美術館における展示
「甕るしん in たつの」(2021.6.5-7.18)



発掘作業員 集合写真



整理作業員 集合写真

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

沢尻東原遺跡は、長野県上伊那郡辰野町大字伊那富67501ほかの所在する。地理的には伊那盆地の最北端に立地する。伊那盆地は東部の伊那山脈と西部の木曾山脈の間に挟まれた南北に長い構造盆地であり、規模は南北約70km、幅は東西4～10kmを測る。盆地中央部に活動的中央低地帯を形成し、低地帯は天竜川が流れる沖積低地となる（松島1992）。

沢尻東原遺跡から南方をみると、天竜川沿いに飯田市まで伊那谷が続き、三州街道により三河まで通じている。一方、東・北・西の3方は山に囲まれている。通常、山脈は交通を阻害する要因となるが、遺跡から北方をみると、北東（諏訪）と北西（塩尻）へ向かう谷筋が明確に分かる（巻頭写真）。諏訪方面へは天竜川沿いの岡谷街道を経て容易に移動でき、塩尻方面へは小野川沿いに遡上し、善知鳥峠を越えて移動できる。善知鳥峠は急峻な箇所がなく古代東山道が通ると推定されている。JRの駅を基点に直線距離を測ると、辰野駅から岡谷駅まで約9km、塩尻駅まで約15kmあり、健脚ならば徒歩でも日帰り可能である。このほか辰野町から諏訪（岡谷市）に抜けるルートとして上野川沿いをたどり有賀峠を越える街道もある。有賀峠周辺は若干険しいが、上野川沿いは土地が開け、縄文遺跡も確認できる。

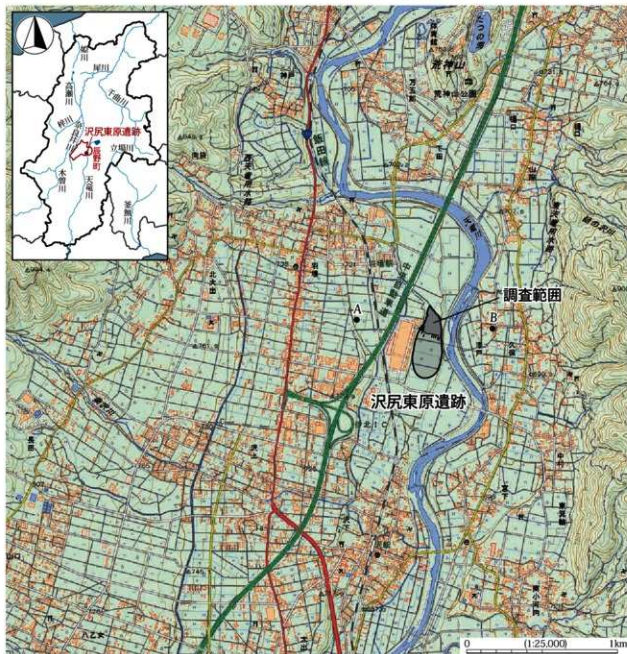
水系的に通じると小野川流域北部に位置する善知鳥峠が分水嶺となる。峠の南側は小野川、天竜川を経て太平洋に通じ、北側は田川から千曲川を経て日本海に通じる。当地域は太平洋と日本海を繋ぐ接点といえる。

辰野町は長野県のほぼ中央部に位置し南の飯田方面と北の諏訪、塩尻方面への移動が容易で、中部・北陸地方と東海地方とを繋ぐ交通の要衝としての役割はいつの時代にも変わらなかった。沢尻東原遺跡で出土する縄文時代中期土器が勝坂式土器文化圏の範疇に入るものの北陸系土器や東海系土器が含まれ古墳時代前期の土器にS字甕が含まれる点は、こうした地理的条件が重要な要因であったと推測される。

遺跡は天竜川右岸の河岸段丘上に立地している（第2図）。天竜川の兩岸には、隆起と浸食作用により3段～6段の段丘面が形成され（竹湖1982）、遺跡は第3段丘面上の標高703m程にある。遺跡の立地する段丘面と現在の天竜川との比高差は10mで（第3図）、これは現在まで約5,000年間の断層運動で比高差が増えたものである。該当する段丘面の形成時期は地質的には1万年程前とされ（第4図、第5図）、縄文時代は現在ほどの比高差はないと推測される（註1）。

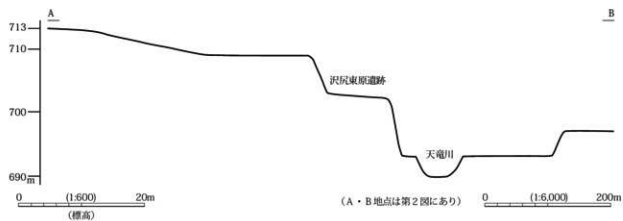
一方、遺跡周辺の地形をみると、調査範囲の東端と北端の段差そして西端の段差は河岸段丘に起因し、集落形成当時から存在すると考えられる。これに対し遺構検出面の微地形は集落形成時の様相を示さない可能性がある。遺構の検出面は平坦であったが、これは昭和40年代の圃場整備に伴う土地改良に起因しており、水田面を形成するため同一レベルで削平されたためである。本来は遺跡における基本土層Ⅲ層とした遺構検出面で基本土層Ⅵ層（基盤砂礫層）の一部が露出して南北方向に伸びる様子が帯状に数条確認されており、基盤層であるⅥ層が複雑な起伏を有していたと推測できる。つまり、縄文時代の集落景観は現在のような平坦な地形ではなく起伏に富んでいた可能性がある。

註1：松島信幸氏の御教示による。



第2図 遺跡位置図

(国土地理院電子地形図1/25,000を基に作成)

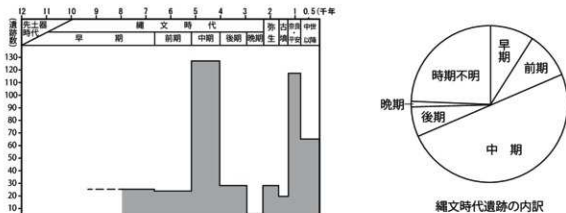


第3図 遺跡周辺横断模式図

第2節 歴史的環境

辰野町における埋蔵文化財包蔵地は現在250箇所あり、時代別（重複を含む）では、縄文時代が約220遺跡と最も多く、その中で中期が約130遺跡と半数を占める。弥生時代は約30遺跡、古墳時代は約20遺跡、奈良・平安時代で約120遺跡、中世以降が約60遺跡を数える。（第6図）。これまでに県教委や町教委により37遺跡で発掘調査が行われている（『辰野町誌』辰野町誌刊行委員会1990、『辰野町遺跡分布図』辰野町教育委員会2014）。

辰野町は町全体の約85%が山林であり、平坦部は限られるため、遺跡は天竜川兩岸の段丘上や、天竜川に流れ込む沢底川や上野川、横川やその支流沿い、山麓部に広がる扇状地上に多く立地する。特に天竜川の段丘上は居住域に適していたと考えられ、樋口内城遺跡（176）、荒神山おんまわし遺跡（183）、樋口五反田遺跡（186）は縄文時代から平安時代まで複数の時期に繰り返し集落が形成された。沢尻東原遺跡（98）も同じ立地条件下にある。以下本遺跡と関連する時代を中心に記述する（第7図、第6表）（註1）。



第6図 辰野町時代別遺跡数 (『辰野町誌』を元に作成)

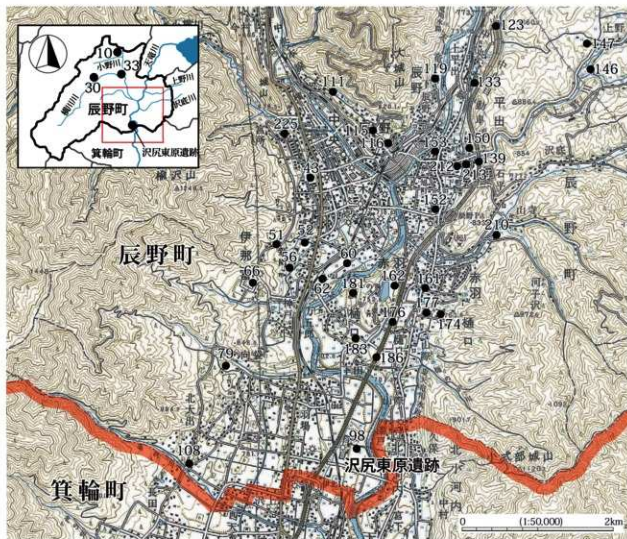
旧石器時代：当該期の遺跡は確認されていない。

縄文時代：草創期は、平出丸山遺跡（150）で表裏縄文土器数点が出土し、町内最古の土器とされる。

早期は、小野地区の山間部や天竜川兩岸の山麓部に遺跡が分布する。榊林遺跡（51）では堅穴建物跡を発掘し、立野式土器が出土している。小田原遺跡（147）では立野式の堅穴建物跡を10軒、集石炉75基を発掘している。上の山遺跡（43）では堅穴建物跡5軒を発掘し、縄ヶ島台式土器などの条痕文系土器が出土した。平出丸山遺跡（150）では焼土や集石遺構を発掘し、樋式土器など押型文土器や条痕文系土器が出土した。新町大原遺跡（60）では集石炉を20基発掘している。

前期は、山間地や山麓の傾斜地に遺跡が多く分布する傾向がある。御茶屋敷遺跡（153）では土器や炉跡と推定される焼土と共に関山式、神ノ木式、中越式などの土器が出土しており、当該期の大規模な集落跡になる可能性がある。丸山遺跡（116）では堅穴建物跡12軒を確認し、黒浜式、有尾式、諸磯a式、諸磯b式のほか西日本に分布する北白川下層式などの土器が出土している。榊林遺跡（51）では、墓と推定される穴を数十基発掘した。

中期は、遺跡数が前段階に比べ増加し、町内の広範囲で遺跡が確認されている。集落の規模も大規模化する傾向がある。前期末から中期前半には新町大原遺跡（60）で堅穴建物跡14軒、堂ヶ入遺跡（133）では2軒を検出した。樋口五反田遺跡（186）では遺跡範囲内における複数の調査により藤内式から～曾利



第7図 辰野町南部主要遺跡地図 (国土地理院地形図 電気・測図・伊那・高尾1/50,000を基に作成)

第6表 辰野町南部主要遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	草	早	前	中	後	晩	弥	古	奈良	中近世
10	鍛冶屋畑	小野				●						
30	外畦	横川	●		●	●						
33	大庭	上島				●						
43	上の山	伊那富	●	●	●							●
51	榎林	伊那富	●	●	●	●						
52	泉水	伊那富					●					
56	宮垣外	伊那富				●	●					
60	新町大原	伊那富	●	●	●							●
62	新町原田南	伊那富										●
66	神谷所	伊那富				●			●			
79	日影	伊那富				●						
98	沢尻東原	伊那富				●				●		
108	三谷	伊那富				●						
111	羽場崎	上辰野				●						
115	丸山下	上辰野				●	●					
116	丸山	上辰野				●						
119	石白原	上辰野				●						
123	沢入口	平出		●		●					●	
133	堂ヶ入	平出		●	●							●
139	越道	平出				●						
146	笠堰	上野		●								
147	小田原	上野		●								
150	平出丸山	平出	●	●			●					
152	半平蔵	平出								●	●	●
153	御茶屋敷	平出				●						
161	経塚	赤羽				●			●			
162	大久保尻京跡	赤羽										●
174	富士浅間	樋口										
176	樋口内城	樋口				●			●	●	●	●
177	矢沢原	樋口								●		
181	荒神山西	樋口								●		
183	荒神山おんまわし	樋口		●							●	
186	樋口五反田	樋口				●	●	●	●	●	●	●
210	堀の内	沢尻				●	●					●
212	御社宮司古墳	平出										
213	御陵ヶ塚古墳	平出										●
225	北廻舟A	伊那富					●					

式期までの集落が断続あるいは継続して存在したと考えられている。樋口内城遺跡(176)は天竜川左岸にある台地の先端部に位置し、井戸尻式期～曾利式期の竪穴建物跡57軒を発掘した。辰野町における当該期最大の集落遺跡である。集落のほぼ全体を調査し居住域が環状を呈することが判明した。また堀の内遺跡(210)も拠点集落であることが判明している。この他に荒神山おんまわし遺跡(183)や上の山遺跡(43)でも当該期の竪穴建物跡が確認されている。また、外畦遺跡(30)では焼町式土器の略完形品、鍛冶原畑遺跡(10)では翡翠の大珠、榊林遺跡(51)では大形の黒曜石が入った壺形土器などの希少品も出土している。沢尻東原遺跡(98)では谿沢式～曾利式Ⅱ式までの竪穴建物跡50軒を発掘、集落をほぼ丸ごと調査することができた。本遺跡は天竜川の対岸に位置する樋口五反田遺跡(186)と、樋口内城遺跡(176)との関係が注目される。本遺跡からの距離が前者は1.1km、後者は2km程と比較的近接し、目視できる距離にある。両遺跡ともに本遺跡と集落の時期が部分的に重なり、集落間同士の関係も今後の検討課題となる。

後期は、遺跡数が激減する。平出丸山遺跡(150)では5基の石棺墓と集石が確認されている。榊林遺跡(51)では墓壇と推定される大形土坑を確認、その脇から加曾利B式土器が多量に出土した。近接する泉水遺跡(52)では戦前に仮面付土偶が出土し、長野県宝に指定されている。

晩期は、樋口五反田遺跡(186)の調査で、墓域から配石墓16基と伏せた深鉢を発掘した。米式～榎王式期の土器が出土している。

弥生時代：縄文時代に比べ遺跡数は激減するが集落遺跡を数カ所で確認している。樋口内城遺跡(176)では中期末から後期にかけての竪穴建物跡約60軒を検出した。辰野町内において当該期の最大集落である。樋口五反田遺跡(186)では後期の竪穴建物跡15軒と方形周溝墓2基を検出した。2号建物跡内からは鉄斧が出土した。荒神山おんまわし遺跡(183)では後期の竪穴建物跡8軒と11基の方形周溝墓を検出した。3号周溝墓からは鉄鋼が出土している。半平蔵遺跡(152)では後期の竪穴建物跡1軒を検出した。

古墳時代：前期は今まで確認されていなかったが、沢尻東原遺跡(98)で1軒の竪穴建物跡を確認し、当該期の遺構としては辰野町では初例となった。東海系のS字甕やヒサゴ壺片などが出土している。中期は、樋口五反田遺跡(186)で竪穴建物跡1軒、樋口内城遺跡(176)で2軒確認されている。沢尻東原遺跡(98)でも過去に土器片が採集されたという記録が残るが、今回の調査で遺構を確認することはできなかった。後期は、半平蔵遺跡(152)で竪穴建物跡約26軒が確認されている。

古墳は、御社宮司古墳(212)と御陵ヶ塚古墳(213)の2基が確認されている。いずれも終末期古墳である。このほか辰野町誌によれば、町内に複数の後期古墳が存在した可能性について記述があるものの、現状では確認できない。沢尻東原遺跡周辺についても遺跡西側にある上段の段丘面で古墳の可能性のある塚が存在したとの伝承があるものの明確な証拠はない(註2)。

奈良・平安時代：縄文時代に続いて遺跡数が多い。竪穴建物跡は樋口内城遺跡(176)で8軒、沢入口遺跡(123)で5軒、半平蔵遺跡(152)で17軒、荒神山おんまわし遺跡(183)で24軒確認されている。

中近世：上の山遺跡(43)、新町東原遺跡(60)、新町原田南遺跡(62)、樋口内城遺跡(176)、堀の内遺跡(210)で居館跡が確認されている。大庭遺跡(33)、堂ヶ入遺跡(133)では墓域が確認されている。近世は、幕末の赤羽焼の窯跡である大久保尻窯跡遺跡(162)が確認されている(註3)。

註：1 本稿は「辰野町誌」、「辰野町遺跡分布図」を基に記述する。

2 辰野町教委福島永氏の御教示による。

3 窯跡は現在荒神山公園に移築保存されている。

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

1 発掘作業の方法

(1) 遺跡記号と調査区の設定

調査は、県教委の「記録保存を目的とする発掘調査の標準および積算基準」と、埋文センター作成の「遺跡調査の方針と手順」に則して実施した。

ア 遺跡名称と遺跡記号

遺跡名称と遺跡記号は、沢尻東原遺跡 (SAWAJIRI HIGASHIBARA) 「HSH」とした。遺跡記号は、調査記録の便宜を図るため、遺跡名をアルファベット3文字で表したもので、1文字目は長野県内を10地区に区分した地区記号で上伊那郡が該当する「H」、2・3文字目は遺跡名のローマ字表記2文字を選択したものである。各種記録類や遺物の注記に遺跡記号を用いている。

イ 遺構名称と遺構記号

埋文センターでは以下の遺構記号にアラビア数字を付して、遺構名としている。

今回の発掘調査で用いた遺構記号は以下の種類がある。

SB：2mを目安とし、それ以上の大きさの方形、円形、楕円形の掘込み（堅穴建物跡）。

SK：単独、もしくは他の掘込みとの関係が認められないSBより小さな掘込み（土坑）。

SF：単独で存在し、火を焚いた跡が面的に広がるものおよび炭化物の集中範囲（焼土跡）。

UG：単独で検出される屋外埋設土器

DS：単独で検出される土器集中範囲

SX：以上に記した以外の不明遺構

上記のほか、SB内の柱穴・貯蔵穴などの掘り込みには、ピット (Pit) を付した。

遺構記号は、主に平面形状や分布の特徴を指標として、検出時に決定するため、遺構記号と遺構の機能、性格が一致しないことが、整理時に判明する場合もある。

遺構記号のうち、DSについては検出時に土器集中範囲と判断したものの、整理時にUGと判明したものがあり、事実記載中でその旨を記している。

遺構番号は、時代などに関わらず、種類ごと、検出順に付けた。混乱を避けるため、一旦記号・番号を付したものは原則として変更していない。調査の結果、遺構ではないことが判明した場合は欠番とした。

ウ 調査区・グリッドの設定と呼称

調査対象地区は1.8haに及ぶため、土地区画の状況及び工事行程に合わせて調査範囲を便宜的に分割し、1～13区と呼称した（第8図）。

測量に用いるグリッドは国土地理院の平面直角座標第Ⅷ系の原点（X = 東経 = 138° 30' 0", Y = 北緯 = 36° 00' 00"）を基準として、大々地区、大地区、中地区の3段階に区分した。大々地区は、200m × 200mの区画で、調査対象地区全体にかかる3区画を設定し、ローマ数字のⅠ～Ⅲと表記した。大地区は大々地区を40m × 40mの25区画に分割したもので、北西から南東へA～Yまでのアルファベット大文字を用いた。中地区は大地区を8m × 8mの25区画に分割し、北西から南東へ01～25のアラビア数字で表記し

た。調査では、中地区を遺構測量等の基準単位とした。基準線および基準点の設定と水準点の移動、基準杭やグリッド杭の打設は、委託業務により行った(第9図)。

(2) 表土の掘削と遺構の検出

町教委の試掘調査結果から、調査区の大部分は昭和の圃場整備により遺物包含層が削平されていることが確認されていたため、各区ごと重機によりトレンチを掘削し遺構検出面を確定した。

重機による掘削後に作業員による遺構検出を実施した。検出遺構は、平面で遺構の形状や重複関係を把握してから埋土の掘り下げ等の調査をした。先行トレンチで遺構埋土を観察・記録した後、移植ごて及び両刃鎌で埋土の層位ごとに底部まで掘り下げ、完掘状態を記録した。堅穴建物跡は、掘り上げて記録を行った後、床下の状態を確認して、調査を終了した。また調査区内の一部で下層の遺構・遺物の有無を確認するため重機による深掘りを行っている。

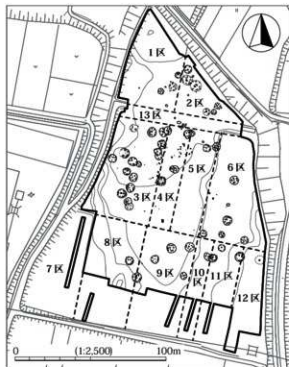
遺物は遺構ごとに層位を分けて取り上げた。特に出土地点の必要なものには、遺構ごとの遺物番号を付して取り上げた。埋土中遺物については、東西・南北方向のセクションベルトを基にプラン内を4分割し北東側から時計回りに①～④区を設定し取り上げた。遺構に属さない遺物は地区単位またはグリッド単位で取り上げている。遺物台帳は土器、土製品、石器に分けて作成し管理した。

(3) 遺構の記録作成

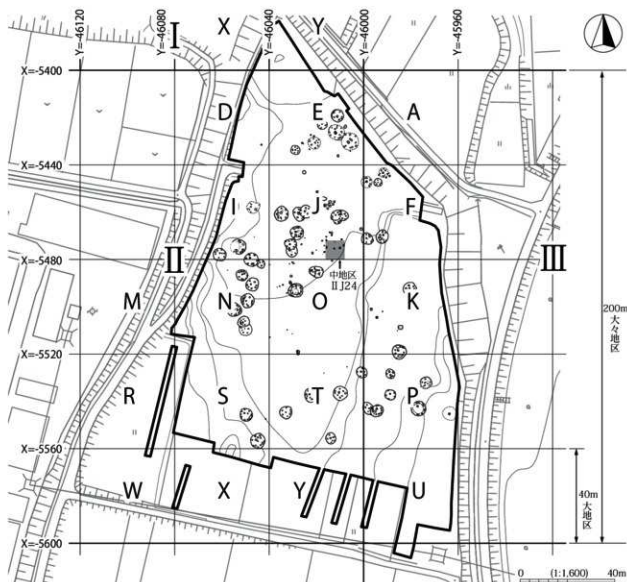
原則として、地形図、トレンチ配置図、遺構平面図等の図化記録は、業務委託による単点測量を行い、基本層序図、遺構断面図、遺物出土状況図は職員及びその指示のもと発掘作業員が手測量(遣り方測量)で行った。

遺構測量は、中地区(8×8m)単位に図面用紙に記録した割付平面図と、必要に応じて各々の遺構単位で、個別図を作成した。遺構図は1/20の縮尺を基本とし、必要に応じて1/10の縮尺で測量した。

遺構の写真記録は、フルサイズ1眼レフデジタルカメラ(PENTAX K-1Ⅱ)を使用し、撮影は調査研究員が行った。調査区全体等の空中写真は、業務委託により、ドローンを用いてフルサイズ1眼レフデジタルカメラで実施した。デジタル写真は、JPEGとRAWのデータ形式で保存した。



第8図 沢尻東原遺跡の調査区



例：IIJ24-13 グリッドの座標位置

200m 大々地区	A	B	C	D	E
	F	G	H	I	J
	K	L	M	N	O
	P	Q	R	S	T
40m 大地区	U	V	W	X	Y

大地区(40×40m グリッド)：A～Y

8m 中地区	0204.01	0204.02	0204.03	0204.04
	0204.05	0204.06	0204.07	0204.08
	0204.09	0204.10	0204.11	0204.12
2m 小地区	0204.13	0204.14	0204.15	0204.16

小地区(2×2m グリッド)：01～16

01	02	03	04	05
06	07	08	09	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

中地区(8×8m グリッド)：01～25

大々地区(200×200m グリッド)：I～III

第9図 基準線とグリッドの設定

2 整理作業の方法

(1) 遺物の整理

遺物については、発掘作業時に遺構単位で取り上げ順に台帳登録を実施した。遺物洗浄と注記は、一部を発掘作業の雨天時や冬季基礎整理作業時に実施したが、出土遺物量が膨大なため大部分を業務委託した。注記は基本的にインジェット式注記マシンを用い、一部面相筆による手書きを行った。遺跡名は記号「HSHJ」、出土遺構記号・番号、そのほかに以下の表記を用いている。

検出面→ケン トレンチ→トレ ベルト→ベルト ①区→1ク 2層→2ソウ
埋土→なし 床面→ユカ 炉→ロ ビット→ビット 表採・攪乱等→Z

遺物の種類別整理について、土器・土製品は、接合・復元・補強を行い、報告書掲載遺物を抽出し、遺物管理台帳を作成した。実測については、破片資料は手実測、略定形品は業者委託による3次元写真計測を行った。

石器・石製品は器種分類した後、報告書掲載遺物を抽出して遺物管理台帳を作成した。実測は、打製石斧、石匙等を業者委託によるレーザー3次元計測、それ以外を手実測した。

すべての遺物について、トレースはイラストレーターCCを用いてデジタルトレースを実施した。

遺物写真は、デジタル撮影を業者委託で実施し、撮影日、撮影番号と内容を記した撮影台帳を作成した。デジタル写真データは、TIFF・RAWデータ単位で撮影順にDVDに記録した。

(2) 遺構図面・写真記録の整理

遺構図面類は、現場で図面の記載内容を点検・修正しながら整理し、台帳を作成した。全体図、個別遺構図はこれらをもとに作成し、イラストレーターCCを用いてデジタルトレースを行った。

遺構写真は、撮影台帳を作成し、撮影日、撮影番号と内容を記した。撮影データは撮影順と、遺構種類別に分けて整理し、ポータブルHDに保存した。現場の撮影データはSDカードでも保管している。

(3) 報告書の作成と資料収納

本格的な編集作業は2022年度から着手した。章立てを行い、原稿を作成し、本文・挿図・挿表等の編集を実施し、報告書の内容を整備した。

資料収納について、遺物は、材質・種類ごとに報告書掲載遺物と非掲載遺物に分けたうえで、出土遺構・地区等の地点別にテンパコに収納し、最終的な収納用テンパコ番号を付与し、遺物収納台帳を作成した。図面は、遺構割付図、断面図等の実測図面は通し番号を付けて図面台帳に登録し図面ファイルに収納した。

写真は、遺構・遺物のデジタルデータをポータブルHDに収納し、台帳を作成した。

第2節 遺跡の概要と基本層序

1 遺跡の概要

沢尻東原遺跡は天竜川右岸の河岸段丘上の北端に立地し、標高は703m程を測る。現天竜川との比高差は10m程を測る。調査範囲は南北180m程、東西120m程を測る。遺跡範囲と調査範囲の対応を地形的にみると、調査範囲の東・北・西側は段丘崖に囲まれ遺跡範囲と一致する。さらに調査範囲より南側は、町教委の試掘調査により遺構・遺物が希薄になることが判明しており（第1章第1節）、沢尻東原遺跡の範囲が今回の調査範囲とおよそ対応すると考えたい。

今回の発掘により縄文時代中期の集落のほぼ全体を調査し、古墳時代前期の生活痕跡を確認することができた。

なお、調査範囲内の微地形は昭和40年代の圃場整備で削平されているため不明である。

2 基本層序

調査区北西端の壁面の土層観察を基に概略を把握し、そこから各地区の検出面を設定した。

分層は以下のとおりである（第10図）。

I層：10YR4/1 褐灰色シルト。粘性強い、しまり弱い。II層との境に褐鉄の沈殿層。耕土。

II層：10YR3/2 暗褐色シルト。粘性あり、しまり弱い。炭化物混。直径1～3cm程の礫微痕。縄文時代の遺物包含層。

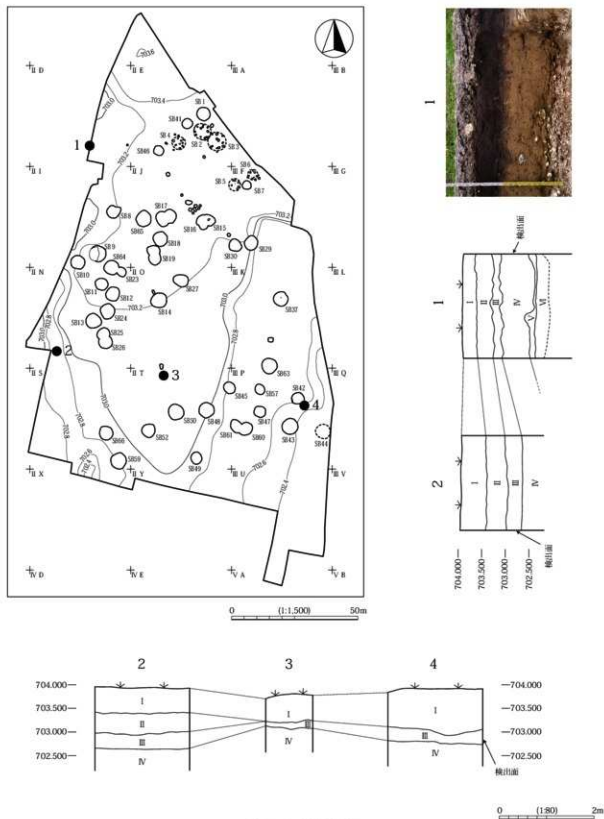
III層：II層とIV層の漸位層。暗褐色シルトに黄褐色シルトが混じる。

IV層：10YR4/6オリーブ褐色シルト。粘性あり、しまりあり。径1～3cmの礫微混。基盤層

V層：IV層とVI層の漸移層。褐色ロームと砂礫が混じる。

VI層：10YR4/4 褐色砂礫層。直径1～5cmの砂礫を4割程度度痕。

調査区内においては、圃場整備によりII層の大部分とIII層の一部が削平を受けている。遺構検出面は基本的にIII層中としたが、1～5区と13区の一部については、III層の削平が激しい範囲があり、IV層中で検出した遺構もある。検出面については個別遺構事実記載に記した。



第10図 基本土層図

第3節 縄文時代中期の遺構と遺物

1 概要

検出した遺構は竪穴建物跡50軒、屋外埋設土器48基、土坑24基である。本節に掲載した遺構は縄文時代中期に属する。詳細な時期は五領ヶ台式直後から曾川Ⅱ式並行期までの間に渡り、9時期に区分できる。時期区分については第4章第1節を参照されたい。当該期の遺構は調査範囲全体で検出し、集落のほぼ全域を調査した。居住域は集落中央の空間を挟んで大きく北群と南群に分かれ、その中でいくつかの小グループが存在するなど、各時期における竪穴建物跡と屋外埋設土器の配置など集落の構造も把握できた。

2 遺構

(1) 竪穴建物跡

50軒を検出した(付表1)。建物跡の主軸方位は、主柱穴の配置など構造から出入口部が推定できる場合のみ示し、不明の場合は記述しない。遺物出土状況は、坪、ピット、層位等出土状況が明確な事例を中心に報告する。計測値のうち()付のものは推定値を示す。

土器は建物跡ごとに出土重量数を記した。また埋納姿勢が判明する略完形土器が複数出土した遺構については出土状況を一覧表で示した(第7表)。石器は複数の器種が出土した建物跡については時期ごとに組成表を示した(第8表)。遺構の時期については、遺構の切合い関係、坪の特徴、土器の出土状況および出土土器の時期などを総合的に検討して判断した(第4章)。

SB1 (図版7・75・156・158、PL1・2・31・112・113)

位置：2区 II E14グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、IV層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。2～3層が壁際から床面に堆積した後、中央付近に炭化物、遺物を多く含む1層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸540cm。短軸530cm。深さ35cm。

構造：形状は、不整形円形。壁は外傾して立ち上がる。西壁の一部にテラス状の段がある。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは7基検出。壁面に沿うように検出。このうちP1・3・5・6・7は、配置から主柱穴と考える。

坪：石圓坪。中央やや南寄りに位置する。形状は多角形で坪石は完存する。規模は内法で直径約60cm。床面からの深さ20cm程。坪石は長さ40cm程の平石を用い、石の平坦面が坪壁となるよう設置されるが、西側の1点だけは平坦面に上に向けていた。坪底面は平坦。被熱痕は坪石の上面～内面に認められるが、坪底面にはない。坪内埋土に炭化物、焼土を含まない。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は8,058g出土した。その大部分はP1とP7に挟まれた範囲の1層中において、拳大～人頭大の礫と共に集中出土する。該当範囲では深鉢(2・3)、ミニチュア土器(1)が出土した。深鉢(1)が横位で、P6とP7の脇でそれぞれ台石が出土した。

時期：第9期。

科学分析：P6脇から出土した台石(4)の残存デンプン粒分析を行い、デンプン粒を検出した(第4章

第2節)。

SB2 (図版8・75、PL1・2・31)

位置：2区 II E14・19グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で石囲炉を検出。炉の周囲を精査し、東側と西側のプランの一部を検出したが、削平が激しく、プラン全体を確認することはできなかったため、検出したプランと炉の周辺で検出した土坑群(SK13～18、21～23、37、38、41)がまとまる範囲を基に範囲を推定した。

重複関係：SB3と切合うが、両SBとも床面付近まで削平を受けており、新旧は不明。

埋土：プラン東側と西側の一部と炉周辺にわずかに堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸(700cm)。深さ(5cm)。

構造：形状は不明。プラン東辺と西辺の一部に壁の立ち上がりを確認。床面の構造は不明。炉の周辺で検出した土坑12基(P1:SK41、P2:SK17、P3:SK21、P4:SK13、P5:SK18、P6:SK16、P7:SK14、P8:SK15、P9:SK38、P10:SK22、P11:SK37、P12:SK23)を本SBに伴うピットと推定した。このうちP2・4・5・6・8・10は、配置と規模から主柱穴の可能性はある。

炉：石囲炉。ピット群に囲まれた中央に位置する。形状は楕円形で炉石は完存する。規模は内法で長軸90cm。短軸60cm。検出面からの深さ約10cm。炉石は長さ40～60cm程のやや細長い石を用いる。炉底面には10～20cmの平石を敷き詰めている。底面は中央にむけてわずかに低くなる皿状を呈する。被熱痕は炉石の内側壁面と底面に敷かれた石の上面に認められる。炉内埋土に炭化物和焼土は含まない。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は3,440g。炉内から深鉢片(4)、埋土中から深鉢(5)が出土した。このほかP4の脇の床面で大形の石が3個出土した。上面にくはみか確認できるものもあり、作業台の可能性はある。

時期：第7期～(第8期)。

SB3 (図版9・75、PL1・2・31)

位置：2区 II E19・20・24・25グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で石囲炉を検出。炉の周囲を精査したが、削平が激しくプランは把握できない。炉の周辺で土坑群(SK3～8・10～12・19・36)を検出、炉を中心に土坑群がまとまる範囲をプランと推定した。

重複関係：SB2と切合うが、両SBとも床面付近まで削平を受けており、新旧は不明。

埋土：炉周辺のみ検出。

規模：主軸方位不明。長軸(760cm)。深さ不明。

構造：形状は不明。床面の構造は不明。炉の周辺で検出した土坑11基(P1:SK10、P2:SK11、P3:SK8、P4:SK7、P5:SK6、P6:SK5、P7:SK3、P8:SK4、P9:SK36、P10:SK19、P11:SK12)を本SBに伴うピットと推定した。このうちP7・9以外は規模的に深さが30cm以上あり、主柱穴となる可能性がある。

炉：石囲炉。ピット群に囲まれた中央に位置する。形状は長方形で炉石は一部欠損するが、重機による削平に起因する可能性が高い。規模は内法で長軸105cm。短軸55cm。検出面からの深さ約10cm。炉石は長さ20～40cm程の細長い石を用いる。炉底面はほぼ平坦。被熱痕は炉石の内側壁面と炉底面中央に残る。炉内埋土に炭化物を多く含む。炉石の下に掘り方はない。

遺物出土状況：炉周辺とP3から出土した土器の総量は4,035g。P4から深鉢片(6)が出土した。

時期：第8期。

SB4 (図版10・75・156・158, PL 2・31・112・113)

位置：1区 II E18・23グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で土器片を含む地山より暗い色調の範囲を検出。精査した所、炉石を検出した。炉の確認後、周囲を精査したが、削平が激しくプランは把握できない。炉の周辺で検出した土坑群（SK29～33）とピット（P1～4）がまとまる範囲をプランと推定した。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：炉の上面にわずかに残る。

規模：主軸方位不明。長軸（540cm）。深さ不明。

構造：形状は不明。床面の構造は不明。炉の周辺で検出したピット（P1～4）と土坑5基（P5：SK29、P6：SK30、P7：SK31、P8：SK32、P9：SK33）を本SB4に伴うピットと推定した。このうちP1・2・5・9は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。ピット群に囲まれた中央に位置する。形状は楕円形で炉石は完存する。規模は内法で長軸42cm。短軸30cm。検出面からの深さ約15cm。炉石は長さ10～20cm程の不定形の石を用いる。炉底面はほぼ平坦。被熱痕は炉石の内側壁面に若干認められるが炉底面にはない。炉内埋土に炭化物、焼土を含まない。炉南側に接して長軸60cm程の被熱面を検出した。

遺物出土状況：炉周辺の埋土から出土した土器の総量は5,095g。深鉢片（7）とミニチュア土器（2）が出土している。

時期：第8期。

SB5 (図版11・76, PL3・32)

位置：2区 II J05・10, III F01・06グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で石囲炉を検出。炉の周囲で土器片を含む地山より暗い色調の土層を検出。精査した所、ピット群を検出。ピット群を含む範囲で壁面の検出を試みたが明確にできず、推定プランとした。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：炉の周辺のみ検出。

規模：主軸方位不明。長軸（480cm）。深さ不明。

構造：形状は不明。床面の構造は不明。ピットは6基検出。このうちP1・2・4～6は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。ピット群に囲まれた中央に位置する。炉石は一部欠損するが、重機による削平に起因する。形状は多角形と推定される。規模は内法で長軸50cm。検出面からの深さ約15cm。炉石は長さ20～40cm程の不定形のものを用いる。炉底面はほぼ平坦。炉の中央に3個の石が出土した。位置的に支柱石として利用した可能性がある。被熱痕は炉石の上面～内側壁面に若干認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物を少量含む。

遺物出土状況：埋土中およびピットから出土した土器の総量は13,325g。炉内から深鉢片（11）、P5から深鉢片（8・9・10）が出土した。

時期：第8期。

SB6 (図版12・76・156, PL3・32・112)

位置：2区 III F01・02グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で石囲炉を検出。炉を中心に周囲を精査し、ピット群を検出、ピット群を含む範囲で壁面の

検出を試みたが明確にできず、推定プランとした。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：ピット群の検出時に土器片を含む地山より暗い色調の土層を検出。埋土と推定されるが、プラン検出過程で床面まで掘り下げている。

規模：主軸方位不明。長軸（410cm）。深さ不明。

構造：形状は不明。床面の構造は不明。ピットは9基検出。このうちP2～5・8は、配置と規模から支柱穴と考える。

炉：石囲炉。ピット群に囲まれた中央に位置する。炉石は一部欠損するが、重機による削平に起因する。形状は多角形と推定される。規模は内法で長軸45cm。検出面からの深さ約15cm。炉石は長さ20～30cm程のやや長い石を用いる。炉底面はほぼ平坦。被熱痕は炉石の内側壁面に若干認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物、焼土を含まない。

遺物出土状況：土器はピットを中心に985g出土した。P9から深鉢（12）が略完形の正位で出土した。P4からミニチュア土器（3）が出土した。

時期：第8期。

SB7（図版13・76・77、PL3・32・33 第7表）

位置：2区 III F01・06グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、IV層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。2～6層が壁際から床面に堆積した後、遺物を多く含む1層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸350cm。短軸340cm。深さ25cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは5基検出。配置と規模からいずれも支柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央に位置する。形状は方形で炉石は完存する。規模は内法で1辺20cm、床面からの深さ10cm程。炉石は長さ25cm程の細長い石を用い方形に組む。炉底面は平坦。炉石の一部に被熱痕を確認。炉内埋土に炭化物と焼土は含まない。

遺物出土状況：土器が埋土中より14,815g出土した。特に支柱穴で囲まれたプラン中央付近の1層から個体と破片が集中出土した。このうち深鉢（16・17・20）は略完形で出土した。個別の出土状況は第7表に掲載した。

時期：第3期。

SB8（図版14・77、PL3・33）

位置：3区 II I09・10・14・15グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で地山より暗い色調の不整形のプランをわずかに検出。竪穴建物跡の床面の残部と推測し精査した所、ピット群を検出。ピット群を含む範囲でプランの検出を試みたが、把握できなかった。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：ほとんど残存しない。

規模：主軸方位不明。長軸不明。深さ不明。

構造：形状は不明。床面の構造は不明。ピットは9基検出。配列に規則性はない。

炉：不明。

遺物出土状況：ピットを中心に出土した土器の総量は4,450g。P1から深鉢片(22)、P2から深鉢片(23)が出土した。

時期：第8期(推定)。

SB9 (図版15・16・77~80・152・156・158~160, PL3・33~36・108・112~114, 第8表)

位置：3区 II119・23・24グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で不整形な平面プランを検出。当初2軒の切合いを想定し先行トレンチを入れたところ、円形プランとその西半部にかく乱(風倒木痕)を確認したため、かく乱部を先に掘り上げ、SB9の調査に着手した。

重複関係：プラン西半部をかく乱(風倒木痕)に切られる。

埋土：2段階に大別される。2~3層が壁際から床面に堆積した後、遺物を含む1層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸650cm。深さ20cm。

構造：形状は不明。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは9基検出。壁面に沿うように検出。このうちP2・3・8・5は、配置と規模から支柱穴と考える。

炉：未検出。中央やや東寄りに被熱面を検出。位置的に炉に伴う可能性はある。不整形で長軸80cm。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は91,023g。P4から小形有孔鈔付片(26)、P5から深鉢片(24)、P6から深鉢片(25・27)が出土した。石器はP6から打製石斧(18)、P7から打製石斧(20)とスクレイパー(14)が出土した。このほか埋土中には石錘、石匙、スクレイパー、打製石斧、磨製石斧、台石など複数の器種が出土している。組成は第8表に掲載した。この他、埋土中より土偶胴部片(1)、ミニチュア土器4点(4~7)が出土した。

時期：第7期~(第8期)。

SB10 (図版17・18・80~84・157・160, PL4・5・36~40・112・114, 第7表)

位置：3区 II123, N03グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。黄褐色系の2~3層が壁から床面にかけて堆積した後、黒褐色系の1層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸555cm。短軸520cm。深さ50cm。

構造：形状は不整形円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦を意識する。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは8基検出。このうちP1~7は、配置と規模から支柱穴と考える。

炉：石囲埋堯炉。中央やや北寄りに位置する。形状は多角形。規模は炉石の内法で長軸36cm。短軸32cm。

床面からの深さ約30cm程。炉内からは深鉢(44)が正位で出土した。口縁部は摩耗する。底部は水平に欠損する。掘り方は深鉢とほぼ同じ大きさである。炉石には被熱痕がある。埋堯内の埋土には炭化物を含む。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は115,705g。特にプラン中央付近の1・2層中から大量に出土した。礫は伴わない。有孔鈔付土器(45)は横位出土であるが、土圧でつぶれた状況ではなく、炉の上面において、個体を縦方向に破断し破片全体の2/3程を内面を上向きにして原形のまま広げて並べ、残り1/4程は外面を上向きにして、床面に敷いた破片の上に、原形のまま被せている。顔面把手付深鉢(53)の顔面

は意図的な欠損の可能性がある。蛇体把手付土器(58)は横位で出土した。口縁部の蛇体頭部が欠損し、胴部に穿孔がある。略完形品以外にも、口縁部、胴部、底部を切断した個体が目立つ(45・49・51・52・59・69-72・74)。個別の出土状況は第7表に掲載した。

時期：(第5期)～第6期。

SB11 (図版19・85・86・161, PL5・6・41・42・114, 第8表)

位置：2区 II N04・09グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。壁から床面にかけて黒褐色系の1層が堆積後、中央付近に1層とはほぼ同じ土質で、径20～50cm程の礫と土器片を大量に含む1'層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸500cm。短軸490cm。深さ45cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは8基検出。壁面に沿うように検出。このうちP1・4・5～7は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲埋燬炉。中央やや北寄りに位置する。形状は多角形。規模は炉石の内法で直径約40cm。床面からの深さ50cm程。炉石は長さ40cm程の平らな石を用い、石の平らな面が炉壁となるよう設置する。炉内からは深鉢(80)が正位で出土した。口縁部を一部欠損するものの底部まで完存する。掘り方は深鉢とほぼ同じ大きさである。炉石には被熱痕がある。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は83,790g。特にプラン中央に広がる1'層から大量の礫と共に集中出土した。土器は破片の出土が主体で、接合で略完形となるのは深鉢(84)だけである。石器は石錘、スクレイパー、打製石斧など複数の器種が出土している。組成は第8表に掲載した。

時期：第6期。

SB12 (図版20・21・87～90・152・157・162, PL6・43～46・108・112・114, 第7表)

位置：3区 II N05・09・10グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。壁から床面にかけて黄褐色系の4～6層が堆積した後、黒褐色～褐色の1～3層が堆積する。

規模：主軸方位S72°E。主軸528cm。直交軸555cm。深さ50cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは7基検出。炉を囲むように検出した。このうちP1・4・6・7は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲埋燬炉。中央やや西寄りに位置する。形状は多角形。炉の南辺と東辺は棒状の石を配置する。規模は炉石の内法で長軸35cm。床面からの深さ約20cm程。炉石には被熱痕がある。炉内からは深鉢(92)が正位で出土した。口縁部は一部残存し、上部の破断面は摩耗する。胴下半部は欠損する。深鉢(92)と炉石の間からは深鉢片(93)が出土した。接合により同一個体の胴下半部と判明した。炉石には被熱痕がある。埋燬炉内の埋土には炭化物を含む。炉の西辺に接して扁平な石が出土しているが、位置的に作業台の

可能性がある。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は93,776g。特にプラン中央付近の3層で多くの遺物が出土した。深鉢は一部を欠損するも原形を留めている個体が多い。個別の出土状況については第7表に掲載した。埋土中より破片で出土した双口土器(115)は、接合により形状が判明した。また土偶の頭部片(2)が埋土2層から出土している。本堅穴建物跡では、1辺40～60cm程の大形の石が壁面に沿って検出された点が特徴的であった。P4とP7の近くで各1点ずつ、P6の上面で2点、P3の壁際では幅30cm程の白石(42)と長さ60cm程の棒状石(43)が斜位で並んだ状態で見られた。このほか、逆位の深鉢(95)と近接して大形の石も出土している。

時期：第4期。

SB13 (図版22～24・90・102・156・157・162, PL7～9・46～58・112・115, 第7表)

位置：3区 II N13・14グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。壁から床面にかけて3・4層が堆積した後、1・2層が堆積する。

規模：主軸方位S74°E。主軸628cm。直交軸592cm。深さ25cm。

構造：形状は不整墮円形。プランおよび主柱穴の配列は主軸を挟んで対照性を意識している。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは18基検出。このうち壁に沿って検出したP1・3・5・6・7・9・10・14は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲埋焼炉。中央やや西寄りに位置する。形状は推定多角形と推定される。炉石は西辺を除き残存。炉石は長さ30～50cmの平石を用いる。炉の規模は炉石の内法で長軸38cm、床面からの深さ24cmを測る。炉内からは正位で深鉢(118)が出土した。床面より20cm程下で検出されたが、胴上半と底部を欠損し、破断面は摩耗する。炉底面には敷かれたような状態で土器片が出土している。炉内埋土には炭化物を含まない。本炉の東側床面には焼土粒を多く含んだ落ち込みが見られた。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は265,756g。検出した堅穴建物跡の中で、出土した土器の量が最も多い。またピットから多く出土していたことも特徴的である。P1からは台付土器片(121)、P5からは深鉢(119)が胴上半を水平に切断し正位で、P14からは完形の円筒土器(120)が正位で出土した。またP8からは立方体状の石も出土した(PL8)。出土した土器は床面上と埋土中のものに大別される。口縁部、胴部、底部など一部を欠損する例が認められ、原形を留めるものも多い。出土状況から単純な廃棄とは考えにくい。個別の出土状況は第7表に掲載した。このほか特徴的な遺物として、白石(45)と大形の石が床面上から、ミニチュア土器(8～10)が埋土中から出土した。

時期：(第5期)～第6期。

SB14B (図版25・103・104・162, PL9・59・60・115, 第8表)

位置：4区 II O07グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。当初、1軒の堅穴建物跡を想定して先行トレンチを入れたところ、SB14Bのプラン内でSB14Aを検出。埋土の観察からSB14AがSB14Bを切ることを確認。SB14Aを先行調査したのちSB14Bを調査した。

重複関係：SB14A(古墳時代前期)に切られる。

埋土：プラン中央をSB14Aに切られるため、詳細な堆積状況を把握できない。

規模：主軸方位不明。長軸640cm。短軸600cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは14基検出。P3・6・8・10は配置と規模から支柱穴と考える。

炉：埋燬炉。中央やや南西寄りに位置する。3基の深鉢が直線的に並ぶ。炉1（172）・3（175）はともに長軸40cm程、深さ20cm程で、口縁部と底部を欠損し胴部のみ埋設する。いずれも上部の破断面は摩耗する。両者ともに炉の底に土器片を敷く。炉1（172）の底面に敷設された土器片は炉1（172）と別個体であるが（173、174）、炉3（175）の底面に敷設された土器片は、接合により炉3（175）の下半部と判明した。炉2（176）は小形で炉1（172）と炉3（175）の間に位置する。出土状況から炉1・3より前に設置したことが判明した。口縁部と底部は欠損する。3基の埋燬内の埋土に焼土や炭化物は含まれず炉の周囲にも焼土は確認できない。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は24,050g。石器は床面で敲石（55）と石皿（56）が、このほか埋土中より石鏃、ピエスエスキュー、磨製石斧など複数の器種が出土している。組成は第8表に掲載した。

時期：第4期～第5期。

科学分析：石皿（56）の残存テンブン粒分析を行い、テンブン粒を検出した（第4章第2節）。

SB15（図版26・104・105・152、PL10・60・61・108）

位置：5区 IIJ14・15グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で2つの円形のプランが重なるように見えた部分の面的精査を行った。切合う2軒（SB15・SB16A）の遺構と判断し、新旧関係を判断するために先行トレンチを入れた。土層断面の観察により色調に差が認められ、SB16AがSB15を切っていると思定し掘り進めたが、SB16AよりSB15の石圍炉の特徴や出土土器の様相が新しいことが判明した。また、この2軒の調査終了後にSB16A北側から新たに埋燬炉とピットが検出されたため、新たにSB16Bと命名し、調査を行った。以上の3軒は近接し、床面の高さの差もほとんどなく、土層観察から切合い関係が認識できなかったため、整理段階で遺構の特徴や出土遺物の型式学的な分析により判断した。

重複関係：SB16A（古）→SB15（中）→SB16B（新）の新旧関係であると考えられる。

埋土：2段階に大別される。褐色土の2層が壁際から床面に堆積した後、プラン全体に黒褐色土の1層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸（520cm）。短軸（390cm）。深さ30cm。

構造：形状は不明。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは5基検出。P1・3・4・5は配置と規模から支柱穴と考える。

炉：石圍埋燬炉。中央北西寄りに位置する。形状は多角形で炉石は完存する。規模は内法で直径約40cm。床面からの深さ30cm。炉石は長さ25～45cmの棒状の石を主に用いる。炉内からは深鉢（179）が正位で出土した。胴下部は水平に欠損する。掘り方は口縁部が炉石の内法とほぼ同じであるが胴部付近は余裕がある。埋燬内の埋土に炭化物をわずかに含む。炉石には被熱痕が確認できる。埋燬中より深鉢片（177・178）が出土した。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は27,525g。埋土中より深鉢片（183・186）、台付片（182）、浅鉢片（181）が出土した。土偶は埋土中より胴部片（3）が出土している。

時期：第5期。

SB16A (図版27・106・163, PL10・62・115)

位置：5区 IIJ14・19グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で2つの円形のプランが重なるように見えた部分の面的精査を行った。切合う2軒(SB15・SB16A)の遺構と判断し、新旧関係を判断するために先行トレンチを入れた。土層断面の観察により色調に差が認められ、SB16AがSB15を切っている想定し掘り進めたが、SB16AよりSB15の石囲炉の特徴や出土土器の様相が新しいことが判明した。また、この2軒の調査終了後にSB16A北側から新たに埋甕炉とピットが検出されたため、新たにSB16Bと命名し、調査を行った。以上の3軒は近接し、床面の高さの差もほとんどなく、土層観察から切合い関係が認識できなかったため、整理段階で遺構の特徴や出土遺物の型式学的な分析により判断した。

重複関係：SB16A(古)→SB15(中)→SB16B(新)の新旧関係であると考えられる。

埋土：2軒のSBに切られるため、詳細な堆積状況を把握できない。

規模：主軸方位不明。長軸(365cm)。深さ10cm。

構造：形状は不明。壁の立ち上がりは不明。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは7基検出。P2～5は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央北寄りに位置する。形状は方形で、炉石は完存する。規模は内法で1辺30cm。床面からの深さ18cm。炉石は長さ20～30cmの棒状の石を用いる。炉内埋土に炭化物を含まない。炉石には被熱痕が確認できる。炉北側に接して被熱面がある。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は13.065g。深鉢(187)は略完形の横位で出土した。

時期：(第4期)～第5期。

SB16B (図版28・106, PL10・62)

位置：5区 IIJ14グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で2つの円形のプランが重なるように見えた部分の面的精査を行った。切合う2軒(SB15・SB16A)の遺構と判断し、新旧関係を判断するために先行トレンチを入れた。土層断面の観察により色調に差が認められ、SB16AがSB15を切っている想定し掘り進めたが、SB16AよりSB15の石囲炉の特徴や出土土器の様相が新しいことが判明した。また、この2軒の調査終了後にSB16A北側から新たに埋甕炉とピットが検出されたため、新たにSB16Bと命名し、調査を行った。以上の3軒は近接し、床面の高さの差もほとんどなく、土層観察から切合い関係が認識できなかったため、整理段階で遺構の特徴や出土遺物の型式学的な分析により判断した。

重複関係：SB16A(古)→SB15(中)→SB16B(新)の新旧関係であると考えられる。

埋土：単層。

規模：主軸方位不明。長軸(440cm)。深さ15cm。

構造：形状は不明。壁の立ち上がりは不明。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは5基検出。P7・9・10は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲埋甕炉。形状は推定多角形。炉石は一部残存。規模は内法で長軸38cm。床面からの深さ22cm。炉石は長さ20～30cmの不定形の石を用いる。炉内からは深鉢が2個体、密着した状態で入子状に出土した(190：内側)(191：外側)。いずれも口縁部と底部を欠損し、上部の破断面は摩耗する。炉石の内面は一部赤変するが深鉢に明確な被熱痕はない。炉内埋土に炭化物を含まない。埋甕炉内からは口縁部が欠損した小形の深鉢(189)が出土した。

遺物出土状況：土器の総重量は6.790g。炉を中心に出土した。

時期：第6期。

SB17A (図版29・107・163, PL1・11・63・115)

位置：3区 IIJ12グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で検出。当初1軒(SB17A)を想定した。十字ベルトを設定してトレンチ調査を実施したところ、東端で石囲炉を検出した。東西トレンチを東方向に拡張したところ、異なる遺構の立ち上がりとも床面が検出された。平面プランを再度精査して、両遺構のプランを確定し、それぞれSB17A・SB17Bと命名した。

重複関係：SB17Bに切られる。

埋土：3段階に大別される。明黄褐色の3層が床面に浅く堆積した後、焼土の2層が一部堆積し、にぶい黄褐色の1層が全体に堆積する。

規模：主軸方位S35°E。主軸610cm。直交軸(470cm)。深さ25cm。

構造：形状は楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは5基検出。P1～3・5は配置と規模から支柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや北寄りに位置する。形状は長方形と推定される。炉石は一部しか残らない。規模は内法で長軸80cm。短軸40cm。床面からの深さ33cm。炉石は20～30cm程の石を用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内側壁面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は21,463g。炉の上面より深鉢(194)、ピット5からは深鉢片(195)が出土した。

時期：第7期～(第8期)。

SB17B (図版30・107, PL1・11・63)

位置：3区 IIJ12・13グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で検出。当初1軒(SB17A)を想定し、十字ベルトを設定してトレンチ調査を実施したところ、東端で石囲炉を検出した。東西トレンチを東方向に拡張したところ、異なる遺構の立ち上がりとも床面が検出された。平面プランを再度精査して、両遺構のプランを確定し、それぞれSB17A、SB17Bと命名した。

重複関係：SB17Aを切る。

埋土：2段階に大別される。いずれも黄褐色系の土層の2～4層が壁から床面に広く堆積した後、黒褐色の1層が中央に堆積する。

規模：主軸方位N70°E。主軸545cm。直交軸565cm。深さ35cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは7基検出(P5は欠番)。いずれも不整形を呈する。P1・4・6～8は配置と規模から支柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや西寄りに位置する。形状は不明。炉石は北側の一部が残存する。規模は内法で長軸(70cm)。床面からの深さ10cm。炉石は20～30cm程の石を用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内側壁面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は8,530g出土した。ピット3から深鉢片(196)が出土した。深鉢(197)は接合により略完形となる。有孔鈿付土器片(199)は埋土中より出土した。

時期：第8期。

SB18 (図版31・32・108・109・156・163～165、PL11・64・65・112・115・116、第8表)

位置：3区 IIJ17グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。褐色シルトの2層が壁際と床面の一部に堆積した後、全体にぶい黄褐色シルトの1層が堆積する。

規模：主軸方位S66°E。主軸580cm。直交軸560cm。深さ40cm。

構造：形状は不整楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは9基検出。このうちP1・3・4・6・8・9は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：埋燬炉。中央やや西よりに位置する。深鉢(202)の直径に比べて掘り方が大きいため、石囲埋燬炉の可能性もあるが、炉石は検出されていない。中央やや西寄りに掘り方が検出されたので、炉跡と推定した。掘り方の規模は長軸96cm。短軸74cm。床面からの深さ30cmを測る。掘り方のほぼ中央で深鉢(202)が正位で出土した。口縁部は欠損、底部は水平に欠損する。上部の破断面は摩耗する。掘り方埋土に炭化物を含まない。炉の周囲に被熱面はない。深鉢(202)の外周部には器壁を囲むように上下2段にわたり土器片が貼り付けられ、更にその外側から土器片が集中的に出土した。深鉢(202)周囲の土器片は接合により2個体と判明した。うち1個体は略完形の台付深鉢(201)で器面全体に顕著な被熱痕が確認できる。出土状況から被熱した深鉢を意図的に割り、深鉢(202)の外周部に貼り付けたと考えられる。もう1個体は深鉢片(200)である。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は23,345g。土器はP1から深鉢(204)、P5から深鉢(206)、P7から深鉢(205)とミニチュア土器(12)が出土した。石器はP7から石匙(65)が出土しているが、埋土中より石鏃、ピエスエスキュー、石匙、スクレイパー、打製石斧など複数の器種が検出されている。組成は第8表に掲載した。

時期：第5期～(第6期)。

SB19A (図版33・109・110・152・157・166、PL12・65・66・108・112・116)

位置：3区 IIJ21・22グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で2つの円形プランが重なる範囲を検出。両プランを貫く方向に先行トレンチを入れたところ、SB19BがSB19Aを切ることを確認した。

重複関係：SB19Bに切られる。

埋土：2段階に大別される。褐色土の3層が壁面～床面に浅く堆積した後、炭化物・礫を多く含む暗褐色～黒褐色土の1・2層が上部に堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸(525cm)。短軸480cm。深さ40cm。

構造：形状は不整楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは3基検出。P1～3は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：埋燬炉。深鉢(213)が中央北西寄りに位置する。口径40cm、深さ20cmを測る。口縁部～頸部まで残存。胴部は水平に欠損する。被熱痕は確認できない。埋燬炉内の埋土は焼土ブロックを含む。掘り方の大きさは埋燬炉に比べて大きい。深鉢(213)の胴部に張り付くように深鉢片(214)が出土した。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は43,405g。深鉢(215)は略完形の横位で検出されている。土偶は胴部片(4)が出土した。石器は床直で石皿(83)が出土した。

時期：第4期～(第5期)。

SB19B (図版34・110・153・166, PL12・66・109・117)

位置：3区 IIJ16・17・21・22グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で2つの円形プランが重なる範囲を検出。両プランを貫く方向に先行トレンチを入れたところ、SB19BがSB19Aを切ることを確認した。

重複関係：SB19Aを切る。

埋土：全体に鈍い黄褐色系統の埋土が堆積する。

規模：主軸方位N79°E。主軸493cm。直交軸447cm。深さ25cm。

構造：形状は不整楕円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは8基検出。P1～7は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや西寄りに位置する。形状は楕円形で炉石は完存する。規模は内法で長軸約55cm。短軸35cm。床面からの深さ約20cm。炉石は30cm程の棒状の石を用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内側壁面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化粒をわずかに含む。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は2,550g。P8から深鉢(221)が胴部中央で水平に欠損する正位で出土した。同ピットからは深鉢片(222)も検出されている。土偶は頭部片(5)が埋土中より出土した。

時期：第5期。

SB23 (図版35・111～113・166・167, PL12・67～69・117, 第8表)

位置：3区 IIN05グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で2つの円形プランが重なる範囲を検出。プランの大きさの規模から堅穴建物跡と判断して、SB23とSB64と命名した。両プランを貫く方向に先行トレンチを入れたが、両遺構の埋土が類似し、切合い関係を判断できなかった。しかし調査は遺構のプランがより明確に確認できたSB23を先行調査したが、整理段階で埋土中の土器を検討したところ、SB23が古くSB64が新しいことが判明した。

重複関係：検出段階の認識は誤りで、SB64に切られると考える。

埋土：2段階に大別される。2層が壁際から床面に堆積した後、中央に炭化物遺物を含む1層が堆積する。

規模：主軸方位S70°E。主軸(380cm)。直交軸350cm。深さ40cm。

構造：形状は不整楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは5基検出。P1～4は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲埋甕炉。中央やや西寄りに位置する。形状は多角形で、炉石は完存する。炉石は長さ20cm程の棒状の石を用い、規模は内法で直径25cm。床面からの深さ20cm程。炉内からは深鉢(223)が正位で出土した。口縁部から胴部上半まで残存。掘り方は口縁部が炉石の内法とほぼ同じであるが胴部付近は若干スペースがある。炉石の内面には被熱痕があるが埋甕に明確な被熱痕はない。埋甕炉内の埋土に炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は41,415g。深鉢(225・230・231・232)はいずれも1層より出土した。うち(225)は略完形の横位で検出された。石器は埋土中よりピエスエスキュー、石核、スクレイパー、打製石斧など複数の器種が出土している。組成は第8表に掲載した。

時期：第4期。

SB24 (図版36・37・113・114・153・167～169、PL12・13・69・70・109・117、第8表)

位置：3区 II N09・10・14・15グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。黄褐色系統の土である3・4層が壁際に堆積した後、中央に礫（10～20cm程）、遺物を多く含む1・2層が堆積する。

規模：主軸方位S77°E。主軸575cm。直交軸625cm。深さ55cm。

構造：形状は不整形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは14基検出。不整形を呈する。このうちP1～4・6～8は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲埋燗炉。中央やや西寄りに位置する。形状は多角形と推定される。炉石は北西辺を除き残存。明確な採取痕はない。規模は内法で長軸35cm。床面からの深さ20cm。炉石は20～30cmの棒状の石を主に用いる。炉内からは深鉢（236）が正位で出土した。口縁部と底部を欠損する。上部の破断面は摩耗する。掘り方は口縁部は炉の内法とほぼ同じである。炉石の内面に被熱痕あり、埋燗炉内の埋土は炭化物、焼土を含まない。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は69,335g。その大部分は埋土上部より拳大の礫とともに破片で出土した。土偶は埋土中より胴部上半片（6）が検出されている。石器は埋土中より石鏃、ビエスエスキュー、石核、スクレイパー、打製石斧、凹石、台石、礫器など複数の器種が出土している。組成は第8表に掲載した。

時期：第5期。

SB25 (図版38・115・169・170、PL13・71・118)

位置：3区 II N19グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で2つの円形プランが重なる範囲を検出。両プランを貫く方向に先行トレンチを入れ、土質に差がありSB25がSB26を切ることを確認。SB25を先行調査した。

重複関係：SB26を切る。

埋土：2段階に大別される。3層が壁際から床面に堆積した後、全体に1・2層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸520cm。短軸430cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは8基検出（P2は欠番）。このうちP1・3・4・5・7・8は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや西寄りに位置する。形状は方形で炉石は完存する。規模は内法で1辺が35cm。床面からの深さ20cm。炉石は長さ20～40cmの不定形の石を用いる。

検出時に石囲炉の外側から内側にかかるようにして棒状石（111）が、さらに棒状石の先端には、長軸25cmほどの扁平な石が石囲炉の内側から検出された。棒状石は加工痕がないが、いわゆる石棒の機能を果たしたものと考えられている（諏訪市穴場遺跡）。仮に棒状石が男性で、扁平な石が女性をシンボライズしているとするれば、両者は合わせて意図的に置かれた可能性がある。

本炉内からは深鉢（245）が正位で出土したが、口縁部が水平に欠損していた。また、底部まで残存していたにもかかわらず中央は穿孔されていた。さらにこの深鉢の径は炉の内法よりかなり小さく、埋燗炉としては、機能的に十分ではない。それに対応するように炉内及び深鉢の埋土に炭化物や焼土は含まれない。しかし、炉石は明確に赤化しており、被熱していたことは疑いがない。

以上の状況から、石囲は炉として機能していたことは明らかだが、棒状石と扁平な石、さらには中央の埋甕は石囲炉が火処として機能していた段階のものとは考えにくい。特に、埋甕が石囲炉における煮炊用土器を安定させるためであったり、煮炊きに伴って出る灰を集めるためのものとしては、小さすぎるし、かつその内外の埋土に炭化物や焼土が全く含まれないことは、石囲炉の本来的な機能のためのものではないことを示している。このほか埋土中より棒状石（110）が出土しているが石囲炉における儀礼に伴うかは確認できない。石囲炉の中の炭化物や焼土が完全に除去されたあとに、埋甕が設置され、さらに二つの石が置かれたとすれば、あるいは石囲炉や竪穴建物跡廃絶にかかる儀礼や行為を反映している可能性がある。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は21,381g。

時期：第7期。

SB26 (図版39・40・115・116・157・170, PL13・71・72・112・118, 第7表)

位置：3区 II N19・20グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で2つの円形プランが重なる範囲を検出。両プランを貫く方向に先行トレンチを入れ、土質差によりSB25がSB26を切ることを確認。SB25を先行調査した。

重複関係：SB25に切られる。

埋土：2段階に大別される。黄褐色から褐灰色系統の土3～6層が壁際から床面に堆積した後、中央を中心に黒褐色から暗褐色系統の土1・2層が堆積する。特に2層は炭化物、礫を多く含む。

規模：主軸方位S66°E。主軸550cm。直交軸（530cm）。深さ50cm。

構造：形状は不整形円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは7基検出。このうちP1・3～6は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：埋甕炉。中央やや北西寄りに位置する。深鉢（249）が正位で出土した。口縁部から胴部まで残存するが、胴下半部は水平に欠損する。掘り方は長軸60cm。床面からの深さ20cmと比較的大きい。埋甕内と掘り方の埋土に炭化物をわずかに含むが、炉の周囲に被熱の痕跡は見られない。

遺物出土状況：埋土中より出土した土器の総重量は71,425g。その大部分は2層で礫とともに集中的に出土したが、礫の中で原形を留める個体もあるので、単純な廃棄とは考えにくい。個別の出土状況は第7表に掲載した。石器は床面から礫器（113）が出土した。

時期：第4期。

SB27 (図版41・117・157, PL14・73・112)

位置：4区 II O03グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。十字ベルトを設定してトレンチ調査をしたところ、西側ベルトの壁内で、土器を含む掘り込みを確認。当初屋外埋設土器UG9に伴う一連のものとして先行調査した。その後、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁が確認されたことによりUG9とは別の遺構と判断して掘り下げを行った。

重複関係：UG9に切られる。

埋土：2段階に大別される。黒褐色の3層が壁際の一部に堆積した後、黄褐色～暗褐色系統の土1・2層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸605cm。短軸480cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。

い。ピットは14基検出。数が多く、配置も不規則である。掘り込みの深いP2・10・13は主柱穴の可能性がある。

炉：石囲炉。ほぼ中央に位置する。形状は方形で炉石は南面を除き残存。規模は内法で1辺が約16cm。床面からの深さ約20cm。炉石は20cm程の棒状の石を用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内側壁面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物、焼土を含まない。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は15.105g。P14から深鉢（264）の下半部が正位で、P9からは深鉢片（263・265）が出土した。

時期：第2期～第4期。

SB29（図版42・43・117・118・170、PL14・73・74・118、第7表）

位置：5区 III F16・17・21・22グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、IV層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。2層が壁際から一部床面に堆積した後、中央に炭化物、礫（10～20cm程）、遺物を多く含む1層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸580cm。短軸520cm。深さ30cm。

構造：形状は不整楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは11基検出。プラン東部は検出を複数回試みるもピットを検出することができなかった。P1・3・5・6・7は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや北寄りに位置する。形状は多角形で炉石は完存する。規模は内法で長軸50cm、短軸34cm。床面からの深さ20cm程。炉石は長さ30～40cm程の不定形の石を用い、南側の2点は平面を上に向けて設置する。炉底面は丸く湾曲する。被熱痕は炉石の上面～内側壁面に見られるが、炉内埋土に炭化物と焼土は含まない。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は39.900g。P1から深鉢（276）が、P2から浅鉢（275）が、P12から深鉢（272、273）が出土した。このほか埋土中で略完形品のほか口縁部、底部を欠く以外は原形を留める個体も出土しており、単純な廃棄とは考えにくい。個別の出土状況は第7表に掲載した。

時期：第8期。

SB30（図版44・45・119・157・170・171、PL14・75・112・118）

位置：5区 II J20・25、III F16・21グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、IV層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。4～5層が壁際から床面に堆積した後、中央付近に炭化物、遺物を含む3層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸510cm。短軸470cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。

ピットは7基検出。P1・4・5・7は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：埋焼炉。中央やや北西寄りに位置する。2基の深鉢が並ぶ。炉1（281）・炉2（280）はいずれも口

縁部と胴下半部を欠損し、とくに上部の破断面は摩耗している。炉1の掘り方が炉2の掘り方を切る。炉1の東側に接して長軸50cm程の被熱面を検出した。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は35,575g。大部分は破片で主に3層より出土した。石器はP5からスクレイパー(123)が出土した。

時期：第2期～第3期。

SB37 (図版46・120・171, PL14・76・118)

位置：6区 III K08グリッド 居住域：南群

検出：III層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ床面及び壁を確認して掘り下げを行った。重複関係：切合う遺構はない。

埋土：単層。

規模：主軸方位S50°E。主軸570cm。直交軸560cm。深さ10cm。

構造：形状は不整形。埋土の大部分が側平を受けており、壁の立ち上がりは不明。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは6基検出。P1・2・4～6は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや北西寄りに位置する。形状は多角形で炉石は完存する。規模は内法で直径約40cm。床面からの深さ約15cm。炉石は20～30cm程の不定形の石を用いる。このうち西辺に配置された1点のみ平面を上に向けて設置する。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物、焼土を若干含む。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は18,368g。P5の脇の床面において深鉢(289)が形状を留めたまま横位で出土した。

時期：不明。

SB41 (図版47・120, PL1・15・76)

位置：2区 II E13・14・18グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、IV層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：鈍い黄褐色の2層が床面に一部堆積するが、その上位は全体に1層が堆積する。

規模：主軸方位S29°E。主軸390cm。直交軸420cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは7基検出。P1～6は、配置と規模から主柱穴と考える。P7は、大形で掘り込みが深い。埋土も炭化物を含むなど本SBの1層とは異なる。主柱穴とは異なる性格である。

炉：石囲炉。中央やや北寄りに位置する。形状は多角形と推定される。規模は内法で長軸70cm。床面からの深さ約15cm。炉石は20～40cm程の不定形の石を用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物、焼土を含まない。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は635g。

時期：第9期。

SB42 (図版48・120・121・153、PL15・76・77・109・118)

位置：6区 ⅢP09グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランを検出。先行トレンチを入れた所、プラン南半部の上部はかく乱を受けており、壁面は削平されるものの、床面の大部分は残存することを確認し、掘り下げを行った。

重複関係：かく乱に切られる。

埋土：2段階に大別される。2～6層が壁際から床面に堆積した後、中央に炭化物、礫、遺物を多く含む1層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸(490cm)。深さ40cm。

構造：形状は不明。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは6基検出。このうちP1～3・5は、配置から支柱穴と考える。

炉：石囲埋燗炉。中央やや北東寄りに位置する。形状は多角形と推定される。炉石は2辺残る。規模は不明。床面からの深さ24cm。炉石は20～30cm程の棒状の石を用いる。炉内からは深鉢(295)が正位で出土した。胴下半部は水平に欠損する。掘り方は口縁部が炉石の内法とほぼ同じであるが胴部付近はスペースがある。被熱痕は炉石の上面～内面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物を含まない。炉の南東脇にはほぼ円形に広がる被熱面した部分を検出。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は49,305g。炉の南東側で深鉢(296)が底部を水平に切断した状態で出土した。このほか埋土中より深鉢(300・301・303)が出土した。土偶は埋土中より胴部片(7)が出土した。石器は埋土中より棒状石(129)が出土した。

時期：第6期。

SB43A (図版49・122、PL15・78)

位置：11区 ⅢP13・14・18・19グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：SB43Bを切る。SB43Aの床面精査時にSB43Bのプランを検出。

埋土：2段階に大別される。3・4層が壁際から床面にブロック状に堆積した後、全体に礫・遺物を含む1・2層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸620cm。短軸610cm。深さ40cm。

構造：形状は不整形円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは10基検出。いずれも壁面に沿う位置にあり、支柱穴の可能性はある。特にP1・11、P2・3、P4・5、P7・8は近接しており、建て替え時にはほぼ同じ位置に柱を配置した可能性がある。

炉：石囲炉。中央北寄りに位置する。形状は楕円形で炉石は北西部を除き残存。採取痕あり。規模は内法で長軸70cm、短軸40cm。床面からの深さ18cm。炉石は長さ30cm程の石を用いる。炉底面は東側が凹む。被熱痕は炉石の上面～内面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に一部炭化物を含む。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は15,870g。床面で深鉢(304)が出土した。

時期：第8期。

SB43B (図版50・122・153、PL16・78・109)

位置：11区 ⅢP13・14・18・19グリッド 居住域：南群

検出：SB43Aの床面精査中にプランを検出。別遺構と判断して掘り下げSB43Bの立ち上がりを確認した。

重複関係：SB43Aに切られる。

埋土：単層。

規模：主軸方位S35°E。主軸440cm。直交軸420cm。深さ5cm。

構造：形状は不整楕円形。壁の立ち上がりは不明。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは15基検出。このうちP12・14・16・18・19・20・21～23・26は壁面に沿う形で検出し、規模も同程度であることから主柱穴の可能性はある。

炉：埋燵炉。中央北寄りに位置する。掘り方の規模は長軸70cm、短軸50cm、深さ20cmを測る。掘り方のほぼ中央で深鉢（308）が正位で出土した。口縁部と胴下半部は欠損する。特に口縁部は破断面に輪積痕が認められ、その部分で水平に欠けていた。深鉢の胴径に比べて掘り方は大きい。掘り方埋土に炭化物を含まない。炉の周囲に被熱面はない。深鉢（308）の外周部には器壁からやや離れて深鉢を囲むように土器片が出土した。接合により深鉢（307）となる。胴下半部のみ残存した。埋燵炉内の埋土に炭化物、焼土を含まない。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は3,315g。土偶はP19から頭部片（8）が出土した。

時期：第5期。

SB44（図版51・122、PL16・78）

位置：12区 ⅢP20グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で石囲炉を検出。炉の周囲を精査したが後世の削平が激しくプラン、ピットともに検出できない。ただし炉からやや離れて土器片が出土する範囲があり、本SBの埋土残存部として調査した。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：床面まで削平を受けており不明。

規模：主軸方位不明。長軸不明。深さ不明。

構造：形状は不明。床面等の構造は不明。

炉：石囲炉。形状は多角形で炉石は一部欠損するが、後世の削平に起因する可能性が高い。規模は内法で直径50cm。床面からの深さ約20cm。炉石は長さ20～40cm程の石を用いる。炉底面はほぼ平坦。被熱痕は炉石の内面に若干認められ、炉内埋土に炭化物を少量含む。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は6,260g。

時期：第7期。

SB45（図版51・123、PL16・79）

位置：6区 ⅡT05・10、ⅢP01・06グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：単層。

規模：主軸方位S42°E。主軸496cm。直交軸428cm。深さ26cm。

構造：形状は不整楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは6基検出。このうちP1～4は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや北西寄りに位置する。形状は多角形で炉石は完存する。規模は内法で長軸50cm、短

軸40cm。床面からの深さ8cm。炉石は長さ20～40cm程の石を用いる。炉底面は若干湾曲する。被熱痕は炉石の上面～内側壁面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物を多く含む。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は10,220g。炉内から釣手土器片（314）が出土した。

時期：第8期。

SB46（図版52・123・124・153・155・171・172、PL16・17・79・80・109・111・118・119、第8表）

位置：2区 II E17・22グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、IV層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。褐色シルトの2層が壁際に堆積した後、黒褐色シルトの1層が堆積する。

規模：主軸方位N42°W。主軸420cm。直交軸380cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは7基検出。このうちP2・4・6・7は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：埋甕炉。中央に位置する。炉内からは深鉢（318）が正位で出土した。口縁部と底部は水平に欠損する。上部の破断面は摩耗する。埋甕内の埋土と掘り方の埋土に炭化物、焼土を含まない。その埋甕に沿って長さ30cmの棒状石が検出されている。炉石と考えられるが、本来は石囲炉であり、その1片であった可能性もある。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は28,850g。その大部分は主柱穴に囲まれた中央から北東寄りの1層中で出土している。接合により深鉢（321・322・323）は略完形と判明した。うち322は胴下部を、323は底部を欠損する。土偶は埋土中より頭部片（9）が出土した。石器は床面から石皿（139）が、このほか埋土中より打製石斧6本と黒曜石剥片が多数出土している。組成は第8表に掲載した。

時期：第3期。

SB47（図版53・125・126・157・172、PL17・81・82・112・119、第8表）

位置：11区 III P07・12グリッド 居住域：南群

検出：III層中で平面形の全体を検出。先行トレンチを入れ、IV層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。黄褐色系統の土2・3層が壁際から床面に堆積した後、全体に礫を含む黒褐色土の1層が堆積する。

規模：主軸方位N23°E。主軸460cm。直交軸473cm。深さ50cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは5基検出。すべて壁に沿って並び、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや北寄りに位置する。長方形を呈し炉石は完存する。炉石は棒状の石を主に使う。規模は内法で長軸42cm、短軸36cm。床面からの深さ18cm。炉石は長さ30cm程の棒状の石を主に用いる。炉底面はやや湾曲する。被熱痕は炉石に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物を含まない。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は51,545g。深鉢（327・328）は接合により略完形となる。石器はプラン西壁で磨石（144）と棒状石（146）が並んで出土した。このほか埋土中より石鏃、ピエスエスキュー、石匙、擦石、石核、スクレイパー、棒状石など複数の器種が出土している。組成は第8表に掲載した。

時期：第6期。

SB48 (図版54・126、PL17・82)

位置：9区 II T09・10・14・15グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：単層。

規模：主軸方位S40°E。主軸590cm。直交軸600cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは8基検出。このうちP1・2・4～7は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや北西寄りに位置する。形状は多角形で炉石は完存する。規模は内法で長軸70cm、短軸50cm。床面からの深さ12cm。炉石は長さ30～40cm程の棒状の石を主に用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内側壁面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物を少量含む。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は18,343g。

時期：第7期～(第8期)。

SB49 (図版55・126・127・154・157・173、PL17・18・82・83・110・112・119)

位置：9区 II T24グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：単層。

規模：主軸方位不明。長軸480cm。短軸430cm。深さ40cm。

構造：形状は楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは7基検出。いずれも不整形を呈する。このうちP1・3・4・6・7は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央に位置する。形状は不明で炉石は東辺に一部残る。規模は不明。床面からの深さ20cm。炉底面はやや湾曲する。炉内埋土に炭化物、焼土を含まない。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は32,085g。土偶は埋土中より胴部片(10)が出土している。

時期：第7期。

SB50 (図版56・127・154・157・173、PL18・83・110・112・119)

位置：9区 II T07・08・12・13グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。暗褐色シルトの2層が壁際から床面全体に堆積した後、中央に黒褐色シルトの1層が堆積する。

規模：主軸方位S63°E。主軸630cm。直交軸610cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは10基検出。このうちP1～4・6・8～10は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲埋壺炉。中央やや北西寄りに位置する。形状は多角形で炉石は北西辺を除き残る。規模は内法で長軸（50cm）、短軸44cm。床面からの深さ15cm。炉石は10～20cm程の石を用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内側壁面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物、焼土を含まない。炉の内側には、深鉢（339）が正位で出土した。全周せず胴部の1/3程度が残存していた。口縁部と底部は意図的に切断されたものだろう。炉石の下からも深鉢（338）が正位で出土した。全周せず胴部の1/3程度が残存する。炉石よりも外側にはみ出して出土するため、現存する石囲い炉以前のもの、おそらく建て替え前の炉に伴うものとする。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は30.935g。P1から深鉢（343）、P3から深鉢（340）、P7から深鉢（341・342）が、炉際の床面から深鉢（344）が出土した。土偶は埋土中より頭部片（11）が出土している。

時期：第6期～第7期。

SB52（図版57・58・128・129・157・173・174、PL18・19・84・85・112・119・120、第7・8表）

位置：9区 II T11・12・16・17グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。2・3層が壁際から床面に堆積した後、中央の炉周辺に30cm前後の礫を多量に含む1層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸530cm。短軸520cm。深さ40cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは7基検出。このうちP1～4・6は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：埋壺炉。中央に位置する。深鉢（346）が正位で出土した。口縁部は一部、胴下半部はほとんど欠損する。深鉢内からは長軸15cm程の方形の石が出土した。埋壺炉内の埋土に炭化物、焼土を含まない。

遺物出土状況：埋土中の1層の礫集中より大部分が出土した。土器の総重量は48,010g。礫の大きさは拳大にまとまり量的に非常に多い。特に礫の上から出土した略完形の土器は礫により粉砕されず原形を留めており、意図的に置いたと考える。個別の出土状況については第7表に掲載した。

このほかP8から深鉢（347）が出土している。石器は埋土中より石鏃、石匙、スクレイパー、打製石斧、磨製石斧、凹石、石皿など複数の器種が出土している。組成は第8表に掲載した。

時期：第4期。

SB57（図版59・129・154・157、PL19・85・110・112）

位置：6区 III P02・07グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：単層。

規模：主軸方位不明。長軸435cm。短軸374cm。深さ10cm。

構造：形状は楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは6基検出。このうちP3～6は、配置と規模から主柱穴の可能性はある。

炉：石囲炉。中央やや南寄りに位置する。形状は不整形で炉石は一部残存する。炉北西側の炉石が炉内へ大きく入り込む箇所があり、炉廃絶時に意図的に移動された可能性がある。規模は内法で長軸40cm。床面からの深さ20cm。炉石は20～40cmの棒状の石を多く用いる。本炉では炉内から底部を水平に欠損する深鉢(354)が正位で出土した。炉石の内法に比較して胴径が小さく、SB25同様に炉廃絶後の埋設の可能性を考えた。炉内及び深鉢の埋土は炭化物、焼土を含まない。被熱痕は炉石にあるが炉底面にはない。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は17,230g。土偶はP1から頭部片(12)が出土した。

時期：第8期。

SB59 (図版60・130、PL19・20・86)

位置：8・9区 II S25グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：単層。

規模：主軸方位不明。長軸650cm。短軸620cm。深さ25cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは12基検出。このうちP1・3・6・8・10・11は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや西寄りに位置する。形状は不整形楕円形で、炉石は完存する。規模は内法で長軸66cm、短軸50cm。床面からの深さ20cm。炉石は20～40cm程の不定形の石を用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉内面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物・焼土を含まない。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は1,745g。深鉢片(356～358)が出土した。

時期：第8期。

SB60 (図版61・130・174、PL20・86・120)

位置：10区 III P11・12・16・17グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で2つの大きな円形プランが切合う状態で検出。両遺構を貫く方向に先行トレンチを入れ、埋土の色調差からSB60が61を切ることを確認し、SB60を先に調査した。

重複関係：SB61を切る。

埋土：2段階で大別される。4層が壁際の一部に堆積した後、炭化物や焼土ブロックを含む1～3層が全体に堆積。

規模：主軸方位S30°E。主軸480cm。直交軸580cm。深さ40cm。

構造：形状は楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは13基検出。うちP1・2・4・5・6・9・10・12は、配置と規模から柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや北寄りに位置する。形状は長方形を呈し、炉石は完存する。規模は内法で長軸50cm、短軸40cm。床面からの深さ8cm。炉石は長さ50cm程の不定形の石を用いる。炉底面は緩やかに湾曲す

る。被熱痕は炉石の上面～内面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物を少量含む。

遺物出土状況：埋土中の土器の総重量は11,055 g。深鉢（361・363）は接合により略完形となる。

時期：第8期。

SB61（図版62・130・156・157・174、PL20・86・112・120）

位置：10区 II T15・III P11・16グリッド 居住域：南群

検出：III層中で2つの大きな円形プランが切合う状態で検出。両遺構を貫く方向に先行トレンチを入れ、埋土の色調の差からSB61がSB60に切られると判断し、SB60の調査後に掘り下げた。

重複関係：SB60に切られる。

埋土：単層。

規模：主軸方位N45°W。主軸不明。直交軸420cm。深さ30cm。

構造：形状は楕円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは9基検出。このうちP1・2・4・5・6は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲埋焼炉。中央やや東寄りに位置する。形状は多角形と推定される。炉石は一部残存。規模は内法で長軸約30cm。床面からの深さ18cm。炉石は20cmの石を用いる。炉内からは深鉢（364）が正位で出土した。掘り方は深鉢とほぼ同じ大きさである。深鉢は口縁部と胴下半部を欠損する。上部の破断面は摩耗する。深鉢の底には土器片を敷く。接合により深鉢の口縁片であることが判明した（365）。頸部以下も水平に欠損する。埋焼炉内の埋土には炭化物、焼土を含まない。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は17,700 g。石器は埋土中より石皿（166）が出土した。

時期：第4期。

科学分析：石皿（166）については、残存デンプン粒分析を行い、デンプン粒を検出した。このほかAMS年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析を実施した（第4章第2節）。

SB63（図版63・131・156・175・176、PL20・21・87・112・120・121、第8表）

位置：6区 III K22・23、III P02・03グリッド 居住域：南群

検出：III層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、IV層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。2層が壁際に一部堆積した後、全体に炭化物、遺物を含む1層が堆積する。

規模：主軸方位不明。長軸620cm。短軸610cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形円形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは11基検出。このうちP1～3・6・8は、規模的に柱穴の可能性がある。P5とP10は、大形で掘り込みが深い。埋土も黒褐色を呈し、本SBの1層やピット埋土とは異なる。主柱穴とは異なる性格である。

炉：石囲炉。中央やや北西寄りに位置する。形状は楕円形と推定される。炉石は北西側を除き残存。規模は内法で長軸（80cm）、短軸35cm。床面からの深さ18cm。炉石は長さ20～30cm程の不定形の石を用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物を含む。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は7,140 g。石器はP3から石核（170）、床面からスクレイパー（176）が出土した。このほか埋土中より、ピエスエスキュー、石核、スクレイ

バー、打製石斧、磨製石斧、石皿など複数の器種が出土している。組成は第8表に掲載した。

時期：第8期。

SB64 (図版64・131、PL21・87)

位置：3区 II I 24・25、II N04・05グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で2つの円形プランが重なる範囲を検出。規模的に竪穴建物跡と判断して、SB23とSB64と命名した。両プランを貫く方向に先行トレンチを入れるが両遺構の埋土が類似し、切合い関係を判断できなかった。調査は遺構のプランがより明確に確認できたSB23を先行して掘り下げたが、整理時に埋土中の土器の型式学的な検討からSB64がSB23より新しい時期のものであると推測される。

重複関係：SB23を切る。

埋土：単層。

規模：主軸方位S53°E。主軸580cm。直交軸565cm。深さ15cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは8基検出。壁際に沿うように並ぶ。いずれも不整形を呈する。P1～4・7は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉。中央やや北西寄りに位置する。形状は多角形を呈し、炉石は完存する。炉石は大きさ20～30cm程の不定形の石を用い、規模は内法で長軸43cm。床面からの深さ10cm。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は19,232g。

時期：第8期。

SB65 (図版65・131・132・177・178、PL21・87・88・121、第8表)

位置：3区 II J11グリッド 居住域：北群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：褐色系統のシルト5～7層が壁際に堆積した後、中央を中心に黒褐色系統のシルト1～4層が堆積する。2段階で大別されるが、埋土全体に炭化物や黄褐色ブロックを含んでいることから、比較的短時間で堆積したと考える。

規模：主軸方位S0°。主軸650cm。直交軸590cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形。壁は垂直を意識して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは11基検出。このうちP1～4・6・8・10は、配置と規模から主柱穴と考える。

炉：石囲炉と推定される。中央やや北西寄りに位置する。形状は不明。炉石は1点残存。被熱痕が残る。炉石の北西側に大きな掘り込みを確認。底面は皿状を呈する。底面、壁面に被熱痕はない。炉内の埋土中に炭化物や焼土粒を含む。また掘り込みの北側の床面には被熱面を検出した。

遺物出土状況：土器は埋土を中心に28,890g。土器はP7から略完形の深鉢(376)が割れた状態で出土した。石器はP4から打製石斧(184)、床面から打製石斧(190)が出土した。このほか埋土中よりピエスエスキュー、石核、石匙、スクレイパー、打製石斧、擦石など複数の器種が出土している。組成は第8表に掲載した。

時期：第6期～第7期。

SB66 (図版66・132・154、PL21・88・110)

位置：8区 II S14・15・19・20グリッド 居住域：南群

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。先行トレンチを入れ、Ⅳ層を掘り込む床面及び壁を確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：2段階に大別される。2層が壁際から床面に部分的に堆積した後、全体に1層が堆積する。

規模：主軸方位S55°E。主軸560cm。直交軸545cm。深さ30cm。

構造：形状は不整形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦である。貼り床、掘り方は確認できない。ピットは12基検出。このうちP1・3・4・6・8・11は、配置と規模から支柱穴と考える。P5は、大形で形状は長方形を呈する。

炉：石囲炉。中央やや北西寄りに位置する。形状は多角形で炉石は完存する。規模は内法で長軸45cm、短軸35cm。床面からの深さ18cm。炉石は長さ30cm程の石を多く用いる。炉底面は平坦。被熱痕は炉石の上面～内面に認められるが、炉底面にはない。炉内埋土に炭化物を含まない。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は24.075g。土偶は埋土中から腰部片(13)が出土している。

時期：第8期。

第7表 竪穴建物跡における土器出土状況一覧（略完形土器が複数出土する事例を抜粋）

※「残存率」は埋置した可能性が高いものについて残存率を以下の記号で表した

A：器形全体のほぼ3/4以上が残存

B：口縁部、胴部、胴部～底部などの一部が完形

C：残存部位が器形の1/2～3/4程度残存。大形の破片を含む。本来は略完形胴体の可能性があるが、経年による風化、移動（人為的な移動も含む）、後世の土地改良等による削平で欠損するものを含む

※「所見」における欠損の区分

a：破断面が整い意図的な切断と考えられるもの

b：破断面は凸凹であるが、一定方向に意図的に割った可能性が高いもの

c：意図的な破断と考えにくいもの。あるいは不明なもの

SB7（図版13、PL3）

番号	出土状況	器種	部位	残存率	所見
16	横位	深鉢	口～底	A	口縁部欠損は削平の可能性
17	破片集中	深鉢	頸～底	B	口縁部欠損はc
18	逆位	浅鉢	口～胴	B	底部欠損は削平の可能性
19	破片集中	深鉢	頸～底	C	
20	破片集中	深鉢	頸～胴	B	口縁部、底部ともに欠損はc

SB10（図版17・18、PL4・5）

番号	出土状況	器種	部位	残存率	所見
45	横位	有孔罎付	口～底	A	底面欠損はa。円盤状に欠損する 炉の上面において、側体を縦方向に破断し破片全体の2/3程を内面を上向きにして原形のまま広げて並べ、残り1/4程は外面を上向きにして、床面に敷いた破片の上に、原形のまま被せたか
49	横位	深鉢	口～胴	B	胴下部欠損はb
51	横位	深鉢	口・胴	B	胴部は遺構内出土。胴上部の欠損はa 口縁部は遺構外（II O01、02）出土
52	正位	深鉢	口～頸	B	頸部欠損はa
53	横位	深鉢	口～底	A	床直。顔面は意図的な欠損
58	横位	深鉢	口～底	A	略完形。胴下部に穿孔。蛇頭部部の欠損はaか
59	横位	深鉢	口～胴	B	底部欠損はaか
61	正位	器台	受け面～ 脚端部	A	脚の一部を欠損
62	横位	深鉢	口～底	B	口縁部欠損はc
63	破片集中	深鉢	口～底	A	
65	斜位	浅鉢	口～底	A	口縁部欠損はc
69	破片集中	深鉢	口～胴	B	底部欠損はb
70	横位	深鉢	口～胴	B	底部欠損はb
71	横位	深鉢	口～底	A	底面欠損はb
72	横位	深鉢	胴～底	B	胴部欠損はc
74	正位	深鉢	頸	C	口縁部欠損はc、頸部欠損はa

SB12（図版20・21、PL6）

番号	出土状況	器種	部位	残存率	所見
94	横位	深鉢	口～底	A	底面欠損はb
95	逆位	深鉢	口～底	A	
96	横位	深鉢	口～底	A	底面欠損はb
100	横位	深鉢	口～胴	B	
104	横位	深鉢	口～底	A	
107	逆位	浅鉢	口～胴	C	底部欠損はc
108	斜位	鉢	胴～底	C	頸部欠損はc。強い2次焼成あり

番号	出土状況	器種	部位	残存率	所見
109	斜位	深鉢	口～頭	C	頸部欠損は c
110	横位	深鉢	口～底	A	
113	斜位	深鉢	口～底	C	
115	不明	双口土器	口～底	C	埋土中より破片で出土

SB13 (図版22・23・24, PL 7・8・9)

番号	出土状況	器種	部位	残存率	所見
119	正位	深鉢	胴～底	B	頸部欠損は a
120	斜位	深鉢	口～底	A	
121		台付深鉢	胴～台	C	
124	逆位	深鉢	口～胴	B	口縁部欠損は a。口縁部割口は半月形状。胴下部欠損は c 124, 125, 126が集中出土
125	横位	深鉢	口～胴	A	胴下部欠損は b。胴下部に被熱痕 124, 125, 126が集中出土
126	横位	深鉢	口～底	A	頸部の破断面は a。口縁部は126の西方で破片で出土 接合により同一個体と判明。124, 125, 126が集中出土
127	逆位	深鉢	口～頭	B	胴部欠損は a
128	横位	深鉢	口～底	A	底部は円盤状に欠損 a。128の脇に台石(石器45)
129	横位	深鉢	口～胴	C	底部欠損は c
130	横位	深鉢	口・底	C	胴部は欠損
134	横位	深鉢	口～底	A	136と並んで出土
135	横位	深鉢	頭～底	C	胴上部欠損は c。136の脇で出土
136	横位	深鉢	口～底	A	134と並んで出土
137	破片集中	深鉢	口～胴	A	口縁部欠損は c だが、半月形を意識した可能性がある。 底部の欠損は b。134の脇で出土
138	横位	深鉢	口～底	A	
140	横位	深鉢	口～頭	B	頸部欠損は a
141	横位	深鉢	口～底	A	
143	横位	深鉢	口～底	A	
146	横位	深鉢	口～底	A	
150	破片	深鉢	口～胴	B	胴下部欠損は c。大型の破片が分散して出土
152	逆位	深鉢	口～胴	B	口縁部把手は意図的な欠損の可能性あり。底部欠損は b
153	逆位	深鉢	口～胴	B	胴下部の欠損は b。153, 154, 155が並ぶように出土
154	斜位	浅鉢	口～底	A	全体に強く被熱する。153, 154, 155が並ぶように出土
155	逆位	深鉢	口縁	B	頸部欠損は a。153, 154, 155が並ぶように出土
157	正位	浅鉢	頭～底	A	口縁部欠損は b
158	横位	深鉢	頭～底	B	頸部欠損は c
159	横位	深鉢	口～底	B	胴下部欠損は c
160	横位	深鉢	口～底	A	160, 161が並ぶように出土
161	横位	深鉢	口～底	A	口縁部欠損は a、割口は半月形状を呈する 160, 161が並ぶように出土
162	横位	深鉢	口～胴	B	胴下部欠損は c
164	横位	深鉢	口～底	A	
168	横位	深鉢	口～胴	B	口縁部、底部欠損ともに c

SB26 (図版39・40、PL13)

番号	出土状況	器種	部位	残存率	所見
250	正位	鉢	胴～底	C	
252	横位	深鉢	口～胴	B	胴下部欠損は c
253	破片集中	深鉢	口～底	A	
255	横位	台付深鉢	口～胴	A	底部器台欠損は a
256	横位	深鉢	口～底	A	底部中央欠損は b
257	横位	深鉢	口～胴	C	大形破片

SB29 (図版42・43、PL14)

番号	出土状況	器種	部位	残存率	所見
270	横位	深鉢	口～底	A	炉の脇で出土
272	破片	深鉢	口～胴	C	273の上部で出土
273	横位	深鉢	口～底	A	
275	正位	鉢	口～底	C	口縁欠損は c
276	破片	深鉢	口～胴	C	大形破片
277	横位	深鉢	口～底	B	底面欠損は b
278	横位	深鉢	口～胴	B	胴下部欠損は b

SB52 (図版57・58、PL18・19)

番号	出土状況	器種	部位	残存率	所見
347	正位	深鉢	口～底	A	口唇部の欠損は c
348	横位	深鉢	胴～底	B	胴上半の欠損は a。集石の上から出土
350	横位	深鉢	口～胴	A	底部欠損は C。集石の上から出土
352	横位	深鉢	口～胴	B	胴下半の欠損は b。集石の上から出土

(2) 焼土跡

3基を検出した(付表3)。いずれも居住域の北群に位置する。SF1とSF2の2基は竪穴建物跡から離れた場所に位置する。被熱面のみ検出した。SF3は被熱した部分が面的に広がっていることが認められただけでなく、土器が埋納されていた。

SF1 (図版67) 位置: 1区 II D20グリッド 居住域: 北群

IV層中で赤変範囲を検出。先行トレンチを入れたところ、被熱面と判明した。

重複完形: 切合う遺構はない。規模: 直径60cm。形状: 円形。

遺物出土状況: なし。

時期: 不明。

SF2 (図版67・133, PL29・89) 位置: 13区 II J08グリッド 居住域: 北群

IV層中で赤変範囲を検出。先行トレンチを入れたところ、被熱面と判明した。

重複完形: 切合う遺構はない。規模: 長軸90cm。短軸80cm。形状: 楕円形。

遺物出土状況: 検出面より出土した土器の総重量は130g。深鉢片(383・384)が出土している。

時期: 第6期～第7期。

SF3 (図版67・133, PL29・89) 位置: 4区 II O07グリッド 居住域: 北群

検出: III層中で被熱面と礫集石が並ぶプランを検出。先行トレンチを入れたところ、同一の遺構であることが判明、底面と立ち上がりを確認して掘り下げを行った。

重複関係: 切合う遺構はない。

埋土: 遺物を含む3層が堆積した後、礫集中と被熱面が形成される。

規模: 長軸175cm。短軸80cm。深さ30cm。

構造: 平面は長楕円形を意識する。断面は箱形を意識するが、底面は凹凸がある。

遺物出土状況: 埋土中より出土した土器の総重量は7,935g。大部分が接合し(385・386)に取れんした。特に有孔鈔付土器(385)は埋土3層中で略完形の横位で出土した。その脇からは、土器片が集中出土し、接合により深鉢(386)と判明した。有孔鈔付土器(385)の上面には握り拳大の礫集中、深鉢(386)の上面には、被熱面を検出した。なお、深鉢(386)は、口縁部の大部分を欠損する。

所見: SF3は、北群の居住域の中でも集落中央の空間割の縁辺にある屋外埋設土器群の中に存在する。

SF3自体にも土器の埋設が認められることから、「屋外埋設土器」の一例とし、こうした土器の埋設時に火焚きが行われたものと考えられる。

時期: 第6期。

(3) 土坑

24基を検出した(付表2)。調査開始時は平面でプランが検出できたものを検出順に順次調査していったが、半載して明確に土坑と認定できたものは非常に少ない。1～40番台の土坑については、当初SKとして登録したが、整理段階でSBに伴うビットとしたものが28基ある。

土坑の規模については、長軸が40～270cm程と幅広い分布を示すが、長軸80cm以上となる15基は、14基が北群に分布している。特にSK42～45、SK47～50の8基はIII J13グリッド周辺に集中している。この中でSK42からは屋外埋設土器と判断した略完形の大形深鉢(387)が出土している。該当範囲に集中する大

形の土坑群は、堅穴建物群の近接地に集中し、SK42のように深鉢が入る例があり、屋外埋設土器群と関連がある可能性を指摘しておく。以下、主な土坑について報告する。

SK1 (図版68、PL29) 位置：2区 II E14・15・19・20グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で検出。半載し、明確な掘り方を有することから土坑と判断し、掘り下げた。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：炭化物を含む暗灰黄色～褐灰色の埋土が堆積する。間層には焼土ブロックを含む。

規模：長軸150cm。短軸110cm。深さ46cm。構造：平面形は、不整楕円形。断面形は逆台形状を呈する。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は680g。

時期：不明。

SK2 (図版68、PL30) 位置：2区 II E24グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で検出。半載し、明確な掘り方を有することから土坑と判断し、掘り下げた。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：黄褐色系統の砂質土が堆積。

規模：長軸110cm。短軸90cm。深さ38cm。構造：平面形は、不整楕円形。断面形は半球形を呈する。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は90g。

時期：不明。

SK39 (図版68、PL30・122) 位置：1区 II J02グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で検出。半載し、明確な掘り方を有することから土坑と判断し、掘り下げた。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：黒褐色土が堆積する。

規模：直径150cm。深さ28cm。構造：平面形は円形。断面形は箱形を意識する。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は1,575g。石器は埋土中より打製石斧(194)が出土している。

時期：不明。

SK42 (図版68・134・179、PL30・90・122) 位置：13区 II J13・14グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で埋納された土器を検出。面的精査を行い、プランを検出し、先行トレンチを入れて掘り込みを確認して掘り下げを行った。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：土器を埋置した後、黄褐色系統の土2・3層が堆積する。

規模：長軸122cm。短軸114cm。深さ22cm。

構造：平面は楕円形。断面は箱形。

遺物出土状況：埋土中より出土した土器の総重量は8,772g。埋納土器2個体以外の破片は極めて少量である。深鉢(387)は斜位で出土。埋土から出土した口縁片も接合した。深鉢(388)は胴上半を欠損した状態で正位で検出された。石器は深鉢(387)内より台石(196)、埋土中より石核(195)が出土している。所見：出土状況から、まず深鉢(387)が土坑内に斜位で埋置されたのちに、深鉢(388)が正位で埋置されたと判断した。本土坑は深鉢が破砕した状況ではなく斜位ないし正位であったことから「屋外埋設土

器」の一例とした。深鉢（387）内からは頭骨片が出土した。ヒトの可能性はあるが、小片であり確定できない。

時期：第5期・第7期。

SK43（図版69・134、PL90） 位置：13区 II J08・09グリッド 居住域：北群

検出：IV層中でプランを検出。半截し、明確な掘り方を有することから土坑と判断し掘り下げた。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：鈍い黄褐色シルトと暗褐色シルトが交互に堆積する。何れも炭化物粒を含む。

規模：長軸268cm。短軸165cm。深さ60cm。

構造：平面は不整形円形。断面は逆台形状を呈する。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は281g。深鉢片（389）が出土した。

時期：第5期。

所見：本集落の中で最も大きい土坑である。直径が2mを超える土坑は北群で1基（SK43）、南群で1基（SK53）しかない。

SK45（図版69） 位置：13区 II J09・14グリッド 居住域：北群

検出：IV層中でプランを検出。半截し、明確な掘り方を有することから土坑と判断し掘り下げた。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：礫を含む褐色シルトが堆積する。

規模：長軸130cm。短軸110cm。深さ50cm。

構造：平面は不整形円形。断面は逆台形状を呈する。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は95g。

時期：不明。

SK47（図版69） 位置：13区 II J14グリッド 居住域：北群

検出：IV層中でプランを検出。半截し、明確な掘り方を有することから土坑と判断し掘り下げた。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：礫を含む黄褐色～褐灰色のシルトが堆積する。

規模：長軸95cm。短軸85cm。深さ40cm。

構造：平面は不整形。断面は箱形を呈する。

遺物出土状況：出土していない。

時期：不明。

SK48（図版70・134、PL90） 位置：13区 II J14グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で2つのプランが重なる範囲を検出。先行トレンチを入れたところ、SK49がSK48を切ることが判明。SK49の調査後に48の調査を実施した。

重複関係：SK49に切られる。

埋土：暗褐色から黒褐色シルトが堆積する。遺物を含まない。

規模：直径96cm。

構造：平面は不整形円形。断面は逆台形状を呈する。

遺物出土状況：埋土中より出土した破片が中心の土器の総重量は70g。

時期：不明。

SK49 (図版70・135・179, PL30・91・122) 位置：13区 II J14グリッド 居住域：北群

検出：IV層中で2つのプランが重なる範囲を検出。先行トレンチを入れたところ、SK49がSK48を切ることが判明。SK49を先行調査した。

重複関係：SK48を切る。

埋土：2段階に大別される。遺物を含まない黄褐色シルトが堆積した後、遺物を含む暗褐色シルトが堆積する。

規模：長軸100cm。短軸96cm。深さ26cm。

構造：平面は不整形。断面は逆台形状を呈する。

遺物出土状況：埋土中より出土した土器の総重量は3,830g。土器は深鉢片(391・392)が、石器は埋土中より石錐(197)、石核(198)が出土している。

時期：第5期～第6期。

SK51 (図版70・135, PL30・91・122) 位置：5区 II J20グリッド 居住域：北群

検出：IV層中でプランを検出。半截し、明確な掘り方を有することから土坑と判断し掘り下げた。

重複関係：切合う遺構はない。

埋土：単層。

規模：長軸130cm。短軸120cm。深さ24cm。

構造：平面は不整形。断面は半球形状。

遺物出土状況：埋土中より出土した土器の総重量は975g。深鉢片(393～396)が出土した。石器は埋土中よりスクレイパー(200)が出土した。

時期：第7期。

SK53 (図版70・135, PL30・91・122) 位置：6区 III K17・18グリッド 居住域：南群

検出：III層中でプランを検出。先行トレンチを入れUG30との切合いを確認。UG30の調査後に掘下げを行った。

重複関係：UG30に切られる。

埋土：2段階に大別される。壁面から底面にかけての一部に砂礫層が堆積した後、炭化物粒を含む暗褐色系のシルトが堆積する。

規模：長軸205cm。短軸170cm。深さ42cm。

構造：平面は長方形。断面は箱形を意識する。

所見：長軸が2mを超える土坑は南群、北群で各1基(南：SK53、北：SK43)存在する。

遺物出土状況：埋土中より出土した土器の総重量は645g。埋土中より、深鉢片(397・398)、台石(201)が出土している。

時期：(第6期)。

(4) 屋外埋設土器

土器を原形のまま埋設する遺構を屋外埋設土器（UG）としたが、整理段階でSF・SK・DSとした遺構の中にも類例が確認された。また土器集中（DS）の出土事例の中で土器が横位の姿勢で地面側のみ原形を留めて検出される例や、集中出土した土器片が接合により一個体になる例が存在することが判明した。いずれも屋外埋設土器が分布する範囲を中心に検出されており、屋外埋設土器の一例として本項においても報告する。

最終的に屋外埋設土器としたのは、SF1基、SK1基、UG34基、DS12基の合計48基である（第9表、図版67・68・71～74・133・134・136～150・179、PL22～30・89・90・92～106・122）。UGとDSの遺構記号は、整理収納段階でも呼称をそのまま使用し図面・写真・注記等も変更していないため、付表においては登録時の遺構記号ごとに掲載したが、SF3とSK42については各遺構の項目でも記述している。

屋外埋設土器の所見について、検出状況や分類事項の基準などの共通事項を以下に記し、一覧表にまとめた（第9表）。

検出状況：本遺跡の立地する地域は昭和時代に圃場整備が行われている。遺構検出面は平坦で、重機のキャタピラによる圧痕が検出されることから、縄文時代の生活面上部が削平されていることが推測できる。

屋外埋設土器は耕土直下で検出した。検出当時は堅穴建物跡に伴う埋窆もしくは埋窆も想定したが、重機による削平を考慮しても埋設土器の周辺から堅穴建物跡に伴う炉、ピット等は検出されず、埋設土器が集中出土する範囲があるなど堅穴建物跡の切合いを想定できないため、それぞれ屋外埋設土器として把握し、個体ごとに記録し取り上げた。

掘り方：屋外埋設土器は本来的には掘り方が存在していたはずであり、掘り方が判明した土坑もあるが、埋窆の直径に合わせて穴を掘る例や埋土が地山に類似する例もあるなど掘り方の把握は困難なものもあった。遺構図では断面観察により想定できるものは点線で示した。なお一覧表では掘り方の大きさについて土器との隙間が10cm以内を「狭」、10cm以上を「広」とした。

屋外埋設土器内外出土の石について：屋外埋設土器の上部、脇、もしくは土器内から大形（30cm程）の石器や石が出土する例があり、埋設時に何らかの標識として大形の石を用いた可能性がある。また土器内から中形（15cm程）の石が出土する例もあり、意図的に埋置したとも考えられるが、本遺跡では基本土層の観察により地山に小形（10cm程）の石が多く含まれるので、土器の脇や土器内に偶然存在したものと峻別するため、大きさが10cmを超えるような重さが0.5kg以上の石について出土例を一覧表に記した。

土器の残存状況：屋外埋設土器は表土直下が検出面のため、土器の破砕が顕著であり復元できない個体が一定量存在した。また土器の大小を問わず口縁部や胴部上半を欠損する個体が多く認められた。よって土器埋設時に口縁部や胴部上半を人為的に打ち欠いたかどうかはわからない。但し、SK42の小形深鉢（388）は検出面より下位で胴部上半を欠損した状態で出土していることから、口縁部を打ち欠いた後に埋納したと考えた。一方、掘り方底面側に欠損がある場合は人為的に打ち欠いた後に埋設したものと判断されるので、一覧表に記した。

土器の大きさ：埋設した土器の大きさは、上部を欠損するものが多く本来の完全な形の大きさを示すことはできない。また残存している大きさの精密な法量に大きな意義を認めることはできないため、大まかに胴部の最大径を基に小（10cm以上～15cm未満）、中（15cm以上～25cm未満）、大（25cm以上）の3クラスに分け、一覧表に記してある。

埋設姿勢：土器の大小に関わらず正位が圧倒的に多い。なお逆位は確認できないが、横位や斜位のものもは少なからず存在する。小形土器も正位で出土する事例がある（388・405・423・424・446）。「破片」とした土器は、集中出土した土器片が接合により一個体となった事例を報告した。

土器内出土遺物：土器内からは石器が出土する例が存在するが、土器が明確に出土した事例は確認できない。

時期：第4章総括の時期区分を基準とする。

所見：屋外埋設土器は48基を抽出した。本遺跡における段階区分で第3期～第8期まで存在し、時期ごとの基数と竪穴建物跡軒数の増減はおおむね連動している。本遺構の性格については埋納位置が居住域と広場の境にある点、SK42からはヒトの頭蓋骨の可能性のある骨片が検出された点や以下に触れる他遺跡の事例も合わせて墓と考える。

箕輪町の久保上ノ平遺跡（南箕輪村教委1997）や、富士見町の藤内遺跡における藤内特殊遺構（富士見町教委2011）では、本遺跡と同じように居住域とは異なる空間に土器が埋設されており、いずれの遺跡でも人骨片は検出されていないが、土器棺墓であったり葬送に関連する行為に伴う土器とすれば理解できる。

埋設する土器は深鉢を基本とする。土器の大きさは中形～大形が多いものの、小形もわずかながら認められる。本集落の屋外埋設土器群には、土器の上に石を置いた例、土器を横位で埋設する例、小形土器を正位で埋設する例、個体の土器を割り破片をまとめる例、SF 3のように埋設後に火焚きの痕跡が見られる例など様々な事例が認められた。以上の事例の意義は解明されていないが、屋外埋設土器の分布する範囲には土器棺だけでなく葬送儀礼に伴う行為の痕跡の一端が残されていると思われる。こうした行為が地域、集団、時期などに共通性や差異があるかどうかは今後の検討課題となる。

第9表 屋外埋設土器一覽

※「掘方大きさ」は副都径が確認できる土器が埋設され、掘り方の規模が断面で確認できる事例を対象とする。土器との隙間が10cm以内を「狭」、10cm以上を「広」とする

※「副都最大径」の区分は小（10cm以上～15cm未満）、中（15cm以上～25cm未満）、大（25cm以上）とする。反転復元の個体を含む

遺構名	時期	グリッド	長さ m	深さ m	掘方 大きさ	出土土器	副都 最大径	埋設姿勢	底部	遺物等出土状況	備 考
SF3	6	II O07	1.75	0.80	-	有孔罎付385 深鉢386	中385 大386	横位385 破片386	有385 有386	385は禮集中の下から出土 386は焼土の下から出土	
SK42	5・7	III J13 14	1.22	0.22	広	深鉢387 深鉢388	大387 中388	斜位387 正位388	有387 有388	387内から台石196と骨片 埋土から石核195	時期の異なる 2個体
UG1	6～7	II J13	-	-	-	深鉢399	大	横位	有	深鉢の上に半截の台石202	
UG2	7	II J19	1.00	0.34	広	深鉢401	大	正位	無	深鉢内から凹石203	
UG3	8	II J19	0.60	0.35	狭	深鉢400	大	正位	有	深鉢内から打製石芥204	
UG4	8	II J18	0.55	0.50	狭	深鉢402	大	正位	有		
UG5	7～8	II J24	-	-	-	深鉢403	中	正位	無	深鉢内から石核205	
UG6	-	II J23	-	-	-	深鉢404	-	正位	有		
UG7	6	II J23	0.18	0.10	狭	深鉢405	小	正位	有		
UG8	7	II O02	0.75	0.28	広	深鉢406	大	正位	無		SB20（欠番） から変更
UG9	7	II O03	0.58	0.20	-	深鉢407	大	破片	有		SB27を切る
UG10	5	II O06 07	0.54	0.35	狭	深鉢408	大	正位	有		
UG11	6?	II O07	0.35	0.24	狭	深鉢409	中	正位	有		
UG12	6	II J24	-	-	-	深鉢410	大	正位	有	UG12と29の間から石出土	
UG13	6	II J19	0.55	0.32	広	深鉢411	大	正位	有	深鉢周辺から石核206	
UG14	7	II J22	0.58	0.28	広	深鉢412	-	正位	有		
UG15	6	II O06	0.50	0.40	狭	深鉢413	大	正位	有		
UG16	8	II O21	0.42	0.22	広	深鉢414	中	正位	有		
UG17	7?	II N05 II O01	0.32	0.20	狭	深鉢415	-	正位	有		
UG18	5	II J24 25	-	-	-	深鉢416	大	正位	有	深鉢内から磨製石芥207、 原石208・209	
UG19	5	II J24	0.95	0.34	広	深鉢418	大	正位	有	検出面の深鉢内から10kgの 石深鉢内から2.6kgの石	
UG20	6～7	II O17	-	-	-	深鉢417	-	破片	無		写真記録 (PL26)
UG21	8	II T05	-	-	-	深鉢419	-	正位	有		
UG22	6	II O06	0.40	0.18	狭	深鉢420	大	斜位	無		
UG23	6	II N03	-	-	-	深鉢421	-	正位	有		
UG25	6	II O06	0.38	0.20	狭	深鉢422	大	正位	有	検出面の深鉢内から0.66kg の石	
UG26	7～8	II I20	-	-	-	深鉢423 深鉢424	-423 -424	正位423 立位424	無423 無424	口縁が正位で並ぶ	写真記録 (PL27)
UG27	8	II J19 24	-	-	-	深鉢425	大	正位	有	深鉢内から1.4kgの石	
UG28	7	II J23 24	-	-	-	深鉢426	大	斜位	有	深鉢内から0.87kgの石	
UG29	7	II J24	-	-	-	深鉢427	中	横位	有	UG12と29の間から石出土	
UG30	6～7	III K17	-	0.30	広	深鉢428	中	斜位	有		
UG31	8	II T07	-	-	-	深鉢429	-	正位	有		
UG32	6	III K17	-	-	-	深鉢430	中	正位	有		
UG33	6～7	II J24	-	-	-	深鉢431	中	斜位	有	深鉢の下から石皿210	
UG34	5	II O04	-	-	-	深鉢432	-	正位	有	深鉢内からスクレイパー 211	
UG35	6	II J19	-	-	-	深鉢433 深鉢434	-433 -434	正位433 破片434	有	434の脇に打製石芥212	
DS1	8	II J17	-	-	-	深鉢435	中	破片	不明		
DS2	4～7	II O22 II T02	a: 1.4 b: 1.1	a: 0.08 b: 0.18	-	深鉢436 浅鉢437 深鉢438	-436 大437 -438	破片436 破片437 破片438	無436 有437 無438	438（a）、436、437（b） 埋土から打製石芥213	436は有孔罎 付土器の可 能性あり
DS4	8	II O20	-	-	-	深鉢439	中	破片	不明		

第3章 調査の方法と成果

遺構名	時期	グリッド	長さ m	深さ m	掘方 大きさ	出土土器	胴部 最大径	埋設姿勢	底部	遺物等出土状況	備 考
DS5	7	II O16	-	-	-	台付深鉢440	小	破片	有(一部)		
DS7	8	III K11	1.06	0.10	広	深鉢441	小	横位	無		
DS8	4	III K16	0.92	0.12	広	深鉢442 深鉢443	中442 -443	正位442 破片443	有442 無443		
DS9	4~5	III K12	-	-	-	深鉢444	大	破片	有		
DS13	3	II I18	-	-	-	深鉢445	中	斜位	有		
DS19	6~7	II J23	-	-	-	深鉢446	小	正位	有		
DS22	6	II J23	0.9	0.24	-	深鉢447	中	破片	不明		
DS23	5?	II J19	-	-	-	深鉢448	大	正位	有		
DS99	8	II S20	-	-	-	深鉢449	中	横位	有		SBS8 (欠番) から変更

3 遺物

(1) 土器 (付表6、図版75～151、PL31～107)

出土した土器は縄文時代前期末～中期初頭を僅かに含むが、主体は中期中葉～中期後葉の前半に属する。総重量は2,172kgを計る。資料は、略完形品、外來形土器のほか、遺構の性格や時期判定の指標になるものを掲載し、462点を図化した。

本集落は、竪穴建物跡の切合い関係が少なく、しかも遺構埋土から多くの土器が出土したため、略完形に復元できる個体は300点近くを数えた。集落の変遷は7段階におよび、その間、途切れることなく継続するなど、当該期の土器を検討するうえで極めて良好な資料となった。土器の分類、時期区分は第4章総括を参照されたい。個別の特徴等については付表に記した。添付DVDには土器の色調胎土等の情報も収録した。

(2) 土偶 (付表7、図版152～155、PL108～111)

36点出土し17点を掲載した。このうち(15)は土偶裝飾付土器である。(16・17)は土偶裝飾付き土器の可能性が。個別の特徴等については付表に記した。添付DVDには非掲載遺物の情報も収録した。

(3) ミニチュア土器 (付表8、図版156、PL112)

概ね5cm以下のものをミニチュア土器と総称する。207点出土し、うち15点を掲載した。形状は不定形のものが大半だが、舟形(1・12)、台付(11)などもある。文様があるもの(3・5・14)、器面を撫整形するもの(1・7・12)、指圧痕を残すもの(2・4・6・8・9・10・13・15)などがある。個別の特徴等については付表に記した。添付DVDには土器の色調胎土等の情報も収録した。

(4) 土製品 (付表9、図版157、PL112)

土製円板・土器片錘・土鈴をまとめる。土製円板は、土器片を円形及び方形に割り、破断面の全周を軽く磨いたもの(摩耗か)、および連続的な打撃痕が認められるものを抽出した。161点出土し、14点を掲載した。土器片錘は9点出土しているが、図化したものは2点(15・16)である。土鈴は2点(17・18)出土しているが、2点とも器面に沈線を充填する。個別の諸特徴については付表に記した。

(5) 石器 (付表10、図版158～180、PL113～123)

総点数は剥片類も含め3,463点で、重量676kgを計る。資料は基本的に遺構出土遺物を掲載した。このほか1軒の竪穴建物跡から複数の器種が出土する事例を時期毎に抽出して掲載した(第8表)。添付DVDには非掲載遺物の情報も収録した。

第4節 古墳時代前期の遺構と遺物

1 概要

検出した遺構は堅穴建物跡1軒である。本遺跡における検出面は1面のみで、その中で唯一縄文時代の堅穴建物跡（SB14B）を切る形で古墳時代前期の堅穴建物跡を検出した。

遺跡からは、他に当該期の遺構は確認できていない。また当該期の遺物も堅穴建物跡から出土した土器以外は確認できなかった。

2 遺構・遺物

SB14A（図版181・182、PL124・125）位置：4区 II O07グリッド

検出：Ⅲ層中で平面プランの全体を検出。当初、1軒の堅穴建物跡を想定して先行トレンチを入れたところ、SB14Bのプラン内に入れ子状に掘られたSB14Aを確認。埋土の堆積状況からSB14AがSB14Bを切ることを確認。SB14Aを先行調査した。

重複関係：SB14B（縄文時代中期）を切る。

埋土：2段階に大別される。遺物を含む3層が壁から床面に部分的に堆積した後、黒褐色～暗褐色を呈する1・2層が堆積する。

規模：主軸方位S10°W。長軸420cm。短軸390cm。深さ40cm。

構造：形状は方形。壁は外傾して立ち上がる。床面は平坦を意識する。貼り床を部分的に確認。掘り方は確認できない。ピットは5基検出。P1・3・4・5は配置と規模から主柱穴と考える。

炉：床面中央や北寄りに被熱面を検出。位置的に炉と判断した。被熱面の北側に棒状の炉石を1点検出した。被熱面は不整形形状を呈し、直径70cmほどを測る。

遺物：土器は埋土中より825g出土した。甕（1・3）の胴部上半はプラン南東隅で原形をとどめて出土した。1はS字口縁甕上半部、2はその台部である。4はヒサゴ壺の口縁部である。

第4章 総括

第1節 縄文時代中期の集落

今回の発掘調査では、天竜川右岸に立地する縄文時代中期集落跡を対象として、その居住域のほぼ全域を調査することができた。ここでは、縄文時代中期の遺構を時期別に区分し、変遷を追うことによって集落の構造や変貌の過程を概観する。

1 時期区分の手順（第11図・第10表）

新旧関係の把握 縄文時代中期集落の構造と変遷を捉えるにあたって、堅穴建物の居住時期の把握を第一歩とした。その手順は、①遺構の切合関係把握、②炉・柱にみる建替え状況把握、③炉・埋土の層位関係把握、④建物間の遺物接合関係の把握、からはじめた。同時に各々に伴う土器を観察し、既存の土器編年研究の成果と照合した。出土土器の中心は勝坂式土器であるため、土器型式区分の軸は「勝坂式土器の研究」（下総考古学研究会1985）とした。

例えば、SB26・SB25の新旧関係と各層位の出土土器は、SB26炉埋設および床面出土土器（勝坂Ⅱ式）→無遺物の埋土下層→埋土上層出土土器（勝坂Ⅲ式）→SB25炉埋設土器（勝坂Ⅴ式並行）→埋土（曾利Ⅰ式並行）となる。また、SB26埋土上層出土土器は、7軒以上の堅穴建物と接合関係が認められた。このうち、複数個体が接合したSB12・SB23については、ほぼ同時期に堅穴が埋まりかけ状態であったと推定した。これらの作業によって、SB25・SB26とその凹地利用を4期に区分し、SB12などとの並行関係の見通しを立てた。この方法を全堅穴建物跡について実施した（第11図）。

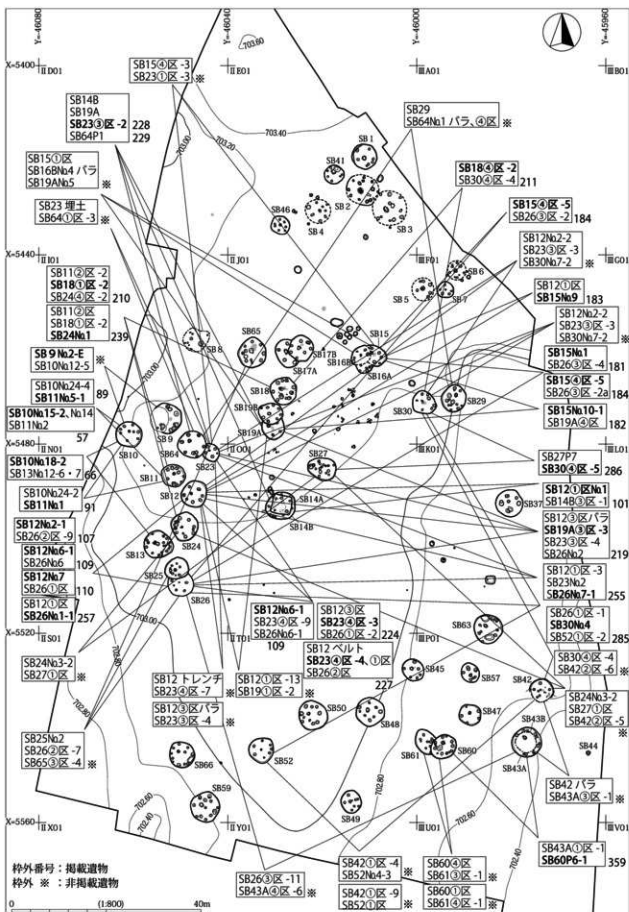
居住時に伴う土器の抽出 堅穴建物跡の凹地利用は長期にわたる場合（SB13ほか）があり、埋土中出土土器は居住時の時期判定には利用していない。SB26のように炉と埋土上層土器の時期差が明確な場合、堅穴建物使用時は炉を基準とした。炉埋設土器には時期差のある土器を合わせて使う例（SB16B：図版106-190・191）もあるが、この場合は新しい時期の土器（191）を基準とした。炉埋設土器がない場合は、床面出土土器や、堅穴解体時に埋めた可能性のある柱穴内の略定形土器などを参考とした。一方、この方法では炉に土器が伴う例の減る7期（勝坂Ⅴ式）以降、細別の精度を落とさざるを得なかった。

良好な伴出土器のない事例 土器の出土量が少ない例や、複数時期の土器が混在する例は、建物形態、特に炉の形態変遷を補助的に活用した。時間的な重なりはあるが、主流をなす炉形態は、埋甕炉→小形石囲炉→石囲埋甕炉→石囲炉→多角形石囲炉→長方形石囲炉→大形石囲炉の順となり、中部高地地域一帯と同様の変遷をたどっていることを根拠に参考とした。

9期区分 上記の手順で各堅穴建物を時期区分し、堅穴建物の存在していない縄文時代前期末～中期初頭を含め9期に区分した（第10表）。ただし、同じ時期とした中でも、堅穴建物の建て替え時期に直結する土器に関しては、前半・後半などの表記をその都度おこなった。

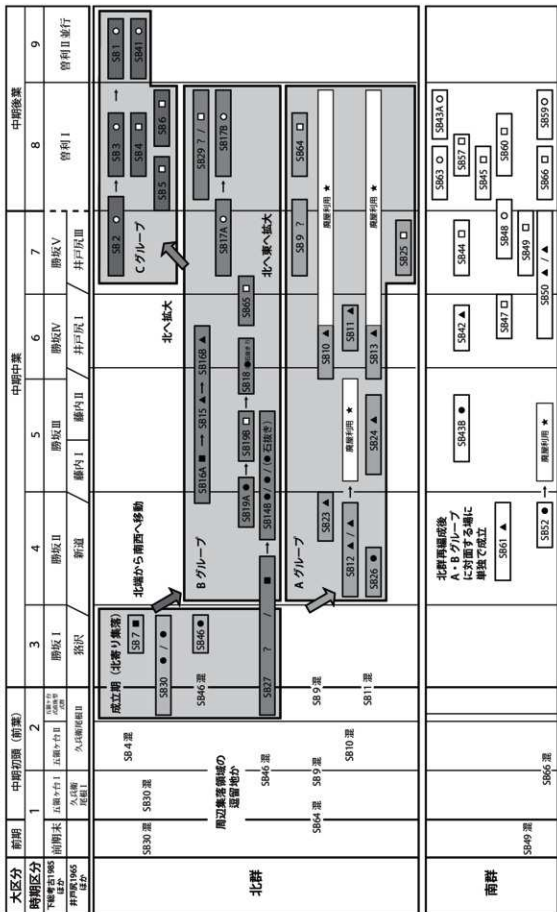
2 各時期の土器様相（第12図）

本遺跡で中期中葉土器の主体をなす勝坂式土器を基準に時期区分し、他系統の土器を検討した。ただし、中葉中頃からは橢形文土器の影響が色濃くなり、融合・変容する。さらに中葉末以降は、諏訪～松本平～上伊那の在地土器が主体となり、本場甲州方面の勝坂式～曾利式土器とは異なる変化をとげる。以



第11図 遺構間接合図

第10表 縄文中期集落 竈穴建物跡時期変遷



★ 竈跡利用、黒曜石とは異なる使用がみられる場合 / たなし、黒土中・灰土中・黒土中・灰土中

○ 石部群(10)
内径の長軸30～60cm以下
形状：方形・楕円形・多角形・その他

□ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

● 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

▲ 石部群(小)
内径の長軸60cm以上
形状：方形・楕円形・多角形・その他

下、各時期の特徴は図版指定のないかぎり第12図を参照していただきたい。

(1) 第1期・第2期(前期末～中期初頭)

同一個体の可能性を持つ集合沈線文系土器の細片(図版151-456-458)。五領ヶ台Ⅰ式の縄文系土器の細片(図版151-459)が見られる。中期初頭後半段階はごく少量だが、五領ヶ台Ⅱ式の縄文系土器片(図版151-462ほか)が認められる。また、縄文の上に角押文が施された五領ヶ台直後型土群の土器(図版117-262)が堅穴建物の炉に伴う。

(2) 第3期(勝坂Ⅰ式≒猪沢式～新道式一部段階)

勝坂式土器の特徴 主体は勝坂Ⅰ式土器である。縄文施文が激減し、隆線による横割区画が発達するが、体部下半には懸垂文の残る例がある。隆線脇や区画内には角押文が施され、一部で施文具がベン先状になる(図版124-321ほか)。縦割区画の例(非掲載)も認められる。全般に在地化の傾向が薄い段階である。図版124-325は、体部縄文で口縁部に一段の半楕円形+三角形区画文が巡る類型で、第3～4期の美濃・飛騨～越中方面に比較的多く見られる。今後、胎土分析を含めて検討が必要であろう。

平出第3類A土器ほか 天竜川流域と松本平南部・諏訪盆地ほかに広がる平出第3類A土器(第12図-284;以下平出3A土器と略す)が少量ながら着実に存在する。花崗岩系の岩片を含み器壁の薄い下伊那方面の特徴を持つ例(図版123-320)のほか、勝坂式の指頭圧痕文と合体した土器も存在する(非掲載)。

遠隔地の土器 東信の後沖式土器(図版77-19・20ほか)が多数出土している点に当集落の特徴がある。次いで東海系土器の細片(図版119-287など)がある。下伊那方面で変容したと見られる例も含まれるため「系」としておく。北陸の新崎式土器はSB46の細片1点(非掲載)にとどまった。新崎式土器はこの時期、松本平南部には比較的多く認められる。当遺跡での極端な少なさは、黒曜石などの流通ルートから外れる点と関係する可能性がある。このほか、時期は判然としないが、越後経由と考えられる東北系の燃糸側面圧痕文の施された土器(図版151-453)がある。

器種構成と用途 器種は、大小の深鉢形に加わる程度で、浅鉢形土器のすべてが勝坂式土器である。また、炉体(図版119-281)や屋外埋壘(図版149-445)への転用が認められる。

(3) 第4期(勝坂Ⅱ式≒新道式～藤内Ⅰ式一部段階)

勝坂式土器の特徴 主体は引き続き勝坂式土器である。縄文施文が一部で復活する。横割区画は楕円形・三角形に加え、半楕円形+三角形区画が復活し、体部下半まで整った区画が連なる。隆線脇には三角押文が施される。また、近隣地区(諏訪盆地～松本平南部～上伊那)で在地化したと見られる縄文地紋で、平出3A土器と共通する連鎖状隆線を用いる類型が見られる(図版87-92ほか)(寺内1990)。胎土の精選された本場の土器に加え、近隣地区か在地製作の例(第12図346など)が増える。

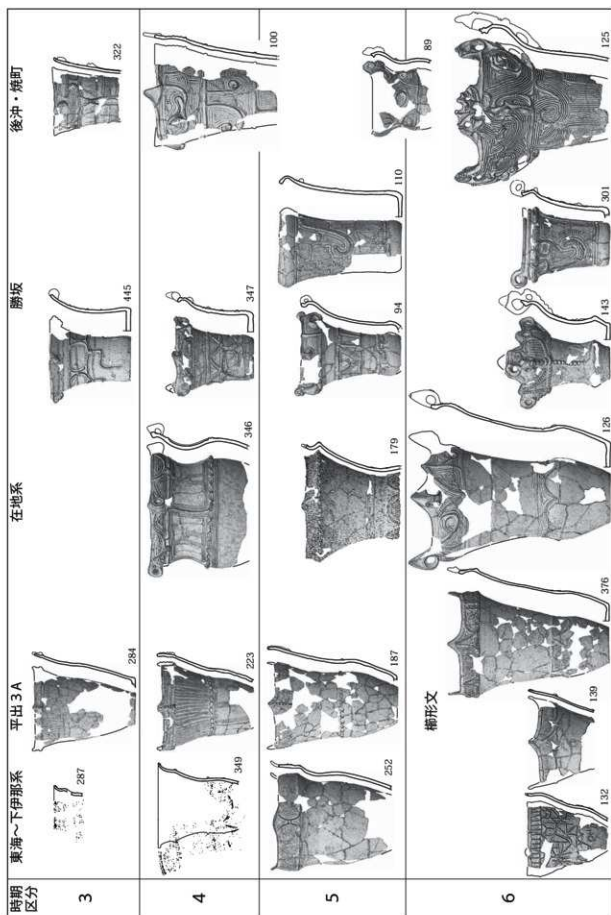
平出3A土器 一定量認められる。口縁部文様帯がやや広めとなり、施文が粗くなる傾向は見られるが、器形・装飾構成・施文手法は伝統を維持している(第12図-223)。

遠隔地の土器 後沖式土器の新しい段階の土器(図版117-268)や、焼町式土器古段階の土器(図版130-364)といった東信の土器は継続的に搬入される。東海系土器(図版128-349など)も確実に入り、炉に使われる例も認められる(図版109-213)。一方、北陸系土器の搬入は判然としない。ただし越後経由と考えられる東北の大木7b式土器(図版117-267)があり、日本海側との交流も細々と続く。

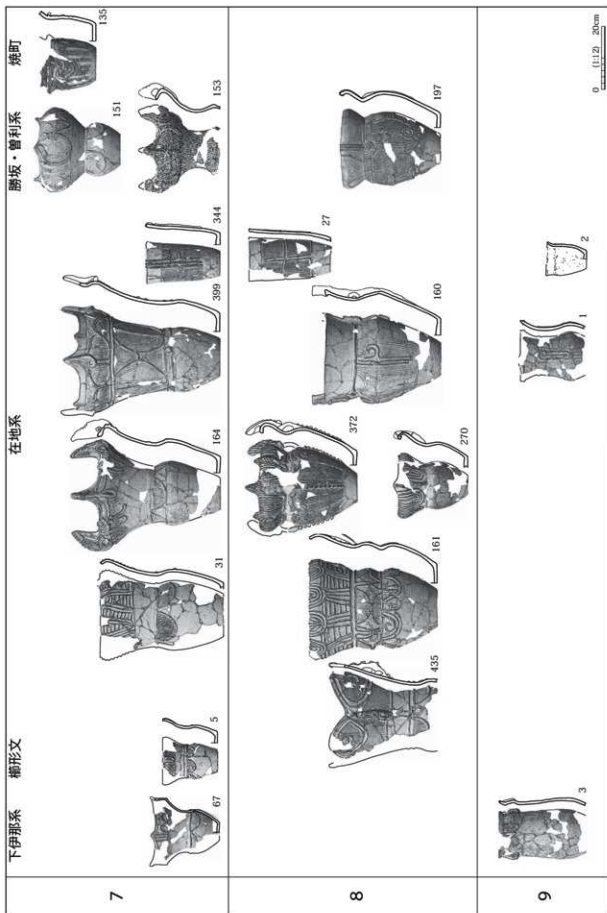
器種構成と用途 浅鉢形土器はすべて勝坂式土器である。転用では、体部が張る大形の深鉢形土器(図版87-92、第12図-346)が炉に使われる傾向が強まる。屋外埋壘は少なく、平出3A土器の例(図版148-442)のみである。

(4) 第5期(勝坂Ⅲ式≒藤内Ⅰ～Ⅱ式段階)

勝坂式土器の特徴 依然、勝坂式土器が主体を占める。横割区画の第12図-94、縦割区画の第12図-110



第12図 土器変遷概念図(1)



第12図 土器変遷概念図(2)

のように、しっかりとした区画、固定的な文様の配置が認められる段階である。この他、いわゆる抽象文の描かれた土器が増える（図版88-104）。ただし、諏訪～甲州方面で一般的な抽象ヘビ文（図版144-418ほか）は少ない。本場から情報が行き渡りながら脱落する類型も出てきている可能性がある。隆線上の刻みは部分的にとどまるが、縦割区画の土器では、隆線上を伏せた半截竹管で整形、連続刻みを施す例がある（図版108-202）。隆線脇の装飾は三角押文から幅広のキャタピラー文や爪形文、加えて波状沈線に変わる。一見して施文の甘い例が増える。今後、胎土分析などを通じて本場との違いを検証していく必要がある。

櫛形文土器ほか 前半段階には、文様帯が幅広く、施文手法があまくなるものの、伝統的な装飾の配置や施文具を踏襲する平出3A土器が残存する（第12図187）。一方、これと入れ替わるように、前時期の東海系土器（図版128-349）の影響を受けた土器（図版111-227）が下伊那方面から搬入される。227は平出3A土器と同様、灰褐色で器壁が薄く、胎土に花崗岩系の岩片を含む。

勝坂式土器と櫛形文土器の融合関係 後半頃から、櫛形文土器が勝坂式土器の在地化に影響を与え始める。SB15の炉体土器第12図-179は、器形や文様構成で櫛形文土器の影響を受け、一方、体部装飾には勝坂式土器の文様を転用して櫛形文風の装飾を配している。同じ堅穴建物跡から出土した勝坂式土器（図版105-183）にも、器形や体部装飾などに上記の土器との共通性がうかがえる。

遠隔地の土器 東信の焼町式土器古段階の土器の搬入が前半期まで続く（図版88-100）。小破片の中には焼町式新段階初期の土器も混じっていると考えられ、継続的に交流があったと考えられる。東海系土器では、第12図-252や、SB15炉内に入り込んでいた図版104-177があげられ、この時期も着実に搬入が認められる。また、さらに遠隔地である関西系土器（船元式）の細片が認められる（図版129-353ほか）。ただし、類似資料の認められる東海地域で製作されたか否かは、今後検討が必要である。

北信～新潟県上越地域の、胎土が軽く黄白色に近く、曲隆線文の施された土器片（図版116-259）がわずかに認められる。北陸の上山田・天神山式土器では、深鉢形土器（図版116-260）・浅鉢形土器（261）が認められる。

器種の多様化と用途 浅鉢形土器には勝坂式土器に北陸系がごくわずか加わる（261）。また、勝坂式土器では深鉢形の多様化が進むとともに台付深鉢形土器（図版116-255）が加わる。特殊な用途が想定される有孔罎付土器はすべて勝坂式土器の系統である。第3・4期に遡る例も含まれていそうだが、明確な伴出関係をおさえることができなかった。赤・黒に塗彩された例がほとんどで、漆利用が考えられる。ただし、当集落内からは漆容器やパレット関連の遺物はなく、有孔罎付土器も精選された優品が多いことから、搬入品が大半を占めるようである。廃屋の活用が認められるSB12からは、釣手土器（図版89-106）や双口土器（図版90-115）といった特殊な土器が出土している。

屋外埋甕に大型品が利用される傾向がうかがえる（図版134-387）。また、体部の張る土器が系統を問わず炉体土器に転用される（図版113-236ほか）。また、図版89-108など、強力な二次焼成を受けて劣化し、色調も変化した土器が現れ始める。通常の煮炊きではなく強い火力を必要とした儀礼に伴う可能性が高い。

（5）第6期（勝坂Ⅳ式～藤内Ⅱ式の一部～井戸尻Ⅰ式段階）

勝坂式土器の特徴 深鉢形土器には横割区画、縦割区画（第12図-301）ともに装飾の多様化が進む。また、把手が目立つようになり（図版82-53）、粘土塊や粘土紐を貼付して、器面に盛り上げていく手法が多くなる。把手・突起・隆線上を刻む例が増加する。一方、隆線脇の押し引き・突き刺し技法のキャタピラー文は一部で残存する程度となり、単沈線が主となる（図版91-124）。

櫛形文土器の影響がさらに強まり、櫛形文の採用だけでなく、器形・文様構成までを真似することが常

進化していく(図版86-85)。初期段階には、器形や突出する口唇部、従位沈線などに、見よう見まねの櫛形文をつけ、楕円形区画文などと融合させた類型(図版125-326)があり、松本平南部などと共通する。

また、諏訪湖盆・松本平南部・上伊那のエリアで比較的多く見られる地域色の強い類型に、尖頭状突起とそこから延びる「6」字状隆線の付く土器が、この時期から出現する(図版93-129)。

櫛形文土器 胎土に花崗岩系の岩片を含み器壁の薄い(第12図-139)例と、器壁は薄いままで隆線上に刻みのある眼鏡状突起が付く例など、勝坂式土器との相互影響が強まる(図版92-127)。さらに、勝坂式土器との融合度が高まった第12図-126があり、図上では兩型式の分離が難しくなる。

遠隔地の土器 東信地域の焼町式土器が最も多く搬入される。特に、前半段階では複数個体が認められる。体部下半に無文部を持つ(第12図-89)、あるいは三角形区画を持つ(図版81-51)など、焼町式の中でも勝坂式土器文化圏の指向(分帯・区画)を意識した土器が持ち込まれている。一方、第12図-125のように、本場で出土しても超一級品と考えられる優品が搬入される。北信～北陸系土器は、細片で時期特定ができない例もあるが、基本的にはあまり入って来なくなるようである。

器種構成と転用 浅鉢形土器や有孔罎付土器・釣手土器などの特殊器形は勝坂式土器に限定される。深鉢形土器の器形の多様性も勝坂式土器が主であり、櫛形文土器は、伝統的な器形を踏襲し、容量の大きさだけが異なる。転用では、炉に土器を埋設する例、屋外埋甕への利用が続く。

(6) 第7期(勝坂V式≒井戸尻Ⅲ式段階)

勝坂式土器の特徴 粘土塊や粘土紐を多用した立体的な造形が盛行する。器形も口唇部に突出する装飾を配置しやすく、目立つようにするため屈曲させた器形が発達する(図版98-152)。区画文は明確ではなくなり、横流れする例などが増加する。

勝坂式土器内でも胎土の違いが明確となり、典型的な勝坂式土器と在地で変容した勝坂式土器におおむね対応すると思われる。在地系の勝坂式土器には第12図-399や櫛形文土器と融合した土器(第12図-164)などがある。

櫛形文土器 下伊那系の櫛形文土器から在地、あるいは勝坂式土器でも櫛形文が採用され定着する。また、粘土紐を簡便な貼付手法で網目状などに貼り付けた新たな装飾の土器(第12図-31)が増加し、在地の主流となっていく。

遠隔地の土器 東海系では北屋敷式土器の細片が見られる(図版151-454)。一方、東信の焼町式土器は皆無となる。北信の土器では図版127-345の細片が、この時期か次の時期にあたる。北陸系土器も皆無となる。人的な交流は不明だが土器を介した交流は近隣の地域に限定されるようである。

器種構成と用途 これまでと同様、浅鉢形土器をはじめ、多様性のある器種・器形は勝坂式土器で賄われている。転用では、炉への埋設がほとんどなくなる。屋外埋甕への大形土器の利用は続く。

(7) 第8期 中期後葉Ⅰ期(曾利Ⅰ式段階)

在地土器の特徴 おおむね6期までは勝坂式土器が主体を占めてきたが、その後、多方面の土器の影響を受け、在地化した土器が増加する。中期後葉に入ると、曾利式土器よりも、主に諏訪湖盆～松本平～上伊那に広がるいわゆる梨久保B式土器、唐草文系土器と呼称される土器(かなり広域であるが、第12図では一括して在地系としてある)が主流を占めるようになる。その特徴は、第12図27、160、372、161、435といった個性的な類型の集合となる点である。個別装飾としては櫛形文やそれから派生した装飾、簡便な貼付手法の隆線、装飾性の高い把手、半截竹管による地紋の条線などである。隆線上の刻みはほとんどなくなり、隆線間に施される以外押引文もなくなる。

遠隔地の土器 東海系土器では、北屋敷式土器の模倣製作と見られる土器がある(図版131-374)。東信・北信・北陸系の土器は皆無となる。

器種構成 深鉢形～鉢形、筒形など多様性が認められる。特殊器形としては釣手土器や有孔罅付土器が伴うようである。屋外埋壘には引き続き大形の優品が使用される（図版138～402など）

(8) 第9期 中期後葉Ⅱ期（曾利Ⅱ式並行段階）

縦位の腕首文を持つ土器（第12図-1）や、下伊那系の土器（第12図-3）が出土している。

3 縄文中期集落の変遷

前節で設定した時期区分に沿って、集落の変遷と各期の特徴を概観する（第13～20図、第10表）。

(1) 集落進出の前段階 第1・2期（第13図）

中期初頭の活動領域 縄文中期集落には、移住前段階の活動痕跡を残している例がしばしば認められる。未開地に進出するよりも、状況を把握している領域内で分村・移転するためと考えられる。本遺跡では、ほ場整備事業が実施済みで、掘り込みの浅い遺構などが失われた可能性も考えられるものの、第1・2期（前期末～中期初頭）の土器が若干採取されている。前期後半以前に遡る資料がないことから、少なくとも前期末にはこの段丘上が離水し、逗留地などとして断続的に利用されていたと見られる。

周辺地区の集落適地と領域 近隣の天竜川右岸の地形・遺跡を俯瞰すると、本遺跡北側で天竜川に流入する北ノ沢川と、南側の桑沢川に区切られた南北・東西ともに約2kmの範囲に、扇状地・河岸段丘が広がる。この緩斜面と西側山地、東の天竜川を活動領域とした集団の存在が考えられる。集落は沢沿いや山麓・段丘崖の湧水点近くに営まれていたと想定される。『辰野町遺跡分布図』（辰野町教委2014）には、扇頂部付近の日影遺跡・三谷遺跡で中期初頭土器の記載がある。また、両遺跡周辺には縄文時代中期を通して複数の遺跡が確認されており、扇頂部付近が主要な居住地であったと考えられる。これらの集団の一部が本集落の開村に携わった可能性があろう。集落成立期の資料には、下伊那地域など遠隔地の資料が少なく、天竜川を上り下りして移動を繰り返す集団が拠点地を試みたとは考えにくい。

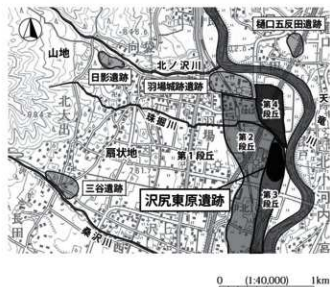
(2) 集落の成立 第3期直前～返す（第13・14図）

適地の選定 縄文時代の地形環境は明確でないが、北ノ沢川・珠掘川・桑沢川の旧河道やいくつかの網状流が天竜川に流れ込んでいたと想定される。古い航空写真や陰影起伏図（国土地理院Web版）などを参考にすると、本遺跡の北側や南側に流路跡の痕跡（時期不明）が認められる。また、遺跡北側は天竜川の旧河道に削割され急崖となる。第3期の集落が成立する場所は第3段丘の中でも高所であり、集落適地であったと思われる。

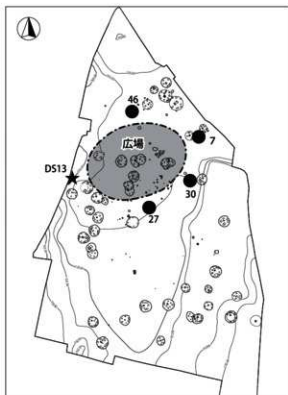
進出時期 最初の堅穴建物はSB27とSB30の2軒である。SB30旧炉体土器（図版119～280）・SB27炉内出土土器（図版117～262）は、中期中葉（第3期）直前の土器である。3期直前（五領ヶ台直後型式群）の堅穴建物跡には、第2期（中期初頭）末の土器が伴う例があるが、両堅穴とも皆無であることから、進出時期は3期に入ってからで、持ち込んだ最も古い土器を炉に埋設した可能性が高い。

初期集落の構造 進出直後、北側にやや離れた場所に小規模な堅穴建物（SB7とSB46）が新築される。4軒の間の空白域を広場と想定すると、広場を挟んで対面するように建物が配置されている。また、西側の第2段丘崖下に、墓か何らかの儀礼に伴って埋設されたと思われる屋外埋壘1個体（DS13：図版149～445）がある。これにより住居・広場・屋外埋壘土器といった集落の基本構造が成立する。

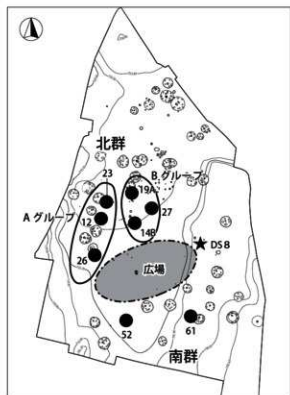
進出集団の推定 縄文時代中期中葉前半期は、中部高地全域で集落・堅穴数が増加に向かう時期である。当該地区においても、人口増加に伴って天竜川沿いの活動領域や交易拠点の掌握を確実にするため、扇頂部付近の集団が分村・移住した可能性が考えられよう。その場合、周辺の地形環境から類推すると、北ノ沢川流域集団の場合は、下流の羽場城跡遺跡（中期土器あり）付近の方が進出しやすかったであろう。本遺跡に近接する河川には珠掘川があり、その上流にいた集団の可能性が一つ。また、広大な扇状地を形成



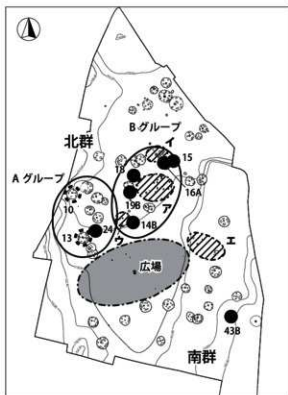
第13図 中期初頭における沢尻東原遺跡周辺の地形・遺跡



第14図 第3期集落



第15図 第4期集落



第16図 第5期集落

第14図～16図 凡例

- 竪穴建物跡
- ★ 屋外埋設土器

- 広場
- ⊙ 時期不確定竪穴建物

- ▨ 屋外埋壊・土坑群 (墓域)

第14図～16図
0 (1:2000) 40m

する桑沢川左岸の集団が勢力を高めていたとすれば、その領域内で最も黒曜石交易に有利な北東寄りの天竜川縁辺部に進出してきた可能性も考えられよう。いずれにせよ、対岸の樋口五反田遺跡や周辺遺跡群を望み、諏訪方面を意識できる場所に進出した可能性が高いと推測される。

次に出土土器から類推しておこう。SB30旧炉の埋設土器（図版119-280）は整形・施文・焼成ともにあまく、長距離を持ち運んだとは考えにくいものである。SB27炉内出土土器（図版117-262）も、胎土に天竜川流域に多い白色岩片が認められ、遠方から持ち込まれた土器ではなさそうである。これらの点から、進出集団の故地は、比較的近い場所だったと推定できよう。各竪穴の埋土出土土器をみると、典型的な勝坂I式土器（SB7：図版76-16、SB46：図版124-321ほか）が多く、屋外埋設土器も勝坂I式土器（図版149-445）である。こうした点は、諏訪方面との結び付きが強い集団であったと想像できる。

黒曜石交易 もう一つの特徴として、黒曜石原産地を越えた東信地域の土器（後沖式土器）が多い点がある（SB7の図版77-19・20、SB46の図版124-322ほか）。このことは、黒曜石原産地を掌握している集団との交流が盛んであったことを示している。本地点への進出理由は、日々の生業を支える地域の占有とともに、黒曜石交易の拠点としての役割が大きかったことをうかがわせる。

黒曜石原産地へのルートには、①天竜川ルート、②有賀峠ルート、③その他が想定される。いずれのルートでも諏訪湖盆地地域の集落へは、現道を使っても15km程度である。後沖式土器や後続の焼町式土器の分布状況を見ると、有賀峠を下った先の諏訪市荒神山遺跡や岡谷市花上寺遺跡の報告資料よりも、天竜川沿いの岡谷市広畑遺跡・志平遺跡などの方が、出土点数の割合が高い傾向がうかがえる。このことから、主要ルートは天竜川ルートだったと考えられる。

（3）集落の再編成および定着 第4期（第15図）

南側隣接地への移転と北群の成立 第4期には集落経営が軌道に乗り、当初の平場では手狭になったためか、最も北寄りの2軒周辺には竪穴建物が新築されなくなる。代わって南側にSB26、そしてSB12が新築される（以後継続するAグループ）。一方、SB27は建て替え（新炉：石囲）し継続使用され、新たにSB14Bが建てられる（Bグループ）。各々2軒ずつが併存していた可能性が推測できる。これによって、集落の中心が南に移ることになる。以後第8期（中期後葉I期）まで、この2グループの範囲内に竪穴建物が継続的に建てられていく。この竪穴建物群をまとめて北群と呼称しておく。

第4期の後半、AグループではSB12の炉が改装され、SB23が新築され、SB26は廃絶に向かう。BグループではSB14Bの炉が改装される一方、SB27は廃絶されSB19Aが新築される。主要なA・B2グループが各々2軒程度で維持・定着したことを示している。

南群の新設と集落の大規模化 上記の集落占地変化とは別に、北群の南約50m離れた場所にSB61、続いてSB52の2軒が新築される（南群）。SB52はAグループ、SB61はBグループと広場を挟んで対面する。このパターンは、前時期にSB27・SB30と広場を挟んで対面するSB46・SB7の位置関係と類似する。広場を挟んで、各グループに対面する場に竪穴が新築するパターンは第8期まで継承される。

また、平出3A土器を使った屋外埋設土器が集落の東端に設置される。前時期に集落西端に埋設された勝坂式土器に対し、量比では2番目にあたる平出3A土器を埋設しており興味深い。これにより居住施設の北群と南群、その間の広場といった集落構造が確定し、第8期（中期後葉I期）まで続くこととなる。

北側段丘崖に近く手狭だった第3期集落に比べ、東西方向に広大なスペースを確保することができ、集落が発展段階に入る。この後、南群は比較的広いスペースに竪穴建物・屋外埋設物が散在する傾向が続く。竪穴建物や屋外埋設物の位置が固定的な北群とは大きな違いを示すこととなる。南群は全時期を通して北群集団に比べて結集度の緩い、北群の補完的な立場だった可能性もあろう。

炉体土器と集団関係 本集落では、竪穴建物の主要施設である炉、そこに特定型式の土器を埋設する傾向

がうかがえ、緩いながらも集団関係を示唆する可能性を持っている。この時期ではSB26（Aグループ）の埋壺が勝坂Ⅱ式土器（図版115-249）である。勝坂式土器のつながりでいくと、前時期に勝坂Ⅰ式土器を炉に使っていたのがSB30であり、SB30がSB26へ移転したことが想定される。そしてこの後、第6期前半までAグループでは勝坂式土器とその系統の土器を炉に使用し続ける。勝坂式土器を指標とする出自の人びとがAグループを形成していった可能性があろう。一方、Bグループでは、勝坂式土器とともに平出3A土器と後続の櫛形文土器、東海系の土器などを使っており、勝坂式土器への固執は認められない。

北群と南群の竪穴建物との関係を見ると、AグループのSB12と南群SB52で類似した器形・文様構成・大きさの勝坂Ⅱ式土器（図版87-92・図版128-346）を炉に使っている。勝坂式土器の中でも諏訪以西の地域色のある類型（寺内1990）で数に限られる。このことは居住者間の近い関係を示している可能性があろう。時間的にはSB12が古くSB52が新しい。南群に新築した人々は遠隔地からの新参者というよりは、北群から独立した親族であった可能性があろう。土器の系統と住人の出自との相関関係については慎重な議論が必要であるが、本集落では一定の傾向をうかがうことができ今後の検討に寄与できる資料となる。

墓・墓域の問題 当集落で世代を重ねることによって死者の発生が想定される。しかし、居住域そばの墓域は不明確である。第3期のDS13、第4期のDS8などの埋設土器が墓であった可能性もあるが、DS13周辺で土器埋設は継承されない。一方DS8周辺では5期以降も断続的に土器が埋設される。土器を伴わない墓坑、廃屋への埋葬が始まっていたかについては明確な証拠はない。

（4）グループ別墓域の形成 第5期（第16図）

集落構造の継承とグループ間の差異 北群の2グループと、竪穴建物が散在する南群という当集落の基本構造が定着・継承される。各グループとも2軒程度（Aグループは、炉と埋土中土器に時期差があるため1軒となっているが、第4期の竪穴が5期前半まで存続していた可能性がある）で推移すると見られる。炉の構造は石囲埋壺が主流となる。

Bグループの竪穴建物や炉には重複関係が多い。炉の改装が繰り返されるSB14B、SB18と19A・B、新築のSB16AとSB15など、ほぼ同じ場所で改装・改築が繰り返されたようである。一方、Aグループは、廃絶したSB12・SB26とは重ならない場所にSB24が新築される。後半段階にSB10とSB13が成立していた（柱穴内出土土器から）とすると、前半まで継承していた可能性のあるSB23とも重複はしない。

炉に埋設された土器を見ると、前時期と同様、Aグループでは勝坂系の土器（SB24）、Bグループでは勝坂系+平出3A系（SB14B・SB16）や勝坂系+下伊那系の土器（SB5）の混在パターンが続く。

墓としての屋外埋壺群 この時期、各グループの竪穴建所に近接した場所に屋外埋壺・土坑の設置が明確になってくる。SK42埋設土器（図版134-387）からは、未焼の骨（ヒトか否かの判定も難しい細片）が確認されており、墓の可能性はある。ただし、屋外埋壺を成人の墓と想定した場合、死後すぐに全身を土器棺に埋納できる大きさではなく、未焼成骨とすれば、風葬などによって白骨・細片化させる段階が必須となる。現状では、その場を特定できる資料は得られていない。一方、乳幼児限定の埋葬方法とする証拠も得られていない。当集落では、埋葬可能な規模の土坑が少なかったこともあり、今後の検討課題である。現時点では屋外埋壺を墓と想定しておく。

墓域の設定 居住域の内（広場）側に祖先との繋がりを示す墓・祭祀域が明確になるのは、この時期以降である。屋外埋壺・土坑の分布は、竪穴建物単位かグループ単位に墓域が設定されていたことをうかがわせる。北群では第8期まで連絡と各グループの隣接地に屋外埋壺の設置が続き墓域を形成する。例えば、Bグループでは竪穴建物に取り囲まれるように広場側に1ヶ所（第16図ア）。北側に1ヶ所（イ）である。Aグループは竪穴群の南東、広場寄りに1ヶ所（ウ）設定される。設置数はBグループの（ア）が最

も多く、Aグループは少ない。南群では北寄りに数は少ないが小さなまとまり（エ）が認められる。

堅穴建物跡凹地の利用（Aグループ） 堅穴が重複しないAグループと、重複を基本とするBグループの違いは屋外埋壘の設置数（A<B）と関連しそうである。Aグループは、第4期の炉に対して間層を挟んだ埋土から第5期の略完形の土器が出土（SB12・SB26ほか）する傾向が認められる。特にSB12埋土下層で出土した壁際の巨石や倒置土器（図版87-95）に象徴されるように、堅穴建物跡の凹地を何らかの理由で利用し始めたと考えられる。これに対して、Bグループでは凹地利用の痕跡は不明確である。この傾向は第8期まで継承される。Aグループでは、屋外埋壘が少ない代わりにSB10・SB13の堅穴建物跡の凹地に正置・倒置土器などが設置され続ける。Aグループでは、屋外埋壘の代わりに、廃屋墓あるいはそれに伴う儀礼の場として堅穴建物跡の凹地が利用され続けたと見られる。

（5）集落構造の継承 第6期（第17図）

継承される集落構造 堅穴建物や墓のあり方は前時期を踏襲する。Aグループでは、SB13に続きSB10とSB11が建てられる。Bグループでは、SB16Bが該当し、SB18が柱穴内出土土器（図版108-206）からこの時期まで継続使用されていたと見られる。また、居住停止時に埋納された可能性のある土器（図版131-376）から、後半段階にはSB65が建てていた可能性がある。両グループとも2～3軒で推移したと見られる。南群ではBグループに対面する側にSB42・SB47が、やや遅れてAグループに対面する場にSB50が加わる。北群のA・Bグループと堅穴が散在する南群といった基本的な構成は前代を引き継いでいる。

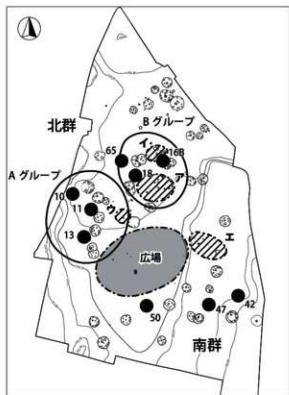
炉の変化 Aグループでは、炉に勝坂式土器の使用を踏襲している。ただし、SB11では在地系櫛形文土器の優品を使用しており、新たな傾向を示している。この時期は、下伊那経由で櫛形文土器の影響が増す時期であり、そうした社会状況を反映した可能性があろう。BグループのSB65では石が抜かれており明確ではないが、石囲炉へ変貌を遂げていた可能性がある。南群ではSB50に加え、集落西端のSB42も勝坂式土器を埋設しており、SB47がBグループと同様に石囲炉を採用している。

死者・祖先への対処の2極化 堅穴建物跡の凹地利用（Aグループ）と屋外埋壘主体（Bグループ）の差異が鮮明となってくる。Aグループでは、広場側に屋外埋壘数が少なく（ウ）、SB10・SB13の廃屋を活用する方向が鮮明となる。例えば、SB13床面近くで倒置され、口縁部の一部を欠いた土器（図版91-124）の在り方（PL47）は、千葉県秋山向山遺跡の頭部に深鉢形土器を被せた埋葬人骨の例ほか（西野2019）と類似する。SB13やSB10では、半割されて倒置・正置された土器（SB13：図版92-127 第6期ほか）が、第8期まで継続的に認められ、廃屋となった凹地が墓などに利用され続けていた可能性を示唆している。さらに、完形に近い土器が複数個体並べて横たわる（SB13：図版94-134・136 第7期）例、強い火力で焼成を受けた完形の鉢が正位で置かれている（SB13：図版99-154 第8期）例など、祭祀的な行為も継続的に行われていたことをうかがわせる。これに対してBグループでは、SB65床面に土坑が掘られるなどの例はあるが、墓（屋外埋壘）は堅穴建物周囲のア・イを踏襲している。特に堅穴群（凹地を含め）に取り囲まれる広場側が主な場となっている（ア）。南群では、堅穴群（凹地を含め）の北東端に屋外埋壘（エ）が若干認められる程度で、埋設された土器の量は少ない。

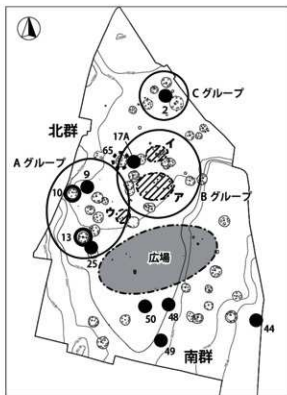
屋外埋壘群周辺での行為 Aグループの屋外埋壘群（ウ）に伴う土器（図版133-385・386）を埋設した土坑の上面に焼土跡が存在する（図版67：SF3）。埋葬後に火を伴う何らかの行為が行われたことを示している。このように埋葬直後や後々の儀礼的な行為は、廃屋だけでなく屋外埋壘群の場でも行われていたようである。

（6）集落構造の変容期 第7期（第18図）

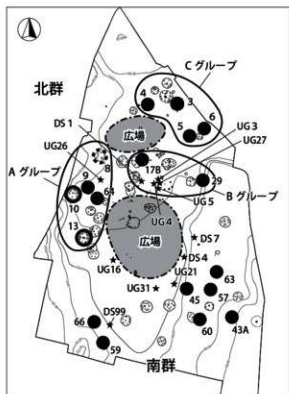
拡散し始める堅穴建物 第7・8期に関しては炉に土器を埋設する例が激減し、埋土中の土器を参考とせざるを得なかった。そのため、居住時期の限定が難しかった。大きくは北群のA・Bグループと堅穴建物



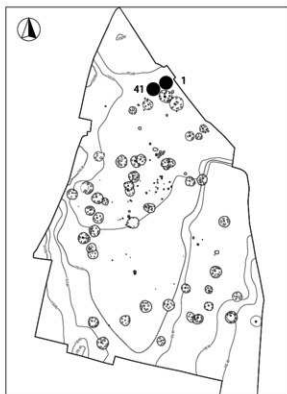
第17図 第6期集落



第18図 第7期集落



第19図 第8期集落



第20図 第9期集落

第17図～20図 凡例

● 竪穴建物跡
★ 屋外埋設土器

● 広場
○ 時期不確定竪穴建物

▨ 屋外埋塵・土坑群 (墓域)
○ 晩屋基

0 (1:2000) 40m

が散在する南群の構造は維持され続けていたようである。ただし、後半には調査区北端にSB2が新築され新たにCグループを形成する先駆けとなる。南群では東端にSB44が新たに建てられ、集落全体で堅穴建物が拡散する傾向がうかがえる。

廃屋利用と屋外埋葬設置の継承 AグループSB10・13の凹地は、倒置や横倒しとなった状態の土器や、大量の土器片投棄（SB10：PL4、SB13：PL7）が継続する。屋外埋葬群には埋設土器が大形化する傾向が顕著となる。

(7) 集落構造の拡大・改変期 第8期（第19図）

集落域の拡大 堅穴建物の新築場所が外側へ広がる時期である。第4期から続く北群（A・Bグループ）とそれに対峙する南群の堅穴建物に加え、北側屋近くに堅穴建物が定着する（Cグループ）。急速に人口が増加したように見えるが、SB5とSB6の近接具合などから少なくとも2時期には分けられそうである。また、既存の北群内では、AグループではSB8が北外れに、BグループではSB29が東外れに建てられる。長期に渡って使い続けてきた場の損耗に伴い、新たな場への展開を始めた可能性があろう。

南群はこれまで堅穴建物軒数が少なくグループ分けをしなかったが、4期以降続く、Aグループに対面する一群（SB59ほか）とBグループに対面する一群（SB43Aほか）の関係が明瞭になる。

集落構造の改変 第9期以降、集落が消滅してしまうため、あらたに模索を始めた集落構造のプランは不明であるが、可能性としては、① 屋外埋葬が従来の広場を囲むように点在することから、A・Bグループと対峙する2グループで大きめの環状集落を形成し、CグループをBグループの拡大ととらえる。② Cグループを独立グループと考え、A・Bグループとの間に小広場を新設する、いわゆる双環状集落に発展させるプランである。ただし、Cグループに関しては屋外埋葬などの施設が不明確（ほ場整備による削平が深い地区でもあるが）であり、居住者と死者・祖先を繋ぐ縄文集落の完成を見ないまま衰退消滅、あるいは転居した可能性がある。

長方形炉の導入 堅穴の施設をみると、多角形の石囲炉と、長方形の石囲炉が併存する。特定グループにまとまることはなく、北日本からの影響と想定される長方形炉の意味するところは不明である。また、出土土器を見る限り、北からの影響は顕著ではない。

墓域の継承 Aグループでは、少数の屋外埋葬のほかSB10・SB13の凹地利用が継承される。Bグループでも全時期に屋外埋葬が集中する場（第18図ア）が踏襲される。一方、南群では広場を囲むように屋外埋葬が点在する傾向に変化する。

(8) 集落の解体期 第9期（第20図）

集落の縮小 集落北端の位置に2軒だけが残る。第8期まで継続的に営まれてきた集落（北群+南群）の域内からは遺構・遺物ともになくなる。前時期、第8期（中期後葉1期）に行われた集落の拡大・再編が上手くいかず、別の場所に集落ごと移転したか、急速に衰退したかは不明である。

集落が移転した場合 移転を想定すると、隣接地では北側の一段低い第2段丘にある小宮（旧橋爪）遺跡から曾利土器が採取されており、本遺跡から落下した土器でなければ、移転先候補の一つと考えられる。今後、この旧河道の離水時期などとともに検討する必要がある。あるいは、西側山麓の扇頂部の故地に戻ったことも考えられよう。

第2節 自然科学分析

沢尻東原遺跡出土石皿・台石類の残存デンプン粒分析および年代測定、炭素・窒素安定同位体比分析

上條信彦（弘前大学人文社会科学部）

米田 穰・尾碕大真（東京大学 総合研究博物館 放射性炭素年代測定室）

1 分析の目的

長野県辰野町に所在する沢尻東原遺跡で縄文時代中期中葉を中心とする集落が検出された。本節では、遺構内から出土した石皿付着黒色物および残存デンプン粒分析を試みる。残存デンプン粒分析は、主に先史時代の礫石器や土器付着物で実施され、その有効性が確認されてきている。また石臼や杵・臼など民具でもデンプンの残存が確認されており、同用途の出土品からデンプンが検出される可能性が高い。中部高地の石皿には安山岩や砂岩といった多孔質の石材が用いられるため、その表面には凹凸があり、そこにデンプン粒が滞留しやすい。また狭義の石皿の場合、凹部が作り出され、さらに使用によって径15cmほどの磨耗痕が観察されることから、軟らかな対象物をつぶして微粉化するような加工が推定される（上條2015）。よって、付着物の自然科学的分析によって、加工対象物が分かれば、縄文時代の食料事情や食文化について知ることにも繋がる。また併せて年代測定を行うことで、加工対象物とは異なる木炭の付着可能性を検討できるとともに、これまで土器から間接的にやってきた石器の年代推定を、石器自体から直接、実施することができ、遺構内一括遺物を総合的に評価することにも繋がる。

なお、付着黒色物の年代測定および炭素・窒素安定同位体比分析は米田と尾碕が実施し、それ以外の残存デンプン粒分析と付着黒色物の観察と採取、黒色物の由来の検討、まとめは上條が担当した。

2 残存デンプン粒分析

a 残存デンプン粒分析の対象資料

対象は石皿・台石類32点である。このうち凹面を作り出す狭義の石皿は18点、自然礫をそのまま使用した台石は14点である。主にSB出土である。埋没土壌は礫を含むロームである。洗浄後ビニル袋に入れられ室内で保管されていた。

b 残存デンプン粒分析の方法

日本ではマイクロピペットを用いた方法が多用されている（渋谷ほか2006）。本分析でも器材の携帯性と、将来的な検証の可能性を考慮し、薬品類の使用を控え簡便な本方法を採用する。具体的には以下のとおりである。

① サンプルの採取

サンプルは、石皿凹面もしくは上面中央1ヶ所から採取する。また、混入を確認するため、破断面からも採取する。拡大観察した際に見られる細かな凹みや礫孔の奥から採取する。採取箇所は第21図に示す。また汚染の影響を考慮するため、破損品は割れ面からも採取する。マイクロピペットにチップをはめ込み、精製水を吸入し、採取する対象に注入する。洗浄しながらサンプル（20μl分）を吸引する。作業は調査後のデンプンの消失を避けるため、遺物洗浄後時間を経っていない2020年に実施した。

② プレパラートの作成と観察

遠心後（1500rpm・1分）、サンプル8μlを水性封入剤（アクアテックス）で封入する。偏光・位相差

顕微鏡（オリンパスBX50-P）を用い総合倍率200～400倍で観察する。偏光顕微鏡は、直交・開放ニコルで観察する。なお、観察の際にはデンプンの形状、大きさ、偏光十字の入り方、形成核の位置、層紋の有無を検討する。

③ デンプン粒の同定

同定は②のデータに基づき、現生の食用植物デンプン標本のなかから比較する。同定の際には、遺跡の環境や時期、人による利用が推定されている植物の中から、類似性の高い植物を候補として挙げる。なお候補は、現時点（2022年）で収集したデータであり、今後変更される可能性がある。

c 各資料の形態・使用痕観察、残存デンプン粒分析の結果と候補植物

デンプンを検出した資料を第21図に示した。石皿18点中1点、台石14点中3点より少なくとも34粒のデンプンを検出した（第22図）。全て石皿凹面あるいは台石上面から検出され、破断面からは検出されなかった。石材別にみると、砂岩・安山岩では検出できたが、石皿に多用される閃緑岩は風化が進んでいたため、検出できなかった。石皿と台石の違いによる検出率の差は、主にこの石材差に起因する。以下、デンプンが検出された各石器の形態・使用痕と検出デンプン粒の特徴を述べる。

SB1床面台石No.4（第21図-1） 復元径30cm以上の円形の大形品で断面が盛り上がる。上面の広い範囲が磨耗し、磨耗痕と自然礫面の境界は不明瞭である。結晶が平滑になるが、結晶の脱落や基質の損耗も観察されるため、磨耗面は平滑度が弱く光沢面や線状痕はない。上條（2015）のI凸b類に該当する。上面中央からサンプルを採取して分析した結果、30粒以上のデンプンを検出した（第22図-1）。デンプンは1ヶ所にまとまり、塊状をなす。全て楕円率0.7以上を短楕円形、0.9以上を円形とする。短楕円形は、長径8.0～13.0 μm と、長径1.0～7.0 μm の2つにまとまる。また円形の一群は長径1.0～5.0 μm の範囲にある。よって、長径8.0～13.0 μm の短楕円形をA類、長径1.0～6.0 μm の短楕円形をB類、長径1.0～5.0 μm の円形をC類とする。直交ニコルでA類は層紋が明瞭で、偏光十字がX字状に交差する。同じくB類も偏光十字がX字状に交差する。開放ニコルでB類とC類には形成核位置に空洞が見られる例がある。

SB14B床面石皿No.56（第21図-2） 復元長径約30cm、短径約20cmの楕円形で断面が盛り上がる。上面の径10cmの範囲が磨耗し、灰色に変色する。結晶が平滑になるが、結晶の脱落や基質の損耗も観察されるため、磨耗面は平滑度が弱く光沢面や線状痕はない（第21図-2磨耗痕）。上條（2015）のI凸a類に該当する。上面中央からサンプルを採取して分析した結果、1粒のデンプンを検出した（第22図-2）。デンプンは長径6.7 μm の短楕円形である。偏光十字がX字状に交差する。上記分類のB類に該当する。

SB61埋土石皿No.166（第21図-3） 復元長径約30cm、短径約20cmの楕円形で凹部と掃き出し口を作り出す。凹部は幅12cmほど、掃き出し口から奥に向かって深くなる。上條（2015）のIIc類に該当する。黒色物が付着する。凹部の深さは残存部で3cmである。凹部は掃き出し口から10cm奥の最も深い場所を中心に顕著に磨耗し、灰色に変色する（第21図-3凹面磨耗痕）。磨耗面は結晶と基質が平滑になる。平滑度も強く平滑になった高所には光沢面を伴う。また、長軸方向に5mmほどの短い線状痕が複数認められる。線状痕はその内部が丸みを帯びる。凹部底面からサンプルを採取して分析した結果、2粒のデンプンを検出した（第22図-3・4）。いずれも長径10cmほどの円形である。上記分類には該当するものがないためD類とする。偏光十字が十字状に交差する。形成核位置に空洞が見られる。

3区遺構外石皿No.220（第21図-4：PL123-220） 復元長径約30cm、短径約20cmの楕円形で断面は平坦である。上面の径10cmの範囲が磨耗する。結晶が平滑になるが、結晶の脱落や基質の損耗も観察されるため、磨耗面は平滑度が弱く光沢面や線状痕はない。上條（2015）のI平a類に該当する。上面中央からサンプルを採取して分析した結果、1粒のデンプンを検出した（第22図-5）。デンプンは長径4.8 μm の短楕円形である。偏光十字がX字状に交差する。上記分類のB類に該当する。



1 SB1 No4 床面 台石 安山岩 (図版7・PL113-4)



2 SB14B No56 床面 石皿 砂岩 (図版25・PL115-56)



2 磨耗面



3 SB61 No166 埋土 石皿 安山岩 (PL120-166)



3 凹面磨耗痕



4 3区遺構外 No220 石皿 安山岩 (PL123-220)

● デンプン粒分析
サンプル採取箇所



3 凹面磨耗痕

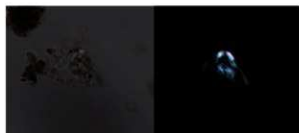


3 掃き出し口 黒色物付着状況および採取サンプル

第21図 沢尻東原遺跡出土デンプン検出礫石器



1 SB01 No.4 床面 台石



2 SB14B No.56 床面 石皿



3 SB61 No.166 埋土 石皿



4 SB61 No.166 埋土 石皿



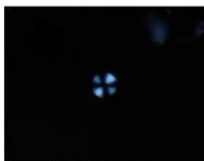
5 3区遺構外 No.220 石皿



コナラ *Quercus serrata*



イヌタデ *Persicaria longiseta*



ヤマユリ *Lilium auratum*



ツルボ *Barnardia japonica*

20 μm

第22図 沢尻東原遺跡出土礫石器検出デンプンおよび比較標本

第11表 観察資料と検出デンプン粒

デンプン 写真番号	植物名	出土 層位	観察 時期	植物群 分類番号	植物	観察場所	形状	長径 μm	短径 μm	厚さ μm	環状 十字	環状 十字	デンプン 分析	備考
								11.0	8.6	中径	X	○	A	
								8.5	7.8	中径	X	○	A	
								11.0	8.6	中径	X	○	A	
								12.0	10.0	中径	X	○	A	
								12.0	11.0	中径	X	○	A	
								8.0	6.8	中径	X	○	A	
								11.0	8.1	中径	X	○	A	
								5.9	4.9	中径	X		B	中径分類
								4.8	3.4	中径	X		B	中径分類
								4.7	4.0	中径	X		B	中径分類, 互
								4.3	4.8	中径	X		B	中径分類
								3.5	2.9	中径	X		B	中径分類
								1.6	1.4	中径	X		B	中径分類
								2.5	1.9	中径	X		B	
								2.2	1.9	中径	X		B	
								2.2	2.6	中径	X		B	
								2.2	2.6	中径	X		B	
								4.7	4.1	中径	X		B	中径分類
								3.1	2.5	中径	X		B	
								2.6	2.2	中径	X		B	中径分類
								2.5	1.9	中径	X		B	
								1.6	1.6	中径	X		B	
								2.5	2.5	中径	+		C	中径分類
								4.2	3.9	中径	+		C	中径分類
								1.4	1.4	中径	+		C	
								2.5	2.5	中径	+		C	
								2.2	2.2	中径	+		C	
								3.1	3.0	中径	+		C	中径分類
								2.1	2.0	中径	+		C	
								1.4	1.3	中径	+		C	
第2209号 20114B	沢尻	中層	中層中葉 土層					4.7	4.8	中径	X		B	
第2210号 SB61	埋土	新石器時代 後行期	1400	中層中葉 貝塚内				10.0	8.3	中径	+	○	D	中径分類
第2211号								11.8	11.7	中径	+		D	中径分類
第2212号 30C	遺構内	中層	2200	中層中葉 土層中央				4.8	3.6	中径	X		B	

や塊根の敲打といった軟物質の敲砕が推定される。また石皿もⅡC類に共通される痕跡が確認できたことから、軟物質の微粉化といった作業が推定される。

3 年代測定、炭素・窒素安定同位体比分析

a 年代測定、炭素・窒素安定同位体比分析の対象資料

対象となる石皿付着黒色物はSB61埋土出土（第21図-3）である。安山岩製で石皿前面側の掃き出し口部分の破片である。残存デンプン粒分析用サンプル採取の際、石器表面を覆うようにこびりついた黒色物を見出した。第21図-3をみると、黒色付着物は凹部の縁辺から掃き出し口の方に広がり、磨耗痕が顕著な凹面底面や裏面、破断面には拡がらない。特に掃き出し口前方から右側縁にコゲ状のこびりつきがあった（第21図-3右下）。このように黒色付着物の質やその付着範囲は、焼失住居跡の中にある石皿のような木炭などとの接触を示す付着状況とは異なることから、使用時の加工対象物が付着、炭化したものと推定し、その成分分析を試みることにした。試料は、針を用いてガラス製スクリーナーにある量を採取し（第21図-3右下）、分析を依頼した。

第12表 分析資料

資料名	資料ID	種別	注記
#1 沢尻東原遺跡	S-21804	SB61埋土石皿付着炭化物	

b 前処理方法

(1) 酸アルカリ酸処理 (de Vries & Barendsen 1954)

- ① 表面から異物を除去して、純水中で超音波洗浄
- ② 塩酸 1.2M 80℃ 17時間

以上、石皿・台石類からは主に4つに分類できる複数種のデンプンが検出された。このうち、石皿からはD類のみが検出された。台石からはB類が共通し、A～C類が塊状になった例が観察された。候補となる植物としては、A類はコナラ属、B類はイヌステマ属のほか、コナラ属の中にも含まれる。C類は複数種あり同定が難しい。D類はツルボや、クルマユリなどの小型のユリ属が挙げられる。ツルボとユリ属は、鱗茎にデンプンを多く含み、民俗例では、水によくさらしてアク抜きをした後、煮たり粉を餅にして食べたりする。第22図-1のA～C類が塊状になった例については、A類とB類の大きさに不連続があるため、複数の植物デンプンが混在している可能性が高い。使用痕については、台石は殻剥き

- ③ 水酸化ナトリウム 濃度、温度、時間は第13表アルカリ処理欄参照
 ④ 塩酸 1.2M 80℃ 16時間
 ⑤ 中性化：純水
 ⑥ 乾燥>秤量

c 前処理結果

(1) AAA処理結果

第13表 前処理の結果

資料名	前処理ID	処理前試料	処理後試料	回収率	アルカリ処理
# 1_ 沢尻東原遺跡	PAA-4366	43.05mg	32.94mg	76.5%	80℃ 0.001M 30分

d EA-IRMS測定結果

炭素および窒素の重量含有率および安定同位体比の測定は、放射性炭素年代測定室において、Thermo Fisher Scientifics社製のFlash2000元素分析を前処理装置として、ConFlo IVインターフェースを経由して、Delta V安定同位体比質量分析装置で測定する、EA-IRMS装置を用いて行った。約0.5mgの精製試料を錫箔に包み取り、測定に供した。測定誤差は、同位体比が値付けされている二次標準物質（アラニン等）を試料と同時に測定することで標準偏差を計算した。通常の測定では、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定誤差は0.2%、 $\delta^{15}\text{N}$ の誤差は0.2%である。

第14表 元素および安定同位体比の分析結果

資料名	測定ID	$\delta^{13}\text{C}$	$\delta^{15}\text{N}$	炭素濃度	窒素濃度	C/N比
# 1_ 沢尻東原遺跡	YL46615	-25.1‰	2.7‰	35.6%	2.0%	20.3

e 炭素精製およびグラファイト化

試料は、銀カップに秤量し、elementar社製vario ISOTOPE SELECT元素分析計に導入し、燃焼後、精製された二酸化炭素を真空ガラスラインに導入し、あらかじめ鉄触媒約2mgを秤量したコック付き反応管に水素ガス（炭素モル数の2.2倍相当）とともに封入して、650℃で6時間加熱して実施した（Omori et al. 2017）。

第15表 グラファイト化の結果

資料名	グラファイトID	試料重量	グラファイト化率	グラファイト重量	Fe重量	C/Fe比
# 1_ 沢尻東原遺跡	GR-14150	5.81mg	88.4%	1.25mg	2.01mg	0.622

f AMS測定結果

グラファイト化した炭素試料における放射性炭素同位体比の測定は、東京大学総合研究博物館が所有する加速器質量分析装置（AMS）を用いて測定した。慣用 ^{14}C 年代（BP年代）を算出するために、同位体比分別の補正に用いる $\delta^{13}\text{C}$ 値はAMSにて同時測定した値を用いている（Stuiver and Polach 1977）。

第16表 放射性炭素年代測定の結果

資料名	測定ID	^{14}C 年代	補正用 $\delta^{13}\text{C}$
# 1_ 沢尻東原遺跡	TKA-25157	4423±22BP	-24.8±0.3‰

^{14}C 年代の誤差は1標準偏差を示す。

第17表 推定される較正年代と注記 (cal BP表記)

資料名	較正年代 (1 SD)	較正年代 (2 SD)	較正データ	注記
# 1 __ 沢尻東原遺跡	5208cal BP (2.1%) 5202cal BP 5048cal BP (65.4%) 4961cal BP 4922cal BP (0.8%) 4919cal BP	5264cal BP (2.1%) 5245cal BP 5235cal BP (8.5%) 5189cal BP 5054cal BP (68.2%) 4950cal BP 4945cal BP (16.7%) 4875cal BP	IntCal20	

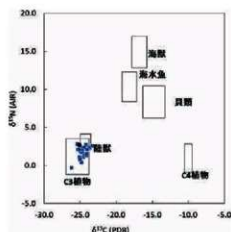
第18表 推定される較正年代と注記 (BC/AD表記)

資料名	較正年代 (1 SD)	較正年代 (2 SD)	較正データ	注記
# 1 __ 沢尻東原遺跡	3259BC (2.1%) 3253BC 3099BC (65.4%) 3012BC 2973BC (0.8%) 2970 BC	3315BC (2.1%) 3296BC 3286BC (8.5%) 3240BC 3105BC (68.2%) 3001BC 2996BC (16.7%) 2926BC	IntCal20	

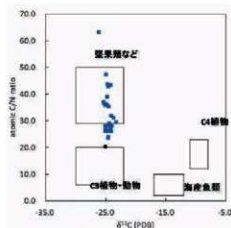
較正年代の算出には、OxCAL 4.2 (Bronk Ramsey, 2009) を使用し、較正データにはIntCal20 (Reimer et al. 2020) を用いた。

4 黒色物の由来

本遺跡は内陸に位置し、海洋リザーバー効果は考えにくいことから、較正年代は、黒色物が付着した時期を示す。炭素・窒素安定同位体比と相対濃度 (C/N比とN/C比) の結果を示す (第23図・第24図) (Yoneda et al. 2019)。主にC₃植物に由来し、C₃堅果類やC₄植物には由来していない。



第23図 炭素・窒素安定同位体比

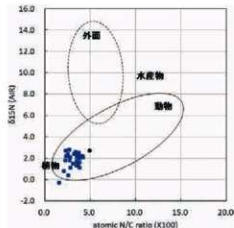


a 炭素安定同位体比とC/N比

第24図 炭素・窒素安定同位体比と相対濃度 (C/N比とN/C比) の結果

第24図 炭素・窒素安定同位体比と相対濃度 (C/N比とN/C比) の結果

●印は沢尻東原No.1、■印は小畑・國本田2014のクッキー状炭化物のデータ。第23図と第24図aの四角形は、食料群から期待される範囲を示す。第24図bの実線の楕円は陸上生態系の植物と動物で期待される範囲、破線の楕円は強烈の影響を受けた外面の付着物の範囲を示す。



b 窒素安定同位体比とN/C比

5 まとめ

石皿の形状、使用痕、残存デンプン粒・付着黒色物の成分分析を総合的に検討することで、石皿の用途や加工対象物についてより正確性を高めることに繋がる。また、石皿の加工対象物としてクッキー状炭化物などの黒色塊状遺物において、炭素・窒素安定同位体比分析が実施されてきたが、石皿の付着物が直接、分析された事例はおそらく、初めてではないかと思われる。さらに、同じ資料から残存デンプン粒が検出された例も少なくとも国内で初めての例になると見られる。双方の結果を比べると、残存デンプン粒でD類とされたツルボや、クルマユリなどの小型のユリ属が候補として挙げられ、炭素・窒素安定同位体比分析でC₃植物主体という結果が得られた。これは双方、堅果類ではない植物という点で共通する。さらに、該当の石皿が、その形態や使用痕が定型的である、中期の中部高地で展開するタイプである点も注視される。中期の大集落を支えた堅果類などの多様な植物質食料のなかに、考古資料として残存しにくい鱗莖類が含まれ積極的に加工されていたことがうかがわれる。

引用文献

- 上條信彦2015「縄文時代における脱穀・粉砕技術の研究」六一書房
- 小熊博史・國木田大2014「岩野原遺跡後期集落出土のクッキー状炭化物の検討」[長岡市立科学博物館研究報告] 49. 37-46頁
- 渋谷綾子、マシウス・ピーター、鈴木忠司2006「旧石器時代石器資料の残存デンプン分析調査報告」[新潟県立歴史博物館研究紀要] 7. 17-24頁
- 吉田邦夫・西田泰民2009「考古科学が探る火炎土器」[火炎土器の国 新潟] 新潟日報事業社. 87-99頁
- Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon* 51 (4), 337-360.
- de Vries, H. and G.W. Barendsen (1954). Measurements of age by the carbon-14 technique. *Nature* 174, 1138-1141.
- Omori, T., Yamazaki, K., Itahashi, Y., Ozaki, H., Yoneda, M., (2017) Development of a simple automated graphitization system for radiocarbon dating at the University of Tokyo. The 14th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry.
- Reimer, P. J., Austin, W. E. N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, L., J. Heaton, T., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kromer, B., Manning, S. W., Muscheler, R., Palmer, J. G., Pearson, C. J., van der Plicht, C., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Turney, C. S. M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S. M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A., Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon* 62 (4), 725-757.
- Stuiver, M., and H.A. Polach (1977). Discussion: Reporting of ¹⁴C data. *Radiocarbon* 19 (3), 355-363.
- Yoneda, M., Kisida, K., Gakuhari, T., Omori, T., Abe, Y., (2019) Interpretation of bulk nitrogen and carbon isotopes in archaeological foodcrusts on potsherds Rapid Communications in Mass Spectrometry. *Rapid Communications in Mass Spectrometry* 33 (12), 1097-1106.

第3節 成果と課題

沢尻東原遺跡では縄文時代中期集落と古墳時代前期の生活痕跡を確認できた。詳細は本書の各章をご覧いただきたいが、特に縄文時代は幾つかの項目について成果と課題を報告し、最後のまとめとしたい。

本遺跡で検出した竪穴建物跡の軒数は50軒、屋外埋設土器は48基、大形土坑は15基を数える。調査対象面積は1.8haと広大で集落のほぼ全域を調査することができた。また、辰野町教委の確認調査の成果と合わせ、本集落は南北に延びる河岸段丘面の中でも最北端の縁辺部に占地したことが判明した。

遺跡の調査指導：縄文時代中期の集落域をほぼ網羅して悉皆的に調査した本遺跡例は、近年県内の八ヶ岳山麓以外では、きわめて珍しい。一部後世の開発で削平されていたが、遺構・遺物は、ほぼ中期全体を網羅していた。逆に他の時期の遺構・遺物は検出されず、遺構同士の切り合い関係が少なかったという点において、縄文時代中期集落を考える上で、非常に貴重な資料となった。こうした中で、担当としては単なる遺構・遺物の事実記載や型式学的な分析に終始することなく、集落論から縄文時代中期の社会論を考える上で活用できる資料提示までを行うこともはかり、民族考古学的な研究の視点から高橋龍三郎氏に調査指導を依頼した。高橋氏からの個別具体的な調査指導の成果は、本報告書の事実記載においても活かされているが、特に当センター年報37号掲載の寺内隆夫論文（寺内2021）や、やはり寺内による第4章第1節の「縄文時代中期の集落」にも反映されている。

民族考古学的視点と分析：遺跡の調査指導をいただいた高橋氏には2021年6月6日に市民向けに「沢尻東原遺跡と縄文中期の社会と文化」と題して、辰野町民会館でご講演いただいた。氏の研究のベースとなる部分はすでに発表されている（高橋2004・2007）が、特に沢尻東原遺跡に重点をおいた氏の視点は本報告書の分析にも大きな助けとなった。講演の要旨を以下、簡単に紹介する。

- ・数百年かかり出来上がった環状集落としての沢尻東原遺跡。
- ・10号・13号竪穴建物跡の土器、廃棄された数型式にわたる完形土器の意味：世代を超えて土器を用いた追葬の可能性（廃屋墓）。
- ・埋甕群の意義：煮炊きのみならず葬送儀礼にかかわる加飾された縄文土器。
- ・沢尻東原遺跡の南北二つの群に分かれる遺構配置の意味：二つの「半族」（モエティ）からなる一対の双分制的な集落。交易・通婚などの社会的な紐帯の存在。
- ・沢尻東原遺跡の集落構造と解体：南群の消滅（双分制の解消）と復活。その後、再度南群の消滅と集落全体の解体。環境だけでない、社会的変動の可能性。
- ・動物をシンボルとした「半族」の想定。

こうした調査指導なども受けて、本遺跡の特に縄文時代集落の特徴について、担当として事実記載を補足する形で、以下項目別にまとめた。

集落の消長：本集落の開始は第3期（貉沢式期～新道式期）で2軒を確認した。辰野町では、本遺跡の周辺で第1・2期（前期末～中期初頭）の日影遺跡、三谷遺跡などが確認されており、総括ではこうした遺跡の集団が本遺跡に移住した可能性を提示した。集落は以後途絶えることなく継続し、中期後葉の第8期（曾利Ⅰ式平行期）で15軒程と最盛期となるが、直後の第9期（曾利Ⅱ式平行期）で2軒となる。集落の唐突ともいえる終焉に関しては、集落ごと移転の可能性を指摘したい。本遺跡の北側に天竜川を挟んで対峙する樋口内城遺跡では沢尻東原遺跡終末期以降も中期後葉の竪穴建物跡が多く確認できる。沢尻東原遺跡第9期の竪穴建物跡2軒（SB1・41）は集落の北端に位置し、天竜川の対岸を目視できる場所に位置する。具体的な証明は困難であるが、近接地における集団の移転について今後検討できる事例となろう。

集落の双分性：本集落は東西100m、南北150m程の範囲に形成される。中央には広場と推測される無遺構

地帯があり、その外周部に居住域が広がることが判明した。遺構の分布状況から居住域は大きく北群と南群に分かれ、共に居住域と広場の境に墓域が存在する。本集落の開始期（第3期）は北群だけであるが、この段階で既に無遺構地帯を囲むように堅穴建物が作られており、以後第4期以降は中央の広場を挟み南群が形成され、第8期まで集落内で2つの集団が維持される。しかし、堅穴建物や屋外埋設土器などの遺構数や出土遺物の質、量について両群を比較すると、全期間を通じて常に北群に優位性があったことが確認できた。両群が規模的、質的に均でない点は指摘しておきたい。

墓制：本集落の墓跡としては屋外埋設土器が目されるが、ほかに長軸80cm以上の大形土坑（SK）を15基検出している。この大形土坑の中には骨を含む土器を埋設したSK42が含まれることから大形土坑も墓跡の一種と考えたい。大形土坑は北群14基、南群1基（SK53）と北群が圧倒的に多いが、南群にも存在することは墓域の双分性を検討する上で注目したい。

屋外埋設土器と大形土坑は居住域と広場の境を中心に検出されており、集落内で墓域が存在したと考えられ、該当範囲に墓を示す墓標が存在した可能性がある。本遺跡では後世の削平により当時の生活面は確認できないが、埋設土器の上面や脇から大形の石が出土する事例があり（UG1・12・19・25）こうした石が墓標であった可能性が考えられる。

墓域を想定した空間では墓以外の遺構にも注意が必要である。SF3は被熱面と礫集中で構成され、被熱面の直下から出土した土器集中は破片が全て接合し一箇体の深鉢（386）となった。さらに礫集中の直下から略完形の有孔鐫付土器（385）がつぶれた状態で出土し、土器を埋設する行為に火焼き行為が伴っていた可能性がある。また墓域の範囲内には横位の土器（SF3、UG1・29、DS7・99）や正位の小形土器（UG23・26・35、DS19）、同一箇体の破片集中（SF3、UG9・20、DS9）なども検出している。これらは直接の墓とは異なるが、墓域内に存在する。

このような、堅穴建物跡に伴わない土器の埋設や配置遺構は、富士見町の藤内遺跡（富士見町教委2011）や南箕輪村の久保上ノ平遺跡（南箕輪村教委1997）に類例がある。藤内遺跡の事例は墓域の「一角」と推測され、「立てた土器」と「置かれた土器」が存在し、特殊遺構の範囲内で「焼土と炭」も検出されている。久保上ノ平遺跡は「特殊遺構」と報告されており、「原形個体で出土する縄文土器」の周りには礫群が出土し、被熱土器片も出土している。こうした遺構は当該期の墓制に関係する何らかの行為を示す可能性があり、今後も注意が必要である。

また、本集落では居住域で略完形の土器が大量に出土する堅穴建物跡が存在する（SB7・10・12・13・26・29・52）。この中でも北群に属するSB10・13では、略完形の土器が大量に出土しただけでなく意図的な土器の切断例が存在する。更にSB10では有孔鐫付土器を意図的に縦方向に割り破片を並べ、SB13では深鉢の逆位埋置例も確認できるなど両遺構は廃屋墓の可能性も指摘されている（高橋2007、寺内2021）。本集落における墓制は、墓域だけでなく廃屋墓の存在についても考慮し、複合的に検討することが重要である。そして、SB10・13以外で略完形土器が出土した堅穴建物跡についても廃屋墓の可能性がないかどうか、今後も注視していきたい。

石棒の機能を有する石について：本集落では造形的に石棒と認定できるものは存在しないが、出土状況から石棒と同様の意味を有する可能性がある石が出土しており、棒状石とした。特に人為的な埋置の可能性が高い3例を報告する。

SB12：1辺40～60cm程の大形の石が壁面に沿って6点出土した。特にビット3付近の壁際で幅30cm程の台石（42）と長さ60cm程の棒状石（43）が斜位で並んだ状態で出土した。また床面では逆位の深鉢（95）と、深鉢に近接して大形の石も出土している。本遺構は遺物量も豊富で、略完形の土器が多く出土するほか双口土器（115）も破片で出土した（第7表）。

SB25：石囲炉の検出時に炉の外側から内側にかかるようにして棒状石（111）が、さらに棒状石の延長上に位置する石囲炉内には長軸25cmほどの扁平な石が立てた状態で出土した。炉内には口縁部が水平に欠損し、底部中央に穿孔のある深鉢が正位で出土した。深鉢の径は炉の内法より明確に小さく、炉内部の埋土に炭化物や焼土を含まない点から、石囲炉の炭化物等を除去した後に深鉢を設置し、2つの石が置かれたと考えられる。類例は諏訪市穴場遺跡（諏訪市教委1983）にあり、横位の石棒と立位の石皿のほか蛇体把手を有する釣手土器や石碗が出土するなど当時の精神生活を示す一例と考えられる。

SB47：竪穴建物跡西壁面で、棒状石（146）と磨石（144）が並んだ状態で出土した。

これら3軒の竪穴建物跡から出土した棒状石に加工痕はないが、仮に棒状石が男性で扁平な石や磨石が女性をシンボライズしているとすれば、両者は合わせて意図的に置かれた可能性がある。またSB12のように竪穴建物内に大形の石が出土する例は、意図的な埋置の可能性が高い。類例はSB13にもある。竪穴建物内の棒状石や大形石の出土事例は今後も注目したい。

辰野町は豊かな自然に恵まれ、縄文時代から現代まで数千年間人々の生活が絶えることのない地である。特に縄文時代は町内で約220箇所（箇所）の遺跡が存在するなど、縄文人の居住に適した場所であった。沢尻東原遺跡は天竜川に接する段丘上にあり、水の確保が容易で水害の心配がない場所だからこそ、何世代も人が住み続けたといえる。今回のように集落全体を調査する事例は非常に少なく、当該期の生活を知る大変貴重な遺跡となった。本書が上伊那郡における縄文時代の生活を考える一助になれば幸いである。

末筆ながら、発掘調査に参加された皆様、発掘から報告書作成まで支えていただいた辰野町および関係者の皆様、貴重な御教示をいただいた皆様に感謝申し上げます。

参考・引用文献

- 泉 拓良2008「鷹島式・船元式・里木Ⅱ式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 岩崎孝治2014「穴場遺跡18号住居跡に石皿は立ち続けていた」『山麓考古』21
- 上條信彦2015「縄文時代における脱殻・粉砕技術の研究」六一書房
- 北大出探訪会2021「北大出探訪」Vol. 1
- 藤原功一2008「曾利式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 藤原功一2010「庵屋墓・土坑墓にみる縄文人の空間認識」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』14
- 小池 孝2013「上伊那地域の縄文中期土器」『日本考古学協会2013年度長野大会発表資料集』
- 坂井勇雄2013「下伊那地域における縄文時代中期土器の様相」『日本考古学協会2013年度長野大会発表資料集』
- 下総考古学研究会1985「勝坂式土器の研究」『下総考古学』8号 下総考古学研究会
- 諏訪市教育委員会1983「穴場Ⅰ」
- 辰野町誌刊行委員会1990「辰野町誌 歴史編」
- 辰野町教育委員会2014「辰野町遺跡分布図」
- 高橋龍三郎2004「縄文中期の集落と社会」『縄文文化研究の最前線』早稲田大学文学部
- 高橋龍三郎2007「関東地方中期の庵屋墓」『縄文時代の考古学』9 同成社
- 高見俊樹2010「諏訪市穴場遺跡第18号住居跡における祭祀遺物群出土状況の再検討」『諏訪市博物館研究紀要』4
- 竹淵修二1982「辰野における河岸段丘の面的区分及び発達史」『研究紀要』第3集 上伊那教育会
- 茅野市教育委員会2006「塩之目尻遺跡」
- 寺内隆夫1990「長野県塩尻市北原第1号住居址出土土器から派生する問題」『信濃』41巻4号
- 寺内隆夫1997「川原田遺跡縄文時代中期中葉の土器群について」『川原田遺跡—縄文編—』御代田町教育委員会
- 寺内隆夫1996「斜行沈線文を多用する土器群の研究」『財』長野県埋蔵文化財センター研究論集』1
- 寺内隆夫2003「後田原Ⅳ類土器の系譜—焼町式土器成立期のⅠ類型について—」『下総考古学』17号 下総考古学研究会
- 寺内隆夫2021「縄文時代中期中葉における土器と竪穴建物跡の二次利用について」『長野県埋蔵文化財センター年報』37
- 長野県地質図活用普及事業研究会2015「長野県デジタル地質図（2015）」
- 長野県埋蔵文化財センター2020「長野県埋蔵文化財センター年報」36
- 長野県埋蔵文化財センター2021「長野県埋蔵文化財センター年報」37
- 長野県埋蔵文化財センター2022「長野県埋蔵文化財センター年報」38
- 長野県埋蔵文化財センター2023「長野県埋蔵文化財センター年報」39
- 西野雅人2019「千葉県における縄文時代墓制の諸様相」『縄文時代葬墓制研究の現段階』縄文時代文化研究会
- 富士見町教育委員会2011「藤内」
- 藤森栄一ほか1965『井戸尻』中央公論美術出版
- 藤森英二2006「縄文時代中期中葉後半における、ある土器の系譜」『長野県考古学会誌』118
- 増子康彦2008「北裏C—北裏敷Ⅱ式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 松島信幸1992「伊那谷における活動的中央低地帯について」『飯田市美術館研究紀要』3
- 水沢孝子2021「全盛期の縄文土器—圧倒する摺曲文—」長野県立歴史館
- 南箕輪村教育委員会1997「久保上ノ平遺跡」
- 室伏 徹2008「台形土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 守矢昌文2013「諏訪地域に於ける縄文時代中期の土器群構成とその分布」『日本考古学協会2013年度長野大会発表資料集』
- 吉川金利2008「唐草文系土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション

付表1 縄文時代竪穴建物跡 (SB) 一覧

※「主軸」「直交軸」「深さ」の数値について、() は推定値を示す。

※「印」の「大きさ」は石圍印を対象とし、内法の長軸が90cm以下を (小)、30~60cmを (中)、60cm以上を (大) とする。石圍埋差印は除外する。

遺構名	グリッド	国版	PL	主軸 (長軸) m	直交軸 (短軸) m	深さ m	平面形状	主軸	印			時期	切合い	備考
									種類	形状	大きさ			
SB1	II E14	7	1・2	5.40	5.30	0.35	不整形円形	不明	石圍印	多角形	大	9	—	
SB2	II E14-19	8	1・2	7.00	—	0.05	不明	不明	石圍印	楕円形	大	7~(8)	SB3 新旧不明	
SB3	II E19-20・21・25	9	1・2	7.60	—	不明	不明	不明	石圍印	長方形	大	8	SB2 新旧不明	
SB4	II E18-23	10	2	5.40	—	不明	不明	不明	石圍印	楕円形	中	8	—	
SB5	II J05-10 II F01-06	11	3	4.80	—	不明	不明	不明	石圍印	楕定多角形	中	8	—	
SB6	II F01-02	12	3	4.10	—	不明	不明	不明	石圍印	楕定多角形	中	8	—	
SB7	II F01-06	13	3	3.50	3.40	0.25	不整形	不明	石圍印	方形	小	3	—	
SB8	II 109-10-14・15	14	3	不明	不明	不明	不明	不明	未検出	—	—	(8)	—	
SB9	II 119-23-24	15・16	3	6.30	—	0.20	不明	不明	未検出	—	—	7~(8)	—	
SB10	II E23 II N03	17-18	4・5	5.35	5.30	0.30	不整形円形	不明	石圍埋差印	多角形	—	(5)~6	—	
SB11	II N04-09	19	5・6	5.00	4.90	0.45	不整形円形	不明	石圍埋差印	多角形	—	6	—	
SB12	II N05-09-10	20-21	6	5.28	5.55	0.50	不整形	S72° E	石圍埋差印	多角形	—	4	—	
SB13	II N13-14	22-23・24	7・8・9	6.28	5.92	0.25	不整形円形	S74° E	石圍埋差印	楕定多角形	—	(5)~6	—	
SB14B	II O07	25	9	6.40	6.00	0.30	不整形楕円形	不明	埋差印	—	—	4~5	SB14B→SB14A	埋差印3基
SB15	II J14-15	26	10	(5.20)	(3.90)	0.30	不明	不明	石圍埋差印	多角形	—	5	SB16A→SB15→SB16B	
SB16A	II J14-19	27	10	(3.65)	—	0.10	不明	不明	石圍印	方形	小	(4)~5	SB16A→SB15→SB16B	
SB16B	II J14	28	10	(4.40)	—	0.15	不明	不明	石圍埋差印	楕定多角形	—	6	SB16A→SB15→SB16B	
SB17A	II J12	29	1・11	6.10	(4.70)	0.25	楕円形	S35° E	石圍印	楕定長方形	大	7~(8)	SB17A→SB17B	
SB17B	II J12-13	30	1・11	5.45	5.65	0.35	不整形円形	N70° E	石圍印	不明	大	8	SB17A→SB17B	
SB18	II J17	31-32	11	5.80	5.60	0.40	不整形楕円形	S66° E	埋差印	—	—	5~6	—	
SB19A	II J21-22	33	12	(5.25)	4.80	0.40	不整形楕円形	不明	埋差印	—	—	4~(5)	SB19A→SB19B	
SB19B	II J16-17-21・22	34	12	4.93	4.47	0.25	不整形楕円形	N79° E	石圍印	楕円形	中	5	SB19A→SB19B	
SB20	II O01-02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番 UG8に複製
SB21	II O01-02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB22	II N05 II O01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB23	II N05	35	12	(3.80)	3.50	0.40	不整形楕円形	S70° E	石圍埋差印	多角形	—	4	SB23→SB64	
SB24	II N09-10-14・15	36-37	12-13	5.75	6.25	0.55	不整形	S77° E	石圍埋差印	楕定多角形	—	5	—	
SB25	II N19	38	13	5.20	4.30	0.30	不整形	不明	石圍印	方形	中	7	SB26→SB25	
SB26	II N19-20	39-40	13	5.50	(5.30)	0.50	不整形円形	S66° E	埋差印	—	—	4	SB26→SB25	
SB27	II O03	41	14	6.05	4.80	0.30	不整形楕円形	不明	石圍印	方形	小	2~4	SB27→UG9	
SB28	II J19-20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB29	II F16-17-21・22	42-43	14	5.80	5.20	0.30	不整形楕円形	不明	石圍印	多角形	中	8	—	
SB30	II J20-25 II F16-21	44-45	14	5.10	4.70	0.30	不整形円形	不明	埋差印	—	—	2~3	—	
SB31	II O05 II K01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB32	II F24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB33	II F24 II K04	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB34	II K04	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB35	II K09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB36	II K09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB37	II K08	46	14	5.70	5.60	0.10	不整形円形	S50° E	石圍印	多角形	中	不明	—	
SB38	II K12-13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番

遺構名	グリッド	図版	PL	主軸 (長軸) m	直交軸 (短軸) m	深さ m	平面形状	主軸	仰			時期	切合い	備考
									種類	形状	大きさ			
SB39	ⅡK14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB40	ⅡK14-19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB41	ⅡE13-14・18	47	1・15	3.90	4.2	0.30	不整形	S29° E	石圓 埋没仰	推定多角形	大	9	—	
SB42	ⅡP09	48	15	(4.9)	—	0.40	不明	不明	石圓 埋没仰	推定多角形	—	6	—	
SB43A	ⅡP13・14・18・19	49	15	6.20	6.10	0.40	不整形	不明	石圓仰	楕円形	大	8	SB43B→SB43A	
SB43B	ⅡP13・14・18・19	50	16	4.40	4.20	0.05	不整形	S35° E	埋没仰	—	—	5	SB43B→SB43A	
SB44	ⅡP20	51	16	不明	不明	不明	不明	不明	石圓仰	多角形	中	7	—	
SB45	ⅡT05-10 ⅡP01-06	51	16	4.96	4.28	0.26	不整形	S42° E	石圓仰	多角形	中	8	—	
SB46	ⅡE17-22	52	16-17	4.20	3.80	0.30	不整形	N42° W	埋没仰	—	—	3	—	石礎
SB47	ⅡP07-12	53	17	4.60	4.73	0.30	不整形	N23° E	石圓仰	長方形	中	6	—	
SB48	ⅡT09・10・14・15	54	17	5.90	6.0	0.30	不整形	S40° E	石圓仰	多角形	大	7～(8)	—	
SB49	ⅡT24	55	17-18	4.80	4.30	0.40	楕円形	不明	石圓仰	不明	中	7	—	
SB50	ⅡT07-08・12・13	56	18	6.30	6.10	0.30	不整形	S63° E	石圓 埋没仰	多角形	—	6～7	—	
SB51	ⅡT07-08	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB52	ⅡT11・12・16・17	57-58	18-19	5.30	5.20	0.40	不整形	不明	埋没仰	—	—	4	—	
SB53	ⅡT17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB54	ⅡJ02-07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB55	ⅡJ09-10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB56	ⅡP06-11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB57	ⅡP02-07	59	19	4.35	3.74	0.10	楕円形	不明	石圓仰	不整形	中	8	—	
SB58	ⅡS20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番 DS99C変更
SB59	ⅡS25	60	19-20	6.30	6.2	0.25	不整形	不明	石圓仰	不整形楕円形	大	8	—	
SB60	ⅡP11・12・16・17	61	20	4.80	5.80	0.40	楕円形	S30° E	石圓仰	長方形	中	8	SB61→SB60	
SB61	ⅡT15 ⅡP11-16	62	20	—	4.30	0.30	楕円形	N45° W	石圓 埋没仰	推定多角形	—	4	SB61→SB60	
SB62	ⅡP03	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
SB63	ⅡK22-23 ⅡP02-03	63	20-21	6.20	6.10	0.30	不整形	不明	石圓仰	推定楕円形	大	8	—	
SB64	ⅡI24-25 ⅡN04-05	64	21	(5.8)	5.65	0.15	不整形	S53° E	石圓仰	多角形	中	8	SB23→SB64	
SB65	ⅡJ11	65	21	6.50	5.90	0.30	不整形	S 0°	石圓仰 (推定)	不明	不明	6～7	—	
SB66	ⅡS14-15・19・20	66	21	5.60	5.45	0.30	不整形	S55° E	石圓仰	多角形	中	8	—	DS26より変更

付表2 縄文時代土坑 (SK) 一覧

遺構名	グリッド	図版	PL	長軸m	短軸m	深さm	平面形状	断面形状	出土遺物№	時期	備考
SK 1	II E14-15-19-20	68	29	1.50	1.10	0.46	不整形円形	逆台形状	—	—	—
SK 2	II E24	68	30	1.10	0.90	0.38	不整形円形	半球形	—	—	—
SK 3	II E20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 7 に変更
SK 4	II E20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 8 に変更
SK 5	II E20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 6 に変更
SK 6	II E20-25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 5 に変更
SK 7	II E25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 4 に変更
SK 8	II E25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 3 に変更
SK 9	II E25	2	—	0.40	0.35	0.09	円形	碗状	—	—	—
SK10	II E24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 1 に変更
SK11	II E20-25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 2 に変更
SK12	II E20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 11 に変更
SK13	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 4 に変更
SK14	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 7 に変更
SK15	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 8 に変更
SK16	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 6 に変更
SK17	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 2 に変更
SK18	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 5 に変更
SK19	II E20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 10 に変更
SK20	III F02	4	—	0.55	0.45	0.11	不整形	碗状	—	—	—
SK21	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 3 に変更
SK22	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 10 に変更
SK23	II E14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 12 に変更
SK24	III F02	4	—	0.75	0.70	0.09	不整形	碗状	—	—	—
SK25	II E18	2	—	0.60	0.50	0.11	不整形	逆台形状	—	—	—
SK26	II E17	2	—	0.50	0.45	0.10	不整形円形	逆台形状	—	—	—
SK27	II E17	2	—	0.60	0.42	0.11	楕円形	逆台形状	—	—	—
SK28	II E23	2	—	0.43	0.45	0.09	円形	碗状	—	—	—
SK29	II E18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 4 P 5 に変更
SK30	II E18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 4 P 6 に変更
SK31	II E18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 4 P 7 に変更
SK32	II E18-23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 4 P 8 に変更
SK33	II E23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 4 P 9 に変更
SK34	III F02	4	—	0.45	0.24	0.10	不整形円形	碗状	—	—	—
SK35	II E18	2	—	0.65	0.55	0.08	不整形	碗状	—	—	—
SK36	II E20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 3 P 9 に変更
SK37	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 11 に変更
SK38	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 9 に変更
SK39	III J02	68	30	1.55	—	0.28	円形	箱形	石器：194	—	—
SK40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番
SK41	II E19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番SB 2 P 1 に変更
SK42	II J13-14	68	30	1.22	1.14	0.22	楕円形	箱形	石器：387・388 石器：195・196	5・7	屋外埋設土器
SK43	II J08-09	69	—	2.68	1.65	0.60	不整形円形	逆台形状	土器：389	5	—
SK44	II J09	2	—	0.84	0.80	0.36	不整形円形	碗状	—	—	—
SK45	II J09-14	69	—	1.30	1.10	0.50	不整形円形	逆台形状	—	—	—
SK46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番
SK47	II J14	69	—	0.95	0.85	0.40	不整形	箱形	—	—	—
SK48	II J14	70	—	0.96	—	—	不整形円形	逆台形状	土器：390	—	SK49 に切られる
SK49	II J14	70	30	1.00	0.96	0.36	不整形	逆台形状	土器：391・392 石器：197・198・199	5～6	SK48 を切る
SK50	II J14	2	—	0.84	0.80	0.12	不整形円形	皿状	—	—	—
SK51	II J20	70	30	1.30	1.20	0.24	不整形	半球形状	土器：393～396 石器：200	7	—
SK52	II O02	3	—	1.02	0.94	0.38	不整形円形	碗状	—	—	—
SK53	III K17-18	70	30	2.05	1.70	0.42	長方形	箱形	土器：397・398 石器：201	(6)	UG30 に切られる
SK54	II O22, II T02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番DS 2 に変更
SK55	II O22, II T02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	矢番DS 2 に変更
SK56	II J23	3	—	0.82	0.54	0.18	不整形	不整形	—	—	—

付表3 縄文時代焼土跡 (SF) 一覧

遺構名	グリッド	図版	PL	長軸 m	短軸 m	深さ m	平面形状	断面形状	出土遺物No.	時期	備考
SF1	II D20	67	—	0.60	0.60	0.16	円形	—	—	—	被熱面
SF2	II J08	67	29	0.90	0.80	0.10	楕円形	—	土器：383・384	6～7	被熱面
SF3	II O07	67	29	1.75	0.80	0.80	長楕円形	楕円形	土器：385・386	6	屋外埋設土器 385は埋集中の下から出土 386は焼土の下から出土

付表4 縄文時代屋外埋設土器 (UG) 一覧

*調査時にUGの遺構記号を付与したものを掲載。UG以外の遺構記号を付与し、整理段階で屋外埋設土器と判断したものは第9表を参照。

遺構名	グリッド	図版	PL	長軸 m	短軸 m	深さ m	出土遺物No.	時期	備考
UG 1	II J13	71	24	—	—	—	土器：399 石器：202	6～7	
UG 2	II J19	71	24	1.00	0.34	—	土器：401 石器：203	7	
UG 3	II J19	71	24	0.60	0.35	—	土器：400 石器：204	8	
UG 4	II J18・23	71	24	0.55	0.50	—	土器：402	8	
UG 5	II J24	71	24	—	—	—	土器：403 石器：205	7～8	
UG 6	II J24	71	24	—	—	—	土器：404	—	
UG 7	II J23	71	24	0.18	0.10	—	土器：405	6	
UG 8	II O02	71	25	0.75	0.28	—	土器：406	7	SB20 (欠番) から変更
UG 9	II O03	71	25	0.58	0.20	—	土器：407	7	SB27を切る
UG10	II O06	72	25	0.45	0.35	—	土器：408	5	
UG11	II O07	72	25	0.35	0.24	—	土器：409	6 ?	
UG12	II J24	71	24	—	—	—	土器：410	6	
UG13	II J19	72	25	0.55	0.32	—	土器：411 石器：206	6	
UG14	II J22	72	25	0.58	0.28	—	土器：412	7	
UG15	II O06	72	25	0.50	0.40	—	土器：413	6	
UG16	II O21	72	25	0.42	0.22	—	土器：414	8	
UG17	II O01	72	26	0.32	0.20	—	土器：415	7 ?	
UG18	II J24	72	26	—	—	—	土器：416 石器207・208・209	5	
UG19	II J24	72	26	0.95	0.34	—	土器：418	5	
UG20	II O17	—	26	—	—	—	土器：417	6～7	
UG21	II T05	72	26	—	—	—	土器：419	8	
UG22	II O06	72	26	0.40	0.18	—	土器：420	6	
UG23	II N03	72	26	—	—	—	土器：421	6	
UG24	II O21	—	—	—	—	—	—	—	欠番
UG25	II O06	72	26	0.38	0.20	—	土器：422	6	
UG26	II I20	—	27	—	—	—	土器：423・424	7～8	
UG27	II J19・24	73	27	—	—	—	土器：425	8	
UG28	II J23	73	27	—	—	—	土器：426	7	
UG29	II J24	71	24	—	—	—	土器：427	7	
UG30	III K17	73	27	—	0.30	—	土器：428	6～7	SK53を切る
UG31	II T08	73	27	—	—	—	土器：429	8	
UG32	III K17	73	27	—	—	—	土器：430	6	
UG33	II J24	73	27	—	—	—	土器：431 石器：210	6～7	
UG34	II O04	73	27	—	—	—	土器：432 石器：211	5	
UG35	II J19	73	28	—	—	—	土器：433・434 石器：212	6	

付表5 縄文時代土器集中 (DS) 一覧

遺構名	グリップ	国版	PL	長軸m	短軸m	出土遺物No	時期	備考
DS1	IIJ17	74	28	—	—	土器：435	8	屋外埋設土器
DS2	II O22, II T02	74	28	a : 1.40 b : 1.10	a : 0.08 b : 0.18	土器：436・437・438 石器：213	4~7	屋外埋設土器 SK54・55 (欠番) から変更
DS3	II T05	—	—	—	—	—	—	欠番
DS4	II O20	—	—	—	—	土器：439	8	屋外埋設土器
DS5	II O16	74	28	—	—	土器：440	7	屋外埋設土器
DS6	II O12	—	—	—	—	—	—	欠番
DS7	III K11	74	28	1.06	0.10	土器：441	8	屋外埋設土器
DS8	III K16	74	28	0.92	0.12	土器：442・443	4	屋外埋設土器
DS9	III K11・12	74	28	—	—	土器：444	4~5	屋外埋設土器
DS10	III K12	—	—	—	—	—	—	欠番
DS11	III P06	—	—	—	—	—	—	欠番
DS12	III P11	—	—	—	—	—	—	欠番
DS13	II I18	74	28	—	—	土器：445	3	屋外埋設土器
DS14	II N25	—	—	—	—	—	—	欠番
DS15	II O24	—	—	—	—	—	—	欠番
DS16	II T18	—	—	—	—	—	—	欠番
DS17	II J23	—	—	—	—	—	—	欠番
DS18	II J23	—	—	—	—	—	—	欠番
DS19	II J23	74	29	—	—	土器：446	6~7	屋外埋設土器
DS20	II J24	—	—	—	—	—	—	欠番
DS21	II J19	—	—	—	—	—	—	欠番
DS22	II J23	74	29	0.9	0.24	土器：447	6	屋外埋設土器
DS23	II J19	74	29	0.54	0.26	土器：448	5?	屋外埋設土器
DS24	III P02	—	—	—	—	—	—	欠番
DS25	II N24・25 II S04・05	—	—	—	—	—	—	欠番
DS26	II S14・15・19・20	—	—	—	—	—	—	欠番 (SB66:変更)
DS27	II O03	—	—	—	—	—	—	欠番
DS28	II O13	—	—	—	—	—	—	欠番
DS99	II S20	74	29	—	—	土器：449	8	屋外埋設土器 SB58 (欠番) から変更

付表6 縄文時代土器一覧

※計測値のうち()は推定値、()は残存値を示す。

図版	PL	掲載番号	遺構	注記	時期	器種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	部位	残存率 %	備考
75	31	1	SB1	No.1	中期後葉	深鉢	(16.0)	—	(20.5)	口縁～胴	60	
75	31	2	SB1	No.3	中期後葉	深鉢	(10.7)	(5.6)	13.0	定形	100	
75	31	3	SB1	No.2, 3ク, 3ク1ソウ, トレ	中期後葉	深鉢	(14.4)	—	(27.6)	口縁～胴	70	
75	31	4	SB2	SE	中期後葉	深鉢	—	—	(7.6)	胴	—	
75	31	5	SB2	No.2	中期後葉	深鉢	(14.4)	17.5	6.8	口縁～底	40	
75	31	6	SB3	No.1, Eトレ	中期後葉	深鉢	—	—	(27.6)	胴～胴	10	
75	31	7	SB4	No.2, ドキシユウ	中期後葉	深鉢	(16.0)	—	—	口縁～胴	—	
76	32	8	SB5	ビッド5	中期後葉	深鉢	—	—	2.9	口縁	—	
76	32	9	SB5	ビッド5	中期後葉	深鉢	—	—	(7.9)	口縁～胴	—	
76	32	10	SB5	ビッド5	中期後葉	深鉢	—	—	5.1	胴	—	
76	32	11	SB5	ロ	中期後葉	深鉢	—	—	(3.1)	口縁	—	
76	32	12	SB6	P 9	中期後葉	深鉢	(15.4)	7.2	17.3	口縁～底	50	
76	32	13	SB6	1.2ク	中期後葉	深鉢	—	—	(4.5)	胴	—	
76	32	14	SB7	ビッド4, No.9, ドキシユウ	中期中葉	深鉢	(29.6)	—	(10.8)	口縁～胴	10	
76	32	15	SB7	No.3, ドキシユウ	中期中葉	深鉢	(18.7)	—	(27.4)	口縁～胴	30	
76	32	16	SB7	No.2	中期中葉	深鉢	(30.6)	12.8	37.7	口縁～底	60	
76	32	17	SB7	No.7, No.9	中期中葉	深鉢	—	14.0	(27.6)	胴～底	30	
76	32	18	SB7	No.4	中期中葉	浅鉢	(36.3)	—	(11.9)	口縁～胴	20	
77	33	19	SB7	No.7, No.8	中期中葉	深鉢	—	(11.9)	(28.5)	胴～底	50	
77	33	20	SB7	No.3, ドキシユウ	中期中葉	深鉢	(22.5)	—	(22.9)	胴～胴	60	
77	33	21	SB7	—	中期中葉	深鉢	—	—	(6.6)	胴	—	
77	33	22	SB8	ビッド1	中期～後葉	深鉢	—	—	(17.6)	胴	20	
77	33	23	SB8	ビッド2	中期後葉	深鉢	(33.0)	—	(44.0)	口縁～胴	20	
77	33	24	SB9	ビッド5	中期～後葉	深鉢	(20.0)	—	(22.6)	口縁～底	10	
77	33	25	SB9	ビッド6	中期～後葉	深鉢	(15.6)	—	(17.0)	胴	60	
77	33	26	SB9	pH 4	中期～後葉	小形有孔罎付	(5.6)	—	(7.3)	口縁～胴	20	
78	34	27	SB9	ビッド6, No.4	中期後葉	深鉢	(13.8)	(8.2)	26.0	口縁～底	40	
78	34	28	SB9	No.2 A	中期後葉	深鉢	(41.4)	—	(35.7)	口縁～胴	15	
78	34	29	SB9	No.2 E, SB10No.12	中期～後葉	深鉢	(14.4)	—	19.4	口縁～胴	30	
78	34	30	SB9	No.2 C	中期～後葉	深鉢	(18.0)	8.0	(17.1)	口縁～底	70	
78	34	31	SB9	No.2 D	中期～後葉	深鉢	(26.4)	(13.5)	39.7	口縁～底	25	
78	34	32	SB9	No.2 D	中期～後葉	深鉢	(24.4)	—	(15.7)	口縁～胴	25	
78	34	33	SB9	No.2 B	中期～後葉	浅鉢	(28.4)	(10.0)	14.7	口縁～底	60	
79	35	34	SB9	No.1	中期～後葉	深鉢	(27.3)	—	(36.8)	口縁～胴	50	
79	35	35	SB9	3ク	中期～後葉	深鉢	(17.2)	—	(15.8)	口縁～胴	10	
79	35	36	SB9	No.5	中期～後葉	深鉢	(20.7)	(23.2)	(23.2)	胴	30	
79	35	37	SB9	No.7	中期～後葉	深鉢	—	5.8	(18.0)	胴～底	60	
79	35	38	SB9	1ク, 2ク, 2クトレ, 3ク, 3クトレ	中期～後葉	深鉢	(26.5)	—	(37.2)	口縁～底	40	
79	35	39	SB9	1クフウ, 4ク	中期～後葉	釣手	(22.7)	—	(16.0)	口縁～胴	15	
80	36	40	SB9	2クフウ, 3ク, 4ク	中期～後葉	深鉢	(19.0)	(7.0)	(22.5)	口縁～底	20	
80	36	41	SB9	3ク, 4ク	中期～後葉	深鉢	(18.1)	—	(22.3)	口縁～胴	40	
80	36	42	SB9	4ク, 3チク1シュウ	中期～後葉	釣手か浅鉢	(42.0)	—	(4.8)	口縁	10以下	
80	36	43	SB9	2ク	中期～後葉	深鉢	—	—	(6.2)	胴	—	
80	36	44	SB10	ロタイ	中期中葉	深鉢	25.6	(15.2)	(30.1)	口縁～胴	80	伊理設土器
80	36	45	SB10	No.7, 4ク	中期中葉	有孔罎付	24.7	18.8	46.6	口縁～底	90	
81	37	46	SB10	No.1, No.4, No.29	中期中葉	深鉢	(41.6)	—	(37.5)	口縁～底	10	
81	37	47	SB10	2ク	中期中葉	釣手	—	—	(4.9)	口縁	—	
81	37	48	SB10	No.4	中期中葉	深鉢	—	10.2	(12.9)	胴～底	30	
81	37	49	SB10	No.23, 2ク	中期中葉	深鉢	21.4	—	(19.3)	口縁～胴	60	
81	37	50	SB10	No.30-1	中期中葉	深鉢	(19.5)	(9.4)	(33.7)	口縁～底	70	
81	37	51	SB10	No.10, 3チククSB20	中期中葉	深鉢	19.7	—	—	口縁～胴	25	口縁はII001, 02付近で出土
81	37	52	SB10	No.11, No.12, カク	中期中葉	深鉢	(24.3)	—	(16.9)	口縁～胴	20	

付表 遺物一覧

図版	PL	図典番号	遺構	注記	時期	器種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	部位	残存率 %	備考
82	38	53	SB10	№9、№15B	中期中葉	深鉢	16.3	9.6	31.4	口縁～底	80	扉面把手
82	38	54	SB10	№32	中期中葉	深鉢	22.5	—	(30.3)	口縁～胴	70	
82	38	55	SB10	№15-1	中期中葉	深鉢	26.0	—	(28.2)	口縁～胴	70	
82	38	56	SB10	№15A、№15B	中期中葉	深鉢	—	—	(20.5)	胴	—	
82	38	57	SB10	№15-2	中期中葉	深鉢	—	15.4	(31.7)	胴～底	90	
82	38	58	SB10	№14	中期中葉	深鉢	17.8	9.5	36.4	口縁～底	60	蛇体把手
83	39	59	SB10	№15、№16、№18、3ク	中期中葉	深鉢	(19.0)	—	(18.4)	口縁～胴	80	
83	39	60	SB10	№31、1クニカ	中期中葉	深鉢	13.1	—	(12.2)	口縁～胴	60	
83	39	61	SB10	№28、№28 1ク、№28 4ク	中期中葉	器台	15.7	(17.2)	9.3	受け面～脚端部	70	
83	39	62	SB10	№28	中期中葉	深鉢	(12.4)	7.1	(21.0)	口縁～底	60	
83	39	63	SB10	№25	中期中葉	深鉢	(21.4)	9.4	26.6	口縁～底	70	
83	39	64	SB10	№33	中期中葉	鉢	(22.0)	(12.0)	(11.4)	口縁～底	60	
83	39	65	SB10	№18	中期中葉	浅鉢	(32.9)	12.0	15.7	口縁～底	70	
83	39	66	SB10	№18	中期中葉	深鉢	(29.8)	—	(34.5)	口縁～胴	30	
83	39	67	SB10	№17、2ク	中期中葉	深鉢	(21.6)	(6.2)	22.1	口縁～底	60	
83	39	68	SB10	4ク、SB10№12	中期中葉	深鉢	—	(6.0)	20.4	口縁～底	70	
84	40	69	SB10	№12	中期中葉	深鉢	16.0	—	(17.7)	口縁～胴	60	
84	40	70	SB10	№12	中期中葉	深鉢	12.4	—	(18.6)	口縁～胴	80	
84	40	71	SB10	№84ク	中期中葉	深鉢	(13.1)	(7.6)	23.0	口縁～底	80	
84	40	72	SB10	№5	中期中葉	深鉢	—	8.0	(15.9)	胴～底	50	
84	40	73	SB10	№6	中期中葉	深鉢	(18.8)	(8.0)	(20.8)	口縁～底	50	
84	40	74	SB10	№9	中期中葉	深鉢	—	—	(11.5)	胴	10	
84	40	75	SB10	№2、№3、№5、4ク	中期中葉	深鉢	(18.1)	(5.7)	24.1	口縁～底	60	
84	40	76	SB10	№2	中期中葉	深鉢	(14.3)	—	(9.8)	口縁	20	
84	40	77	SB10	№8、№9、№27、1ク	中期中葉	深鉢	(22.2)	—	(22.7)	口縁～胴	30	
84	40	78	SB10	1ク	中期中葉	深鉢	—	—	(15.8)	口縁～胴	—	
84	40	79	SB10	№13、3ク、トレ、	中期後葉	深鉢	—	7.2	(13.8)	胴～底	50	
85	41	80	SB11	マイヨウ、ロタイ	中期中葉	深鉢	33.9	11.5	47.5	口縁～底	90	伊禮設土器
85	41	81	SB11	№3、2ク、3ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	—	8.0	(15.0)	口縁付近～底	80	
85	41	82	SB11	№4、1ク、4ク	中期中葉	深鉢	(22.0)	—	(20.8)	口縁～胴	30	
85	41	83	SB11	4ク	中期中葉	深鉢	(31.2)	—	(40.7)	口縁～胴	20	
85	41	84	SB11	3ク	中期中葉	深鉢	21.8	11.4	(28.1)	口縁～底	80	
86	42	85	SB11	№2	中期中葉	深鉢	(34.2)	—	(29.5)	口縁～胴	40	
86	42	86	SB11	4ク	中期中葉	深鉢	—	—	(4.8)	口縁	—	
86	42	87	SB11	4ク	中期中葉	深鉢	—	—	(5.0)	口縁	—	
86	42	88	SB11	2ク、トレ、3ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	(26.2)	(10.0)	38.4	口縁～底	50	
86	42	89	SB11	3ク、3ク1-2ソウ、4ク2ソウ、SB10№24	中期中葉	深鉢	21.3	—	(21.7)	口縁～胴	25	
86	42	90	SB11	1-2ソウ、3ク1-2ソウ、1ク、1ク1-2ソウ、4ク	中期中葉	深鉢	(34.4)	(13.4)	(35.8)	口縁～胴	20	
86	42	91	SB11	№1、SB10№24+26	中期中葉	深鉢	(30.4)	—	(26.1)	口縁～胴	30	
87	43	92	SB12	ロタイ、ロ	中期中葉	深鉢	(43.3)	—	(28.0)	口縁～胴	30	伊禮設土器
87	43	93	SB12	ロタイ	中期中葉	深鉢	—	12.8	(8.3)	胴～底	20	
87	43	94	SB12	№1、3ク1-2ソウ、3クトレ	中期中葉	深鉢	23.0	—	(33.9)	口縁～底	80	
87	43	95	SB12	№8	中期中葉	深鉢	21.0	6.1	23.3	口縁～底	90	
87	43	96	SB12	№21	中期中葉	深鉢	18.8	—	(24.6)	口縁～底	80	
87	43	97	SB12	№21、N1-3ソウ、1ク1-2ソウ、1ク1-3ソウ	中期中葉	深鉢	(37.6)	—	(29.3)	口縁～胴	10以下	
88	44	98	SB12	№3A、1-2ソウ、2-3ソウ	中期中葉	深鉢	23.3	15.4	32.0	口縁～底	20	
88	44	99	SB12	№3B、4ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	(21.2)	12.5	(28.8)	口縁～底	60	
88	44	100	SB12	№4、4ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	(32.0)	—	(42.5)	口縁～胴	50	
88	44	101	SB12	1ク1-3ソウ、SB14 3ク	中期中葉	深鉢	11.2	—	(16.0)	口縁～胴	70	
88	44	102	SB12	1ク1-2ソウ	中期中葉	器台	(18.6)	(18.2)	2.3	受け部	20	
88	44	103	SB12	1ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	(22.0)	—	(11.4)	口縁～胴	20	
88	44	104	SB12	№23	中期中葉	深鉢	20.6	10.9	(28.1)	口縁～底	60	
89	45	105	SB12	№2、№2B	中期中葉	深鉢	(23.7)	12.0	30.4	口縁～底	60	

国版	PL	陶器 番号	遺構	注 記	時期	器 種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	部 位	残存率 %	備 考
89	45	106	SB12	1ク1-2ソウ、1ク1-3ソウ	中期中葉	釣手	—	—	(4.2)	口縁	—	
89	45	107	SB12	№2A、トレ2ソウ、3ク1-2ソウ、SB05 2ク1-2ソウ、4ク1-2ソウ	中期中葉	浅鉢	38.5	—	(15.5)	口縁~胴	40	
89	45	108	SB12	№6-2	中期中葉	鉢	—	9.0	(11.6)	胴~底	60	
89	45	109	SB12	№6、4ク1-2ソウ、SB36 2ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	28.8	—	(17.8)	口縁~胴	30	
89	45	110	SB12	№7、1ク1-2ソウ、SB20 1ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	21.7	13.5	34.0	口縁~底	60	
89	45	111	SB12	1ク1-2ソウ、2ク1-2ソウ、3ク1-3ソウ	中期中葉	深鉢	(16.0)	—	(16.8)	口縁~胴	60	
89	45	112	SB12	3クトレ、Wベルト1-3ソウ、EWベルト	中期中葉	深鉢	—	(15.2)	(16.8)	胴~底	40	
90	46	113	SB12	№22、2-3ソウ、3クトレ、Wベルト1-3ソウ	中期中葉	深鉢	(27.2)	11.8	28.4	口縁~底	40	
90	46	114	SB12	3ク	中期中葉	深鉢	—	6.2	(4.1)	胴~底	30	
90	46	115	SB12	トレ、1ク1-2ソウ、3ク1-2ソウ	中期中葉	双口土器	(21.6)	(6.8)	(20.9)	口縁~底	40	
90	46	116	SB12	2ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	—	—	(18.5)	口縁~胴	10以下	
90	46	117	SB12	トレ2ソウ、1ク1-3ソウ、2ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	—	—	(11.1)	口縁~胴	10以下	
90	46	118	SB13	ロタイ	中期中葉	深鉢	(23.7)	—	(12.9)	胴	20	伊理設土器
90	46	119	SB13	ピット5	中期中葉	深鉢	15.3	10.4	(17.8)	胴~底	70	
90	46	120	SB13	P14	中期中葉	深鉢	8.9	6.8	(19.1)	口縁~底	95	
90	46	121	SB13	ピット1	中期中葉	台付深鉢	—	(7.0)	(11.4)	胴~台	20	
90	46	122	SB13	ピット8	中期中葉	深鉢	—	—	(5.0)	口縁	—	
90	46	123	SB13	ピット10	中期中葉	深鉢	—	—	(15.8)	口縁~胴	—	
91	47	124	SB13	№10B、ウメガメ10-B	中期中葉	深鉢	30.0	—	(48.6)	口縁~胴	60	
91	47	125	SB13	№10A	中期中葉	深鉢	36.5	—	(48.7)	口縁~胴	90	
92	48	126	SB13	№10D、№26、3ク、3ク2ソウ	中期中葉	深鉢	40.7	15.2	64.3	口縁~底	80	
92	48	127	SB13	№15、1クウエ	中期中葉	深鉢	(35.3)	(10.4)	(32.5)	口縁~胴	40	
92	48	128	SB13	№18B	中期中葉	深鉢	23.0	9.6	31.1	口縁~底	80	
93	49	129	SB13	№18A	中期中葉	深鉢	(29.4)	(11.8)	(34.0)	口縁~胴	20	
93	49	130	SB13	№30	中期中葉	深鉢	(18.4)	(8.9)	26.7	口縁~底	60	
93	49	131	SB13	№27、1ク2ソウ	中期中葉	深鉢	(18.8)	—	(20.0)	口縁~胴	50	
93	49	132	SB13	№28、1ク、1クナカ	中期中葉	深鉢	(23.0)	—	(25.6)	口縁~胴	30	
93	49	133	SB13	№34、3ク2ソウ	中期中葉	深鉢	(35.7)	—	(32.2)	口縁~胴	30	
94	50	134	SB13	№11C	中期中葉	深鉢	29.5	14.3	45.9	口縁~底	95	
94	50	135	SB13	№11A	中期中葉	深鉢	(13.7)	9.9	(17.9)	胴~底	40	
94	50	136	SB13	№11A	中期中葉	深鉢	15.5	9.4	(24.3)	口縁~底	80	
94	50	137	SB13	№11、№11B、№11C	中期中葉	深鉢	18.8	—	(26.7)	口縁~胴	80	
95	51	138	SB13	№11B、№12A、№23	中期中葉	深鉢	35.7	13.3	49.2	口縁~底	90	
95	51	139	SB13	№24、№24A	中期中葉	深鉢	(28.9)	—	(20.8)	口縁~胴	20	
95	51	140	SB13	№23	中期中葉	深鉢	30.1	—	(26.3)	口縁~胴	40	
95	51	141	SB13	№19A	中期中葉	深鉢	18.5	7.3	26.7	口縁~底	80	
96	52	142	SB13	№19B	中期中葉	深鉢	(37.3)	—	(26.9)	口縁~胴	20	
96	52	143	SB13	№5 F	中期中葉	深鉢	21.9	9.5	(33.5)	口縁~底	90	
96	52	144	SB13	№32	中期中葉	深鉢	26.5	(11.8)	38.5	口縁~底	70	
97	53	145	SB13	№7、№29	中期中葉	深鉢	(24.0)	9.3	46.0	口縁~底	40	
97	53	146	SB13	№7	中期中葉	深鉢	15.3	8.0	25.7	口縁~底	90	
97	53	147	SB13	№7	中期中葉	深鉢	(15.0)	(6.0)	(17.6)	口縁~底	70	
97	53	148	SB13	№7、№17	中期中葉	深鉢	25.7	—	28.2	口縁~胴	60	
97	53	149	SB13	№12C、2クウエ	中期中葉	浅鉢	(41.2)	(13.0)	16.4	口縁~底	40	
98	54	150	SB13	№12B	中期中葉	深鉢	35.3	—	(59.1)	口縁~胴	70	
98	54	151	SB13	№3、№5 H、№32	中期中葉	深鉢	19.1	9.8	27.5	口縁~底	90	
98	54	152	SB13	№1 B	中期中葉	深鉢	16.5	—	(23.1)	口縁~胴	50	
99	55	153	SB13	№3	中期中葉	深鉢	15.9	—	(25.0)	口縁~胴	80	
99	55	154	SB13	№3 C	中期中~後葉	鉢	15.7	6.6	8.8	口縁~底	80	

付表 遺物一覧

図版	PL	図典 番号	遺構	注 記	時期	器 種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	部 位	残存率 %	備 考
99	55	155	SB13	№3 B	中期中～後葉	深鉢	15.4	—	(9.5)	口縁	10	
99	55	156	SB13	№3、№50	中期中～後葉	深鉢	(10.6)	—	(12.7)	口縁～胴	80	
99	55	157	SB13	№6 B、№20	中期中葉	浅鉢	—	10.2	(15.8)	胴～底	80	
99	55	158	SB13	№9、№31	中期後葉	深鉢	—	14.4	(41.3)	胴～底	70	
99	55	159	SB13	№6、№6 A	中期中葉	深鉢	20.7	8.7	28.9	口縁～底	70	
100	56	160	SB13	№6 B	中期中～後葉	深鉢	27.1	10.0	40.8	口縁～底	80	
100	56	161	SB13	№2	中期中～後葉	深鉢	(29.0)	12.0	(41.2)	口縁～底	80	
101	57	162	SB13	№8	中期後葉	深鉢	38.2	—	(45.0)	口縁～胴	50	
101	57	163	SB13	№9、№34	中期中～後葉	深鉢	19.0	—	(19.0)	口縁～胴	40	
101	57	164	SB13	№3、№5 B、5 E、5 F	中期後葉	深鉢	26.0	(10.0)	47.8	口縁～底	70	
101	57	165	SB13	№5	中期中葉	深鉢	10.7	5.1	19.4	口縁～底	80	
101	57	166	SB13	№5 B	中期中葉	深鉢	(27.0)	—	(17.8)	口縁～胴	20	
102	58	167	SB13	№1 A	中期中葉	深鉢	26.1	8.5	(34.7)	口縁～底	90	
102	58	168	SB13	№1 C	中期後葉	深鉢	(14.8)	(11.7)	(24.7)	口縁～胴	40	
102	58	169	SB13	№14 B、1クウエ	中期中葉	深鉢	30.7	—	(41.2)	口縁～胴	70	
102	58	170	SB13	2ク	中期中葉	深鉢	(13.1)	(5.7)	17.0	口縁～底	40	
102	58	171	SB13	№14 A、1ク	中期中～後葉	深鉢	30.3	—	(19.3)	口縁～胴	60	
103	59	172	SB14 B	ウメガメ1、3ク1-2ソウ、 ロ№1、ロ№12	中期中葉	深鉢	—	—	(28.1)	胴～胴	60	伊理設土器
103	59	173	SB14 B	ウメガメ1ドキシユウ	中期中葉	深鉢	—	—	(27.1)	胴	10	
103	59	174	SB14 B	ウメガメ1ドキシキ	中期中葉	深鉢	—	—	(15.4)	胴	70	
104	60	175	SB14 B	ウメガメ3、ウメガメ3ドキシ キロ、ロ№3	中期中葉	深鉢	—	—	(45.0)	胴～胴	—	伊理設土器
104	60	176	SB14 B	ウメガメ1、ウメガメ1ドキシ キ、№2	中期中葉	深鉢	32.2	—	(25.3)	口縁～胴	50	伊理設土器
104	60	177	SB15	マイヨウ、マイヨウナイ	中期中葉	深鉢	(30.0)	—	(10.4)	口縁～胴	20	
104	60	178	SB15	マイヨウ、マイヨウナイ	中期中葉	深鉢	—	—	(9.4)	口縁	—	
105	61	179	SB15	マイヨウ、マイヨウソコ	中期中葉	深鉢	32.4	—	(31.2)	口縁～胴	70	伊理設土器
105	61	180	SB15	マイヨウナイ	中期中葉	深鉢	—	—	(15.5)	胴	—	
105	61	181	SB15	№1、2ク、SR06 3クSN 1- 3ソウ、SR06 EW 1-2ソウ、 SB12 3クトレ、SR23 3ク	中期中葉	浅鉢	(44.0)	—	(14.9)	口縁～胴	20	
105	61	182	SB15	№10-1	中期中葉	台付	—	16.4	6.9	底～台	—	
105	61	183	SB15	№9	中期中葉	深鉢	(15.0)	—	(14.8)	口縁～胴	20	
105	61	184	SB15	4ク	中期中葉	浅鉢	—	—	(4.1)	口縁	—	
105	61	185	SB15	1ク、3ク	中期中葉	深鉢	—	—	(11.0)	口縁～胴	—	
105	61	186	SB15	№3、№6、2ク	中期中葉	深鉢	(17.2)	—	(35.9)	口縁～胴	15	
106	62	187	SB16 A	№1、4ク	中期中葉	深鉢	24.6	10.7	41.2	口縁～底	80	
106	62	188	SB16 A	№5、4ク	中期中葉	深鉢	(25.0)	—	(29.0)	胴	10	
106	62	189	SB16 B	ロBドキシキ	中期中葉	深鉢	—	7.6	(12.6)	胴～底	30	
106	62	190	SB16 B	SB16	中期中葉	深鉢	—	—	(29.6)	胴	60	伊理設土器(内側)
106	62	191	SB16 B	ロBイテソト、ロBソト	中期中葉	深鉢	—	—	(30.3)	胴～胴	40	伊理設土器(外側)
106	62	192	SB16 B	4クトレ	中期中葉	深鉢	—	—	(5.5)	胴	—	
106	62	193	SB16 B	1ク、2ク	中期中葉	深鉢	—	—	(10.6)	口縁～胴	—	
107	63	194	SB17 A	№1、№5、3クトレショウド	中期後葉	深鉢	(33.5)	—	(46.4)	口縁～胴	30	
107	63	195	SB17 A	ピット5	中期中葉	浅鉢	—	—	(9.4)	口縁～胴	—	
107	63	196	SB17 B	ピット3	中期後葉	深鉢	—	—	(14.2)	胴	—	
107	63	197	SB17 B	№1	中期後葉	深鉢	23.2	8.9	32.0	口縁～底	80	
107	63	198	SB17 B	№2、2ク	中期後葉	深鉢	—	—	(18.1)	胴	—	
107	63	199	SB17 B	№1、1ク、1クEカク	中期中～後葉	有孔蹄付	(16.9)	—	(21.5)	口縁～胴	20	
108	64	200	SB18	ロタイ、№4、Wウチ、ソト 2シタ	中期中葉	深鉢	(36.0)	—	(21.0)	口縁～胴	20	
108	64	201	SB18	ロタイソト1ウエ、ロタイソ ト2シタ、ロタイ№2、ロ タイ№3、ロタイ№4	中期中葉	深鉢	32.8	—	(33.8)	口縁～底	70	
108	64	202	SB18	ロタイ、ロタイホンタイ	中期中葉	深鉢	(29.1)	—	(31.8)	胴	60	伊理設土器
108	64	203	SB18	ウメガメウエ、1クE Wベル ト、4ク	中期中葉	深鉢	(9.5)	(6.2)	12.2	口縁～底	30	

図版	PL	図表番号	遺構	注記	時期	器種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	部位	残存率 %	備考
108	64	204	SB18	ビット1	中期中葉	深鉢	(8.0)	4.5	(7.6)	胴~底	30	
108	64	205	SB18	ビット7、4ク	中期中葉	深鉢	(14.8)	(6.6)	20.1	口縁~底	30	
108	64	206	SB18	ビット5№2、№3、キタトレ	中期中葉	深鉢	25.1	10.8	37.6	口縁~底	80	
109	65	207	SB18	№1	中期中葉	深鉢	24.8	—	(31.1)	口縁~胴	20	
109	65	208	SB18	4ク	中期中葉	深鉢	—	—	(5.0)	口縁	—	
109	65	209	SB18	4ク	中期中葉	深鉢	—	—	(4.0)	口縁	—	
109	65	210	SB18	2ク2ソウ	中期中葉	深鉢	—	—	(8.3)	口縁	—	
109	65	211	SB18	4ク、4クウエ	中期中葉	深鉢	(20.4)	—	(20.7)	口縁~胴	20	
109	65	212	SB18	1ク2ソウ	中期中葉	鉢	(21.5)	—	(14.3)	口縁	20	
109	65	213	SB19A	ロタイ、ロタイN	中期中葉	深鉢	(40.0)	—	(24.1)	口縁~胴	40	伊理設土器
109	66	214	SB19A	ロタイ	中期中葉	深鉢	—	—	(15.1)	口縁~胴	—	
109	66	215	SB19A	№1、3クSトレ	中期中葉	深鉢	15.3	9.0	25.4	口縁~底	80	
109	66	216	SB19A	2ク、2クSトレ、3ク、3ク トレ、4ク、4クEWベルト	中期中葉	深鉢	—	(8.2)	(21.7)	胴~底	20	
109	66	217	SB19A	4クEWベルト	中期中葉	深鉢	—	—	(4.5)	口縁付近	—	
109	66	218	SB19A	3ク	中期中葉	深鉢	(23.3)	—	(10.8)	胴	20	
109	66	219	SB19A	3クトレ、SB12 3クトレ、 SR23 3ク	中期中葉	深鉢	—	—	(8.7)	口縁	—	
109	66	220	SB19A	1クEWベルト	中期中葉	深鉢	—	—	(6.3)	口縁	—	
109	66	221	SB19B	ウメガメ	中期中葉	深鉢	(19.7)	—	(18.5)	口縁~胴	60	
109	66	222	SB19B	ウメガメナイ、ウメガメシュ ウ、4ク	中期中葉	深鉢	(22.1)	—	(24.3)	胴	—	
111	67	223	SR23	マイヨウ、4ク	中期中葉	深鉢	26.4	—	(30.6)	口縁~胴	60	伊理設土器
111	67	224	SR23	4ク	中期中葉	深鉢	—	—	(16.3)	口縁~胴	—	
111	67	225	SR23	№1	中期中葉	深鉢	23.5	—	43.2	口縁~底	80	
111	67	226	SR23	3ク、4ク	中期中葉	鉢	(8.8)	6.0	4.9	口縁~底	30	
111	67	227	SR23	4ク	中期中葉	深鉢	(24.6)	—	(23.2)	口縁~胴	10	
111	67	228	SR23	3ク、4ク	中期中葉	深鉢	—	—	(5.5)	口縁	—	
111	67	229	SR23	3ク、4ク	中期中葉	深鉢	—	—	(4.2)	口縁	—	
112	68	230	SR23	№1、3ク	中期中葉	深鉢	(32.6)	—	(38.2)	口縁~胴	30	
112	68	231	SR23	№1、1ク、3ク	中期中葉	深鉢	—	14.4	(39.8)	胴~底	40	
113	69	232	SR23	№2、4ク、SB12 1ク1-2 ソウ、W、ベルト1-3ソウ、 SR26№7 N	中期中葉	深鉢	32.3	—	(59.1)	口縁~胴	30	
113	69	233	SR24	2クウエ	中期中葉	深鉢	—	—	(5.3)	口縁付近	—	
113	69	234	SR24	1クSNベルト、2クウエ、4ク	中期中葉	浅鉢	—	—	(14.4)	口縁~胴	—	
113	69	235	SR24	3クベルト1-3ソウ	中期中葉	深鉢	(12.7)	6.4	16.5	口縁~底	70	
113	69	236	SR24	ロ	中期中葉	深鉢	—	—	(23.2)	胴	30	伊理設土器
113	69	237	SR24	3クベルト1-3ソウ	中期中葉	深鉢	(19.6)	—	(14.9)	口縁~胴	30	
114	70	238	SR24	3ク、3ク2ソウ	中期中葉	深鉢	21.8	—	24.2	口縁~底	60	
114	70	239	SR24	№1、№2、1クSNベルト	中期中葉	深鉢	(24.6)	—	30.1	口縁~底	60	
114	70	240	SR24	№6	中期中葉	深鉢	(20.2)	—	(30.0)	口縁~底	80	
114	70	241	SR24	№10、SB10 1ク	中期中葉	深鉢	(21.2)	10.0	(28.2)	口縁~底	20	
114	70	242	SR24	№8、№9、3ク2-3ソウ	中期中葉	深鉢	(19.1)	(10.5)	(32.3)	口縁~底	60	
114	70	243	SR24	1クベルト1-3ソウ	中期中葉	深鉢	13.0	7.2	16.6	口縁~底	60	
114	70	244	SR24	4ク2ソウ、4ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	22.2	12.0	38.5	口縁~底	80	
115	71	245	SR25	ロ、ロナイ	中期中葉	深鉢	—	—	(22.5)	胴~底	70	
115	71	246	SR25	2ク2ソウ	中期中葉	深鉢	—	—	(3.7)	口縁	—	
115	71	247	SR25	№3	中期中~後葉	深鉢	—	6.1	(12.1)	胴~底	50	
115	71	248	SR25	№1	中期後葉	深鉢	(18.0)	(6.4)	24.6	口縁~底	70	
115	71	249	SR26	ウメガメ	中期中葉	深鉢	(30.5)	—	(21.2)	口縁~胴	50	伊理設土器
115	71	250	SR26	№5	中期中葉	鉢	—	10.0	(10.1)	胴~底	60	
115	71	251	SR26	№14	中期中葉	深鉢	—	(18.0)	(7.0)	底	—	
115	71	252	SR26	№15、3クEW 1-2ソウ、 3クSN 1-3ソウ、4ク1- 3ソウ、1ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	26.3	—	(37.0)	口縁~胴	70	
115	71	253	SR26	№2	中期中葉	深鉢	(18.9)	11.8	33.0	口縁~底	80	
115	71	254	SR26	2ク1-2ソウ	中期中葉	深鉢	(8.0)	—	(5.4)	胴	—	
116	72	255	SR26	№7 S	中期中葉	台付深鉢	22.3	—	(37.0)	口縁~胴	80	

付表 遺物一覧

図版	PL	図典番号	遺構	注記	時期	器種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	部位	残存率 %	備考
116	72	256	SB26	No.3	中期中葉	深鉢	(20.6)	—	30.5	口縁～底	80	
116	72	257	SB26	No.1	中期中葉	深鉢	(30.8)	—	(45.8)	口縁～胴	20	
116	72	258	SB26	3ク1-3ソウ	中期中葉	釣手	—	—	(4.2)	釣手	—	
116	72	259	SB26	4ク1-2ソウ、4クSNトレ	中期中葉	深鉢	—	—	(8.2)	口縁	—	
116	72	260	SB26	3ク1-2ソウ	中期中葉	浅鉢	—	—	(5.7)	口縁	—	
116	72	261	SB26	3ク1-2ソウ	中期中葉	浅鉢	—	—	(4.4)	口縁	—	
117	73	262	SB27	ロ、ロホリナチ、2ク、2ク1-2ソウ、EWベルト	中期中葉	深鉢	(16.5)	(12.0)	(23.0)	口縁～底	10	
117	73	263	SB27	ビッド9	中期中葉	深鉢	(22.9)	—	(19.6)	口縁～胴	20	
117	73	264	SB27	ビッド14	中期中葉	深鉢	—	(11.2)	(14.5)	胴～底	15	
117	73	265	SB27	ビッド9	中期中葉	深鉢	—	—	(10.5)	口縁	—	
117	73	266	SB27	1ク	中期中葉	深鉢	—	—	(7.4)	口縁	—	
117	73	267	SB27	No.3、2ク1-2ソウ、2クトレ	中期中葉	深鉢	(21.5)	(9.3)	—	口縁、胴～底	40	
117	73	268	SB27	1ク1-2ソウ、1クEWベルト、4ク1-2ソウ、4クEWベルト	中期中葉	深鉢	(23.2)	—	—	口縁～胴	10	
117	73	269	SB29	No.3、シシロ	中期後葉	深鉢	—	—	(16.2)	胴	—	
117	73	270	SB29	No.2	中期後葉	深鉢	18.4	6.3	(23.2)	口縁～底	70	
117	73	271	SB29	No.1	中期後葉	浅鉢	—	—	(13.1)	口縁～胴	—	
118	74	272	SB29	キュウロ1	中期後葉	深鉢	(12.0)	—	(17.2)	口縁～胴	25	
118	74	273	SB29	キュウロ2	中期後葉	深鉢	14.5	(8.6)	(32.2)	口縁～底	90	
118	74	274	SB29	No.10、2ク	中期後葉	深鉢	(21.0)	—	(28.1)	口縁～胴	50	
118	74	275	SB29	ビッド2	中期後葉	鉢	(14.3)	6.6	7.0	口縁～底	70	
118	74	276	SB29	ビッド1	中期後葉	深鉢	(26.0)	—	(32.3)	口縁～胴	20	
118	74	277	SB29	No.11	中期後葉	深鉢	11.4	—	25.7	口縁～底	80	
118	74	278	SB29	No.5	中期後葉	深鉢	17.0	—	25.7	口縁～胴	80	
118	74	279	SB29	No.6、1ク	中期後葉	深鉢	—	(7.2)	(19.7)	胴～底	70	
119	75	280	SB30	マイヨウ1、マイヨウ2	中期中葉	深鉢	—	—	(16.6)	胴	30	伊禮設土器
119	75	281	SB30	マイヨウ1、マイヨウ2	中期中葉	深鉢	—	—	(21.4)	胴	50	伊禮設土器
119	75	282	SB30	No.3、3ク	中期中葉	深鉢	28.2	14.3	28.6	口縁～底	60	
119	75	283	SB30	No.5	中期中葉	深鉢	(24.1)	9.9	—	口縁～胴～底	30	
119	75	284	SB30	No.6、No.7、2ク、SB29	中期中葉	深鉢	(26.2)	10.0	32.7	口縁～底	50	
119	75	285	SB30	No.4、2ク、SB52 1ク	中期中葉	有孔円付	(28.2)	14.3	(13.4)	口縁～胴	10	
119	75	286	SB30	4ク、SB27ビッド7	中期中葉	深鉢	—	—	(5.5)	胴	—	
119	75	287	SB30	4ク、4クトレ	中期中葉	深鉢	14.3	—	14.3	口縁	—	
120	76	288	SB37	ビッド4	中期中葉	深鉢	—	—	(17.3)	胴	—	
120	76	289	SB37	No.1、2-3ケン	不明	深鉢	(26.2)	—	(46.1)	口縁～胴	50	
120	76	290	SB37	1ク、1-4ク	中期中葉	深鉢	(29.4)	(9.6)	(32.4)	口縁～底	60	
120	76	291	SB41	ベルト	中期後葉	深鉢	—	—	(6.5)	胴	—	
120	76	292	SB41	ベルト	中期後葉	深鉢	—	—	(6.2)	胴	—	
120	76	293	SB41	ベルト	中期後葉	深鉢	—	—	(5.5)	胴	—	
120	76	294	SB41	ベルト	中期後葉	深鉢	—	—	(7.7)	胴	—	
120	76	295	SB42	ロタイ	中期中葉	深鉢	(25.3)	—	(19.9)	口縁～胴	40	伊禮設土器
120	76	296	SB42	マイヨウ	中期中葉	深鉢	21.5	—	(18.1)	口縁～胴	60	
121	77	297	SB42	ビッド4、4ク	中期中葉	鉢	(18.8)	—	(6.5)	口縁～胴	30	
121	77	298	SB42	4ク	中期中葉	深鉢	(18.2)	—	(20.4)	口縁～胴	40	
121	77	299	SB42	ロウエ	中期中葉	深鉢	—	—	(11.8)	口縁～胴	—	
121	77	300	SB42	No.2、No.3、1ク	中期中葉	深鉢	20.0	—	(19.0)	口縁～胴	40	
121	77	301	SB42	No.9、2ク	中期中葉	深鉢	(19.3)	11.5	31.2	口縁～底	90	
121	77	302	SB42	1ク、1クSNトレ	中期中葉	深鉢	—	—	(15.1)	口縁～胴	—	
121	77	303	SB42	No.10	中期中葉	深鉢	—	—	(30.9)	口縁～底	80	
122	78	304	SB43A	No.2	中期後葉	深鉢	10.2	6.1	18.3	口縁～底	90	
122	78	305	SB43A	2ク、1ク、4ク、	中期～後葉	深鉢	—	(6.0)	(12.0)	胴～底	20	
122	78	306	SB43A	3ク、4ク	中期～後葉	深鉢	—	—	(9.8)	胴	—	
122	78	307	SB43B	マイヨウ、マイヨウロソト	中期中葉	深鉢	—	(19.6)	(29.7)	胴～底	30	
122	78	308	SB43B	ロタイ、マイヨウ	中期中葉	深鉢	—	—	(20.6)	胴	40	伊禮設土器
122	78	309	SB43B	ロ、ビッド23	中期中葉	深鉢	—	—	(4.7)	口縁～胴	—	

国版	PL	陶器 番号	遺構	注 記	時期	器 種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	部 位	残存率 %	備 考
122	78	310	SB43B	ビッド23、1ク	中期中葉	深鉢	—	—	(8.8)	胴	—	
122	78	311	SB43B	ビッド24	中期中葉	深鉢	—	—	(16.2)	胴	—	
122	78	312	SB44	ドキシユウ	中期中葉	深鉢	(21.6)	(16.2)	(25.5)	胴	30	
122	78	313	SB44	ケン	中期中葉	器台	(15.3)	14.9	10.1	受け部～胴	60	
123	79	314	SB45	3ク	中期後葉	釣手	—	—	(13.1)	釣手部・胴	—	
123	79	315	SB45	2ク	中期後葉	深鉢	—	—	(7.6)	胴	—	
123	79	316	SB45	口、3ク	中期後葉	深鉢	—	—	(20.4)	胴	10以下	
123	79	317	SB45	2ク、3ク、4ク、EWベルト	中期後葉	深鉢	—	9.6	(27.6)	胴～底	70	
123	79	318	SB46	口No.1、1ク	中期中葉	深鉢	—	—	(16.6)	口縁～胴	50	伊理設土器
123	79	319	SB46	No.7、2ク	中期中葉	浅鉢	(36.6)	12.0	14.3	口縁～底	30	
123	79	320	SB46	No.4、2ク	中期中葉	深鉢	(31.8)	—	(27.0)	口縁～胴	20	
124	80	321	SB46	No.2、4ク	中期中葉	深鉢	(27.8)	12.6	26.6	口縁～底	80	
124	80	322	SB46	No.7、4ク	中期中葉	深鉢	(21.2)	—	(21.0)	口縁～胴	70	
124	80	323	SB46	No.6、3ク、4ク	中期中葉	深鉢	—	(17.6)	56.1	口縁～底	80	
124	80	324	SB46	3ク	中期中葉	深鉢	—	—	(8.2)	口縁	—	
124	80	325	SB46	1ク、No.7	中期中葉	深鉢	(18.5)	(8.2)	(21.9)	口縁～底	30	
125	81	326	SB47	No.1、3ク、4ク	中期中葉	深鉢	30.8	—	(48.6)	口縁～胴	50	
125	81	327	SB47	No.4、No.5、2ク	中期中葉	深鉢	22.9	10.6	(40.8)	口縁～底	80	
125	81	328	SB47	2ク	中期中葉	深鉢	(17.4)	9.5	27.6	口縁～底	80	
126	82	329	SB47	2ク、3ク、No.5	中期中葉	深鉢	(16.8)	(9.5)	20.8	口縁～底	40	
126	82	330	SB47	No.6	中期中葉	浅鉢	(53.6)	(12.6)	11.4	口縁～底	20	
126	82	331	SB48	No.2、2ク、3ク	中期中～後葉	深鉢	(18.0)	(9.3)	(25.8)	口縁～底	30	
126	82	332	SB48	2ク	中期中～後葉	深鉢	—	—	(9.7)	口縁	10以下	
126	82	333	SB48	3ク	中期中～後葉	深鉢	—	—	(3.0)	胴	—	
126	82	334	SB49	ドキシユウ、1ク、2ク、3ク	中期中葉	深鉢	(26.3)	—	(34.6)	口縁～胴	30	
126	82	335	SB49	No.1、3ク	中期中葉	深鉢	17.1	9.0	24.9	口縁～底	70	
127	83	336	SB49	3ク	中期中葉	深鉢	—	—	(4.3)	口縁	—	
127	83	337	SB49	No.1、1ク、3ク、4ク	中期中葉	深鉢	(20.8)	—	(11.4)	口縁～底	10	
127	83	338	SB50	マイヨウW	中期中葉	深鉢	—	—	(18.8)	胴	20	伊理設土器
127	83	339	SB50	マイヨウE	中期中葉	深鉢	(34.7)	—	(20.4)	胴	20	伊理設土器
127	83	340	SB50	ビッド3	中期中葉	深鉢	—	7.6	(9.8)	胴～底	60	
127	83	341	SB50	ビッド7	中期中葉	深鉢	(12.0)	(7.0)	(23.2)	口縁～底	70	
127	83	342	SB50	ビッド7、1ク、4ク	中期中葉	深鉢	(28.0)	(18.2)	(22.5)	口縁～胴下	10	
127	83	343	SB50	ビッド1	中期中葉	深鉢	(8.2)	(4.2)	13.3	口縁～底	20	
127	83	344	SB50	No.1	中期中葉	深鉢	(11.8)	7.3	23.8	口縁	90	
127	83	345	SB50	4ク	中期中葉	深鉢	—	—	(6.9)	突起	—	
128	84	346	SB52	ロタイ、No.50ナイ	中期中葉	深鉢	36.0	—	(31.9)	口縁～胴	60	伊理設土器
128	84	347	SB52	ビッド8、No.6、4ク	中期中葉	深鉢	22.6	12.1	(26.0)	口縁～底	90	
128	84	348	SB52	No.3、2ク、2クSNベルト	中期中葉	深鉢	—	10.7	(11.0)	胴～底	30	
128	84	349	SB52	1ク、3ク、4ク	中期中葉	深鉢	(26.8)	—	(25.5)	口縁～胴	20	
129	85	350	SB52	No.1、No.3	中期中葉	深鉢	28.0	—	(44.7)	口縁～胴	70	
129	85	351	SB52	3ク	中期中葉	深鉢	13.6	5.7	17.2	口縁～底	70	
129	85	352	SB52	No.2	中期中葉	深鉢	23.0	—	(38.5)	口縁～胴	90	
129	85	353	SB52	No.1、No.2、SB19A、SB23 3ク	中期中葉	深鉢	—	—	(14.4)	口縁～胴	90	
129	85	354	SB57	マイヨウ	中期後葉	深鉢	13.4	—	(16.1)	口縁～胴	90	
129	85	355	SB57	1ク、2ク	中期後葉	深鉢	(25.4)	—	(20.8)	口縁～胴	20	
130	86	356	SB59	ビッド3	中期後葉	深鉢	—	—	(4.8)	胴	—	
130	86	357	SB59	1ク、2ク	中期後葉	深鉢	—	—	(11.0)	胴	—	
130	86	358	SB59	No.1	中期後葉	深鉢	—	—	(9.8)	胴	—	
130	86	359	SB60	ビッド6	中期中～後葉	浅鉢	—	—	(6.9)	口縁～胴	—	
130	86	360	SB60	ユカ	中期後葉	深鉢	—	6.1	(6.7)	胴～底	20	
130	86	361	SB60	No.5	中期後葉	深鉢	9.0	6.1	14.4	口縁～底	90	
130	86	362	SB60	3ク、トレ	中期後葉	深鉢	(12.7)	—	(16.3)	口縁～胴	10	
130	86	363	SB60	No.1、1ク	中期後葉	深鉢	(10.1)	6.1	27.2	口縁～底	80	
130	86	364	SB61	ロタイ、ロ	中期中葉	深鉢	—	—	(26.6)	胴	40	伊理設土器
130	86	365	SB61	ロタイ、ロタイソコハリ	中期中葉	深鉢	14.4	—	(10.0)	口縁～胴	30	

付表 遺物一覧

図版	PL	図典番号	遺構	注記	時期	部 種	口徑 cm	底径 cm	器高 cm	部 位	残存率 %	備 考
130	86	366	SB61	ロタイ	中期中葉	深鉢	—	—	(11.1)	口縁~胴	—	—
130	86	367	SB61	ビット8	中期中葉	深鉢	—	—	(9.8)	胴~底	—	—
131	87	368	SB63	2ク	中期後葉	深鉢	—	—	(9.5)	口縁~胴	—	—
131	87	369	SB63	4ク	中期後葉	深鉢	—	—	(4.4)	胴	—	—
131	87	370	SB63	3ク	中期後葉	深鉢	—	—	(6.8)	口縁	—	—
131	87	371	SB63	3ク、4ク	中期後葉	深鉢	—	—	(10.0)	胴	—	—
131	87	372	SB64	№1、1ク、SB23	中期後葉	深鉢	22.2	9.0	35.4	口縁~底	90	—
131	87	373	SB64	1ク	中期後葉	深鉢	—	—	(2.1)	口縁	—	—
131	87	374	SB64	1ク	中期後葉	深鉢	—	—	(11.6)	口縁~胴	30	—
131	87	375	SB64	№1、1ク、2ク	中期後葉	深鉢	(21.3)	(8.4)	23.2	口縁~底	50	—
131	87	376	SB65	ビット7	中期中葉	深鉢	31.5	10.7	51.6	口縁~底	80	—
132	88	377	SB65	3ク、4ク	中期後葉	深鉢	(31.8)	—	(20.0)	口縁~胴	20	—
132	88	378	SB65	EWトレ、ユカ	中期後葉	深鉢	—	—	(5.6)	口縁	—	—
132	88	379	SB65	3ク、DS17	中期後葉	深鉢	(17.6)	—	(13.3)	口縁~胴	10	—
132	88	380	SB66	№1、1ク、4ク	中期後葉	深鉢	(41.0)	—	(53.2)	口縁~胴	60	—
132	88	381	SB66	№3、4ク、DS26	中期後葉	深鉢	(17.0)	—	(7.3)	口縁~胴	10	—
132	88	382	SB66	№2、4ク	中期後葉	深鉢	12.7	6.4	18.8	口縁~底	60	—
133	89	383	SF 2	SF 2	中期中葉	深鉢	—	—	(6.1)	胴	—	—
133	89	384	SF 2	SF 2	中期中葉	深鉢	—	—	(4.5)	胴	—	—
133	89	385	SF 3	SB14Bソト	中期中葉	有孔円付	14.0	9.3	29.0	口縁~底	90	—
133	89	386	SF 3	№2、SB14Bソト	中期中葉	深鉢	—	—	(20.0)	口縁~底	80	—
134	90	387	SK42	№2	中期中葉	深鉢	(31.5)	19.5	56.7	口縁~底	80	—
134	90	388	SK42	№1	中期中葉	深鉢	—	7.4	16.1	胴~底	70	—
134	90	389	SK43	SK43	中期中葉	深鉢	—	—	(4.6)	胴	—	—
134	90	390	SK48	SK48	中期中葉	深鉢	—	—	(7.8)	胴	—	—
135	91	391	SK49	№3	中期中葉	深鉢	20.1	—	(32.5)	口縁~胴	20	—
135	91	392	SK49	№2、№4	中期中葉	深鉢	—	—	(29.4)	胴	30	—
135	91	393	SK51	SK51	中期後葉	深鉢	—	—	(7.5)	口縁	—	—
135	91	394	SK51	SK51	中期中葉	深鉢	—	—	(5.2)	口縁	—	—
135	91	395	SK51	SK51	中期中葉	深鉢	—	—	(5.2)	胴	—	—
135	91	396	SK51	SK51	中期中葉	深鉢	—	—	(13.5)	口縁	—	—
135	91	397	SK53	SK53	中期中葉	深鉢	—	—	(4.4)	胴	—	—
135	91	398	SK53	SK53	中期中葉	深鉢	—	—	(4.1)	胴	—	—
136	92	399	UG 1	ウメガメ1	中期中葉	深鉢	(32.5)	11.5	50.4	口縁~底	90	—
136	92	400	UG 3	ウメガメ3、シュウヘン	中期後葉	深鉢	(38.4)	10.1	47.5	口縁~底	90	—
137	93	401	UG 2	ウメガメ2、B]19ウメガメ	中期中葉	深鉢	—	—	(44.5)	胴	60	—
138	94	402	UG 4	ウメガメ4	中期後葉	深鉢	(41.2)	12.7	58.0	口縁~底	90	—
138	94	403	UG 5	ウメガメ5	中期後葉	深鉢	(30.7)	—	(36.0)	口縁~胴	60	—
138	94	404	UG 6	ウメガメ6、ドキシウ	中期	深鉢	—	7.9	(12.5)	胴~底	20	—
138	94	405	UG 7	ウメガメ7	中期中葉	深鉢	—	(7.9)	(6.8)	胴~底	30	—
139	95	406	UG 8	ウメガメ8	中期中葉	深鉢	—	15.0	(50.8)	胴	70	—
139	95	407	UG 9	SB27№1	中期中葉	深鉢	40.0	14.6	61.6	口縁~底	80	—
140	96	408	UG10	ウメガメ10、タイプ	中期中葉	深鉢	—	(18.6)	(46.1)	胴~底	40	—
140	96	409	UG11	ウメガメ11	中期中葉	深鉢	—	11.1	(34.5)	胴~底	—	—
140	96	410	UG12	ウメガメ12	中期中葉	深鉢	—	(15.6)	(21.4)	口縁~胴~底	10以下	—
141	97	411	UG13	ウメガメ13 シュウヘン	中期中葉	深鉢	—	16.2	(47.0)	口縁~底	70	—
141	97	412	UG14	ウメガメ14	中期中葉	深鉢	—	—	(38.3)	胴~底	—	—
142	98	413	UG15	ウメガメ15、ウメガメ15ナイ	中期中葉	深鉢	(34.5)	15.0	55.2	口縁~底	70	—
142	98	414	UG16	ウメガメ16	中期後葉	深鉢	(19.6)	9.4	26.3	口縁~底	80	—
142	98	415	UG17	ウメガメ17	中期中葉	深鉢	—	14.5	(20.9)	胴~底	40	—
143	99	416	UG18	ウメガメ18	中期中葉	深鉢	(38.9)	22.0	(60.1)	口縁~底	50	—
143	99	417	UG20	ウメガメ20	中期中葉	深鉢	(36.0)	—	(28.0)	口縁~胴	10以下	—
144	100	418	UG19	ウメガメ19	中期中葉	深鉢	—	19.1	(44.0)	胴~底	40	—
144	100	419	UG21	ウメガメ21	中期後葉	深鉢	—	7.3	(12.7)	胴~底	20	—
144	100	420	UG22	ウメガメ22	中期中葉	深鉢	—	—	(19.1)	胴	—	—
144	100	421	UG23	ウメガメ23	中期中葉	深鉢	—	11.0	(9.0)	胴~底	20	—

図版	PL	図帳 番号	遺構	注 記	時期	器 種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	部 位	残存率 %	備 考
144	100	422	UG25	ウメガメ25	中期中葉	深鉢	—	14.4	(31.0)	胴~底	40	
144	100	423	UG26	ウメガメ26	中期中~後葉	深鉢	(12.0)	—	(6.0)	口縁	10	
144	100	424	UG26	ウメガメ26	中期中葉	深鉢	(10.8)	—	(7.2)	口縁	10	
145	101	425	UG27	ウメガメ27	中期後葉	深鉢	(27.7)	10.8	40.0	口縁~底	80	
145	101	426	UG28	ウメガメ28	中期中葉	深鉢	—	17.7	(49.5)	胴~底	80	
146	102	427	UG29	ウメガメ29、ウメガメ5シュウヘン	中期中葉	深鉢	21.6	11.9	35.7	口縁~底	80	
146	102	428	UG30	ウメガメ30	中期中葉	深鉢	—	11.6	(29.8)	胴~底	60	
146	102	429	UG31	ウメガメ31	中期後葉	深鉢	—	(10.0)	(14.7)	胴~底	30	
146	102	430	UG32	ウメガメ32	中期中葉	深鉢	—	14.1	(22.5)	胴~底	40	
146	102	431	UG33	ウメガメ33、ⅡJ24ウメガメ	中期中葉	深鉢	(18.1)	10.0	28.2	口縁~底	80	
146	102	432	UG34	ウメガメ34	中期中葉	深鉢	—	20.6	(13.7)	胴~底	20	
146	102	433	UG35	ウメガメ35ホソノタイ	中期中葉	深鉢	—	12.0	(7.5)	胴~底	10	
146	102	434	UG35	ウメガメ35ホソノタイ	中期中葉	深鉢	—	(12.0)	(7.7)	胴~底	10	
147	103	435	DS 1	ドキシユウチュウ1、ドキシユウチュウ1ケン	中期後葉	深鉢	(32.3)	—	(34.4)	口縁~胴	40	
147	103	436	DS 2	SK35	中期中葉	有孔跨付	—	—	(34.0)	胴	10	
147	103	437	DS 2	SK35	中期中葉	浅鉢	38.9	13.6	20.2	口縁~底	80	
147	103	438	DS 2	DS 2、SK54	中期中葉	深鉢	—	—	(33.2)	口縁	20	
148	104	439	DS 4	DS 4	中期後葉	深鉢	(14.7)	—	(26.5)	胴	40	
148	104	440	DS 5	DS 5、DM 5	中期後葉	台付深鉢	(14.8)	—	(25.4)	口縁~台縁合部	40	
148	104	441	DS 7	DS 7	中期後葉	深鉢	13.8	(5.9)	22.7	口縁~底	80	
148	104	442	DS 8	DS 8	中期中葉	深鉢	—	10.1	(25.9)	胴~底	30	
148	104	443	DS 8	DS 8	中期後葉	深鉢	(12.4)	—	(17.9)	口縁~胴	—	
149	105	444	DS 9	DS 9	中期中葉	深鉢	45.0	13.2	59.7	口縁~底	50	
149	105	445	DS13	DS13	中期中葉	深鉢	(24.7)	13.7	26.0	口縁~底	80	
149	105	446	DS19	DS19	中期中葉	深鉢	—	7.9	(8.5)	胴~底	20	
150	106	447	DS22	DS22	中期中葉	深鉢	23.3	—	(29.0)	口縁~胴	30	
150	106	448	DS23	ウメガメ2NWシュウヘン、4ケン、ⅡJ19ウメガメ	中期中葉	有孔跨付	(24.1)	17.2	58.5	口縁~底	60	
150	106	449	DS99	8チクテSH58	中期後葉	深鉢	(20.1)	7.4	33.1	口縁~底	80	
151	107	450	遺構外	SB71ク、2チクミチ、2チクZ	中期後葉	釣手	—	(11.8)	(29.9)	釣手部・口縁~底	—	
151	107	451	遺構外	ZⅡJ23	中期中葉	器台	(16.8)	—	(2.7)	受け面	20	
151	107	452	遺構外	DS24	中期中葉	深鉢	—	—	(3.8)	口縁	—	
151	107	453	遺構外	DS25	中期中葉	深鉢	—	—	(3.9)	口縁	—	
151	107	454	遺構外	6チクミチケン	中期中葉	深鉢	—	—	(3.7)	口縁	—	
151	107	455	遺構外	ⅢK14・19	中期中葉	深鉢	—	—	(2.3)	口縁	—	
151	107	456	遺構外	ⅡJ20・25、ⅢF16・21	前期前葉~ 中期初葉	深鉢	—	—	(5.0)	口縁	—	
151	107	457	遺構外	ⅡT24	前期前葉~ 中期初葉	深鉢	—	—	(3.1)	胴	—	
151	107	458	遺構外	ⅡI24・25、ⅡN04・05	前期前葉~ 中期初葉	深鉢	—	—	(5.1)	胴	—	
151	107	459	遺構外	ⅡJ20・25、ⅢF16・21	中期初葉	深鉢	—	—	(3.0)	胴	—	
151	107	460	遺構外	ⅡE17・22	中期初葉	深鉢	—	—	(2.5)	胴	—	
151	107	461	遺構外	ⅡI19・23・24	中期初葉	深鉢	—	—	(3.5)	胴	—	
151	107	462	遺構外	ⅡE18・23	中期初葉	深鉢	—	—	(6.3)	胴	—	

付表7 縄文時代土偶一覧

※計測値のうち()は残存値を示す。

図版	PL	掲載 番号	遺構	注 記	高さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	残存部位	技 法	形態・装飾等
152	108	1	SB9	SB9	(8.2)	(10.3)	(4.1)	(223.4)	臀部 (腹側破損)	分割塊	出尻ではない立像 臀部・脇・脚部に太い半沈線 腹側溝ぎ取り 雲母片入る
152	108	2	SB12	4ク1-2ソウ	(5.6)	(4.3)	(2.8)	(48.2)	頭部と左胸部 (乳房残存)	分割塊?	やや扁平 顔面貼付 頭部装飾なし 鼻下に二本線 雲母なく在地に近い胎土か 焼き色は灰白
152	108	3	SB15	4クNo8	(6.0)	(9.1)	(2.9)	(96.4)	胸~胴、両腕	分割塊	扁平 手先表現なし 両腕に三角形押引文 顔み隆線の正中線
152	108	4	SB19A	1クサブトレ6	(9.2)	(4.1)	(1.9)	(53.7)	胸~体部下半	分割塊	胴長 半沈線 正中線と胸下・腰に文様 割られ、背中を割ぎ取られてる
153	109	5	SB19B	4ク	(5.2)	(6.1)	(4.2)	(73.1)	頭部~頸部	分割塊	手円形顔面 変飾(一部のみ残存) 頭部はか隆線文
153	109	6	SB24	2ク2ソウ	(6.8)	(5.5)	(2.1)	(69.1)	頭~胸・背部 (両腕・石乳房欠)	?	扁平 頭部に簡略化された頭髪? 装飾少なくシンプル
153	109	7	SB42	4ク	(2.9)	(3.2)	(1.6)	(9.1)	胴部	手びねり	頭部のない扁平超小形 右胸一部残存
153	109	8	SB43B	ビット19	(4.9)	(4.7)	(2.0)	(43.7)	頭部	分割塊	扁平 珍しく頭部に装飾なし
153	109	9	SB46	No5	(6.0)	(6.6)	(5.1)	(101.4)	頭部~頸部	分割塊	おむすび形 頭部隆線溝巻はか胴部に平行沈線 顔面は割り取られている
154	110	10	SB49	4ク	(5.4)	(3.9)	(2.4)	(27.0)	右側胴部		腕は未発達 脇に連続三角押文
154	110	11	SB50	1ク	(5.4)	(5.3)	(3.2)	(46.9)	頭部	芯+表表面	扁平 把手付き 沈線のみ扁平なし
154	110	12	SB57	ビット1	(3.8)	(4.5)	(2.4)	(35.3)	頭部 (後頭部一部剥落)	沈線で顔面を 頭と分ける	扁平な頭部 頬にフック状の沈線
154	110	13	SB66	SB66	(5.1)	(4.2)	(3.6)	(72.5)	胴部	分割塊	出尻 鋭利な道具による沈線装飾 両脚・体部上半を切り取り
154	110	14	遺構外	Z	(4.4)	(5.0)	(3.3)	(49.5)	頭部(頭頂部欠)	分割塊	中葉以降の頭部形態 頭頂部~後頭部隆線装飾欠損 鼻下に縦沈線あり
155	111	15	遺構外	SB46	(5.2)	(6.9)	(3.5)	(104.2)	土偶装飾付土器の 左肩バット	—	顔内神像土器型 手載竹管先端部の連続刺突突塊 土偶装飾付土器
155	111	16	遺構外	チュウオウケン	(6.5)	(8.3)	(5.0)	(121.7)	頭部~頸部	—	横さ字+三叉口・円筒顔部 後頭部に片目横さ字 頭部連続刺突土偶装飾付土器の可能性あり
155	111	17	遺構外	■K14・19	(6.2)	(6.7)	(5.6)	(117.8)	頭部~頸部	—	顔無三角頭+円筒顔部 頭頂部円文はか 頭部連続刺突 土偶装飾付土器の可能性あり

付表8 縄文時代ミニチュア土器一覧

※計測値のうち()は推定値、()は残存値を示す。

国版	PL	掲載 番号	遺構	注 記	口径 cm	底径 cm	器高 cm	重さ g	残存部位	残存率 %	特 徴
156	112	1	SB1	ドキシユウ	3.4	—	1.1	7.24	口縁~底部	95	身形
156	112	2	SB4	ユカNo.1	—	3.2	(3.6)	25.83	胴部~底部	40	指おさえ痕
156	112	3	SB6	P 4	2.4	—	2.6	14.37	口縁~底部	95	模様は単沈線 指おさえ痕
156	112	4	SB9	1ク	3.2	—	2.5	23.6	口縁~底部	95	底に爪痕 内外面とも指おさえ 成形雑
156	112	5	SB9	SB9	2.3	1.9	2.7	18.25	口縁~底部	95	内外面とも指おさえ 外面沈線
156	112	6	SB9	SB9	(2.2)	(2.4)	2.3	16.17	胴部~底部	95	内外面とも指おさえ 外面沈線
156	112	7	SB9	SB9	4.8	—	1	36.97	口縁~底部	95	ナデ 磨きなし 器面成形丁寧
156	112	8	SB13	1クウエ	1.2	—	1.4	6	口縁~底部	100	超小形 欠損なし 内外面指おさえ
156	112	9	SB13	2ク	(4.2)	1.5	(3.7)	29.6	胴部~底部	60	細長い器形 口縁欠損 内外面指おさえ
156	112	10	SB13	2ク	3.7	1.3	2.2	26.47	口縁~底部	95	高さのない器形 口縁一部欠損 内外面指おさえ
156	112	11	SB18	SB18	3.4	—	2.3	15.62	口縁~胴部	70	台付上部 台部欠損 内外面ナデ成形やや雑
156	112	12	SB18	P 7	2.8	—	2.3	24.66	口縁~底部	90	身形 口縁一部欠損
156	112	13	SB61	SB61	4.2	1.5	2.7	16.84	口縁~底部	70	口縁端部削み 内外面指おさえ
156	112	14	SB63	SB63	2.4	2	4	28.63	口縁~底部	100	外面 円形刺突で充填
156	112	15	遺構外	3チクケン	(1.9)	—	1.9	3.42	口縁~底部	60	超小形 内外面指おさえ

付表9 縄文時代土製品一覧

※計測値のうち()は残存値を示す。

国版	PL	掲載 番号	遺構	注 記	器種	長軸 cm	短軸 cm	重さ g	利用部位(土鈴以外) 残存部位(土鈴)	焼 成
157	112	1	SB10	1ク	土製円板	3.6	3.8	13.46	胴部	良
157	112	2	SB10	4ク	土製円板	6.2	6.2	28.53	胴部	良
157	112	3	SB12	3ク24	土製円板	5.4	(6.9)	(57.8)	胴部	良
157	112	4	SB13	1ク	土製円板	4.7	3.8	18.06	胴部	良
157	112	5	SB19A	3ク	土製円板	5.7	5.8	36.48	胴部	良
157	112	6	SB25	4ク1-2ソウ	土製円板	4.8	4.2	19.93	胴部	良
157	112	7	SB49	1ク	土製円板	2.5	3	8.03	胴部	良
157	112	8	SB49	1ク	土製円板	2.1	2.3	4.65	胴部	良
157	112	9	SB50	4ク	土製円板	4.4	4.8	25.91	胴部	良
157	112	10	SB52	SB52	土製円板	4.5	5	25.27	胴部	良
157	112	11	SB57	2ク	土製円板	4.6	4.9	29.7	胴部	良
157	112	12	SB61	1ク	土製円板	5.5	5.8	32.28	胴部	良
157	112	13	遺構外	8チク	土製円板	3.7	3.9	16.33	胴部	良
157	112	14	遺構外	6チク	土製円板	2.9	3.5	13.97	胴部	良
157	112	15	SB27	SB27 2ク	土器片鏝	4.4	3.5	15.17	胴部	良
157	112	16	SB30	SB30 4ク	土器片鏝	3.8	4.7	23.64	胴部	良
157	112	17	SB47	SB47 4ク	土鈴	—	—	(6.14)	胴部	良
157	112	18	遺構外	2チク	土鈴	—	—	(1.82)	胴部	良

付表10 縄文時代石器一覧

※計測値のうち()は残存値を示す。

図版番号	PL番号	掲載番号	遺構	出土位置	器種	石材	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備考
158	113	1	SB1	①区 1層	石核	黒曜石	58	41	14	29.6	
158	113	2	SB1	北東1層	磨製石斧	緑色岩	108	58	31	280.9	
—	113	3	SB1	No.4	凹石	頁岩	130	78	42	596.1	
—	113	4	SB1	北台石	台石	安山岩 (410)	320	60	11500.0	科学分析	
158	113	5	SB4	土器集中	石匙	泥岩	92	40	13	44.9	
158	113	6	SB9	風割木	石鏃	黒曜石	27	16	4	1.6	
158	113	7	SB9	—	石鏃	黒曜石 (50)	9	8	4.2		
158	113	8	SB9	覆土	石鏃	砂岩	47	36	14	20.4	
158	113	9	SB9	—	ビエス・エスキュー	黒曜石	23	12	6	1.2	
158	113	10	SB9	覆土	石核	黒曜石	36	25	15	9.0	
158	113	11	SB9	①区	石匙	砂岩	31	108	12	42.6	摩耗著しい
158	113	12	SB9	—	石匙	凝灰岩	146	46	18	133.9	
159	113	13	SB9	④区 フク土	スクレイパー	砂岩	65	62	18	64.3	全面摩耗著しい
159	113	14	SB9	P7	スクレイパー	泥岩	55	91	10	51.9	
159	113	15	SB9	覆土	スクレイパー	砂岩	52	84	11	48.7	
159	113	16	SB9	覆土	スクレイパー	砂岩	53	79	21	77.7	
159	113	17	SB9	覆土	スクレイパー	砂岩	65	91	13	84.1	
160	113	18	SB9	P6	打製石斧	片岩	127	79	25	269.2	
160	113	19	SB9	—	打製石斧	ホルンフェルス	140	54	22	176.5	
160	113	20	SB9	P7	打製石斧	蛇紋岩 (115)	41	(16)	88.6		
160	113	21	SB9	①区	磨製石斧	緑色岩	168	56	41	586.9	
160	113	22	SB9	No.10	磨製石斧	緑色凝灰岩	174	52	42	617.3	
160	114	23	SB9	No.11	台石	安山岩	177	172	61	2700.0	
160	114	24	SB9	③区	台石	砂岩 (190)	(100)	60	1600.0	非化する。線状痕著しい	
160	114	25	SB10	—	石匙	緑色岩	100	41	7	46.1	
—	114	26	SB10	③区フク土内一括	台石	砂岩	180	140	50	2200.0	
—	114	27	SB10	No.34	台石	花崗岩	252	190	85	5100.0	窪みあり
161	114	28	SB11	検出時一括	石鏃	黒曜石 (30)	(18)	8	3.6		
161	114	29	SB11	覆土	石鏃	黒曜石	30	(21)	3	0.8	
161	114	30	SB11	—	石鏃	黒曜石	21	6	5	0.5	
161	114	31	SB11	—	ビエス・エスキュー	黒曜石	17	19	5	1.6	
161	114	32	SB11	サブトレ内	石核	黒曜石	26	25	11	7.5	
161	114	33	SB11	サブトレ内	スクレイパー	泥岩	36	95	10	31.1	
161	114	34	SB11	—	スクレイパー	緑色岩	51	84	17	69.4	
161	114	35	SB11	覆土	打製石斧	泥岩	50	102	16	112.8	
161	114	36	SB11	サブトレ内	打製石斧	緑色岩	116	(42)	(15)	68.1	
161	114	37	SB11	①区	打製石斧	緑色岩	143	51	15	130.9	未使用か
161	114	38	SB11	③区	磨製石斧	緑色岩 (143)	61	35	490.1		
—	114	39	SB11	③区南北サブトレ フク土1～2層	凹石	安山岩	96	82	56	514.2	
162	114	40	SB12	サブトレ内	石鏃	黒曜石	22	14	4	1.0	
162	114	41	SB12	1～2層	石鏃	黒曜石	23	(15)	6	1.2	
—	114	42	SB12	No.17	台石	砂岩	280	(180)	100	9500.0	一部敲打痕あり
—	114	43	SB12	No.18	棒状石	安山岩	640	270	150	34400.0	
162	115	44	SB13	床面	砥石	凝灰岩	90	34	12	57.6	
—	115	45	SB13	No.33	台石	安山岩	250	200	60	5400.0	
162	115	46	SB14B	フク土1～2層	石鏃	黒曜石	24	14	3	0.8	
162	115	47	SB14B	覆土1～2層	石鏃	黒曜石 (21)	11	6	0.6		
162	115	48	SB14B	フク土1～2層	石鏃	黒曜石 (66)	9	9	4	4.4	
162	115	49	SB14B	検出時一括	ビエス・エスキュー	黒曜石	26	23	9	5.3	
162	115	50	SB14B	—	ビエス・エスキュー	黒曜石	28	13	11	3.8	

図版 番号	PL 番号	掲載 番号	遺構	出土位置	器 種	石 材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	備 考
162	115	51	SB14B	覆土1～2層	石核	黒曜石	21	23	6	4.3	
162	115	52	SB14B	覆土1～2層	スクレイパー	泥岩	34	77	9	22.8	
162	115	53	SB14B	北側	磨製石斧	緑色岩	83	28	54	61.7	
162	115	54	SB14B	覆土1～2層	磨製石斧	蛇紋岩	(171)	54	35	533.8	
162	115	55	SB14B	No.6	敲石	砂岩	301	19	46	1919.7	
—	115	56	SB14B	No.7	石鏝	砂岩	(210)	(140)	(60)	2700.0	科学分析
163	115	57	SB16A	—	スクレイパー	砂岩	73	102	30	162.0	
163	115	58	SB16A	No.7	石鏝	泥岩	129	45	14	86.0	
163	115	59	SB17A	覆土	打製石斧	緑色岩	176	71	32	364.2	
163	115	60	SB18	壁面近く覆土	石鏝	黒曜石	22	(12)	3	0.6	
163	115	61	SB18	—	—	黒曜石	(18)	(12)	3	0.4	
163	115	62	SB18	覆土	ビエス・エスキュー	黒曜石	19	21	5	1.5	
163	115	63	SB18	—	ビエス・エスキュー	黒曜石	22	15	8	2.2	
163	115	64	SB18	壁面近く覆土	石核	黒曜石	38	28	16	16.1	
163	115	65	SB18	P.7	石鏝	緑色岩	44	67	5	15.0	
164	115	66	SB18	①区 EWベルト フク土	石鏝	凝灰岩	82	37	10	28.9	
164	115	67	SB18	①区 EWベルト フク土	石鏝	泥岩	50	65	10	26.5	
164	116	68	SB18	覆土	石鏝	砂岩	56	86	11	51.6	
164	116	69	SB18	覆土	石鏝	泥岩	90	47	11	39.0	
164	116	70	SB18	覆土	スクレイパー	泥岩	56	117	16	121.5	
164	116	71	SB18	覆土	スクレイパー	粘板岩	62	80	8	28.6	
164	116	72	SB18	覆土	スクレイパー	砂岩	81	100	18	130.2	
165	116	73	SB18	東西ベルト覆土	スクレイパー	泥岩	51	193	33	204.3	
165	116	74	SB18	東西ベルト覆土	スクレイパー	砂岩	64	93	30	135.8	
165	116	75	SB18	壁面近く覆土	スクレイパー	砂岩	58	88	15	91.0	
165	116	76	SB18	④フク土	打製石斧	緑色岩	122	46	15	102.7	
165	116	77	SB18	覆土	打製石斧	緑色岩	(105)	75	(23)	177.3	
165	116	78	SB18	④フク土	打製石斧	緑色岩	(91)	42	13	74.3	
165	116	79	SB18	③区フク土	磨製石斧	緑色岩	(147)	45	28	290.0	
166	116	80	SB19A	③区フク土	石鏝	砂岩	105	105	15	151.8	
166	116	81	SB19A	②区フク土	磨製石斧	緑色岩	(118)	49	(35)	305.9	
166	116	82	SB19A	覆土	石製品	泥岩	37	25	20	24.3	人工的な凹みの中に 付着物
166	116	83	SB19A	床直	石鏝	花崗岩	(191)	(192)	(97)	3800.0	1/3欠損
166	117	84	SB19B	①区フク土	石鏝	チャート	58	21	10	12.0	
166	117	85	SB23	—	石鏝	黒曜石	(26)	(14)	(6)	1.5	
166	117	86	SB23	—	ビエス・エスキュー	黒曜石	19	14	5	0.9	
166	117	87	SB23	—	ビエス・エスキュー	黒曜石	25	17	5	1.4	
167	117	88	SB23	—	石核	黒曜石	26	26	16	8.6	
167	117	89	SB23	—	石核	黒曜石	24	17	12	4.5	
167	117	90	SB23	③区	スクレイパー	砂岩	46	98	11	52.9	
167	117	91	SB23	①区	スクレイパー	緑色岩	107	56	10	65.1	
167	117	92	SB23	—	スクレイパー	泥岩	40	80	10	35.8	
167	117	93	SB23	—	打製石斧	泥岩	102	44	6	63.4	
167	117	94	SB24	覆土上層	石鏝	黒曜石	(23)	16	5	1.2	
167	117	95	SB24	覆土2層	ビエス・エスキュー	黒曜石	19	17	7	2.1	
167	117	96	SB24	覆土1～2層	石核	黒曜石	33	28	15	13.9	
168	117	97	SB24	フク土	石核	砂岩	118	118	50	832.5	
168	117	98	SB24	フク土	石核	砂岩	114	117	85	1382.0	
168	117	99	SB24	覆土上部	スクレイパー	砂岩	(44)	(57)	(12)	22.9	
168	117	100	SB24	覆土上部	スクレイパー	砂岩	50	73	24	67.6	
169	117	101	SB24	③区フク土内	打製石斧	緑色岩	128	41	16	78.0	
169	117	102	SB24	③区フク土2層	打製石斧	緑色岩	129	80	17	210.8	

付表 遺物一覧

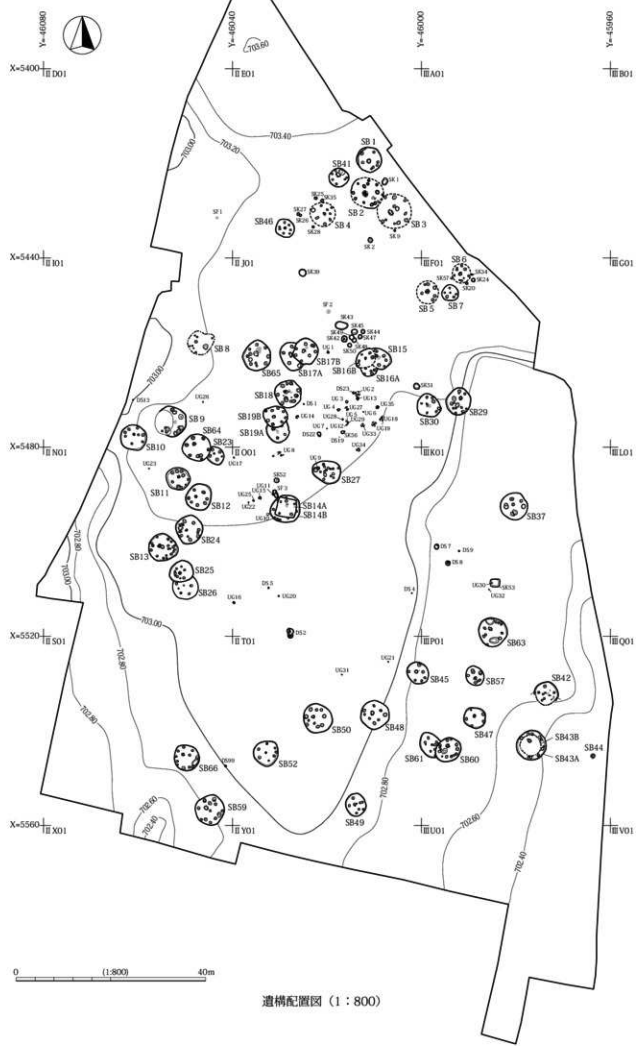
図版番号	PL番号	掲載番号	遺構	出土位置	器種	石材	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備考
169	117	103	SB24	③区フク土内	打製石斧	粘板岩	93	62	18	119.3	
—	117	104	SB24	フク土	凹石	砂岩	(134)	130	(61)	1351.7	
169	117	105	SB24	—	台石	安山岩	345	280	80	11600.0	
169	117	106	SB24	フク土	礎石	泥岩	169	84	34	650.0	
169	118	107	SB25	覆土上部	ビス・エスキュー	黒曜石	16	12	6	1.0	
169	118	108	SB25	覆土2層	石核	黒曜石	29	22	20	11.3	
170	118	109	SB25	南北ベルト(南側)フク土2層内	磨製石斧	緑色岩	185	53	33	555.4	
—	118	110	SB25	南北ベルト(南側)覆土2層内	棒状石	泥岩	304	88	65	2500.0	
—	118	111	SB25	埋差印No.1	棒状石	泥岩	336	77	67	2600.0	
—	118	112	SB26	1-3層	凹石	砂岩	(121)	(62)	45	408.8	摩耗痕、敲打痕あり
170	118	113	SB26	No.12	礎石	砂岩	149	160	69	2172.4	
170	118	114	SB29	遺物集中	石鏃	黒曜石	24	17	3	1.0	
170	118	115	SB29	—	石鏃	黒曜石	(24)	15	4	0.8	
170	118	116	SB29	—	石匙	チャート	50	60	11	28.1	
170	118	117	SB29	③区トレンチ	スクレイパー	砂岩	146	59	22	202.5	
—	118	118	SB29	遺物集中	凹石	砂岩	(139)	72	(28)	279.9	
170	118	119	SB30	埋差①・②	石鏃	黒曜石	31	8	7	1.0	
170	118	120	SB30	—	ビス・エスキュー	黒曜石	13	11	5	0.8	
170	118	121	SB30	—	ビス・エスキュー	黒曜石	24	20	9	3.3	
171	118	122	SB30	—	石匙	黒曜石	34	54	8	10.7	
171	118	123	SB30	P.5	スクレイパー	緑色凝灰岩	42	62	13	30.7	
171	118	124	SB30	—	打製石斧	緑色岩	(82)	94	16	57.6	
171	118	125	SB30	—	打製石斧	緑色岩	(94)	51	21	145.6	
171	118	126	SB30	—	砥石	泥岩	49	21	6	10.0	
171	118	127	SB37	覆土	石匙	ホルンフェルス	147	51	6	91.8	
171	118	128	SB37	検出面	石核	黒曜石	33	19	16	7.3	
—	118	129	SB42	—	棒状石	チャート	(220)	76	65	1444.7	
171	118	130	SB46	—	石鏃	黒曜石	16	13	2	0.3	
171	118	131	SB46	—	石核	黒曜石	18	22	14	5.4	
172	119	132	SB46	②区	打製石斧	緑色岩	110	49	15	117.2	
172	119	133	SB46	床面	打製石斧	緑色岩	118	47	15	126.2	
172	119	134	SB46	埋土	打製石斧	緑色岩	158	44	21	216.0	未成品
172	119	135	SB46	—	打製石斧	砂岩	122	54	13	107.1	
172	119	136	SB46	埋土	打製石斧	緑色岩	159	48	18	161.2	
172	119	137	SB46	—	打製石斧	泥岩	130	51	20	149.4	
—	119	138	SB46	—	凹石	安山岩	94	70	35	280.0	
172	119	139	SB46	床面	石鏃	閃緑岩	238	188	60	4100.0	
172	119	140	SB47	床面直上	石鏃	黒曜石	28	17	4	1.4	
172	119	141	SB47	覆土内	ビス・エスキュー	黒曜石	17	18	6	1.9	
172	119	142	SB47	床面直上	ビス・エスキュー	黒曜石	25	18	10	2.5	
172	119	143	SB47	①区 フク土	石匙	泥岩	(101)	48	6	43.2	
172	119	144	SB47	西壁 石棒脇	磨石	安山岩	102	78	25	297.7	
—	119	145	SB47	床面直上	棒状石	緑色岩	240	90	60	2000.0	
—	119	146	SB47	西壁	棒状石	緑色岩	350	—	—	3660.0	
173	119	147	SB49	埋土	石鏃	黒曜石	(21)	(18)	4	1.2	
173	119	148	SB49	埋土	石鏃	黒曜石	17	20	3	0.8	
173	119	149	SB50	①区 NSサブトレ フク土	磨製石斧	緑色岩	(134)	56	44	573.2	
173	119	150	SB52	南北ベルト内	石鏃	黒曜石	(30)	5	3	0.4	
173	119	151	SB52	—	石鏃	黒曜石	25	12	4	1.0	
173	119	152	SB52	フク土内一括	石匙	砂岩	(47)	(50)	(16)	31.1	
173	119	153	SB52	フク土内一括	スクレイパー	安山岩	106	40	11	47.0	
173	119	154	SB52	フク土内一括	スクレイパー	砂岩	63	127	23	194.0	

図版 番号	PL 番号	掲載 番号	遺構	出土位置	器 種	石 材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	備 考
174	120	155	SB52	①区 フク土内 一括	打製石斧	緑色岩	(116)	39	15	113.6	
174	120	156	SB52	フク土内一括	打製石斧	砂岩	103	58	16	117.1	未成品
174	120	157	SB52	フク土内	磨製石斧	緑色岩	(76)	(40)	(37)	169.4	
—	120	158	SB52	フク土内	凹石	砂岩	137	80	47	572.6	
174	120	159	SB52	①区フク土内	石鏃	花崗岩	(236)	(255)	(118)	8000.0	1/3欠損
174	120	160	SB60	—	石鏃	黒曜石	17	13	4	0.5	
174	120	161	SB60	—	石鏃	黒曜石	27	(17)	3	0.9	
174	120	162	SB60	—	石鏃	チャート	27	(48)	9	8.3	
174	120	163	SB61	④区	スクレイパー	砂岩	59	60	20	43.4	
174	120	164	SB61	—	スクレイパー	砂岩	90	100	30	281.0	
—	120	165	SB61	④区	凹石	閃緑岩	105	95	57	671.1	
—	120	166	SB61	埋土	石鏃	安山岩	(175)	(225)	(107)	4000.0	1/2欠損 科学分析
175	120	167	SB63	④区	ビエス・エスキュー	黒曜石	13	12	5	0.8	
175	120	168	SB63	—	ビエス・エスキュー	黒曜石	17	11	6	1.1	
175	120	169	SB63	—	ビエス・エスキュー	黒曜石	24	11	6	1.2	
175	120	170	SB63	P 3	石核	黒曜石	32	27	16	10.3	
175	120	171	SB63	②区	石鏃	頁岩	109	40	10	42.8	
175	120	172	SB63	②区	スクレイパー	泥岩	43	115	16	68.7	
175	120	173	SB63	①区	スクレイパー	頁岩	44	133	15	108.9	
175	120	174	SB63	④区	スクレイパー	砂岩	55	70	13	46.1	
176	120	175	SB63	—	スクレイパー	泥岩	61	100	15	108.2	
176	120	176	SB63	砂面	スクレイパー	砂岩	56	86	18	75.3	
176	121	177	SB63	埋土	打製石斧	緑色片岩	106	57	15	94.6	
176	121	178	SB63	④区	打製石斧	泥岩	51	94	23	121.8	
176	121	179	SB63	—	磨製石斧	緑色岩	157	32	18	147.9	
176	121	180	SB63	—	石鏃	安山岩	(284)	(168)	(90)	4700.0	1/2欠損
177	121	181	SB65	—	ビエス・エスキュー	黒曜石	19	19	11	3.1	
177	121	182	SB65	—	石核	黒曜石	41	27	22	17.4	
177	121	183	SB65	②区 フク土	石鏃	砂岩	136	41	11	57.1	
177	121	184	SB65	P 4	打製石斧	凝灰岩	140	45	14	89.1	
177	121	185	SB65	覆土	石鏃	凝灰岩	87	41	8	33.9	
177	121	186	SB65	覆土	石鏃	頁岩	58	99	10	59.3	
178	121	187	SB65	覆土	スクレイパー	泥岩	49	79	10	33.0	
178	121	188	SB65	フク土	スクレイパー	砂岩	68	106	26	174.7	
178	121	189	SB65	フク土	打製石斧	泥岩	133	50	18	130.9	
178	121	190	SB65	床直	打製石斧	砂岩	(70)	(52)	(22)	112.4	
178	121	191	SB65	覆土	打製石斧	泥岩	125	75	17	157.8	
178	121	192	SB65	フク土	磨石	砂岩	104	89	70	913.0	
178	121	193	SB65	フク土	磨石	砂岩	147	109	62	1210.6	
—	122	194	SK39	覆土	打製石斧	緑色岩	141	52	26	158.2	
179	122	195	SK42	覆土	石核	黒曜石	24	24	13	7.6	
—	122	196	SK42	No 2土器内	台石	安山岩	(190)	(120)	(70)	2500.0	破損確
179	122	197	SK49	—	石鏃	黒曜石	(45)	(11)	4	2.4	
179	122	198	SK49	覆土	石核	黒曜石	28	14	15	4.3	
—	122	199	SK49	No 1	磨石	緑色岩	106	64	39	380.0	
—	122	200	SK51	—	スクレイパー	砂岩	66	85	18	84.0	
—	122	201	SK53	フク土	台石	安山岩	220	200	45	4800.0	
—	122	202	UG 1	S No 2	台石	安山岩	(225)	(160)	(80)	4100.0	
—	122	203	UG 2	—	凹石	砂岩	80	75	38	296.6	
—	122	204	UG 3	土器内	打製石斧	泥岩	116	86	33	319.7	
—	122	205	UG 5	土器内	石核	黒曜石	18	12	11	1.7	
—	122	206	UG13	南東4層中	石鏃	黒曜石	(20)	(17)	(4)	1.2	

付表 遺物一覧

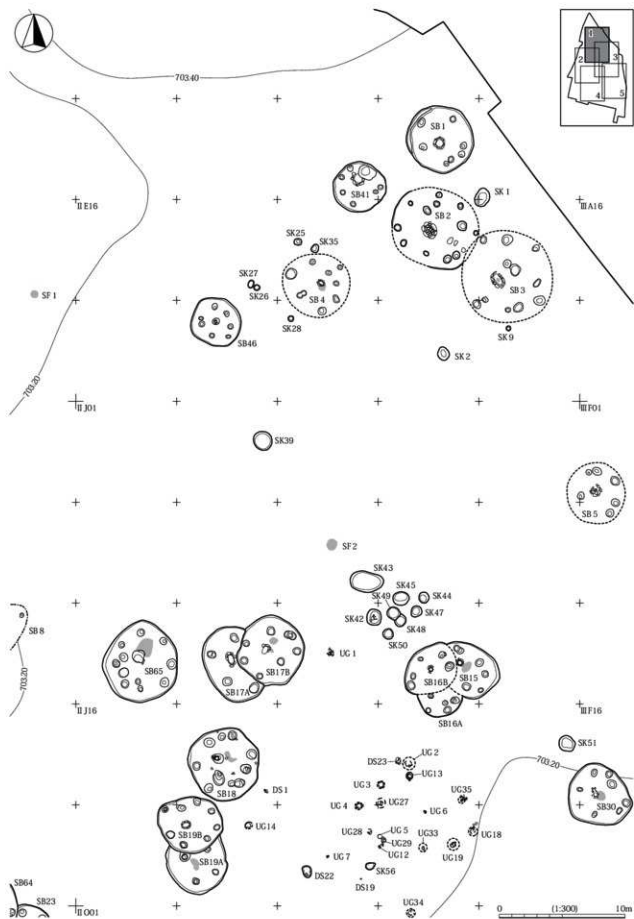
国庫 番号	PL 番号	掲載 番号	遺構	出土位置	器 種	石 材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	備 考
—	122	207	UG18	土器内	磨製石斧	蛇紋岩	(62)	(30)	9	22.2	
—	122	208	UG18	—	原石	黒曜石	27	26	16	8.6	
—	122	209	UG18	—	原石	黒曜石	23	20	15	6.5	
179	122	210	UG33	土器本体横の礎	石皿	砂岩	(165)	145	(55)	1700.0	
179	122	211	UG34	本体	スクレイパー	泥岩	41	67	9	21.5	
179	122	212	UG35	—	打製石斧	緑色岩	156	52	15	161.9	
179	122	213	DS 2	—	打製石斧	泥岩	116	67	18	179.0	摩耗著しい
180	123	214	遺構外	南	石鏃	黒曜石	24	14	6	1.0	
180	123	215	遺構外	—	石鏃	黒曜石	24	17	4	1.2	
180	123	216	遺構外	3区	ピエス・エスキュー	黒曜石	18	22	10	3.3	
180	123	217	遺構外	6区	石核	黒曜石	49	37	19	35.3	
180	123	218	遺構外	3区	磨製石斧	緑色岩	73	18	10	19.0	
180	123	219	遺構外	6区	二次加工ある剥片	黒曜石	(64)	44	16	42.0	
—	123	220	遺構外	3区	石皿	安山岩	250	(150)	50	4000.0	科学分析

遺構・遺物図版

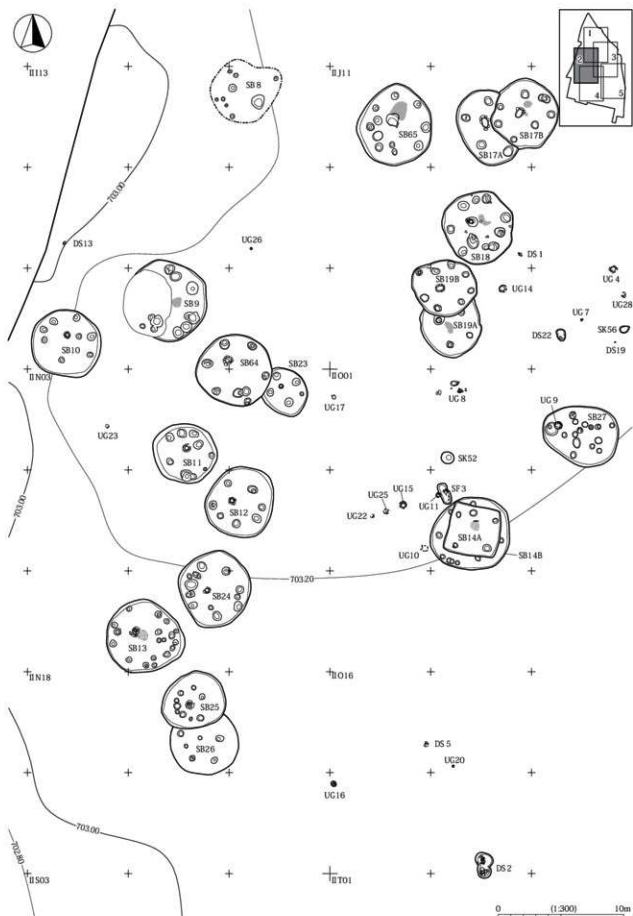


遺構配置図 (1 : 800)

图版 2 遗构配置图 2

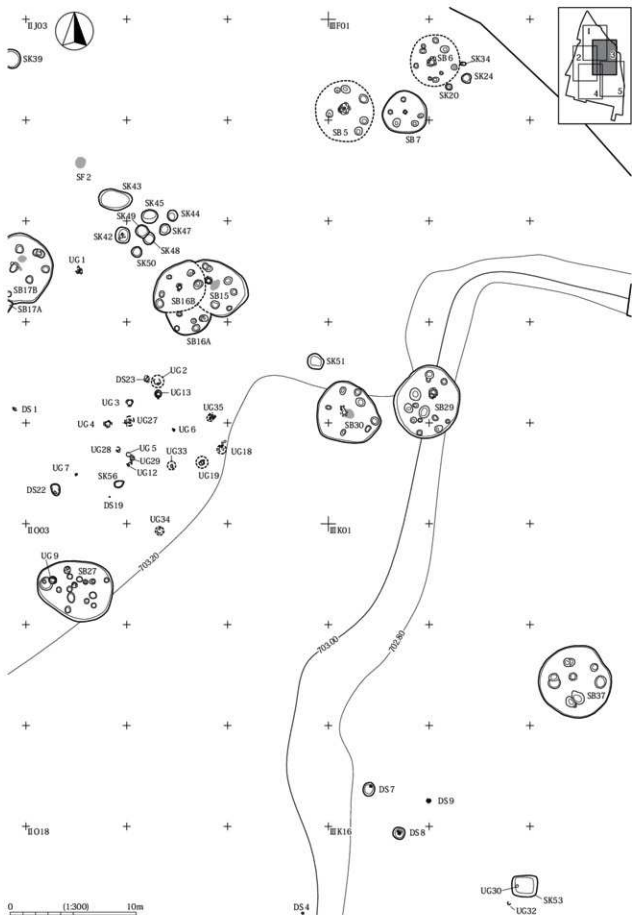


遗构配置图 (1:300) (1)

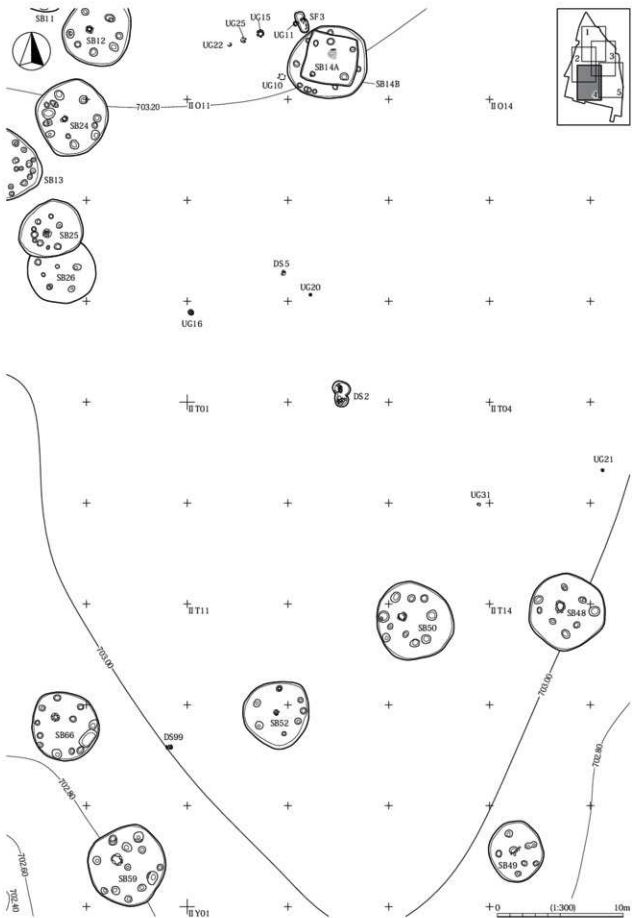


遺構配置図 (1 : 300) (2)

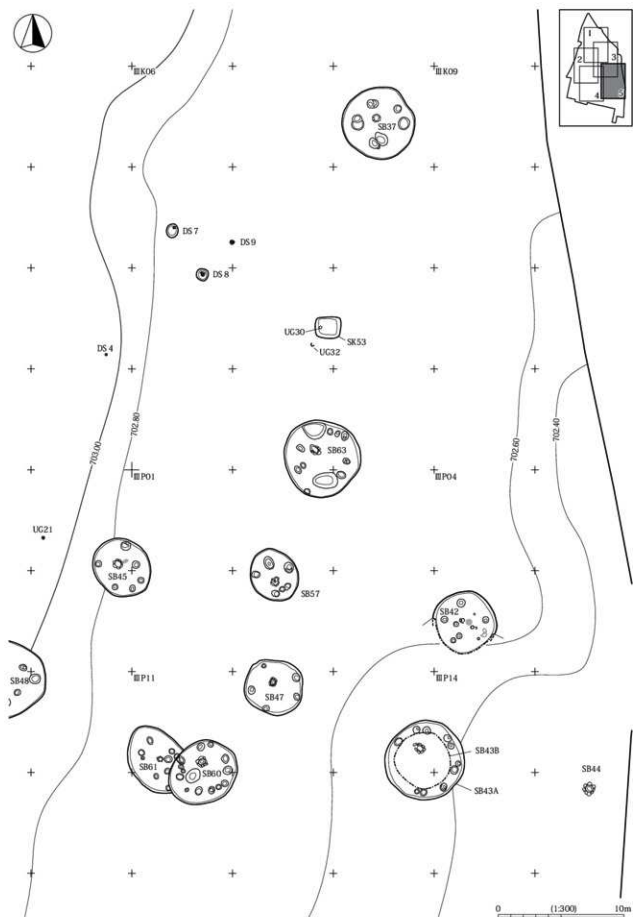
图版 4 遺構配置图 4



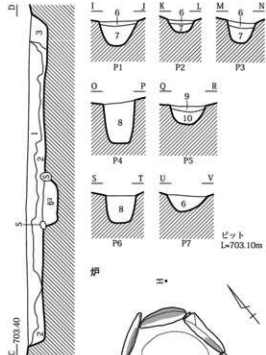
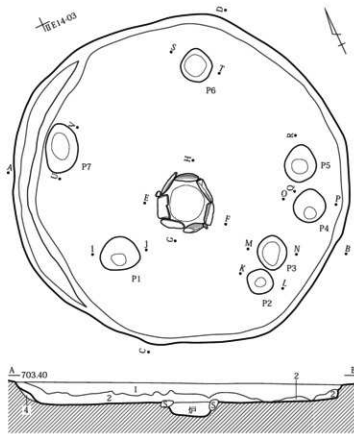
遺構配置图 (1 : 300) (3)



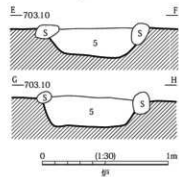
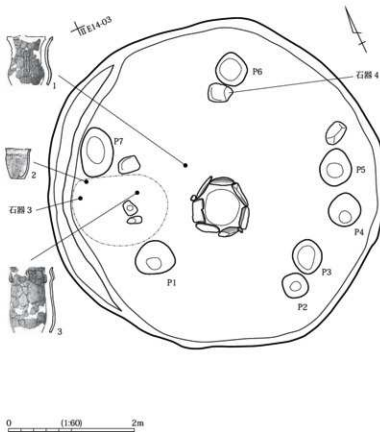
遺構配置图 (1 : 300) (4)



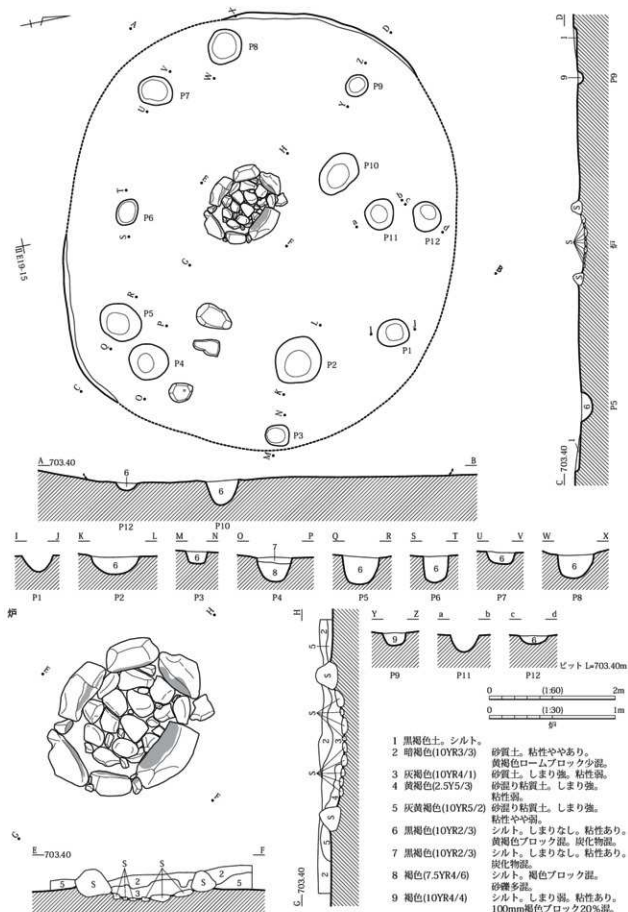
遺構配置図 (1 : 300) (5)

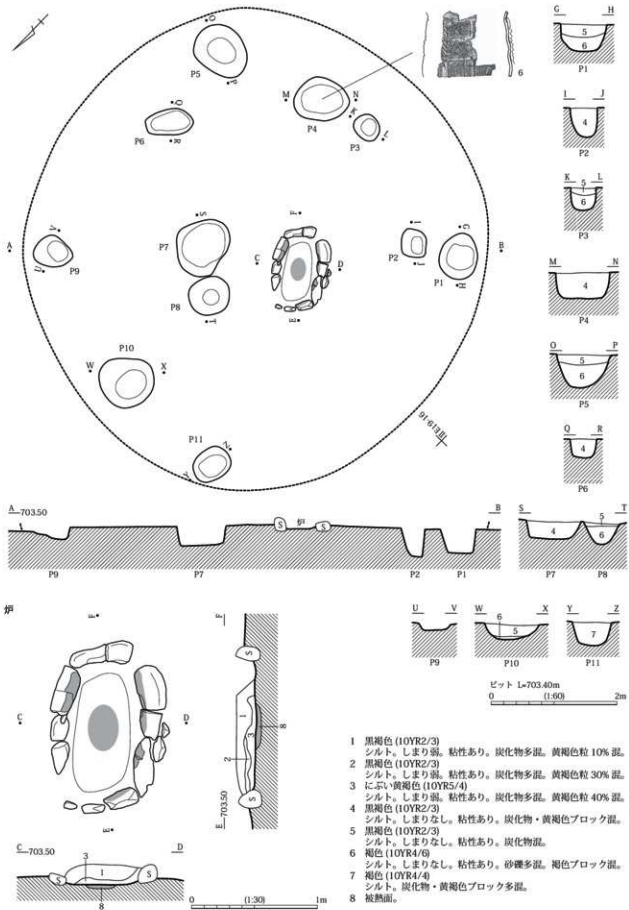


遺物出土状況



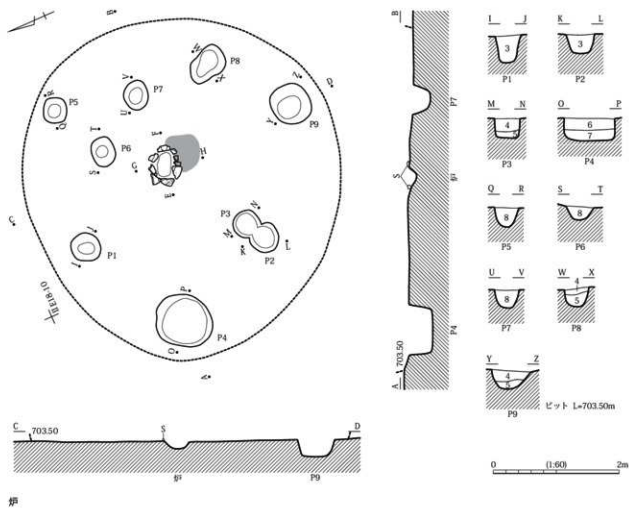
- 1 黒褐色 (10YR2/2)
シルト。しまり弱。粘性あり。
炭化物・赤色粒・遺物混。100～300mm 礫少混。
- 2 赤い・黄褐色 (10YR4/3)
シルト。しまり強。粘性あり。暗褐色ブロック多混。
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3)
シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物混。
地山に近い。
- 4 黄褐色 (2.5Y5/6)
シルト。しまり強。粘性あり。
- 5 暗褐色 (10YR3/4)
シルト。しまりなし。粘性あり。黄褐色ブロック混。
- 6 暗褐色 (10YR3/4)
シルト。しまりなし。粘性あり。黄褐色ブロック混。
- 7 暗褐色 (10YR3/4)
シルト。しまりなし。粘性あり。10mm 礫 30% 混。
- 8 黒褐色 (10YR2/3)
シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物混。砂礫少混。
- 9 黒褐色 (10YR2/3)
シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物混。
- 10 暗褐色 (10YR3/4)
シルト。しまりなし。粘性あり。10mm 礫 30% 混。



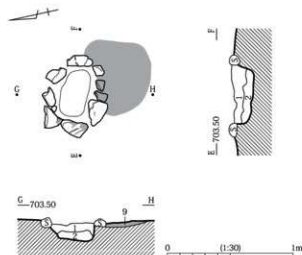


- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物多混。黄褐色粒 10% 混。
- 2 黒褐色 (10YR2/3) シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物多混。黄褐色粒 30% 混。にぶい黄褐色 (10YR5/4)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物多混。黄褐色粒 40% 混。
- 4 黒褐色 (10YR2/3) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物・黄褐色ブロック混。
- 5 黒褐色 (10YR2/3) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物混。
- 6 褐色 (10YR4/6) シルト。しまりなし。粘性あり。砂礫多混。褐色ブロック混。
- 7 褐色 (10YR4/4) シルト。しまりなし。粘性あり。砂礫多混。褐色ブロック混。
- 8 被熱面。

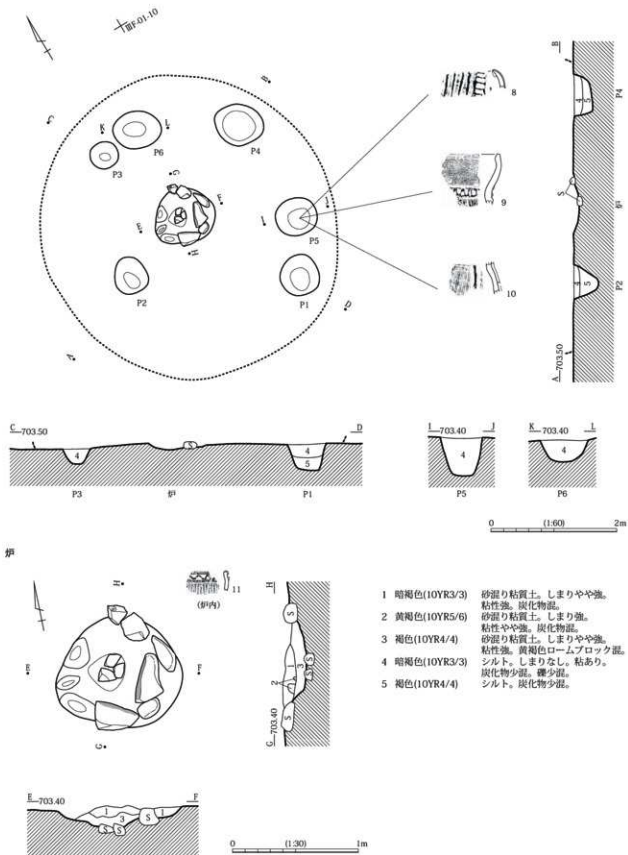
図版10 縄文時代の遺構 4 (SB)

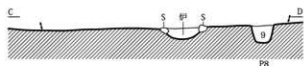
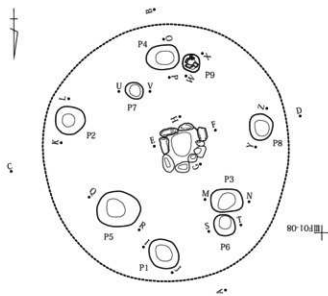


炉

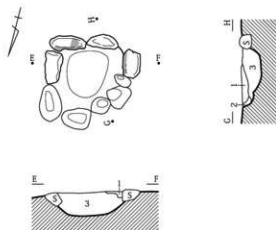


- 1 黒褐色 (10YR3/2)
砂混粘質土。しまり・粘性中。黄褐色砂混。
- 2 褐色 (10YR4/6)
砂質土。しまり強。粘性弱。1～10mm 礫混。
- 3 暗褐色 (10YR3/3)
シルト。しまりなし。粘性あり。50mm 以下礫微混。炭化物混。
- 4 黒褐色 (10YR2/3)
シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物多混。
- 5 褐色 (10YR4/6)
シルト。暗褐色ブロック混。
- 6 暗褐色 (10YR3/3)
シルト。しまり弱。粘性あり。黄褐色ブロック炭化物微混。
- 7 にくい黄褐色 (10YR4/3)
シルト。しまり弱。粘性あり。褐色ブロック微混。
- 8 黒褐色 (10YR2/3)
しまり弱。粘性あり。10mm 砂礫・炭化物多混。
- 9 被熱面。

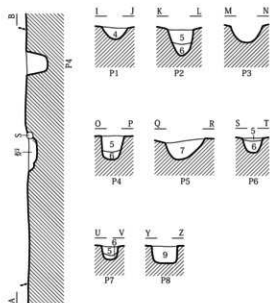




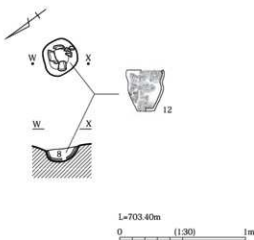
PR



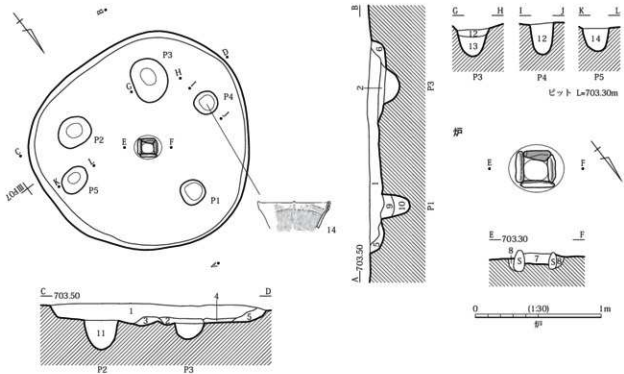
- 1 暗褐色 (10YR3/3)
砂混粘質土。しまりやや強。粘性強。
1~8mm 黄褐色ロームブロック多混。
- 2 黒褐色 (10YR3/2)
砂混粘質土。しまり強。粘性中。
- 3 黒褐色 (10YR2/2)
しまり中。粘性弱。1~5mm 黄褐色ロームブロック少混。
- 4 黒褐色 (10YR3/2)
シルト。しまりなし。粘性あり。砂礫多混。
- 5 暗褐色 (10YR3/3)
シルト。しまりなし。粘性あり。



PR 9

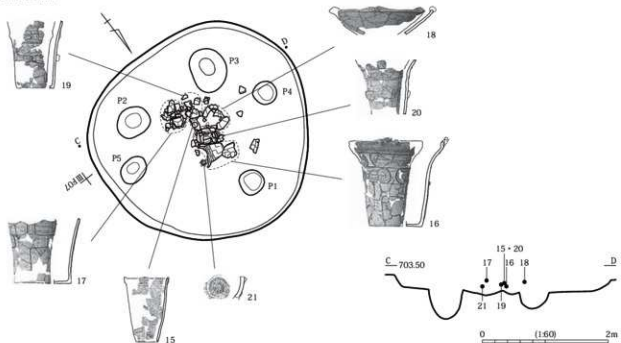


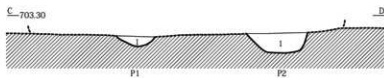
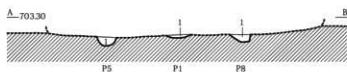
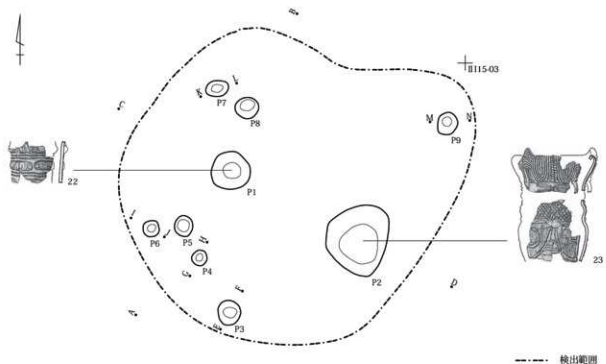
- 6 褐色 (10YR4/4)
シルト。しまりなし。粘性あり。砂礫多混。
- 7 黒褐色 (10YR3/1)
シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。
- 8 暗褐色 (10YR3/4)
シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。
- 9 褐色 (10YR4/4)
シルト。しまり弱。粘性あり。100mm 褐色ブロック 20% 混。



- | | |
|-------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色(10YR3/3) | シルト、粘性あり。しまりなし。炭化物混。φ1~5cm小礫混。遺物混。 |
| 2 黒褐色(10YR3/2) | シルト、粘性あり。しまりなし。炭化物混。φ1~5cm小礫混。遺物混。 |
| 3 明黄褐色(10YR6/6) | シルト、粘性あり。しまりあり。 |
| 4 にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト。粘性あり。しまり弱。 |
| 5 オリーブ褐色(2.5Y4/6) | シルト。地山ロームに近い。暗褐色ブロック微混。 |
| 6 褐色(10YR4/4) | シルト。粘性・しまりなし。 |
| 7 黒褐色(10YR2/3) | シルト。粘性あり。しまりなし。 |
| 8 | 腐り方。 |
| 9 にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト。粘性・しまりなし。炭化物混。暗褐色ブロック混。 |
| 10 褐色(10YR4/4) | シルト。粘性・しまりなし。炭化物混。暗褐色ブロック微混。 |
| 11 暗褐色(10YR3/3) | シルト。粘性あり。しまりなし。炭化物混。黄褐色ブロック微混。 |
| 12 暗褐色(10YR3/3) | シルト。粘性あり。しまり弱。炭化物混。 |
| 13 暗褐色(10YR3/3) | シルト。粘性あり。しまり弱。炭化物混。砂礫多混。 |
| 14 暗褐色(10YR3/3) | シルト。粘性あり。しまりなし。炭化物混。黄褐色ブロック微混。砂礫多混。 |

遺物出土状況

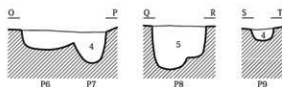
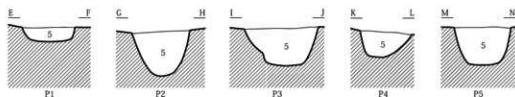
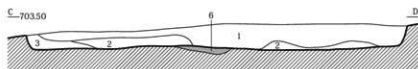
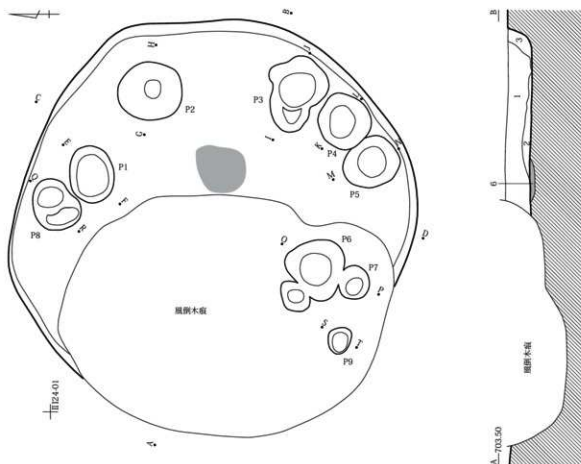




I 黒褐色(10YR2/3) しまりあり。粘性ややあり。
小礫多量。

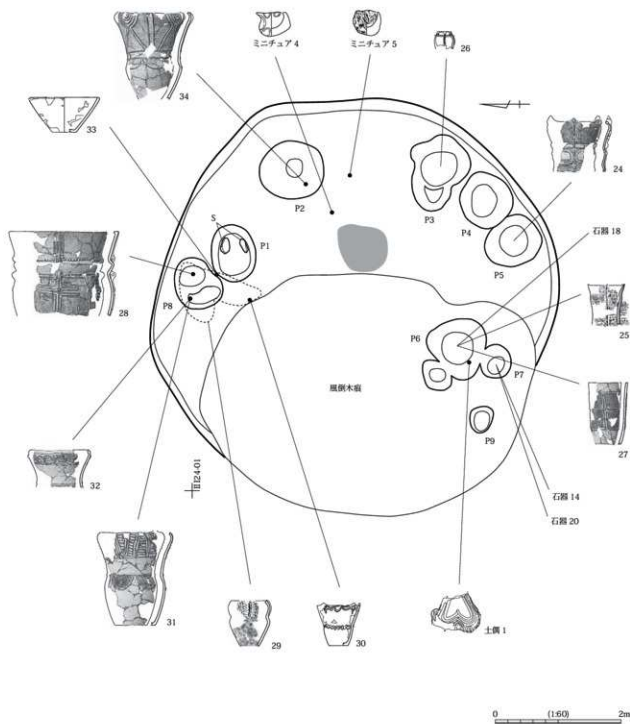
ビット L=703.10m

0 (1:60) 2m

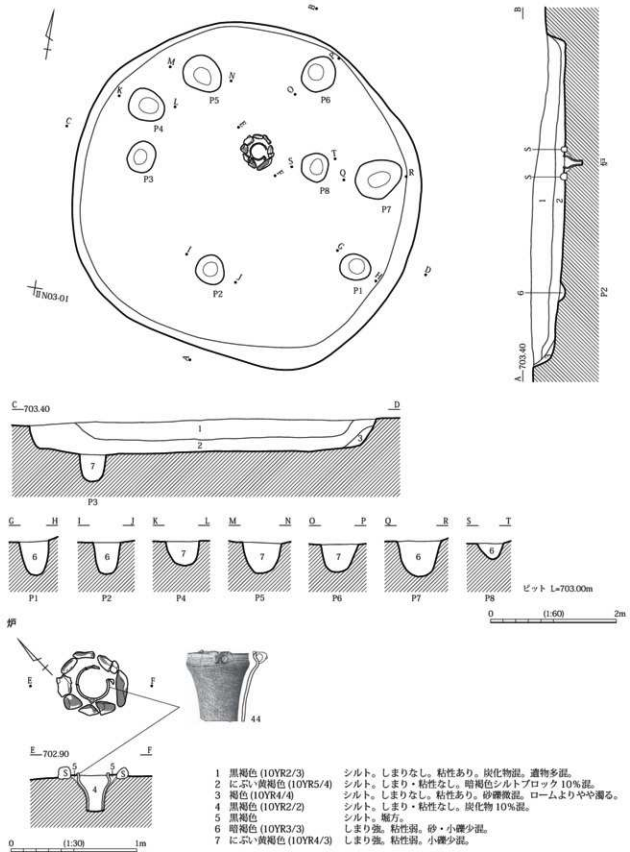


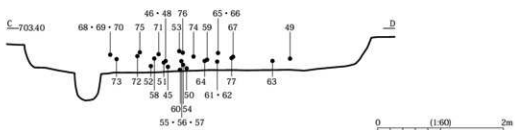
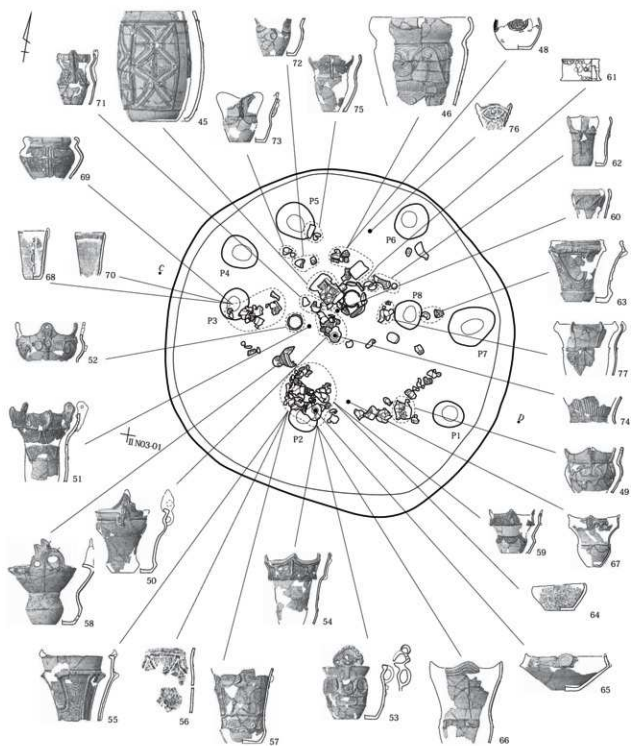
- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 黒褐色 (10YR2/3) | しまり強、粘性弱。土器片・小礫混。 |
| 2 暗褐色 (10YR3/3) | しまり強、粘性弱。小礫混。 |
| 3 暗褐色 (10YR3/3) | しまり強、粘性弱。土器片微混。小礫混。 |
| 4 黒褐色 (10YR2/3) | シルト。しまりあり。粘性弱。小礫混。 |
| 5 暗褐色 (10YR3/3) | しまり強、粘性あり。小礫混。 |
| 6 被熱面。 | |

0 (1:50) 2m ビット L=703.20m

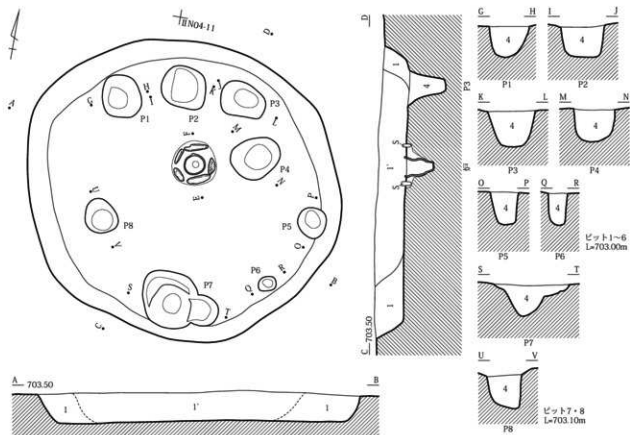


SB9 遺物出土状況



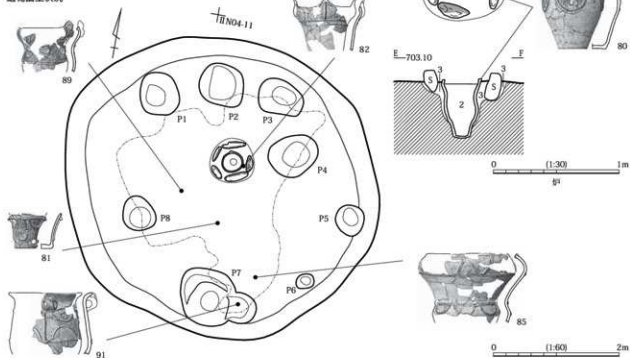


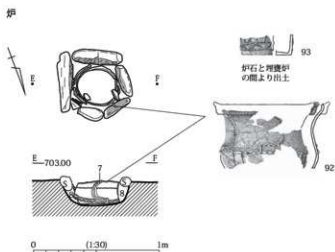
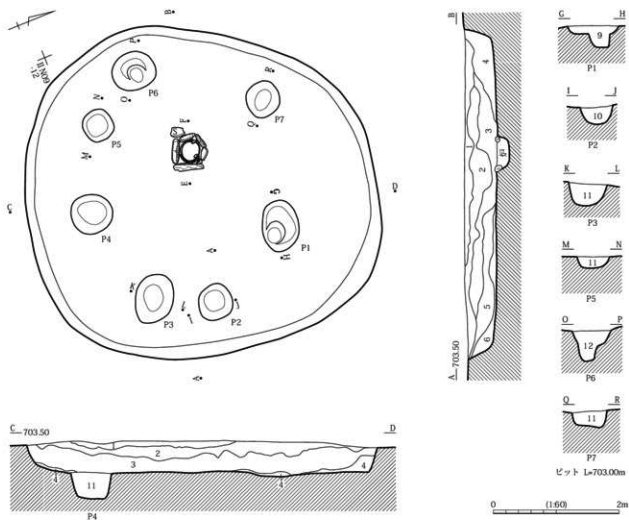
SB 10 遺物出土状況



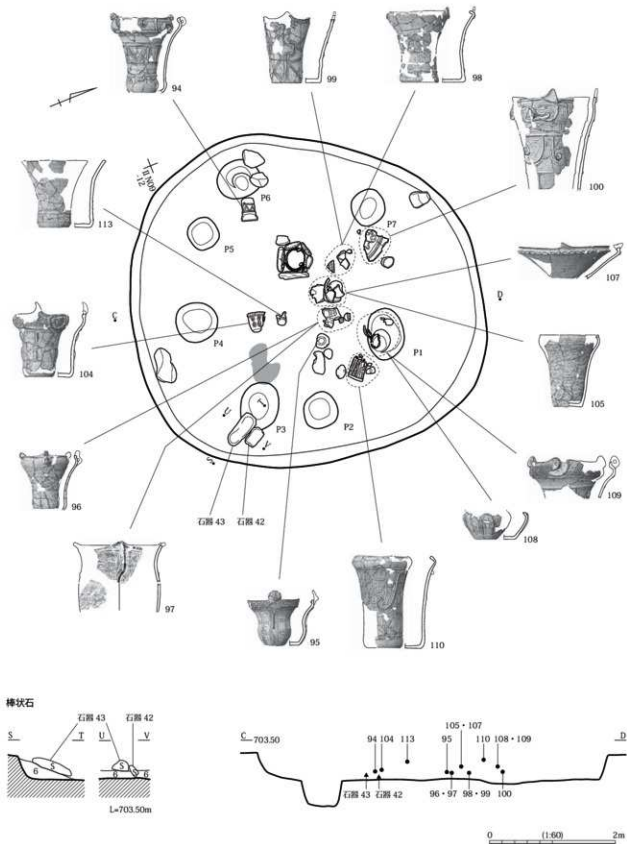
- 1 黒褐色(10YR2/2)シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。
50～200mm 礫混。
1' 黒褐色(10YR2/2)シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。土器・礫多混。
2 暗褐色(10YR3/3)シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。
3 黒褐色(10YR2/3)シルト。しまり・粘性なし。炭化物微混。掘り方。
4 黒褐色(10YR2/3)シルト。しまり・粘性弱。小礫混。

遺物出土状況

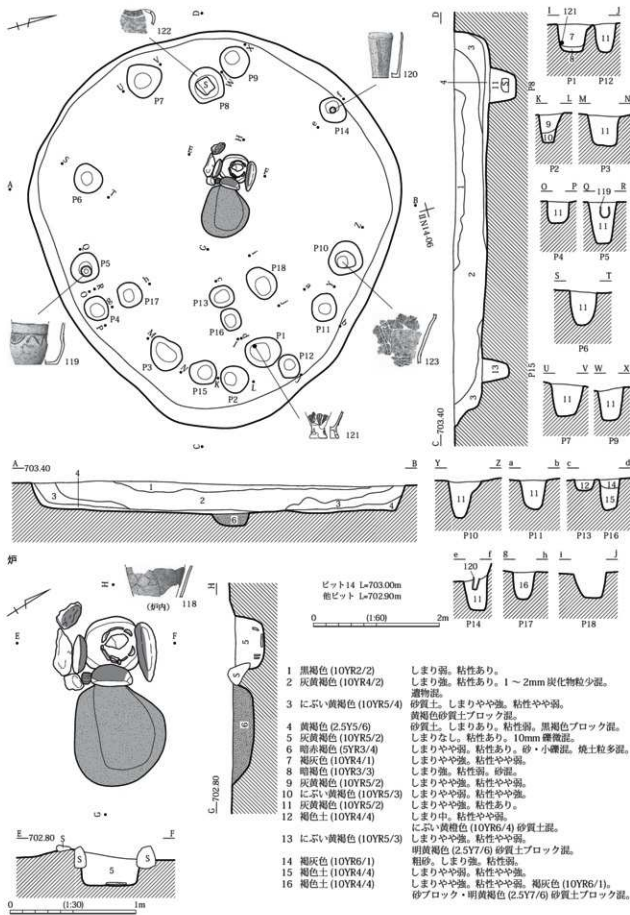


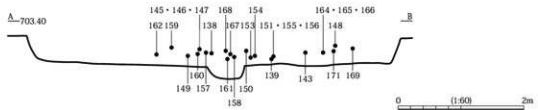
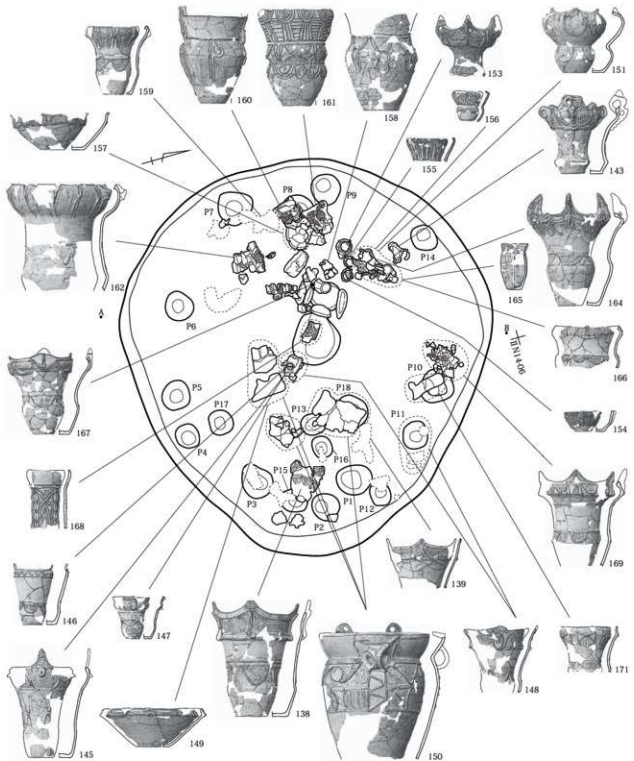


- 1 黒褐色 (10YR2/2)
しまり弱。粘性あり。
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2)
しまり強。粘性あり。1~2mm炭化物粒少混。遺物あり。
- 3 褐色 (10YR4/4)
しまりやや強。粘性やや弱。小礫混。
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2)
しまり強。粘性やや強。にぶい黄褐色粒子少混。
小礫混。炭化物粒微混。
- 5 にぶい黄褐色 (10YR5/4)
しまり・粘性やや強。土層片少混。
- 6 明黄褐色 (10YR7/6)
砂質土。しまり強。粘性中へやや強。
- 7 黒褐色 (10YR3/2)
しまり弱。粘性やや強。炭化物混。埋裏材内土。
- 8 暗褐色 (10YR3/3)
しまり強。粘性やや弱。炭化物粒少混。
- 9 黒褐色 (10YR2/2)
しまり強。粘性やや弱。炭化物混。
10~25mm礫少混。
- 10 にぶい黄褐色 (10YR5/3)
砂質土。しまりやや強。粘性やや弱。円礫少混。
- 11 暗褐色 (10YR3/4)
しまり強。粘性やや弱。黄白色砂ブロック混。炭化物少混。
- 12 灰黄褐色 (10YR4/2)
しまり強。粘性やや弱。炭化物混。

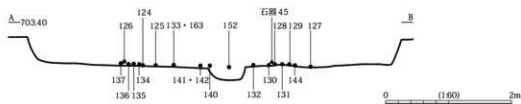
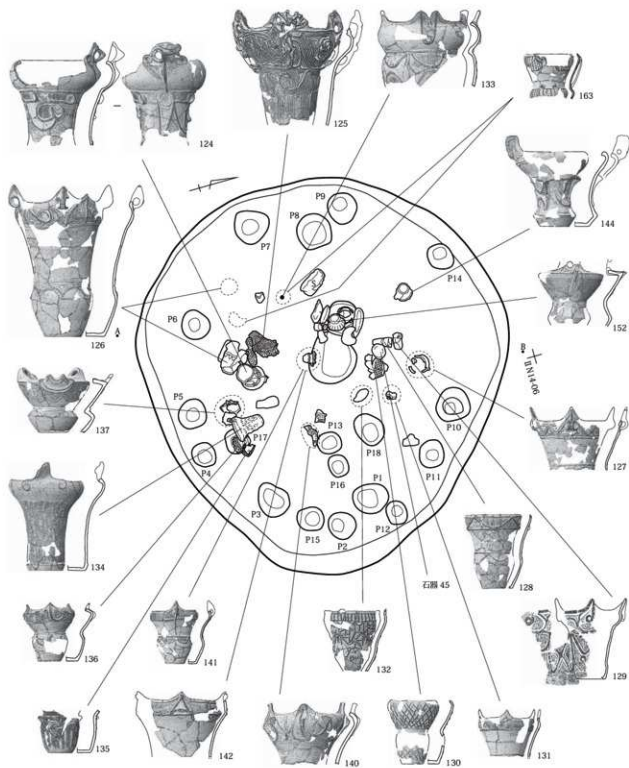


SB 12 遺物出土状況

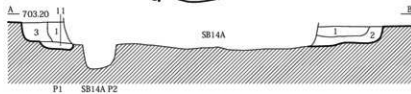
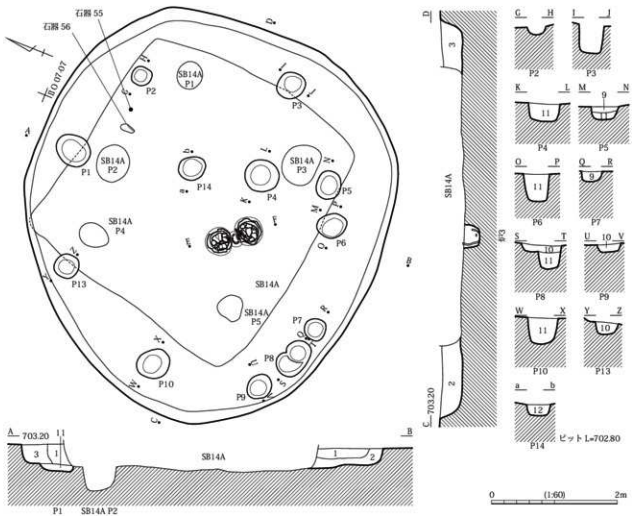




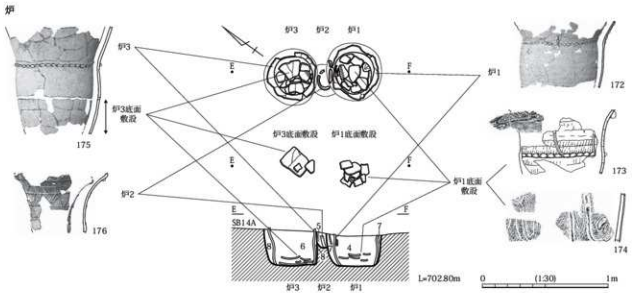
S B 13 遺物出土状況 (埋土)



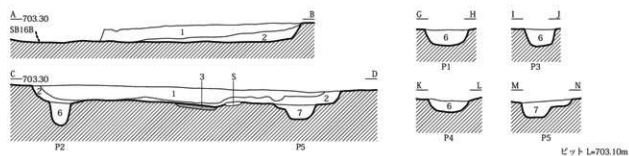
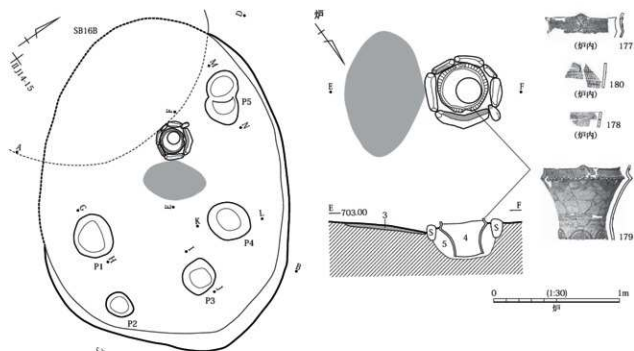
S B 13 遺物出土状況 (床面)



- | | | | |
|-------------------|-------------------|--------------------|----------------------|
| 1 暗褐色(10YR3/4) | 砂質。しまり・粘性やや強。 | 6 暗褐色(10YR3/4) | しまりやや弱。粘性やや弱。 |
| 2 灰黄褐色(10YR5/2) | 砂質。しまり強。粘性やや強。 | 7 にぶい黄褐色(10YR5/3) | 30mm明黄褐色ブロック混。 |
| 3 にぶい黄褐色(10YR5/4) | 2層・3層の土が適当に混入する。 | 8 にぶい黄褐色(10YR5/3) | しまり・粘性弱。暗褐色ブロック混。掘方。 |
| 4 にぶい黄褐色(10YR4/3) | しまり強。炭化物粒混。 | 9 黒褐色(10YR3/2) | しまりやや強。粘性中。 |
| 5 褐灰色(10YR5/1) | しまり弱。粘性やや弱。 | 10 にぶい黄褐色(10YR5/3) | しまりやや強。粘性やや弱。 |
| | しまりやや弱。粘性中。 | 11 にぶい黄褐色(10YR5/3) | しまり中。粘性やや強。 |
| | 25mm明黄褐色ブロック混。掘方。 | 12 黄褐色(10YR5/6) | しまりやや弱。粘性やや強。 |

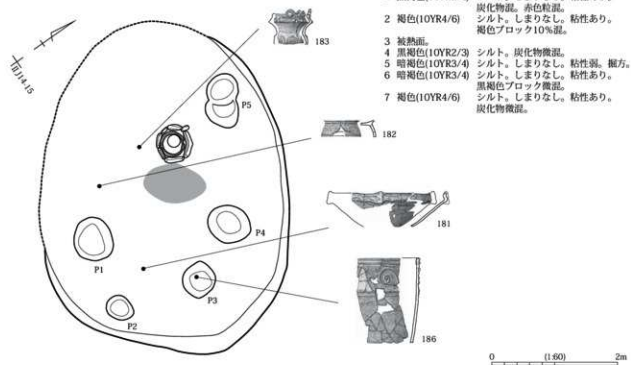


SB14B

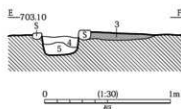
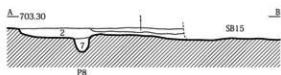
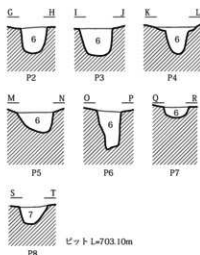
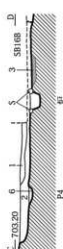
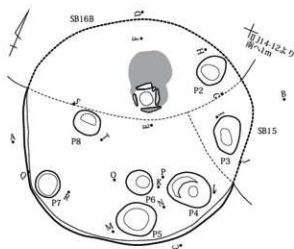


ビット L-703.10m

遺物出土状況

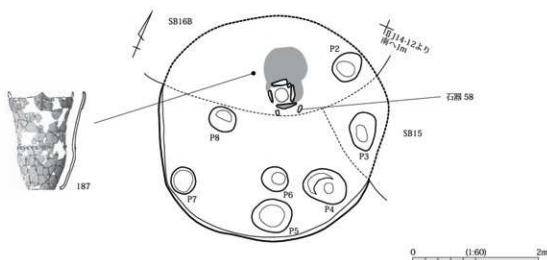


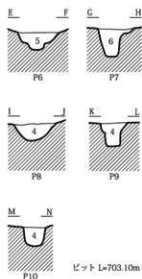
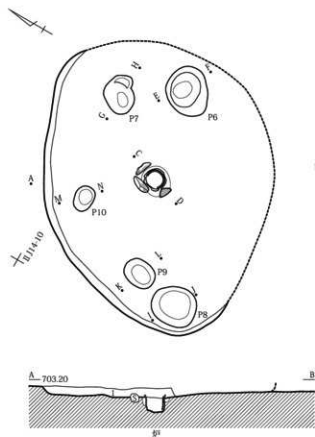
- 1 黒褐色(10YR2/3) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物混。赤色粒混。
- 2 褐色(10YR4/6) シルト。しまりなし。粘性あり。褐色ブロック10%混。
- 3 被熱面。
- 4 黒褐色(10YR2/3) シルト。炭化物微混。
- 5 暗褐色(10YR3/4) シルト。しまりなし。粘性弱。粗方。
- 6 暗褐色(10YR3/4) シルト。しまりなし。粘性あり。黒褐色ブロック微混。
- 7 褐色(10YR4/6) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。



- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色(10YR2/3) | シルト。しまりなし。粘性あり。遺物混。炭化物混。 |
| 2 褐色(10YR4/6) | 赤色粘泥。シルト。しまりなし。粘性あり。褐色ブロック10%混。 |
| 3 褐色(7.5YR4/6) | シルト。しまりなし。粘性あり。被熱面。 |
| 4 褐色(10YR4/4) | シルト。しまりなし。粘性あり。 |
| 5 にぶい黄褐色(10YR5/4) | シルト。しまりなし。粘性あり。焼土・炭化物を含まない。 |
| 6 黒褐色(10YR2/3) | シルト。しまりなし。粘性あり。褐色ブロック10%混。炭化物ほとんどなし。 |
| 7 にぶい赤褐色(2.5YR4/4) | シルト。しまり・粘性なし。炭化物微混。 |

遺物出土状況

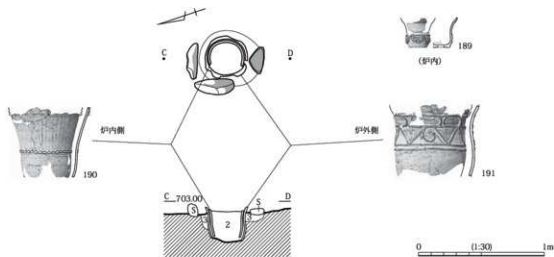


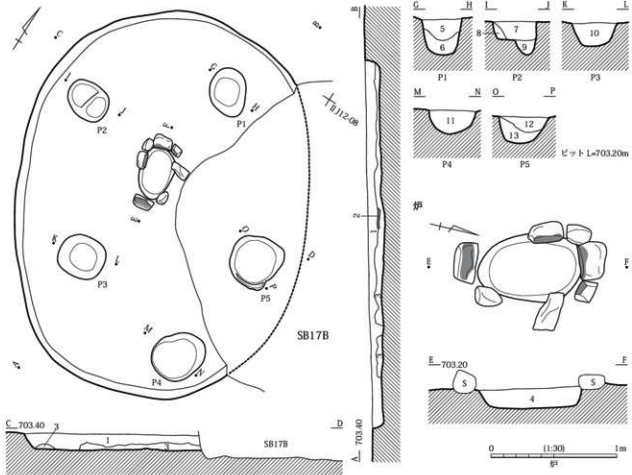


- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1 褐色(10YR4/6) | シルト。しまりなし。粘性あり。褐色ブロック10%混。 |
| 2 暗褐色(10YR3/4) | シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物混。 |
| 3 褐色(10YR4/4) | シルト。しまり弱。粘性強。握り方。 |
| 4 オリーブ褐色(2.5Y4/4) | シルト。しまりなし。粘性なし。炭化物微混。 |
| 5 暗褐色(10YR3/4) | シルト。しまりなし。粘性あり。黒褐色ブロック微混。 |
| 6 にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。 |

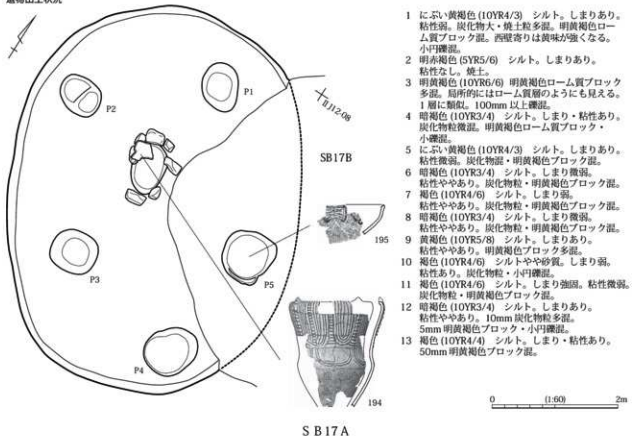
0 (1:60) 2m

炉



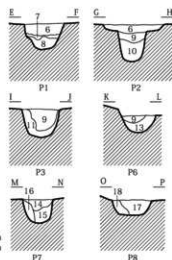
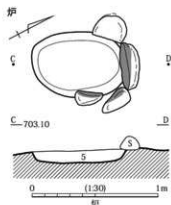
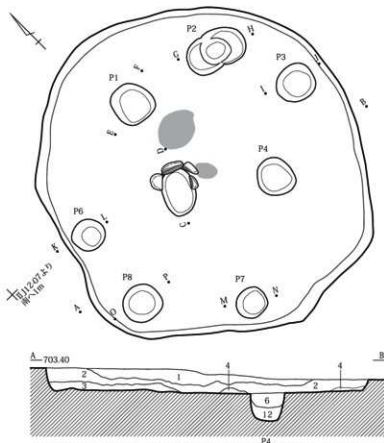


遺物出土状況



- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) シルト。しまりあり。粘性弱。炭化物大・焼土粒多混。明黄褐色ローム質ブロック混。西壁寄りは黄味が強くなる。小円礫混。
- 2 明赤褐色 (5YR5/6) シルト。しまりあり。粘性なし。焼土。
- 3 明黄褐色 (10YR6/6) 明黄褐色ローム質ブロック多混。局所的にはローム質層のようにも見える。1層に類似。100mm以上礫混。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒微混。明黄褐色ローム質ブロック・小礫混。
- 5 にふい黄褐色 (10YR4/3) シルト。しまりあり。粘性微混。炭化物混・明黄褐色ブロック混。
- 6 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまり微混。粘性ややあり。炭化物粒・明黄褐色ブロック混。
- 7 褐色 (10YR4/6) シルト。しまり弱。粘性ややあり。炭化物粒・明黄褐色ブロック混。
- 8 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまり微混。粘性ややあり。炭化物粒・明黄褐色ブロック混。
- 9 黄褐色 (10YR5/8) シルト。しまりあり。粘性ややあり。明黄褐色ブロック多混。
- 10 褐色 (10YR4/6) シルトやや砂質。しまり弱。粘性あり。炭化物粒・小円礫混。
- 11 褐色 (10YR4/6) シルト。しまり強固。粘性微混。炭化物粒・明黄褐色ブロック混。
- 12 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまりあり。粘性ややあり。10mm炭化物粒多混。5mm明黄褐色ブロック・小円礫混。
- 13 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり・粘性あり。50mm明黄褐色ブロック混。

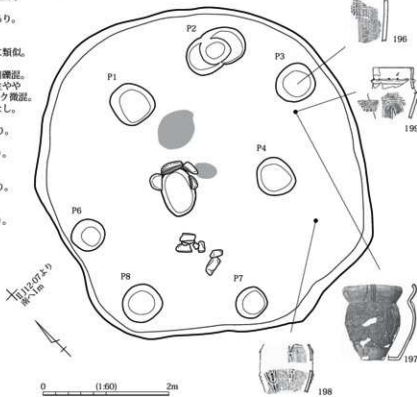
SB17A

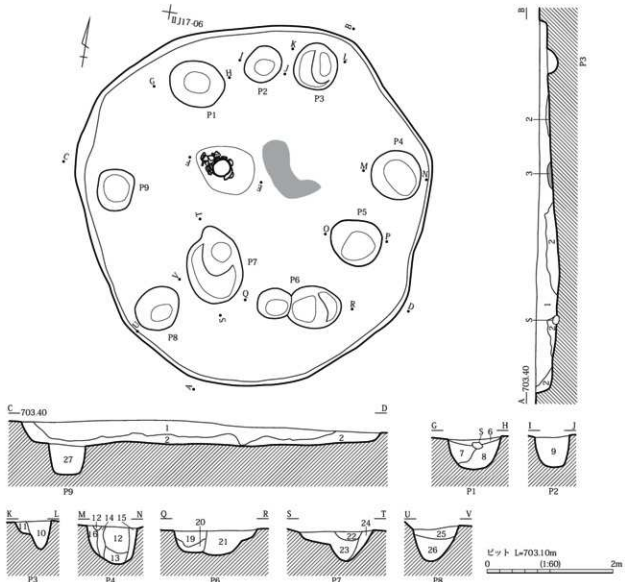


ビット1-3 L=703.00m
ビット6-8 L=703.10m

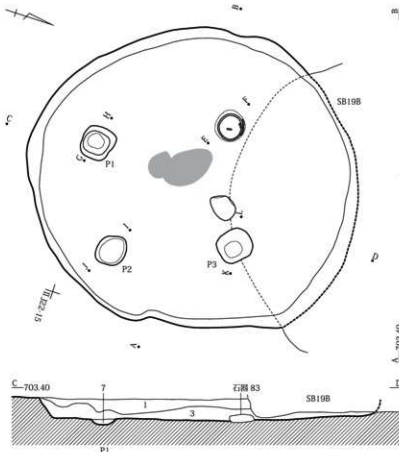
- 1 黒褐色(10YR3/2) シルト。しまり強。粘性微弱。炭化物粒・焼土粒混。礫微混。
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト。しまりあり。粘性微弱。炭化物粒・焼土粒・焼土粒微混。
- 3 にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト。しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒・焼土粒微混。
- 4 明黄褐色(10YR6/6) しまり・粘性あり。明黄褐色ローム質ブロック多混。80%3層に類似。
- 5 褐色(10YR4/4) シルト。しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒・焼土粒微混。小円礫混。
- 6 にぶい黄褐色(10YR4/3) しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒・焼土粒混。明黄褐色ブロック微混。
- 7 黄褐色(10YR5/8) 砂礫質。しまり・粘性なし。明黄褐色ブロック混。
- 8 黄褐色(10YR5/6) 砂質シルト。しまりあり。粘性ややあり。礫微混。
- 9 褐色(10YR4/4) しまりあり。粘性ややあり。6に比べやや明るい。炭化物粒・焼土粒混。明黄褐色ブロック多混。
- 10 暗褐色(10YR3/4) しまりあり。粘性ややあり。9に比べやや暗い。炭化物粒・焼土粒混。明黄褐色ブロック多混。
- 11 褐色(10YR4/4) シルト。しまり・粘性あり。明黄褐色ブロック多混。
- 12 褐色(10YR4/6) シルト。しまりややあり。粘性あり。明黄褐色粒多混。小礫混。
- 13 褐色(10YR4/4) シルト。しまりあり。粘性微弱。明黄褐色ブロック多混。
- 14 暗褐色(10YR3/4) シルト。しまり強。粘性微弱。炭化物粒多混。明黄褐色粒混。
- 15 褐色(10YR4/4) シルト。しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒混。
- 16 黄褐色(10YR5/6) 砂質シルト。堆積。しまり弱。粘性ややあり。炭化物粒・明黄褐色ブロック混。
- 17 黒褐色(10YR3/2) シルト。しまりあり。粘性微弱。炭化物粒混。
- 18 明黄褐色(10YR6/8) しまりなし。砂礫。

遺物出土状況



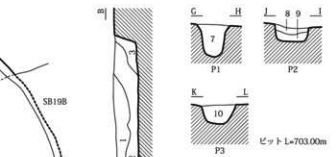
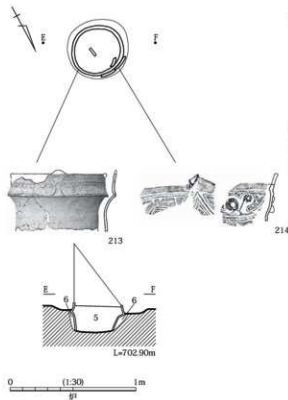


- | | | |
|----|------------------|--|
| 1 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト。しまり・粘性ややあり。炭化物・焼土粒子微混。20～100mm 面円礫混。 |
| 2 | 褐色 (10YR4/4) | 砂質シルト。しまり弱。粘性ややあり。明黄褐色ローム貫土ブロック混。100mm 面角礫混。 |
| 3 | 明赤褐色 (2.5YR5/6) | シルト質。しまりあり。粘性ややあり。焼土多混。 |
| 4 | 暗褐色 (10YR3/3) | シルト。しまり・粘性あり。 |
| 5 | 暗褐色 (10YR3/4) | シルト。しまりややあり。粘性あり。小円礫・50mm 礫混。 |
| 6 | 暗褐色 (10YR3/4) | シルト。しまり強。粘性なし。炭化物粒・焼土粒多混。 |
| 7 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト。しまりあり。粘性なし。炭化物粒多混。 |
| 8 | 灰黄褐色 (10YR4/2) | しまり弱。粘性ややあり。砂礫多混。 |
| 9 | 暗褐色 (10YR3/4) | シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・明黄褐色粒混。 |
| 10 | 暗褐色 (10YR3/3) | シルト。しまり弱。粘性ややあり。焼土粒微混。 |
| 11 | 褐色 (10YR4/4) | シルト。しまり強。粘性なし。明黄褐色ブロック多混。小円礫混。 |
| 12 | 暗褐色 (10YR3/3) | シルト。しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒・明黄褐色ブロック混。 |
| 13 | オリーブ褐色 (2.5Y4/3) | 砂質シルト。しまりあり。粘性弱。砂粒・炭化物粒混。 |
| 14 | オリーブ褐色 (2.5Y4/4) | 砂質シルト。しまりなし。粘性弱。炭化物粒・焼土粒少混。 |
| 15 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト。しまり強。粘性ややあり。炭化物粒・明黄褐色ブロック多混。 |
| 16 | 黄褐色 (2.5Y5/4) | 砂質シルト。しまり強。粘性強。炭化物粒微混。 |
| 17 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト。しまりややあり。粘性あり。炭化物粒・明黄褐色粒混。 |
| 18 | 黄褐色 (2.5YR5/4) | シルト。しまり強。粘性ややあり。炭化物粒混。 |
| 19 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト。しまり・粘性あり。50mm 炭化物粒多混。 |
| 20 | 黄褐色 (2.5YR5/6) | 砂質シルト。しまりあり。粘性なし。 |
| 21 | 暗褐色 (10YR3/3) | シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒多混。明黄褐色ブロック混。 |
| 22 | 暗褐色 (10YR3/3) | シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・焼土粒・小円礫混。 |
| 23 | 暗褐色 (10YR2/2) | シルト。しまり弱。粘性ややあり。炭化物粒多混。 |
| 24 | 暗褐色 (10YR3/4) | シルト。しまり・粘性あり。小円礫少混。 |
| 25 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト。しまり・粘性ややあり。炭化物粒・明黄褐色粒混。小円礫微混。 |
| 26 | 黒褐色 (10YR2/3) | シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・小円礫混。 |
| 27 | 黒褐色 (10YR2/2) | しまり・粘性あり。炭化物粒・明黄褐色ブロック・小円礫混。 |

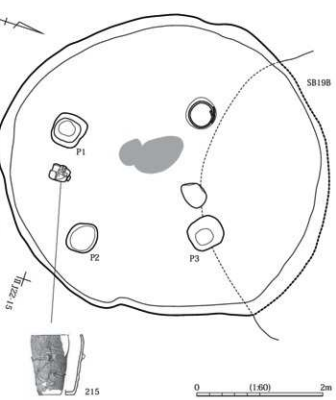


伊

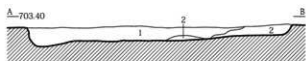
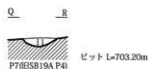
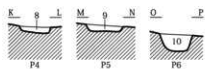
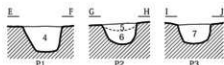
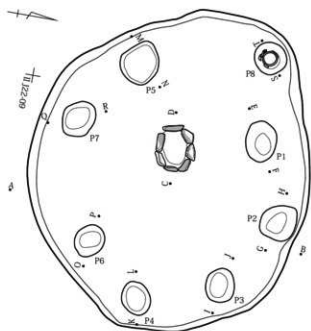
遺物出土状況



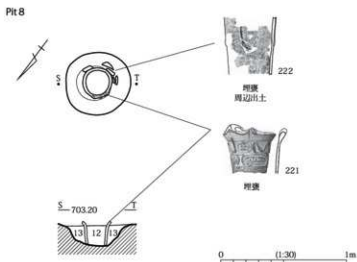
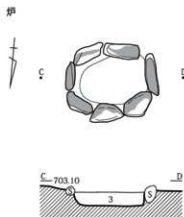
- 1 暗褐色 (10YR3/4) しまり・粘性弱。焼土粒・炭化物粒多量。小円礫混。
- 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト。しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒・焼土粒・礫混。
- 3 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり・粘性あり。80%明黄褐色。ブロック多量。炭化物粒混。
- 4 焼土 (焼土ブロック)。
- 5 黒褐色 (10YR2/2) しまりなし。粘性あり。焼土ブロック多量。明黄褐色ブロック混。
- 6 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・焼土ブロック・明黄褐色ブロック混。小円礫多量。礫方。
- 7 褐色 (10YR4/4) シルト。しまりあり。粘性微弱。炭化物粒・小円礫混。
- 8 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒混。明黄褐色ブロック多量。
- 9 橙 (2.5YR6/8) シルト。しまり・粘性あり。8種明黄褐色ブロックの母体。にふい黄褐色 (10YR4/5) 砂質シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒混。
- 10

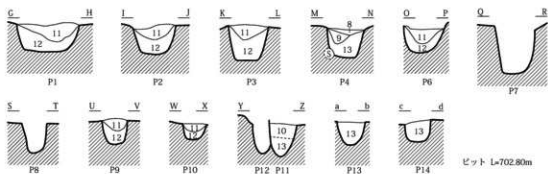
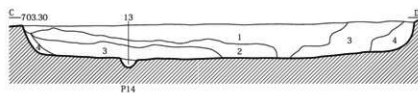
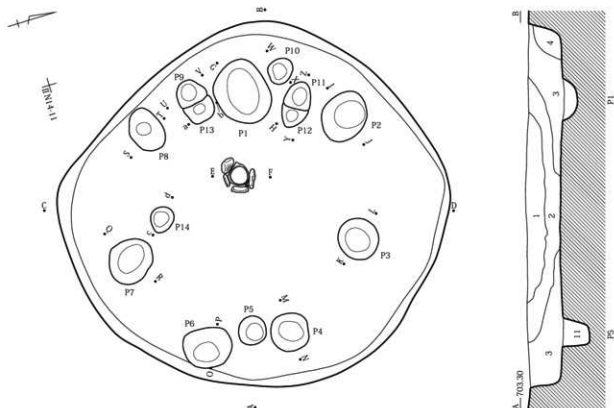


SB19A



- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) シルト。しまりなし。粘性ややあり。炭化物粒・明黄褐色粒・小円礫混。
- 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) シルト。しまり強。粘性弱。明黄褐色粒混。
- 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物粒・小円礫混。
- 4 にふい黄褐色 (10YR4/3) シルト。しまりあり。粘性なし。炭化物粒・土層に100mm 礫混。
- 5 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまり強。粘性ややあり。炭化物粒多混。
- 6 暗褐色 (7.5YR5/6) シルト。砂礫多混。
- 7 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒混。
- 8 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり強。粘性ややあり。炭化物粒混。
- 9 にふい黄褐色 (10YR4/3) シルト。しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒混。小円礫微混。
- 10 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物粒・明黄褐色ブロック・小円礫混。
- 11 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒混。
- 12 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒・小円礫混。
- 13 褐色 (10YR4/4) シルト。しまりあり。粘性弱。明黄褐色ブロック微混。



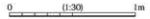
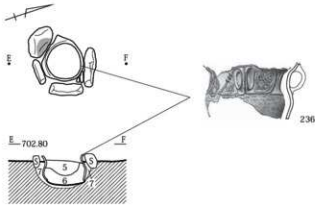


ピット L=702.80m

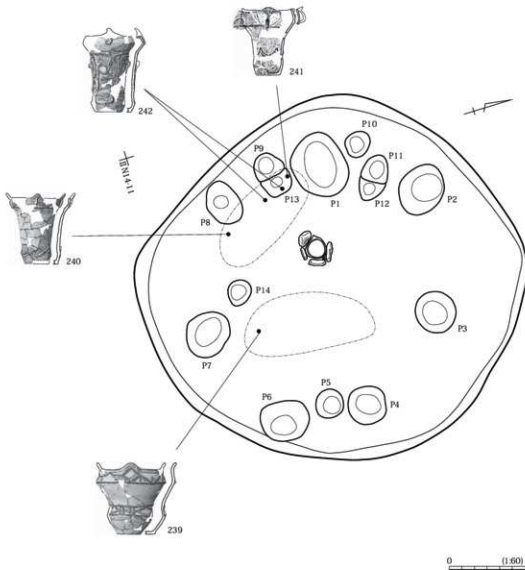
- | | |
|--------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強。粘性やや弱。1~5mm炭化物混。下層黄褐色砂少混。礫混。 |
| 2 暗褐色 (10YR3/4) | 砂質土。しまり中。粘性やや弱。黒褐色ブロック少混。礫多混。 |
| 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) | 砂質土。しまりやや強。粘性やや弱。 |
| 4 黄橙 (10YR8/8) | しまりやや強。粘性やや強。円礫混。 |
| 5 暗褐色 (10YR3/3) | シルト。砂礫混。 |
| 6 黒褐色 (10YR3/2) | シルト。 |
| 7 褐色 (10YR4/4) | シルト。5mm以下砂礫混。振り方。 |
| 8 黄褐色 (2.5Y5/3) | 砂質土。しまりやや強。粘性やや弱。 |
| 9 褐色 (10YR4/4) | 砂質土。しまり中。粘性やや弱。 |
| 10 相灰色 (10YR5/3) | しまり強。粘性弱。砂礫混。 |
| 11 暗褐色 (10YR3/3) | しまりやや強。粘性やや弱。小礫混。 |
| 12 暗褐色 (7.5YR3/3) | しまりやや強。粘性中。円礫少混。 |
| 13 暗褐色 (10YR3/3) | しまりやや強。粘性やや弱。小礫混。 |

0 (150) 2m

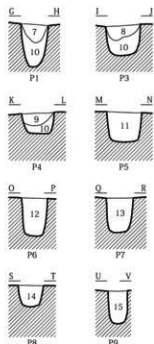
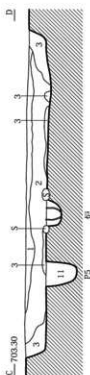
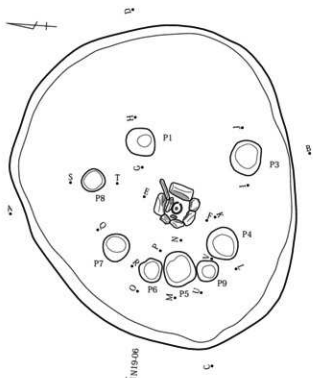
炉



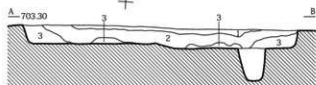
遺物出土状況



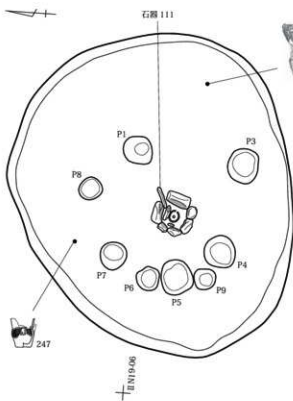
SB 24 遺物出土状況



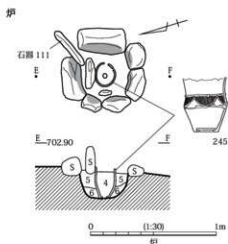
ピットL=702.90m



遺物出土状況

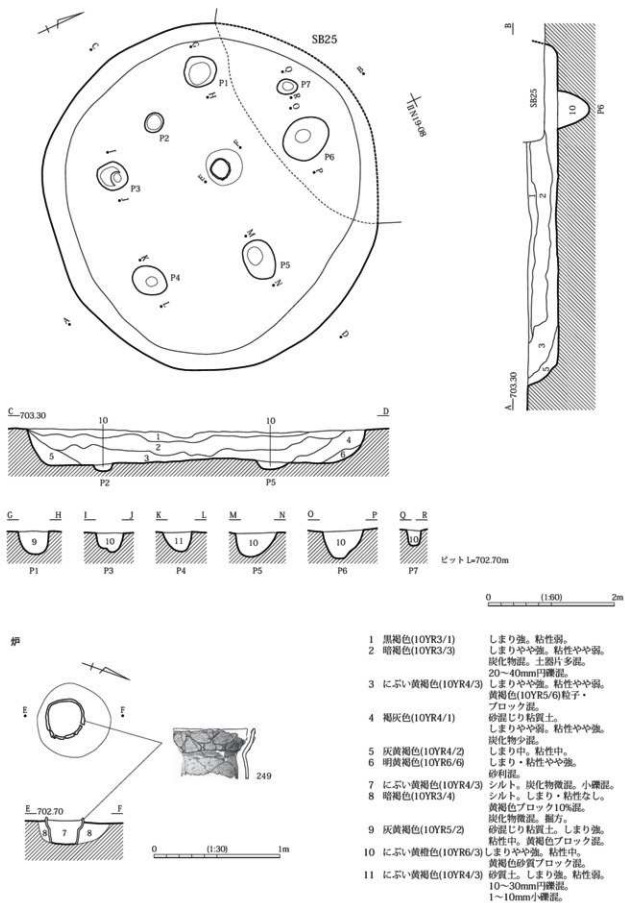


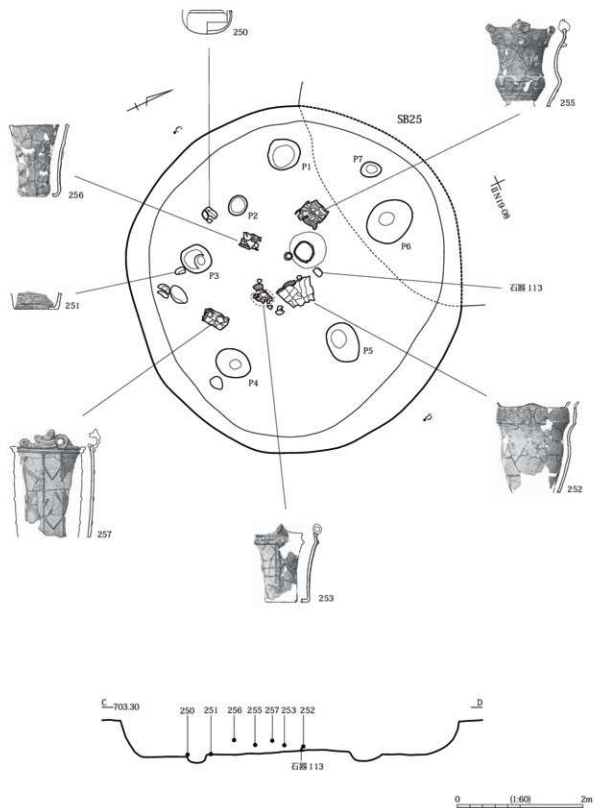
- 1 黒褐色(10YR3/1) しまり強。粘性弱。
- 2 暗褐色(10YR3/3) しまり強。粘性弱。炭化物多混。土器片多混。
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3) 黄褐色ブロック混。
- 4 黒褐色(10YR3/1) しまりやや強。粘性中。
- 5 黒褐色(10YR3/2) しまり弱。粘性やや強。黄褐色砂質土ブロック混。
- 6 灰黄褐色(10YR4/2) しまり弱。粘性強。砂少混。
- 7 褐色(10YR4/4) しまりやや強。粘性やや弱。20~30mm粗砂ブロック混。
- 8 褐色(10YR4/4) しまり・粘性中。炭化物少混。
- 9 にぶい黄褐色(10YR4/3) しまりやや強。粘性やや弱。浅黄色砂質ブロック少混。
- 10 黄褐色(10Y5/6) シルト。褐色ブロック混。
- 11 にぶい黄褐色(10YR4/3) しまりやや強。粘性やや弱。炭化物混。
- 12 褐色(10YR4/4) しまり強。粘性弱。5~15mm黄褐色砂質ブロック多混。
- 13 にぶい黄褐色(10YR4/3) しまり弱。粘性やや弱。炭化物少混。
- 14 にぶい黄褐色(10YR4/3) しまりやや強。粘性やや弱。炭化物少混。
- 15 黒褐色(10YR3/1) しまりやや強。粘性やや弱。5~15mm黄褐色ブロック混。



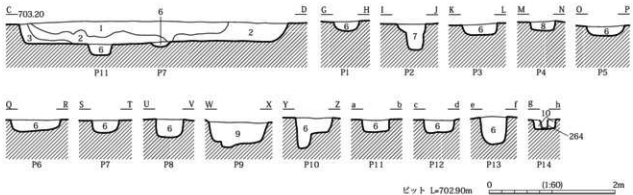
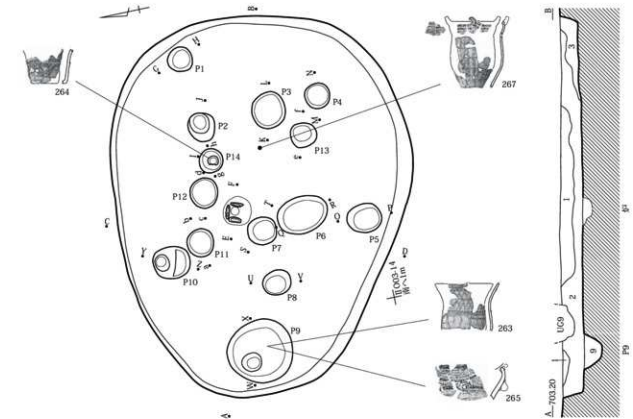
0 (1.30) 1m

0 (1.60) 2m



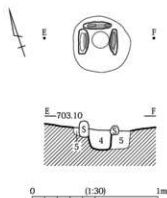


S B 26 遺物出土状況

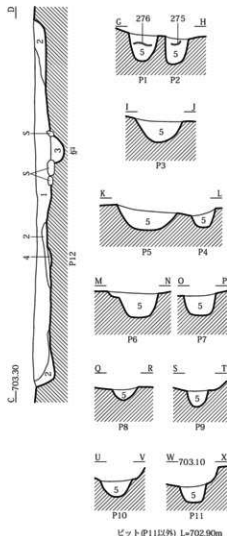
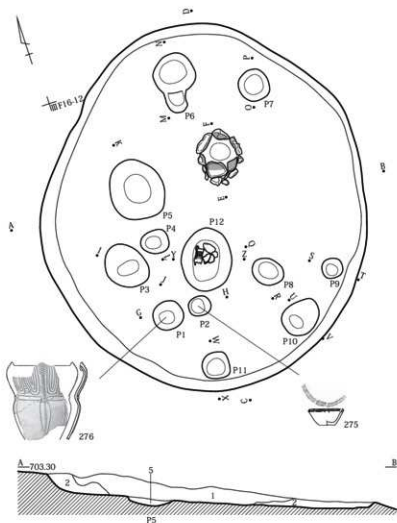


ビット L=70290m 0 (1:50) 2m

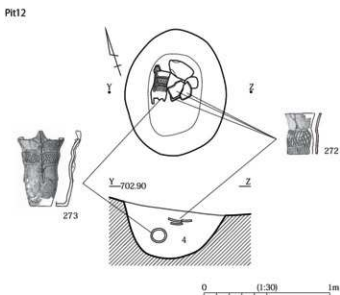
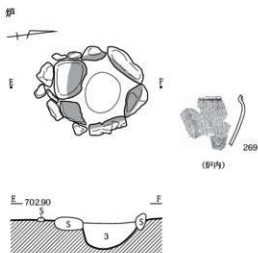
甲

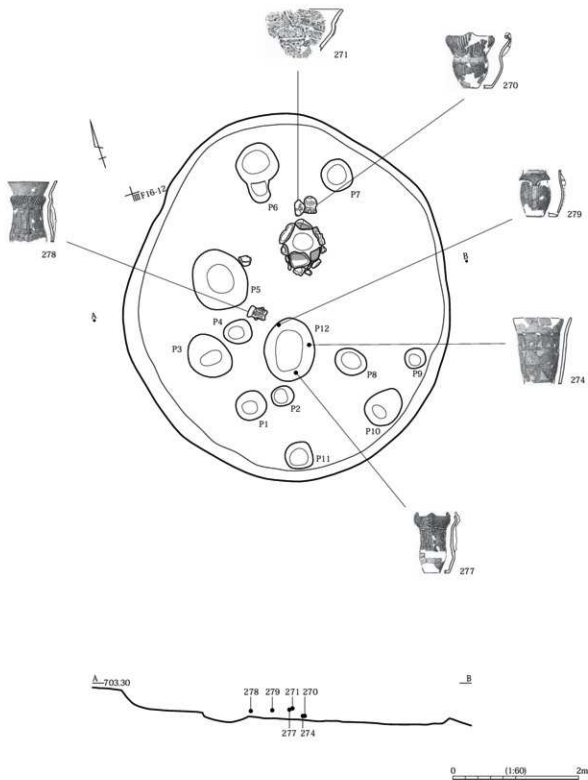


- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。しまり強、粘性弱。
- 2 灰黄褐色 (10YR5/4) 砂質土。しまりやや強。粘性やや弱。黄褐色ブロック混。
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。しまりやや強。粘性やや弱。黄白砂ブロック混。
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。しまり中。粘性やや弱。10～15mm 黄褐色 (10YR3/4) 砂ブロック混。
- 5 灰黄褐色 (10YR4/3) しまり中。粘性やや強。土器混。雜方。
- 6 灰黄褐色 (10YR5/2) しまりやや強。粘性中。
- 7 暗褐色 (10YR3/3) しまり中。粘性やや弱。
- 8 灰黄褐色 (10YR5/2) 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土小ブロック混。しまり・粘性やや強。
- 9 灰黄褐色 (10YR4/3) しまりやや強。粘性中。
- 10 褐色 (10YR4/6) 10～85mm 黄褐色 (10YR5/8) ブロック・炭化物混。しまり中。粘性やや弱。

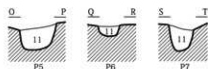
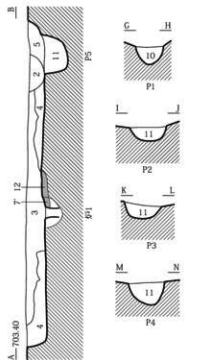
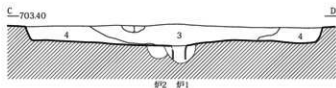
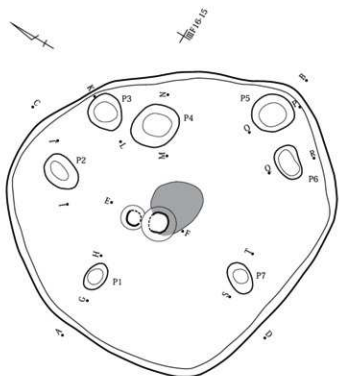


- 1黒褐色(10YR2/3)シルト。しまりなし。粘性ややあり。炭化物2%・10~20mm礫混。
 2暗褐色(10YR3/4)シルト。しまりなし。粘性あり。10mm以上礫10%混。
 3暗褐色(10YR3/3)シルト。しまりなし。粘性あり。
 4暗褐色(10YR2/3)シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物・遺物多混。
 5暗褐色(10YR3/3)シルト。しまりなし。粘性あり。





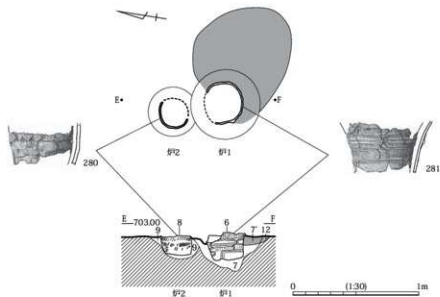
S B29 遺物出土状況



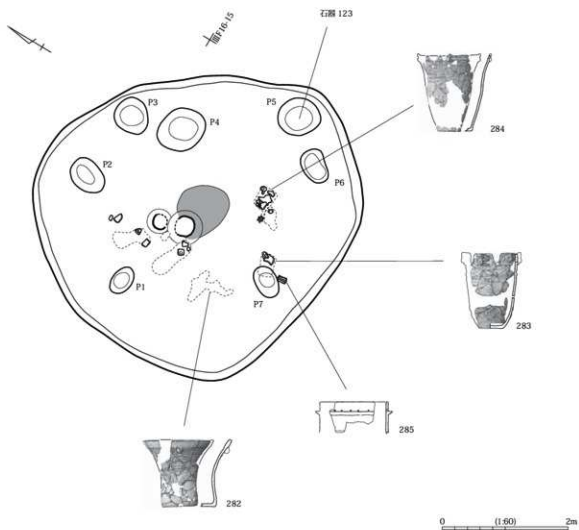
ビット L=703.10m

0 (1:60) 2m

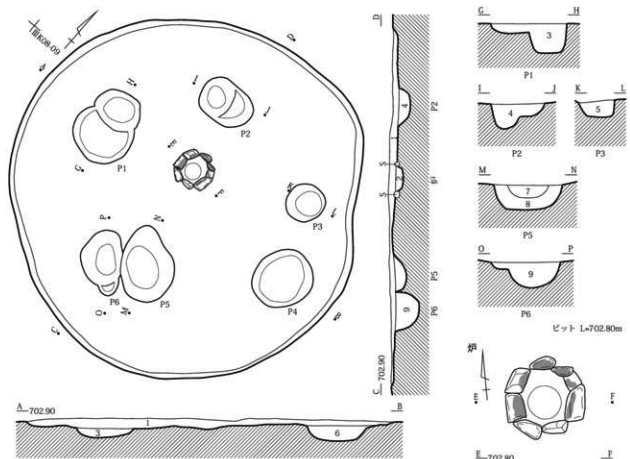
戸



- 1 暗赤褐色 (5YR3/3)
シルト。しまり・粘性なし。
焼土ブロック混。炭化物10%混。
- 2 黒褐色 (10YR3/2)
- 3 黒褐色 (10YR2/2)
シルト。しまりなし。粘性あり。
炭化物20%混。遺物多混。
- 4 暗褐色 (10YR3/3)
シルト。しまり・粘性なし。
炭化物微混。
- 5 黒褐色 (10YR2/2)
シルト。
- 6 黒褐色 (10YR2/2)
シルト。戸内埋土。
- 7 黒褐色 (10YR2/2)
シルト。しまりなし。粘性弱。
10mm以上礫5%混。掘方。
- 7 褐色 (10YR4/6)
シルト。しまり・粘性なし。
焼土ブロック混。掘方。
- 8 黒褐色 (10YR3/2)
シルト。戸内埋土。
- 9 暗褐色土・砂礫混。
10mm以上礫50%混。掘方。
- 10 にぶい黄褐色 (10YR4/3)
シルト。しまりなし。粘性あり。
10～50mm礫混。
- 11 暗褐色 (10YR3/3)
シルト。しまりなし。粘性あり。
砂礫多混。10～50mm礫混。
- 12 焼土ブロック混。掘方。



S B 30 遺物出土状況

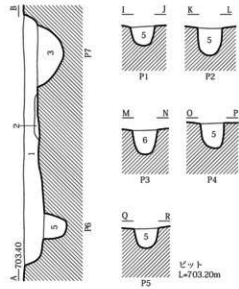
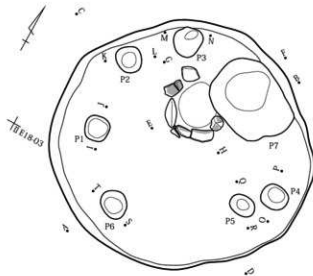


遺物出土状況

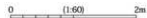


- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・焼土粒多量。小円礫混。
- 2 黒褐色 (10YR2/2) シルトやや砂質。しまり・粘性あり。炭化物粒・焼土粒混。明黄褐色ブロック・小円礫混。
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト。炭化物粒・明黄褐色ブロック混。小円礫多量。
- 4 黒褐色 (10YR2/3) シルト。しまり・粘性あまりなし。炭化物粒・小円礫混。
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・小円礫混。
- 6 暗褐色 (10YR3/3) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・明黄褐色ブロック大50%・小円礫混。
- 7 黒褐色 (10YR3/1) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・焼土粒・小円礫混。
- 8 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 明黄褐色ブロック・砂礫混。
- 9 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまり・粘性あり。小円礫混。

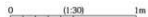
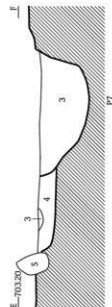
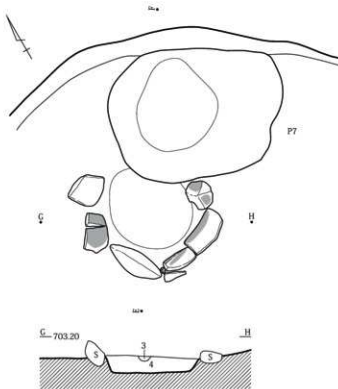
0 (1:60) 2m

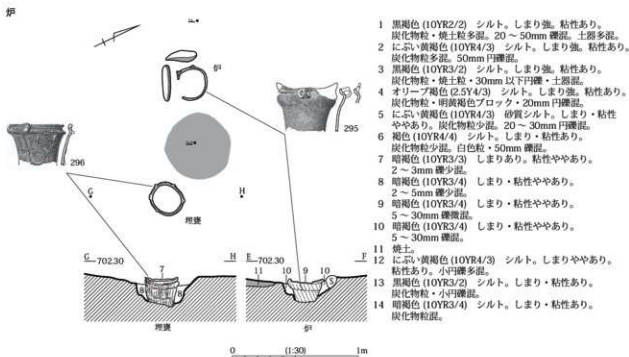
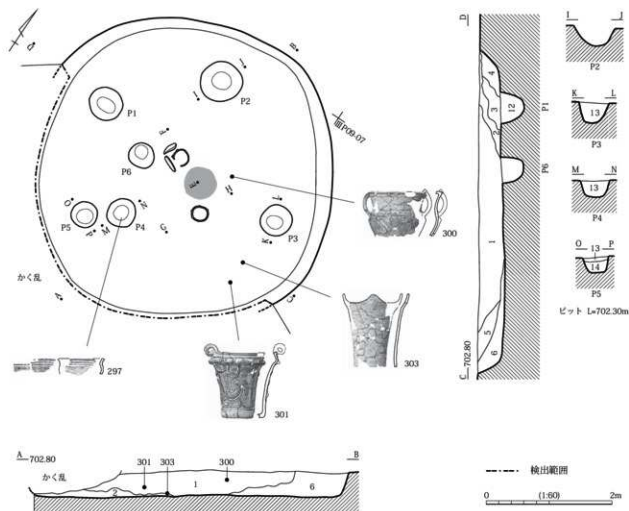


- 1 黒褐色(10YR3/2) シルト。しまりなし。粘性あり。5mm砂礫5%・黄褐色ブロック10%混。
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト。しまり弱。粘性あり。暗褐色ブロック・砂礫微混。
- 3 黒褐色(10YR2/2) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物混。
- 4 暗褐色(10YR3/3) シルト。しまりなし。粘性あり。3層より砂質。
- 5 黒褐色(10YR2/3) シルト。しまりなし。粘性あり。黄褐色ブロック50%混。
- 6 黒褐色(10YR2/3) 暗褐色砂礫・暗褐色シルト混。

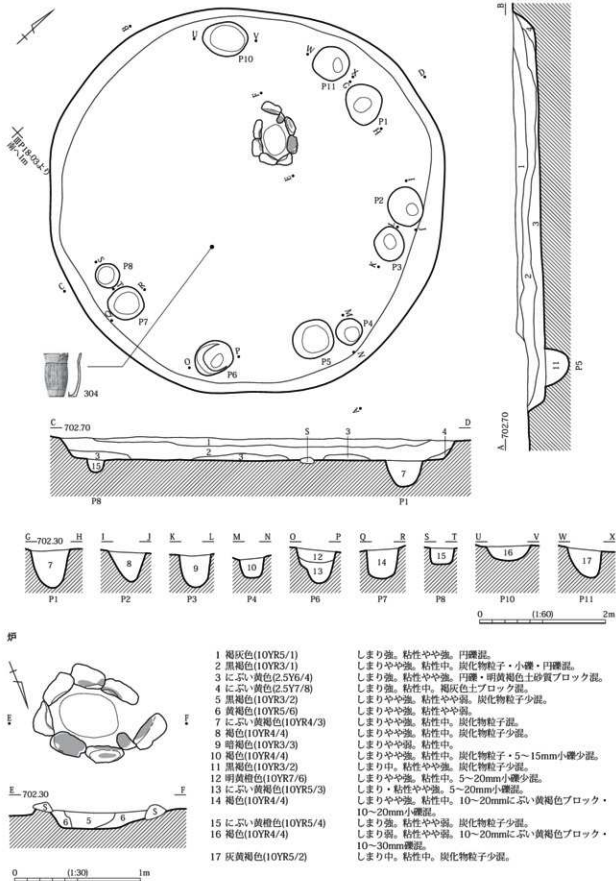


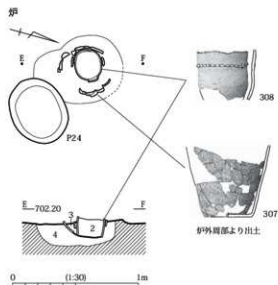
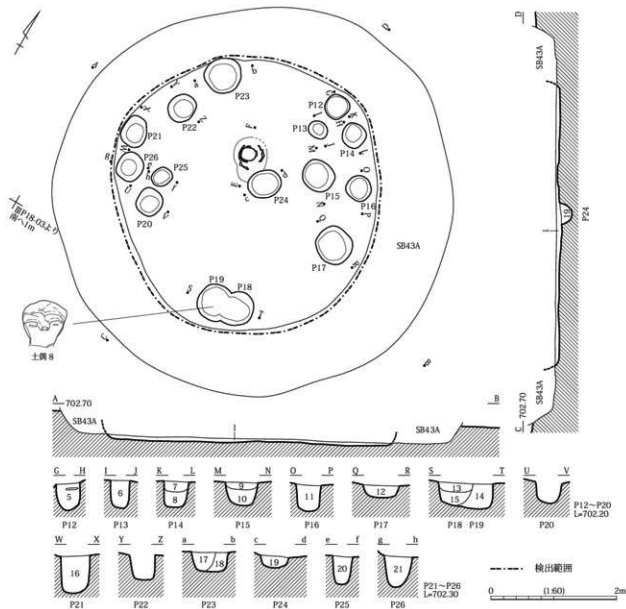
卵





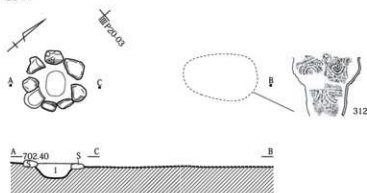
- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。しまり強。粘性あり。炭化物粒・焼土粒多混。20～50mm 礫混。土器多混。
- 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) シルト。しまり強。粘性あり。炭化物粒多混。50mm 円礫混。
- 3 黒褐色 (10YR3/2) シルト。しまり強。粘性あり。炭化物粒・焼土粒・30mm 以下円礫・土器混。
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト。しまり強。粘性あり。炭化物粒・明黄褐色ブロック・20mm 円礫混。
- 5 にふい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト。しまり・粘性ややあり。炭化物粒少混。20～30mm 円礫混。
- 6 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒少混。白色粒・50mm 礫混。
- 7 暗褐色 (10YR3/3) しまりあり。粘性ややあり。2～3mm 礫多混。
- 8 暗褐色 (10YR3/4) しまり・粘性ややあり。2～5mm 礫少混。
- 9 暗褐色 (10YR3/4) しまり・粘性ややあり。5～30mm 礫微混。
- 10 暗褐色 (10YR3/4) しまり・粘性ややあり。5～30mm 礫混。
- 11 焼土。
- 12 にふい黄褐色 (10YR4/3) シルト。しまりややあり。粘性あり。小円礫多混。
- 13 黒褐色 (10YR3/2) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・小円礫混。
- 14 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒混。





- 1 オリーブ褐色(2.5Y4/4) シルト。暗褐色ブロック多混。
- 2 暗褐色(10YR3/2) しまり・粘性ややあり。
- 3 にふい黄褐色(10YR4/3) しまりなし。粘性ややあり。
- 4 灰黄褐色(10YR5/2) しまりなし。粘性ややあり。掘方。
- 5 褐色(10YR4/4) しまりやや強。粘性中。
60~125mm円礫(柱石に充填)多混。
- 6 にふい黄褐色(10YR4/3) しまり強。粘性弱。
- 7 オリーブ褐色(2.5Y4/4) しまり・粘性やや強。
- 8 にふい黄褐色(10YR5/3) しまり中。粘性やや強。
- 9 オリーブ褐色(2.5Y4/4) しまり・粘性やや強。
- 10 にふい黄褐色(10YR4/3) しまり強。粘性やや強。
- 11 褐色(10YR6/4) しまり強。粘性やや強。炭化物粒少混。
- 12 褐灰色(10YR4/1) しまり強。粘性弱。炭化物粒少混。
- 13 オリーブ褐色(2.5Y4/4) しまり・粘性中。炭化物粒・15~30mm円礫混。
- 14 灰黄褐色(10YR4/2) しまり弱。粘性中。20~40mm円礫混。
- 15 褐灰色(10YR4/1) しまり・粘性やや強。10~20mm小礫混。
- 16 黒褐色(10YR3/2) しまりやや強。粘性中。炭化物粒少混。
- 17 灰黄褐色(10YR4/2) しまりやや強。粘性中。明黄褐色ブロック混。
- 18 褐色(10YR4/4) しまり中。粘性やや強。炭化物粒少混。
褐色ブロック多混。
- 19 灰黄褐色(10YR4/2) しまりやや強。粘性中。1~10mm小礫混。
- 20 灰黄褐色(10YR4/2) しまりやや強。粘性やや弱。
覆土上層部より小さい深鉢土器の底部が出土。
20~40mm円礫混。
- 21 暗褐色(10YR3/3) しまりやや強。粘性弱。

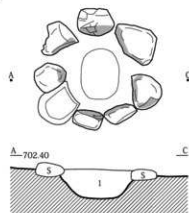
SB44



I 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。

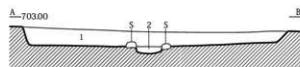
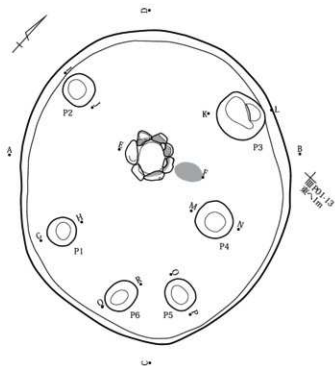
0 (1:90) 2m

竈

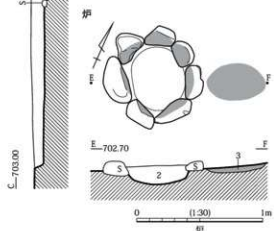
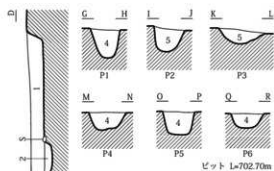


0 (1:30) 1m

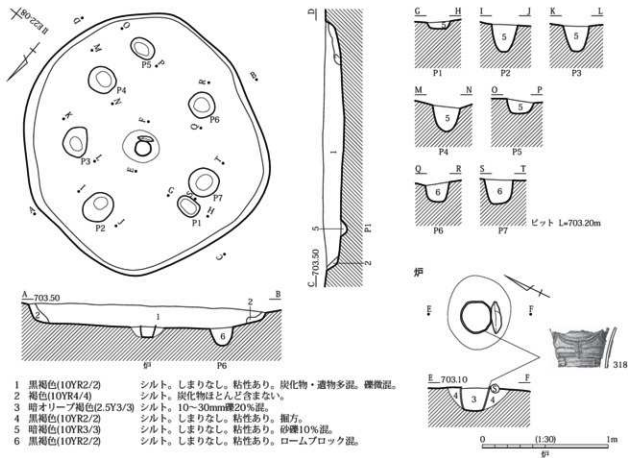
SB45



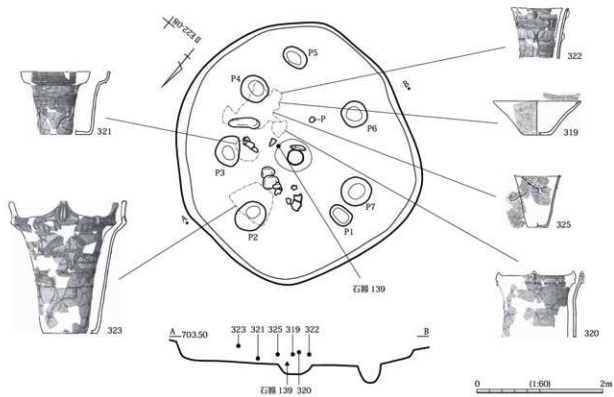
0 (1:90) 2m

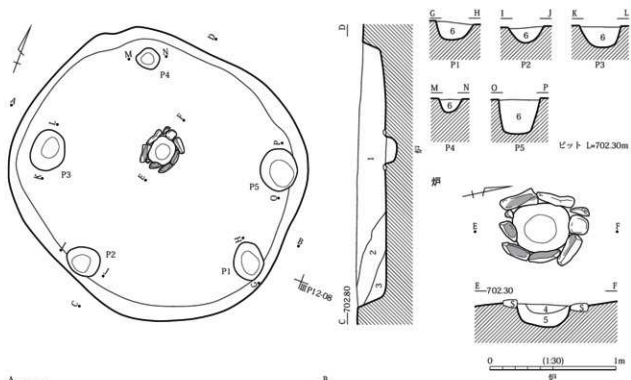


- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。
 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト。しまりやや強。粘性やや弱。炭化物粒多混。
 3 赤褐色 焼土。
 4 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。10mm 砂礫少混。
 5 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。10mm 砂礫多混。



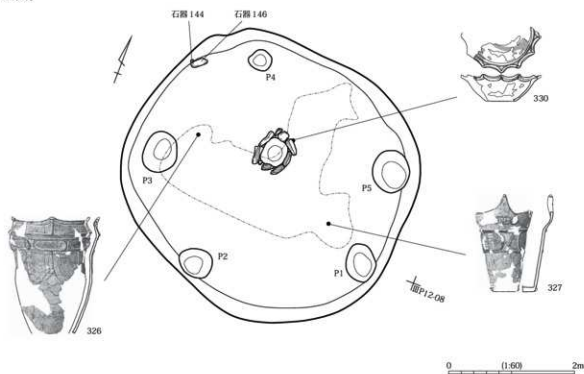
遺物出土状況図

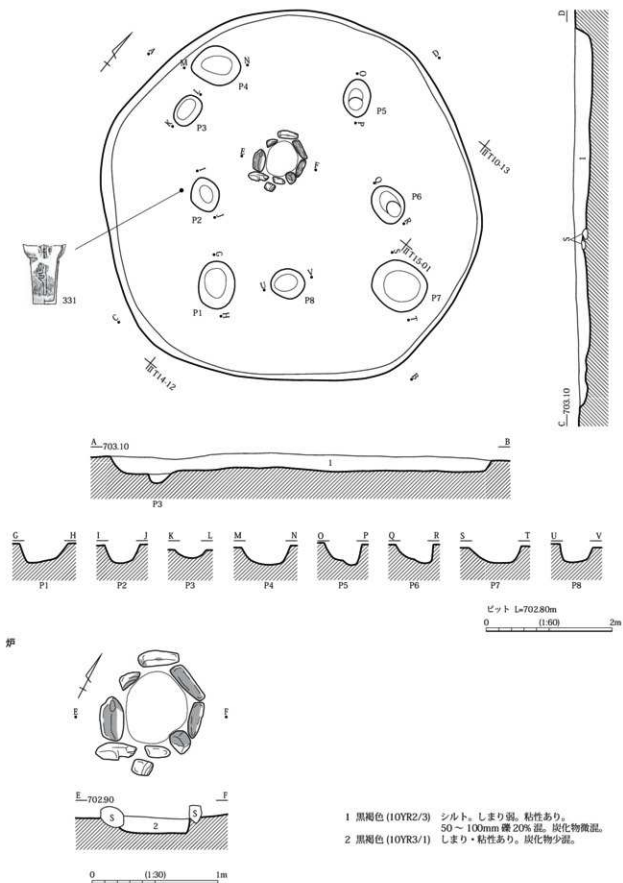


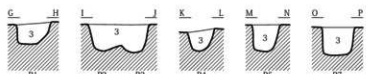
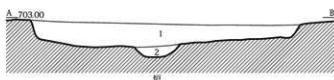
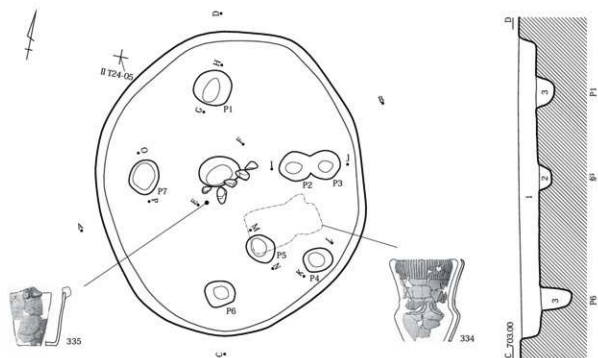


- 1 黒褐色 (10YR2/2)
 2 灰黄褐色 (10YR4/2)
 3 にぶい黄褐色 (10YR5/4)
 4 にぶい黄褐色 (10YR5/4)
 5 暗褐色 (10YR3/3)
 6 黒褐色 (10YR2/3)
- 土器片・礫混。炭化物微混。
 炭化物混。
 砂質土。
 しまりやや弱。粘性やや弱。小礫少量。
 しまりやや弱。粘性やや弱。
 シルト。しまりなし。粘性あり。
 炭化物微混。

遺物出土状況

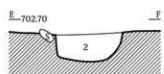






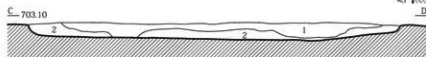
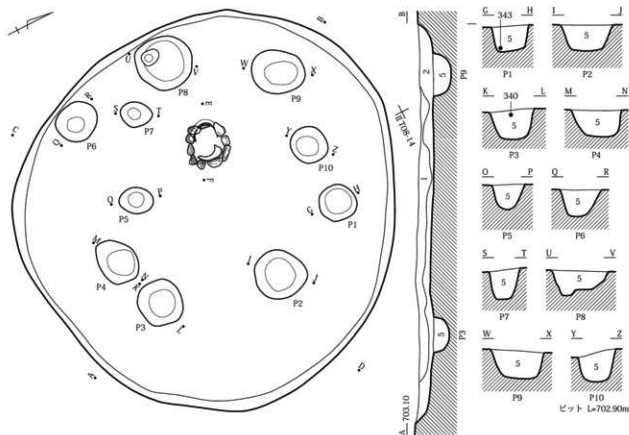
ピット L=70270m
0 (1:60) 2m

甲

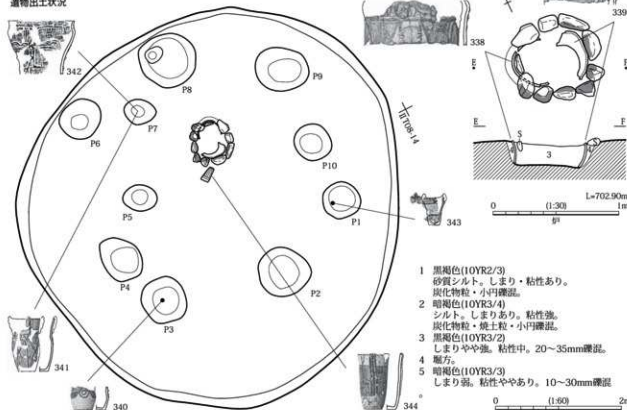


0 (1:30) 1m

- 1 暗褐色(10YR3/4) シルト。
- 2 黒褐色(10YR2/2) シルト。
- 3 暗褐色(10YR3/4) シルト。

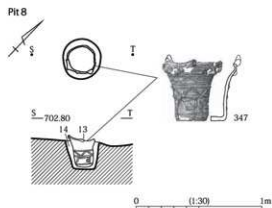
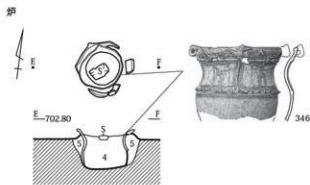
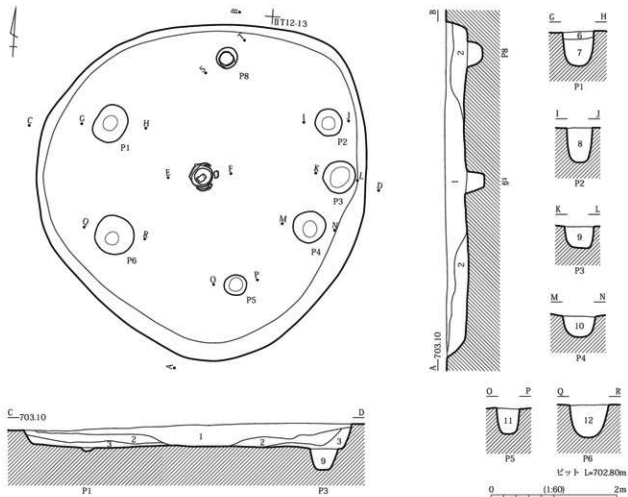


遺物出土状況



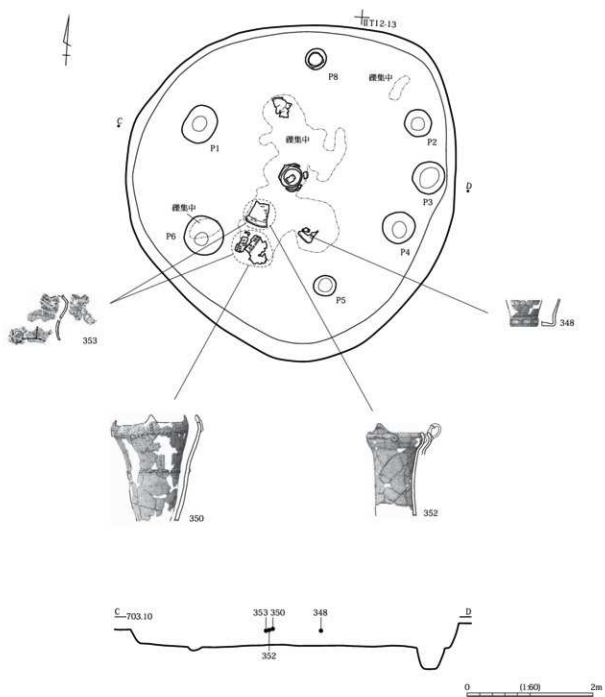
- 1 黒褐色(10YR2/3)
砂質シルト。しまり・粘性あり。
炭化物粒・小円礫混。
- 2 暗褐色(10YR3/4)
シルト。しまりあり。粘性強。
炭化物粒・焼土粒・小円礫混。
- 3 黒褐色(10YR3/2)
しまりやや強。粘性中。20~35mm礫混。
- 4 腐方。
- 5 暗褐色(10YR3/3)
しまり弱。粘性ややあり。10~30mm礫混

0 (1:60) 2m

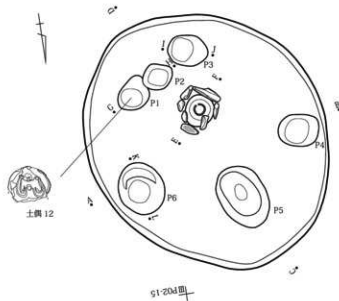


- 1 黒褐色 (10YR3/2) しまり強。粘性弱。円礫多混。
 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) しまり強。粘性強。
 3 にぶい黄褐色 (10YR6/4) しまり強。粘性やや弱。
 4 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強。粘性やや弱。
 5 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物微混。掘り方。
 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) しまり強。粘性弱。
 7 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土。しまりやや弱。粘性弱。10～30mm 円礫混。

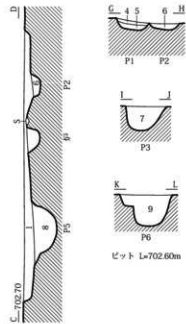
- 8 褐色 (10YR4/4) 砂質土。しまり強。粘性やや弱。黄褐色 (10YR5/6) 砂混。
 9 暗褐色 (10YR3/4) しまりやや弱。粘性中。
 10 にぶい黄褐色 (10YR5/4) しまり・粘性やや強。小礫混。
 11 褐色 (10YR4/4) しまり強。粘性やや弱。炭化物混。
 12 褐色 (10YR4/4) しまり強。粘性やや弱。50mm 円礫混。
 13 暗褐色 (10YR3/3) シルト。礫微混。
 14 褐色 (10YR4/4) しまり強。粘性やや弱。砂礫混。



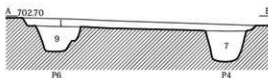
S B 52 遺物出土状況



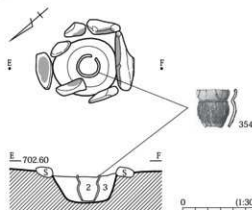
土偶 12



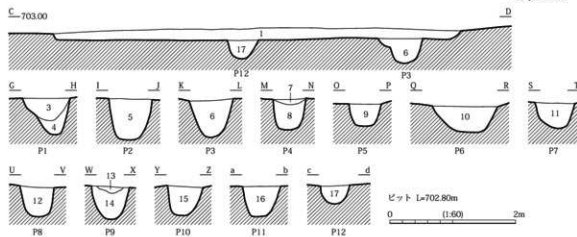
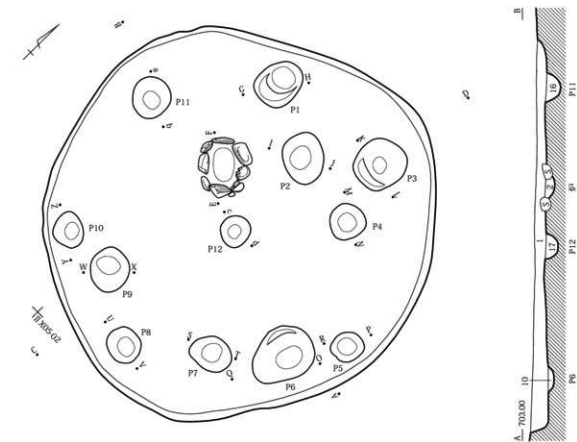
ピット L=702.60m



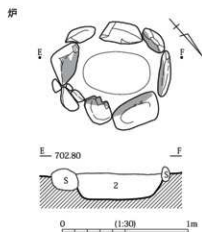
炉

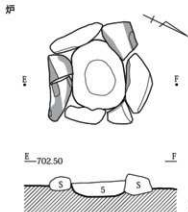
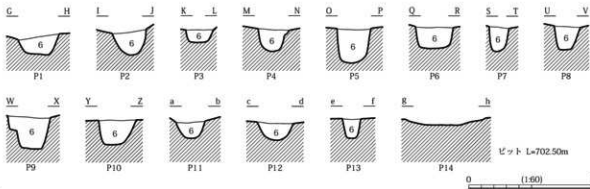
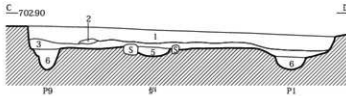
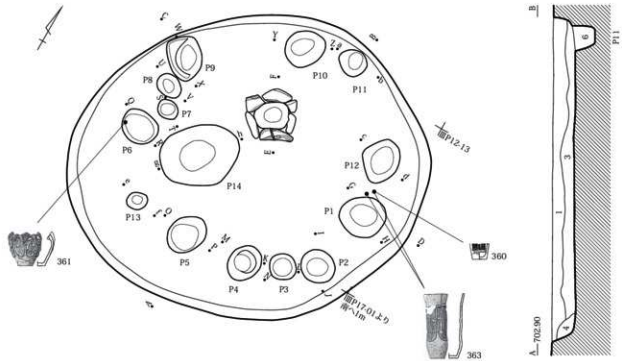


- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色(10YR2/2) | しまり・粘性弱。10~30mm角・円礫多混。100以上mm角・円礫少混。 |
| 2 黒褐色(10YR3/2) | しまり・粘性中。 |
| 3 暗褐色(10YR3/3) | しまり強。粘性やや弱。 |
| 4 暗褐色(10YR3/3) | シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒子・砂礫ブロック微混。土偶出土。 |
| 5 にぶい黄色(2.5Y6/4) | 砂礫層。しまりややなし。粘性なし。 |
| 6 暗褐色(10YR3/3) | シルト。しまりあり。粘性ややあり。黄褐色ブロック・小円礫混。 |
| 7 暗褐色(10YR3/4) | シルト。しまりややあり。粘性あり。小円礫混。 |
| 8 黒褐色(10YR3/2) | シルト。しまり・粘性あり。小円礫混。 |
| 9 黒褐色(10YR3/3) | シルト。しまり・粘性あり。小円礫混。 |

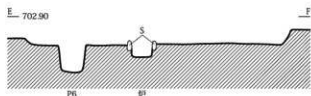
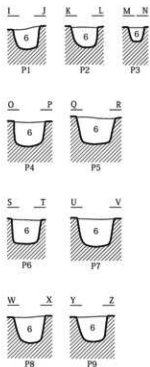
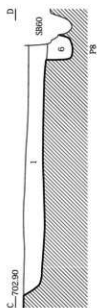
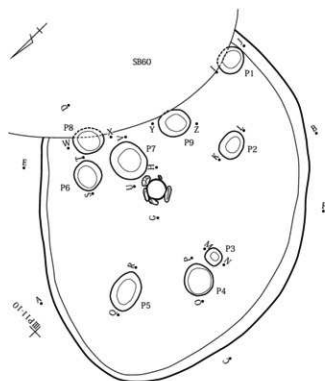


- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 1 褐色(10YR4/4) | しまり強。粘性中。明黄褐色ブロック混。 |
| 2 暗褐色(10YR3/4) | しまり強。粘性やや強。 |
| 3 にぶい黄褐色(10YR6/4) | しまり強。粘性やや弱。10~15mm暗褐色ブロック混。 |
| 4 にぶい黄褐色(10YR5/3) | しまり中。粘性やや強。 |
| 5 にぶい黄褐色(10YR4/3) | しまり中。粘性強。 |
| 6 にぶい黄褐色(10YR4/3) | しまり強。粘性中。 |
| 7 にぶい黄褐色(10YR5/4) | しまり強。粘性やや強。 |
| 8 黒褐色(10YR3/1) | しまり強。粘性中。 |
| 9 にぶい黄褐色(10YR4/3) | しまり・粘性やや強。 |
| 10 黒褐色(10YR3/2) | しまり・粘性やや強。1~15mm小礫混。 |
| 11 灰褐色(10YR4/1) | しまり・粘性やや強。1~10mm小礫混。 |
| 12 黒褐色(10YR3/1) | しまりやや強。粘性強。1~15mm小礫混。 |
| 13 灰黄褐色(10YR4/2) | しまり強。粘性やや強。 |
| 14 褐色(10YR4/4) | しまり・粘性やや強。 |
| 15 灰褐色(10YR4/1) | しまり弱。粘性やや強。 |
| 16 灰褐色 | |
| 17 灰黄褐色(10YR5/2) | しまり・粘性やや強。 |



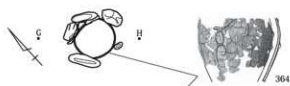


- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト。しまりなし。粘性あり。20～30mm 礫 10% 混。
- 2 暗赤褐色 (5YR3/4) シルト。焼土ブロック混。
- 3 黒色 (10YR1.7/1) シルト。しまり弱。粘性あり。炭化物 40% 混。
- 4 褐色 (10YR4/4) シルト。しまりなし。粘性あり。暗褐色ブロック 10% 混。
- 5 黒褐色 (10YR3/1) しまり強。粘性やや強。炭化物粒少混。
- 6 暗褐色 (10YR3/3) シルト。しまりなし。粘性あり。黄褐色ブロック微混。

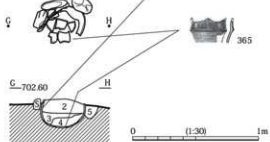


炉

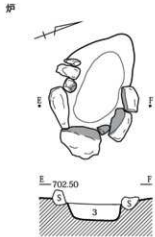
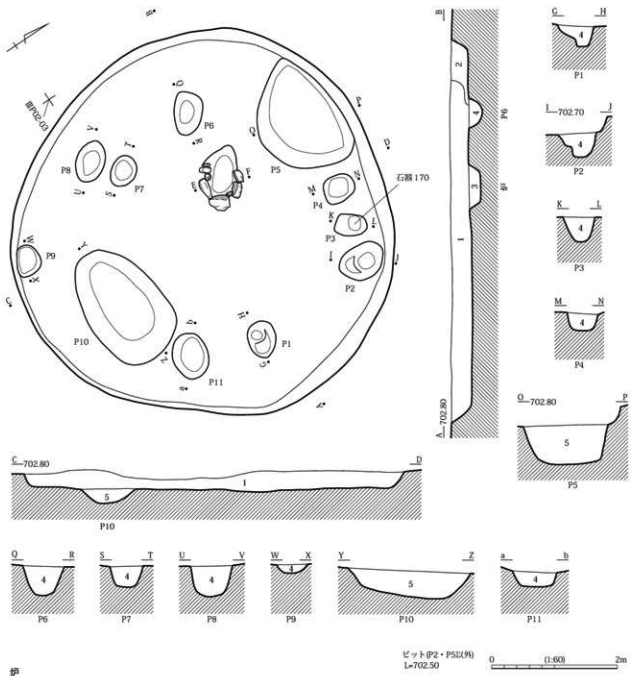
上面



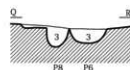
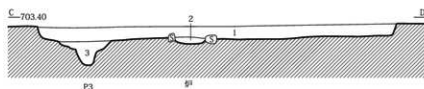
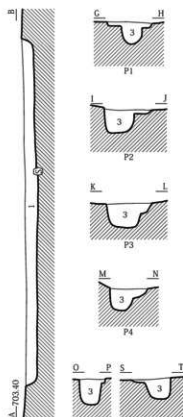
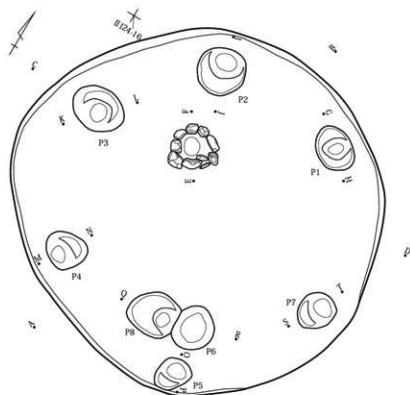
断面



- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 (10YR3/2) | シルト。しまり・粘性弱。炭化物微混。 |
| 2 黒褐色 (10YR3/2) | しまり強。粘性弱。 |
| 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) | しまり強。粘性やや強。2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土。ブロック混。 |
| 4 にぶい黄色 (2.5Y6/4) | 砂質土。しまり強。粘性弱。 |
| 5 暗褐色 (10YR3/3) | しまりやや弱。粘性やや強。炭化物粒少混。 |
| 6 暗褐色 (10YR3/4) | しまり・粘性弱。 |



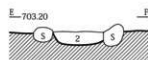
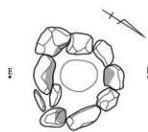
- ピット(②・P5以外)
L=702.50
- 0 (1:600) 2m
- 1 暗褐色(10YR3/4) シルト。炭化物10%混。赤色粒微混。
 - 2 褐色(10YR4/6) シルト。暗褐色ブロック混。炭化物微混。
 - 3 黒褐色(10YR2/3) シルト。しまり・粘性なし。炭化物・黄褐色ブロック混。
 - 4 暗褐色(10YR3/4) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物・10~50mm礫微混。
 - 5 黒褐色(10YR2/1) シルト。しまりなし。粘性強。炭化物微混。



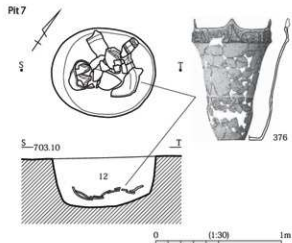
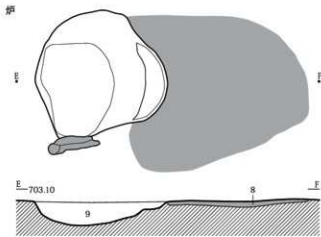
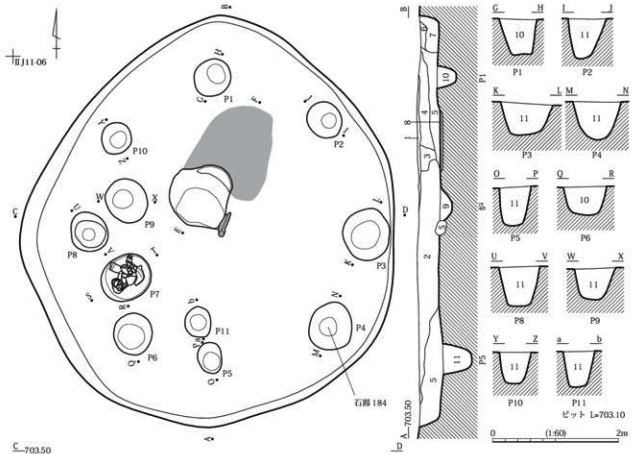
ビット L=703.20

0 (1:60) 2m

炉

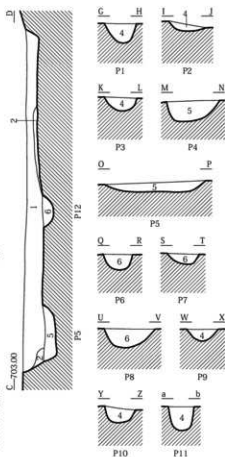
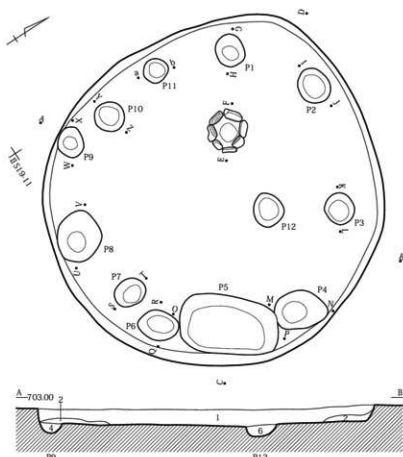


- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。しまりなし。粘性あり。10mm 礫少量。
- 2 黒褐色 (10YR2/3) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物・赤色粒微視。
- 3 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまりなし。粘性あり。5mm ~ 50mm 礫少量。



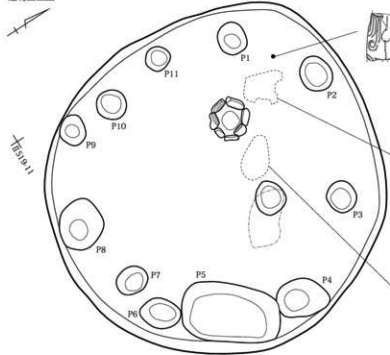
- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。しまり良。粘性微弱。
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト。しまり良。粘性あり。炭化物粒多混。10mm 炭化物・焼土粒・7層ブロック・10~100mm 礫混。
- 3 黒褐色 (10YR3/2) シルト。しまり良。粘性あり。
- 4 暗褐色 (10YR3/3) シルト。しまり良。粘性あり。
- 5 褐色 (10YR4/4) シルト。しまりあり。粘性弱。大粒炭化物・焼土粒混。黒褐色ブロック・7層ブロック混。
- 6 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり良。粘性あり。
- 7 黄褐色 (2.5YR5/4) シルト。しまり強。粘性ややあり。炭化物微混。

- 8 焼土。
- 9 黒褐色 (10YR2/3) シルト。しまりなし (やわらかい)。粘性あり。大粒炭化物・焼土粒多混。
- 10 暗褐色 (10YR3/3) シルト。しまり強。粘性ややあり。炭化物粒・焼土粒混。
- 11 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり・粘性ややあり。炭化物粒・焼土粒・やや暗めの明黄褐色ブロック混。
- 12 褐色 (10YR4/4) シルト。しまり微弱。粘性あり。炭化物粒混。明黄褐色ブロック多混。



- 1 黒褐色(10YR3/2) シルト。しまり・粘性なし。遺物混。
- 2 にぶい黄褐色(10YR5/3) シルト。しまり・粘性なし。
- 3 暗褐色(10YR3/4) シルト。しまりなし。粘性あり。
- 4 にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト。しまりなし。粘性あり。炭化物微混。
- 5 黒褐色(10YR3/2) シルト。しまりなし。粘性あり。黄褐色ブロック微混。
- 6 黒褐色(10YR2/3) シルト。しまりなし。粘性あり。10mm礫20%混。

遺物出土図

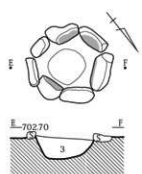


土貨 13



382

炉



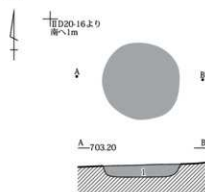
0 (1.30) 1m
91



380

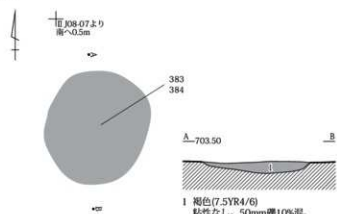
0 (1.60) 2m

SF 1



I 明赤褐色(5YR3/6)
しまり・粘性なし。

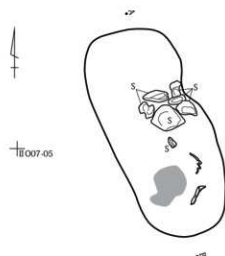
SF 2



I 褐色(7.5YR4/6)
粘性なし。50mm礫10%混。

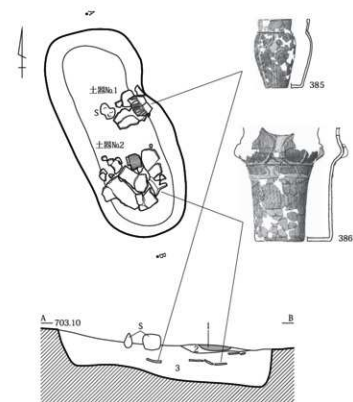
SF 3

検出状況



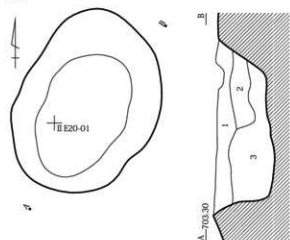
- 1 赤褐色(5YR4/8) しまり・粘性やや弱。焼土。
2 灰黄褐色(10YR5/2) しまり・粘性やや強。
3 相灰色(10YR4/1) しまり中。粘性やや弱。

遺物出土状況



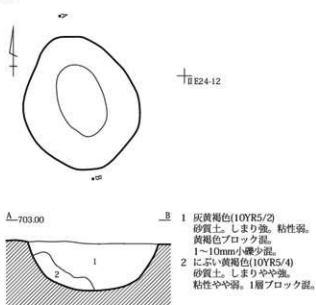
0 (1:30) 1m

SK 1



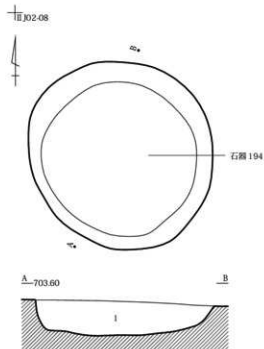
- 1 褐灰色(7.5YR4/1) 砂混じり粘質土。しまり強。粘性弱。
1~3mm炭化物少混。
- 2 にぶい赤褐色(5YR5/4) 焼土。砂質土。しまりやや強。粘性中。
1~7mm炭化物少混。
- 3 暗灰黄色(2.5Y5/2) 砂質土。しまりやや強。粘性弱。
1~5mm炭化物少混。

SK 2



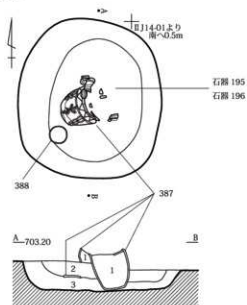
- 1 灰黄褐色(10YR5/2) 砂質土。しまり強。粘性弱。
黄褐色ブロック混。
1~10mm小礫少混。
- 2 にぶい黄褐色(10YR5/4) 砂質土。しまりやや強。
粘性やや弱。1層ブロック混。

SK39



- 1 黒褐色(10YR3/2) しまりあり。粘性ややあり。
炭化物粒・小円礫微混。30mm 黄褐色ブロック混。

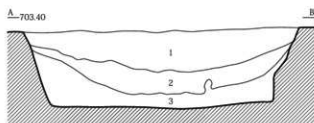
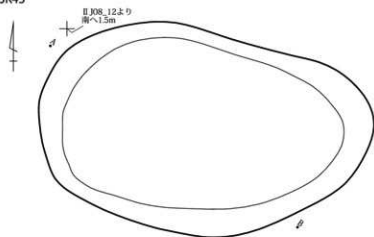
SK42



- 1 暗褐色(10YR3/3) しまりややあり。粘性あり。
炭化物片混。
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト。しまりあり。
粘性弱。炭化物粒混。明黄褐色ブロック混。
- 3 にぶい黄褐色(10YR5/4) しまりあり。粘性なし。
かたい。明黄褐色ブロック混。

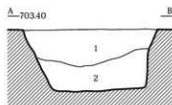
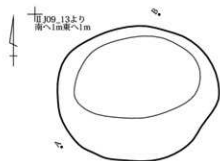
0 (1.30) 1m

SK43



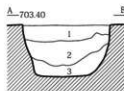
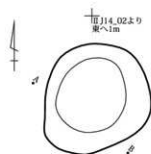
- 1 にふい黄褐色 (10YR5/3) シルト。しまりややあり。粘性あり。炭化物粒・黄褐色土ブロック微混。小礫混。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒・黄褐色土ブロック微混。
- 3 にふい黄褐色 (10YR4/3) ローム質シルト。しまり・粘性あり。黄褐色ロームブロック・炭化物粒・焼土粒微混。

SK45



- 1 褐色 (10YR4/4) シルト。しまりあり。粘性弱。硬い炭化物粒・小礫混。黄褐色粒微混。
- 2 褐色 (10YR4/6) シルト。しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒・黄褐色ローム質粒混。100mm 礫混。

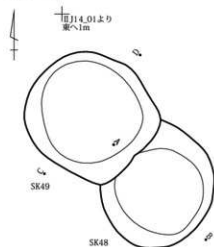
SK47



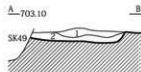
- 1 褐灰色 (10YR4/1) しまり・粘性あり。炭化物・礫混。
- 2 にふい黄褐色 (10YR5/4) しまり弱。粘性ややあり。明黄褐色ロームブロック混。礫多混。
- 3 黄褐色シルト。礫多混。

0 (1:30) 1m

SK48・49

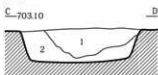


SK48



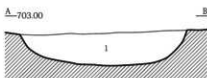
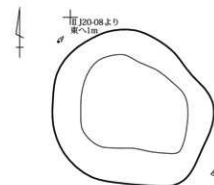
- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒混。
- 2 暗褐色シルト。

SK49



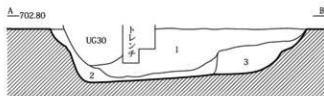
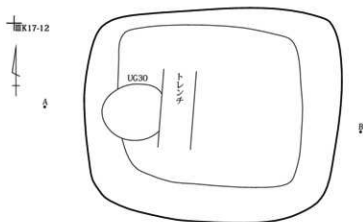
- 1 暗褐色 (10YR3/4) シルト。しまり・粘性あり。炭化物粒多混。100mm以上の礫・土層混。
- 2 黄褐色 (10YR5/6) シルト。しまり・粘性弱。炭化物粒微混。明黄褐色ロームブロック・小円礫混。

SK51



- 1 にくい黄褐色 (10YR4/3) シルト。しまり・粘性なし。50mm礫10%混。

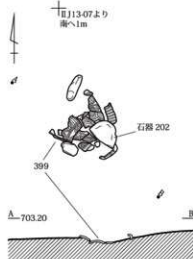
SK53



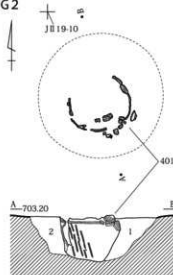
- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト。炭化物粒多混。焼土粒混。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) シルト。炭化物粒微混。明黄褐色土粒混。
- 3 砂礫層。

0 (1:30) 1m

UG 1

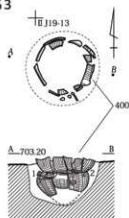


UG 2



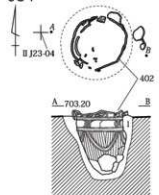
- 1 暗褐色(10YR3/3) しまり・粘性あり。
炭化物粒混。明黄褐色ブロック混。振り方。
- 2 にふい黄褐色(10YR4/3) 1層に比べやや明るい。
明黄褐色ブロック混。乱れている。振り方。

UG 3



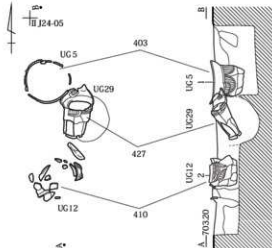
- 1 にふい黄褐色(10YR4/3) シルト。しまりややあり。粘性あり。
炭化物粒混。明黄褐色ブロック混。振り方。
- 2 褐色(10YR4/4) 炭化物粒混。焼土粒混。
明黄褐色ブロック混。振り方。

UG 4



- 1 暗褐色(10YR3/3) シルト。しまり・粘性ややあり。
明黄褐色粒子混。50mm炭化物粒子混。振り方。

UG 5・UG12・UG29



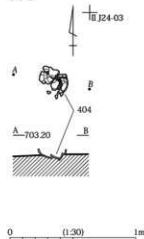
UG 5 土器内

- 1 にふい黄褐色(10YR4/3) しまり・粘性あり。
明黄褐色粒子混。

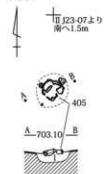
UG12土器内

- 2 褐色(10YR4/4) シルト。しまりよし。
粘性あり。

UG 6

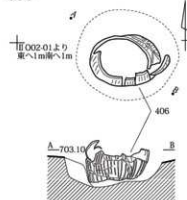


UG 7

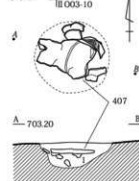


- 1 暗褐色(10YR3/3) シルト。しまりあり。
粘性弱。炭化物粒・焼土粒混。
振り方。

UG 8

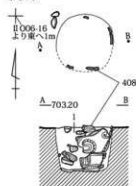


UG 9



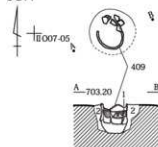
- 1 暗褐色(10YR3/4) シルト。しまりなし。
粘性あり。振り方。

UG10



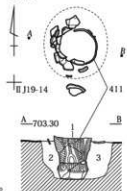
1 暗褐色(10YR3/3)シルト。振り方。

UG11



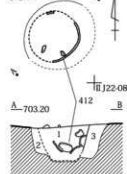
1 暗褐色(10YR3/3)シルト。しまり・粘性あり。暗青灰(5PB4/1)粘土ブロック状に混。
2 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト。しまり弱。粘性あり。振り方。

UG13



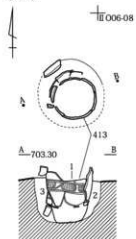
1 上層に焼土混。
2 にぶい黄褐色(10YR4/3)しまり・粘性あり。炭化物粒混。焼土粒混。明黄褐色ブロック混。振り方。
3 にぶい黄褐色(10YR4/3)明黄褐色ブロック混。振り方。

UG14



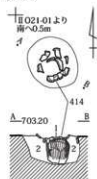
1 埋戻り土。
2 褐色(10YR4/4)シルト。しまり強。粘性あり。炭化物粒混。明黄褐色粒混。振り方。
3 暗褐色(10YR3/4)シルト。しまり強。粘性ややあり。炭化物粒混。明黄褐色ブロック混。焼土粒混。振り方。

UG15



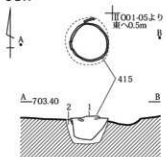
1 埋戻り土。
2 褐色(10YR4/4)シルト。しまりややあり。粘性あり。炭化物粒混。振り方。
3 暗褐色(10YR3/3)シルト。しまり・粘性ややあり。炭化物粒混。振り方。

UG16



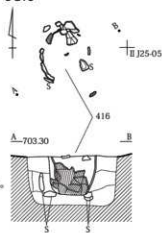
1 埋戻り土。
2 暗褐色(10YR3/3)シルト。しまりなし。粘性弱。炭化物5%・10mm礫1%混。振り方。

UG17

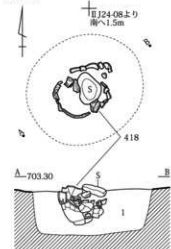


1 黒褐色(10YR2/3)シルト。しまりあり。粘性ややあり。小円礫混。
2 暗褐色(10YR3/4)シルト。しまり・粘性ややあり。炭化物粒混。振り方。

UG18

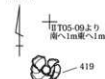


UG19



1 褐色(10YR4/4)しまり・粘性あり。炭化物粒混。明黄褐色ブロック混。振り方。

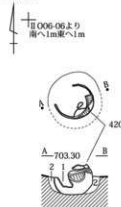
UG21



UG23

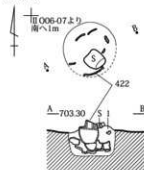


UG22



1 黒褐色(10YR2/2)シルト。しまり・粘性あり。小円礫多混。
2 振り方。

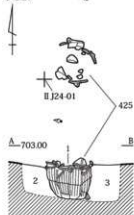
UG25



1 暗褐色(10YR3/3)シルト。粘性微弱。振り方。

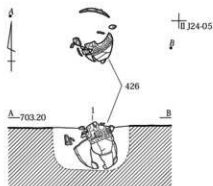
0 (1:30) 1m

UG27



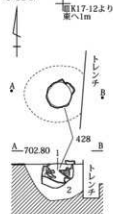
- 1 埋戻り土。
- 2 暗褐色(10YR3/3) しまり強。粘性あり。100mm 暗褐色ブロック泥。炭化物粒混。 振り方か？
- 3 明黄褐色(10YR6/0) シルト しまり・粘性あり。炭化物粒微混。 焼土粒微混。振り方か？

UG28



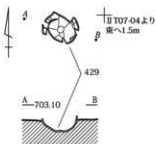
- 1 にぶい黄褐色(10YR4/3) しまり・粘性あり。炭化物多混。明黄褐色ブロック泥。 焼土粒混。

UG30



- 1 暗褐色(10YR3/3) シルト。 しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒多混。焼土粒・礫混。
- 2 黒褐色(10YR3/2) シルト。 しまりややあり。粘性あり。炭化物粒多混。焼土粒・割れた礫混。 振り方。

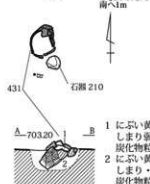
UG31



UG32

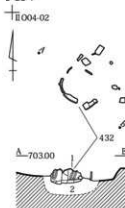


UG33



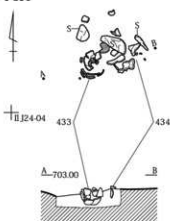
- 1 にぶい黄褐色(10YR4/3) しまり弱。粘性ややあり。炭化物粒混。
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3) しまり・粘性あり。炭化物粒混。振り方か？

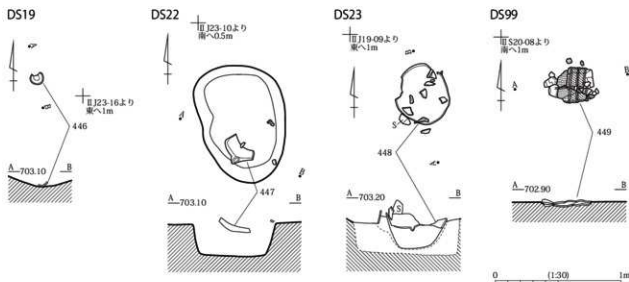
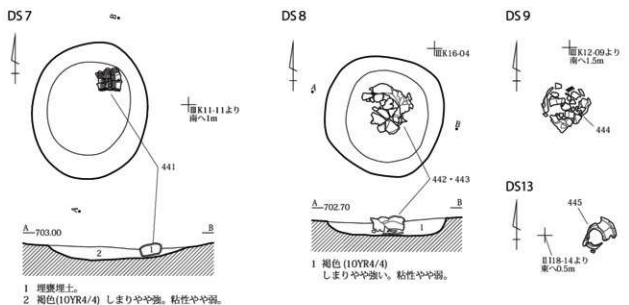
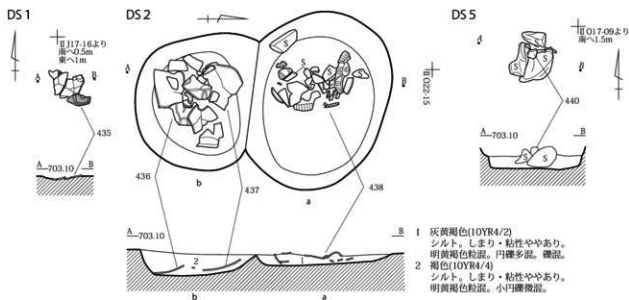
UG34



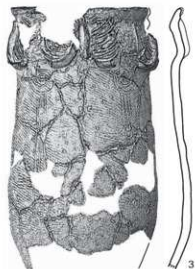
- 1 にぶい黄褐色(10YR4/3) しまり・粘性あり。炭化物粒混。
- 2 黒褐色(10YR3/2) しまりあり。粘性ややあり。炭化物粒混。明黄褐色ブロック泥。 焼土粒混。振り方か？

UG35

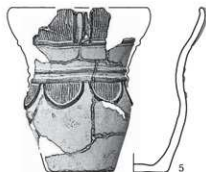




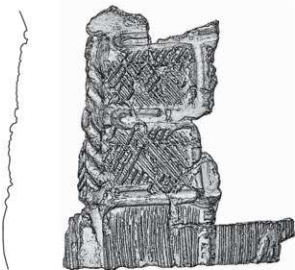
SB1 : (1~3)



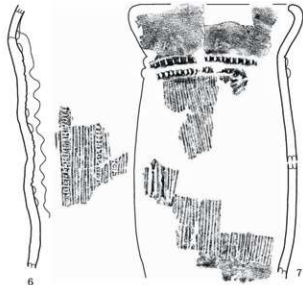
SB2 : (4・5)



SB3 : (6)



SB4 : (7)



0 (1:3) 10cm (4)

0 (1:4) 10cm

SB5 : (8~11)



8



9



10



11

SB6 : (12・13)



12



13

SB7(1) : (14~18)



14



16



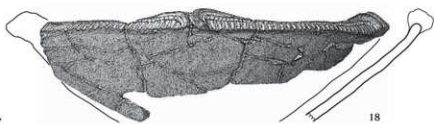
15



17

0 (1:3) 10cm (8~11・13)

0 (1:4) 10cm



18

SB7(2) : (19~21)

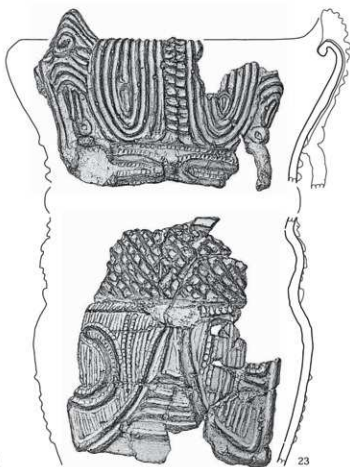


SB8 : (22・23)

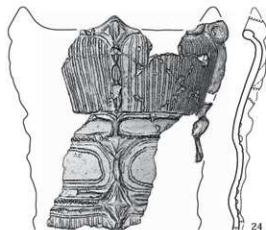


0 (1:3) 10cm (21)

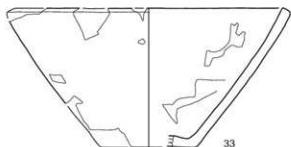
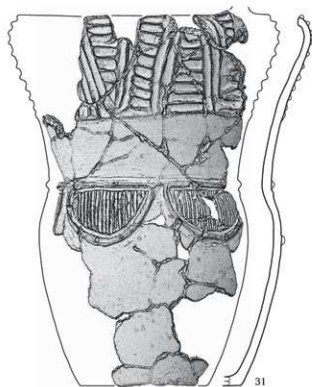
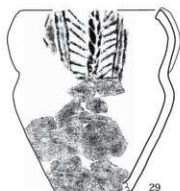
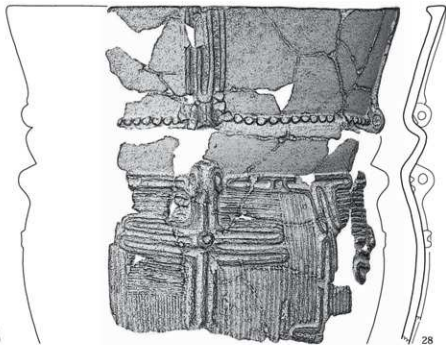
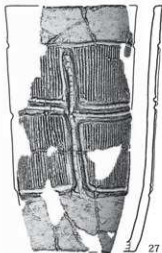
0 (1:4) 10cm



SB9(1) : (24~26)

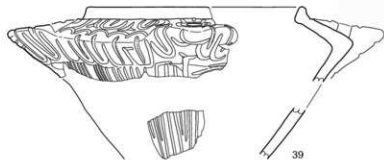
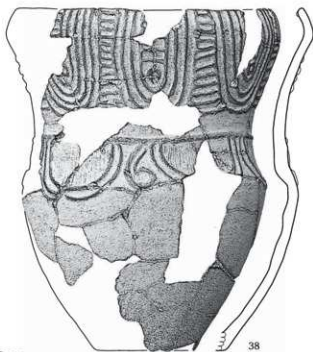
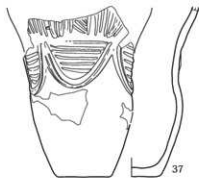
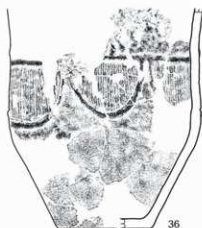
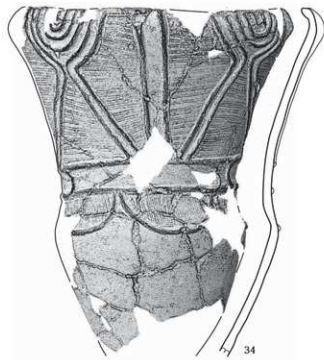


SB9(2) : (27~33)



0 (1:4) 10cm

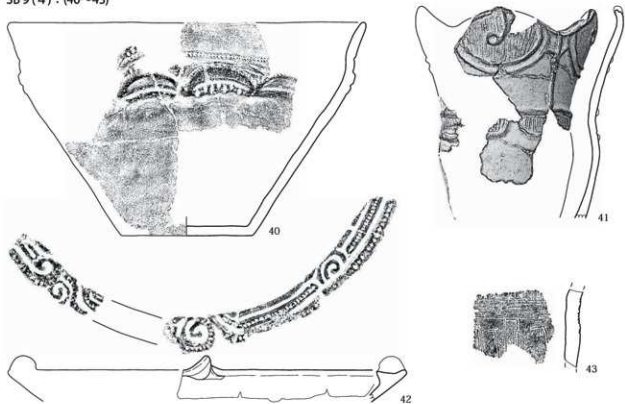
SB9(3): (34~39)



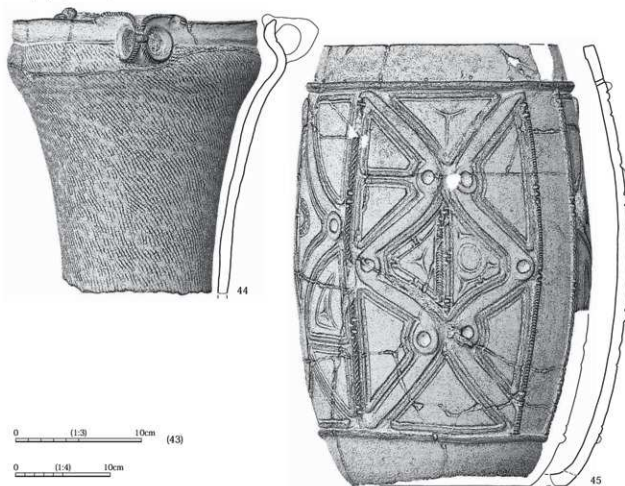
0 (1:4) 10cm

SB9(3)

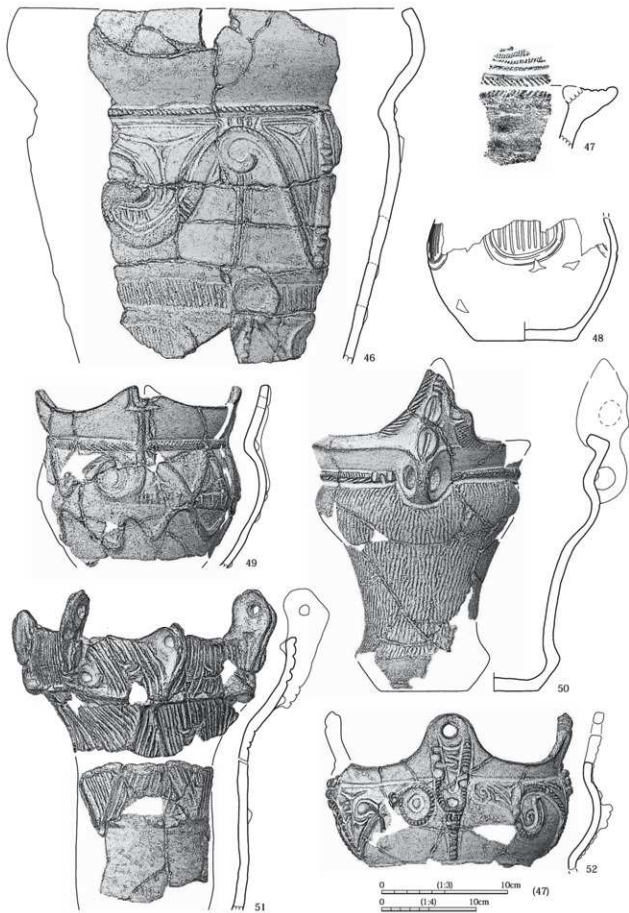
SB9(4) : (40~43)



SB10(1) : (44~45)



SB10(2) : (46~52)

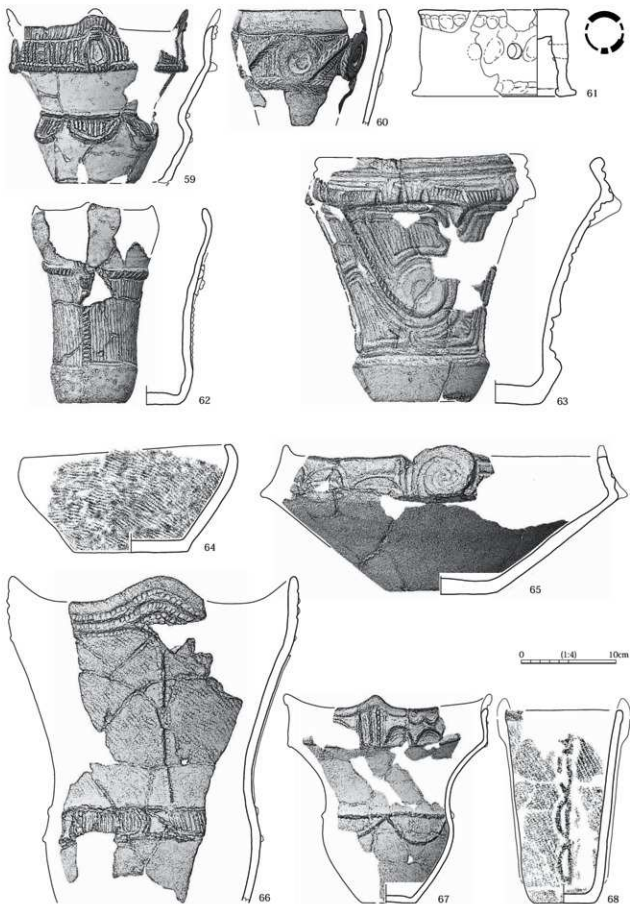


SB10(3) : (53~58)



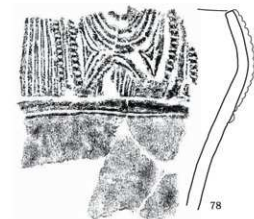
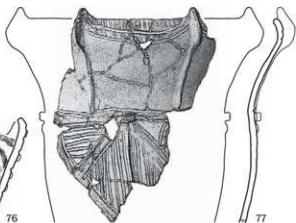
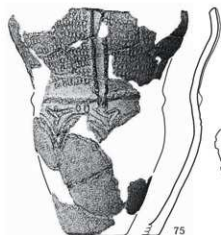
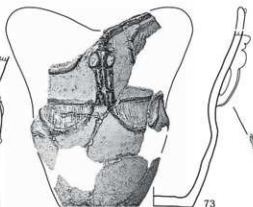
SB10(3)

SB10(4) : (59~68)



SB10(4)

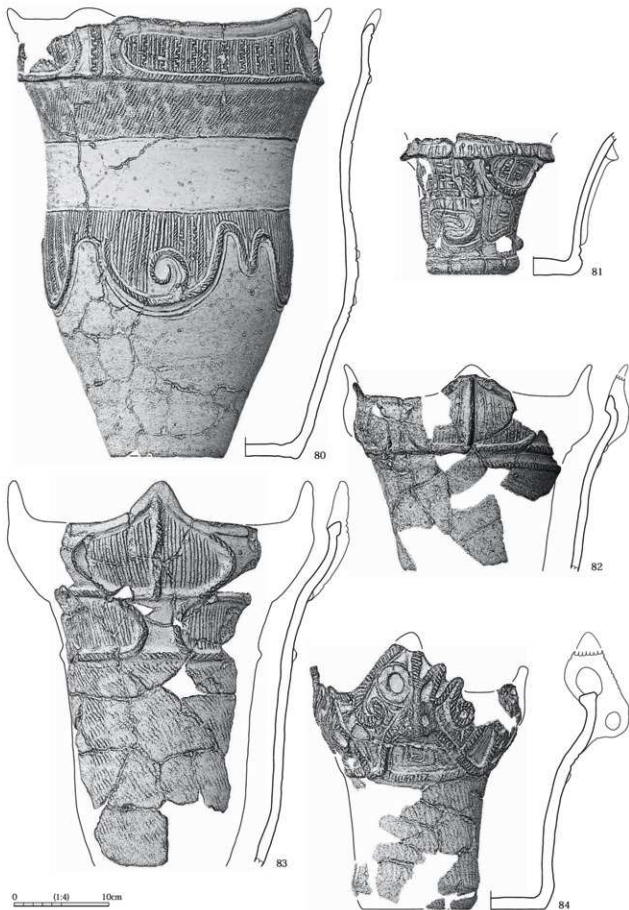
SB10(5) : (69~79)



0 (1:3) 10cm (78)

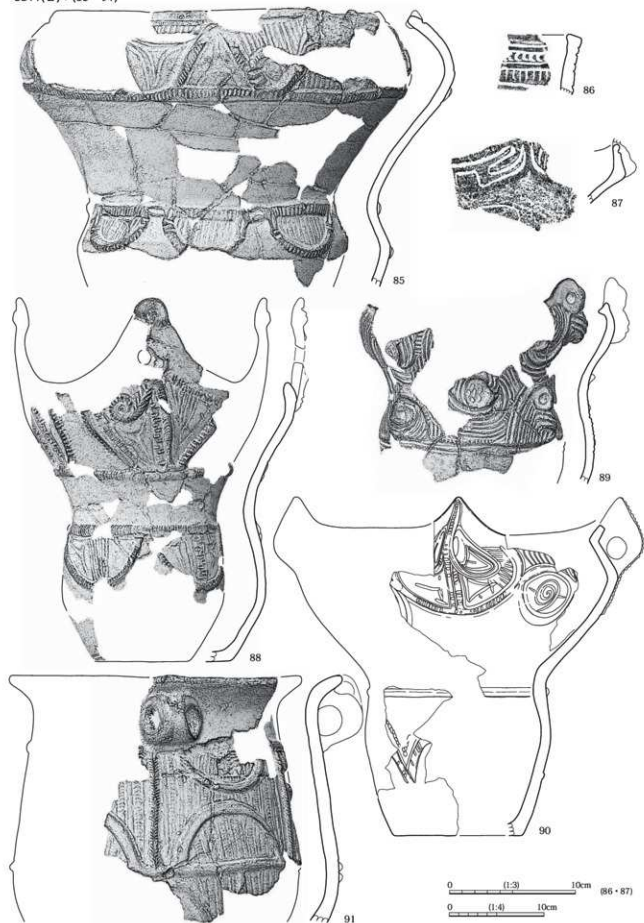
0 (1:4) 10cm

SB11(1) : (80~84)



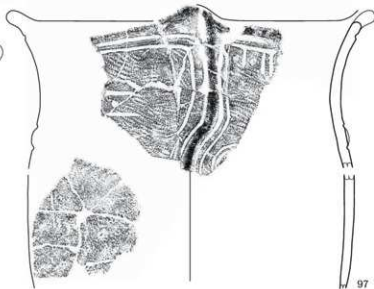
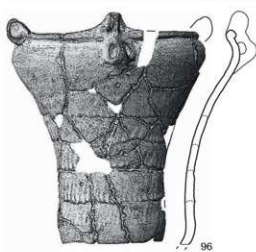
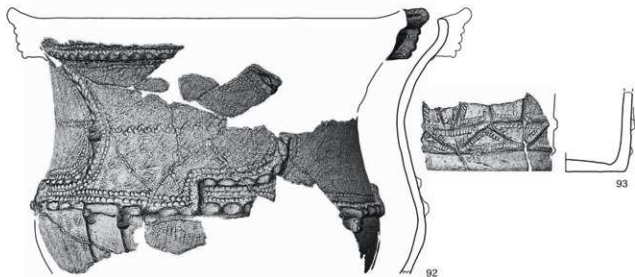
SB11 (1)

SB11(2): (85~91)



SB11 (2)

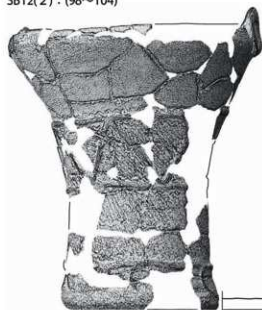
SB12(1) : (92~97)



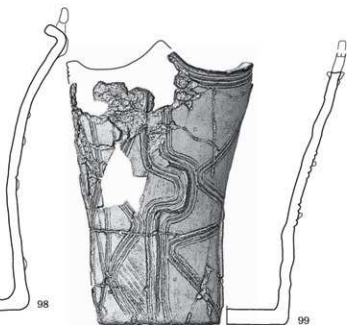
0 (1:4) 10cm

SB12(1)

SB12(2) : (98~104)



98



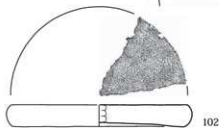
99



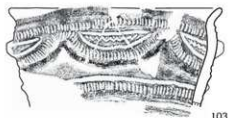
100



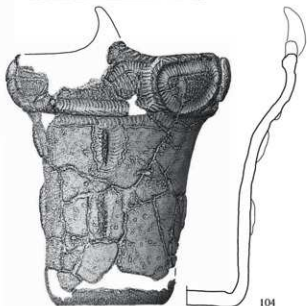
101



102



103

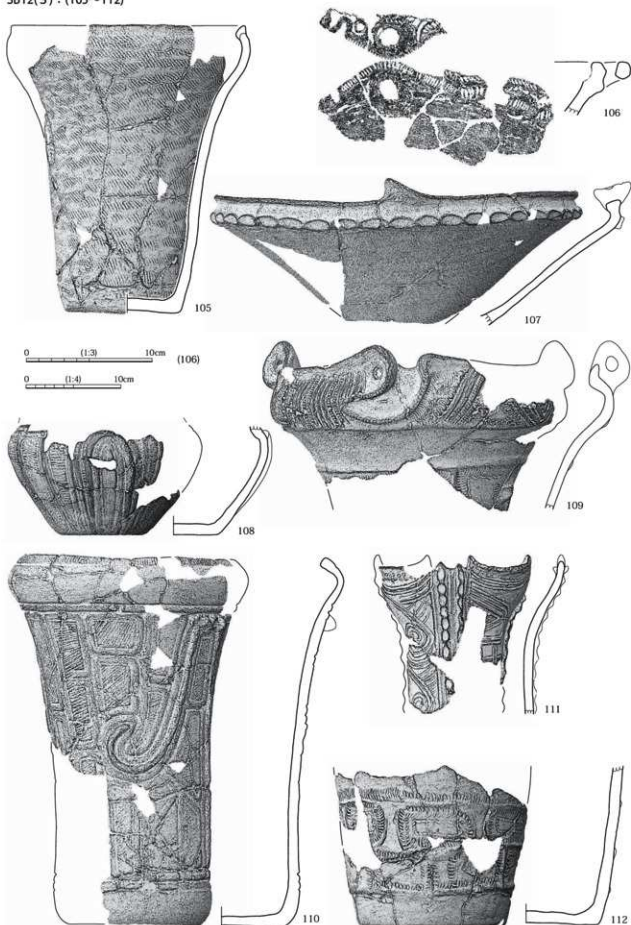


104

0 (1:4) 10cm

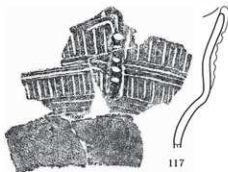
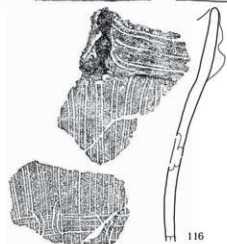
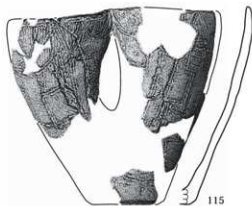
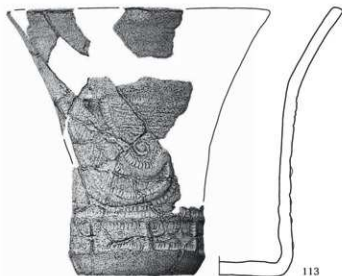
SB12(2)

SB12(3) : (105~112)

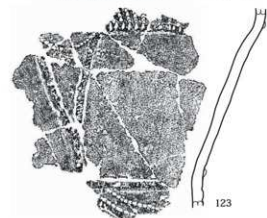
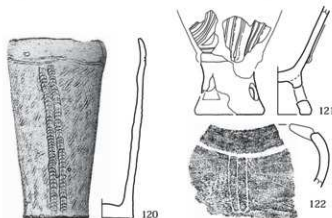


SB12 (3)

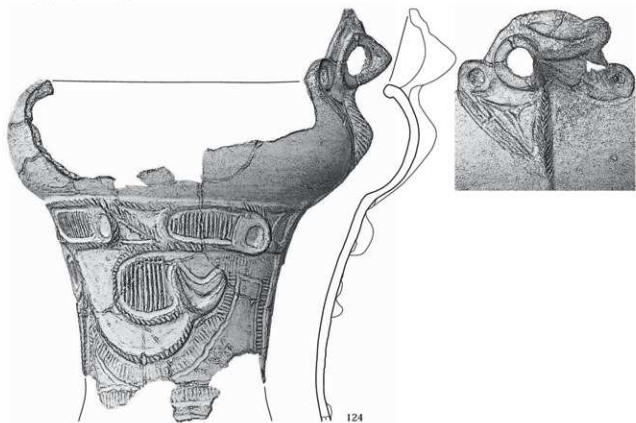
SB12(4) : (113~117)



SB13(1) : (118~123)

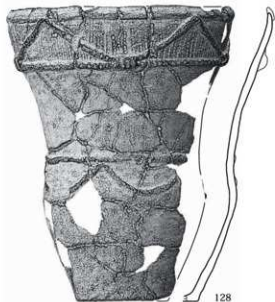
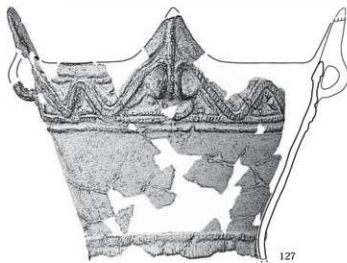
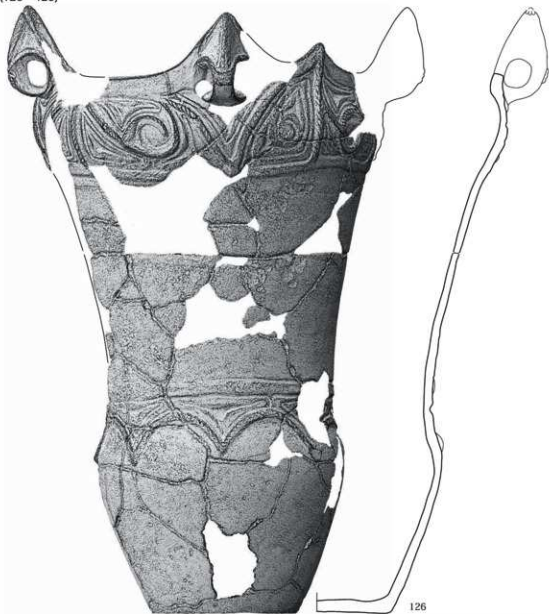


SB13(2) : (124・125)



SB13(2)

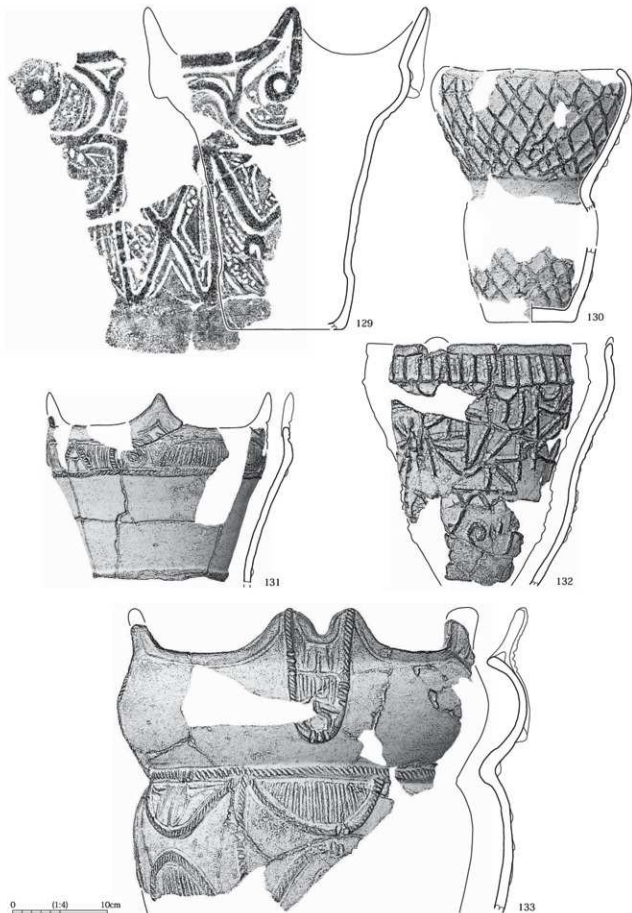
SB13(3) : (126~128)



0 (1:4) 10cm

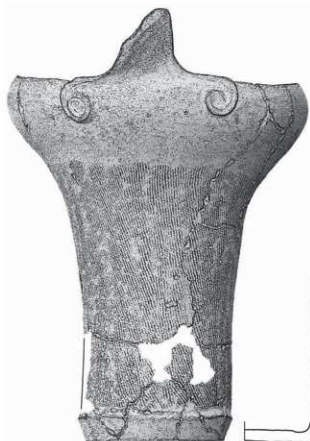
SB13(3)

SB13(4) : (129~133)



SB13(4)

SB13(5) : (134~137)



134



135



136

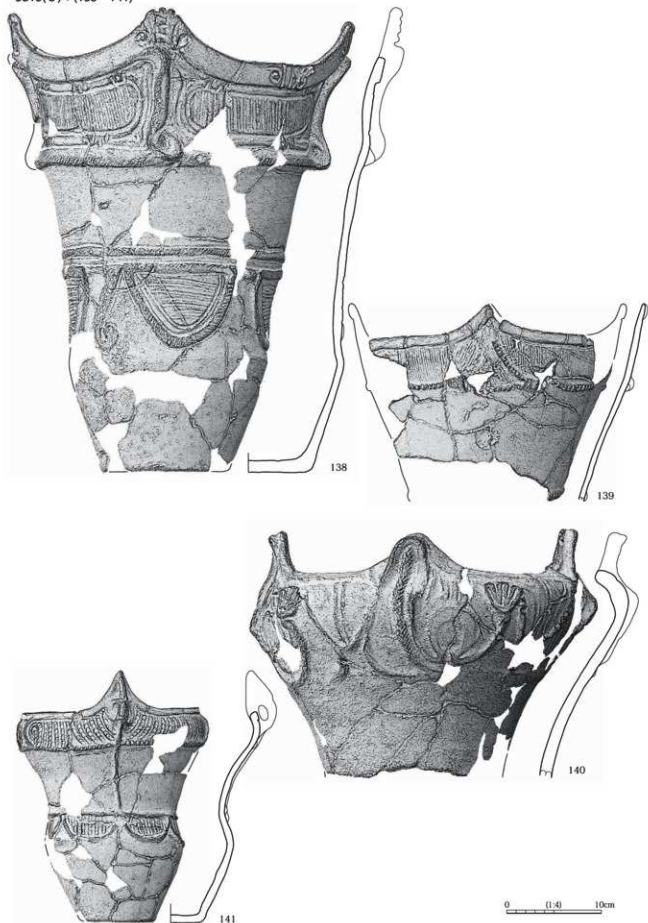


137

0 (1-4) 10cm

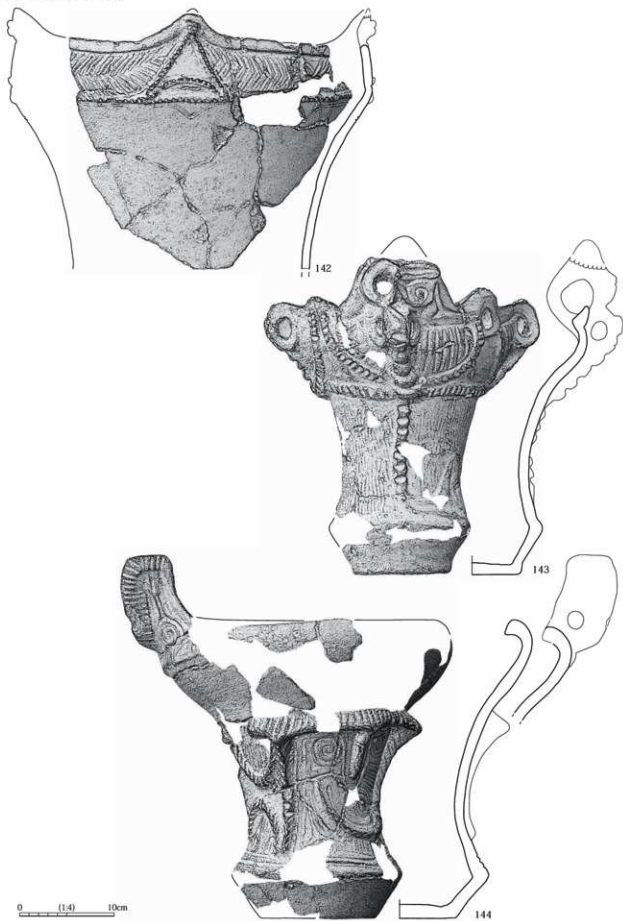
SB13 (5)

SB13(6) : (138~141)



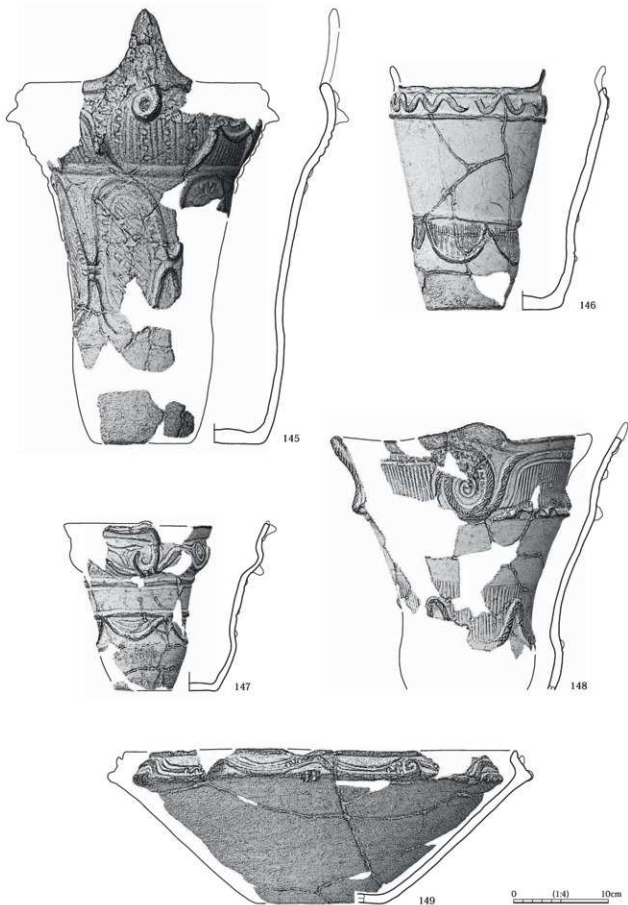
SB13 (6)

SB13(7) : (142~144)



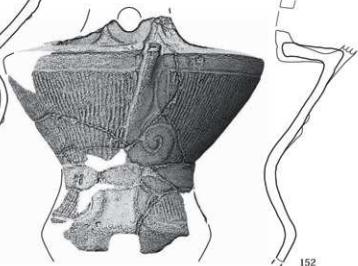
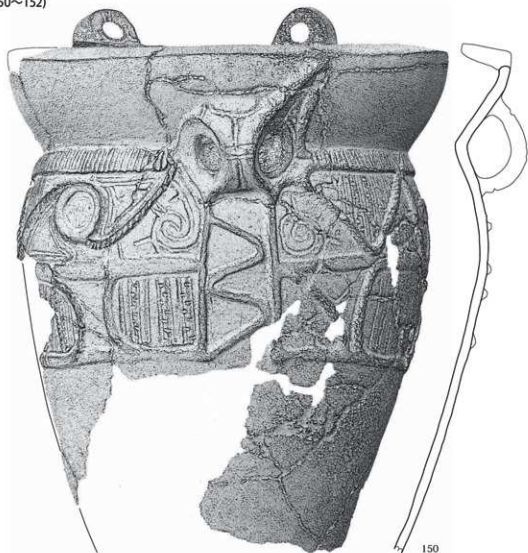
SB13(7)

SB13(8) : (145~149)



SB13(8)

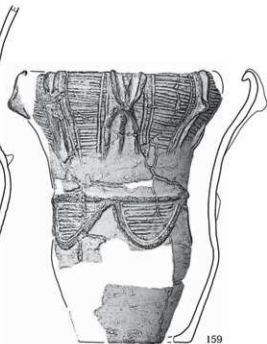
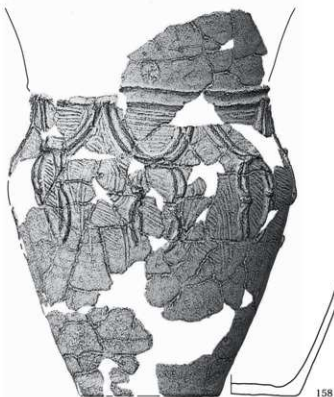
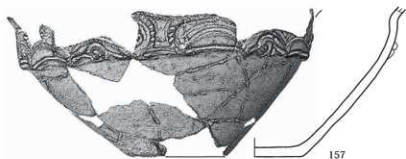
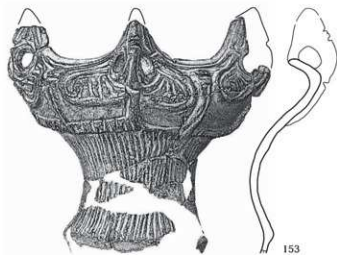
SB13(9) : (150~152)



0 (1.4) 10cm

SB13(9)

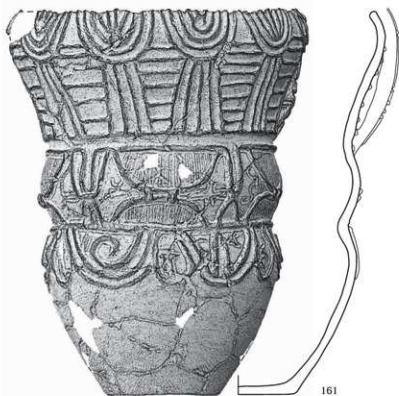
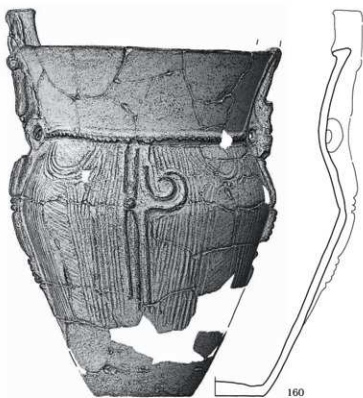
SB13(10) : (153~159)



0 (1:4) 10cm

S B 13 (10)

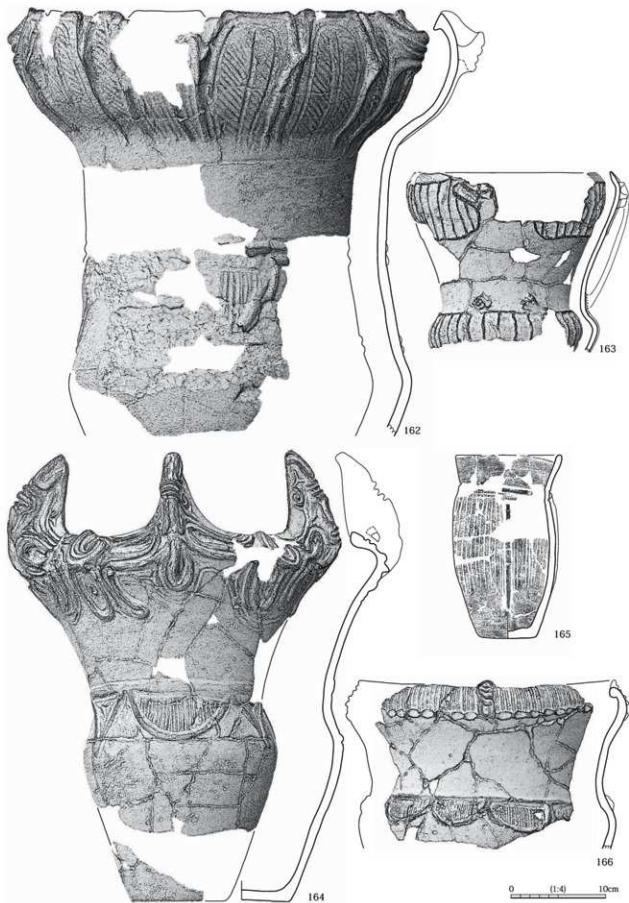
SB13(11) : (160・161)



0 (1:4) 10cm

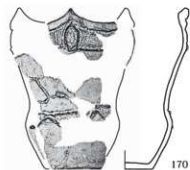
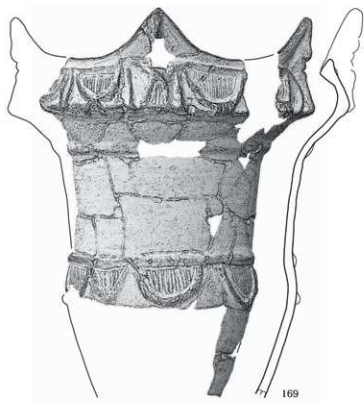
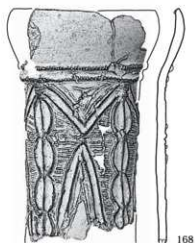
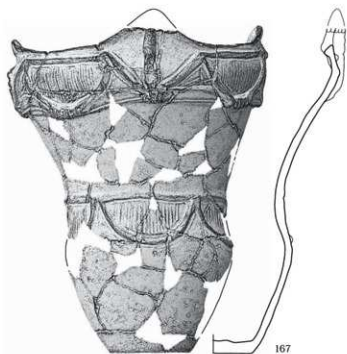
SB13 (11)

SB13(12) : (162~166)



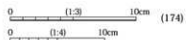
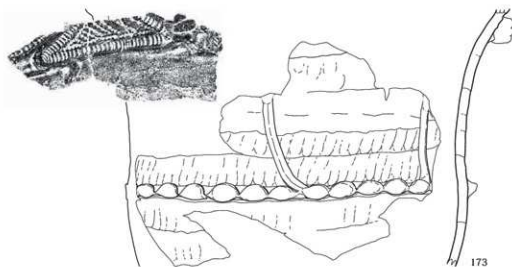
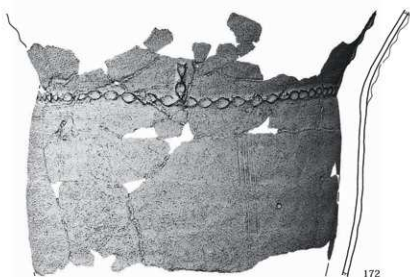
SB13 (12)

SB13(13) : (167~171)



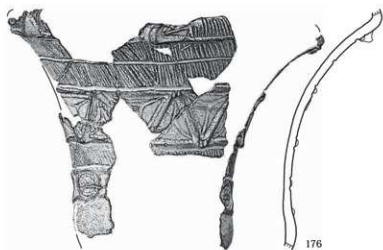
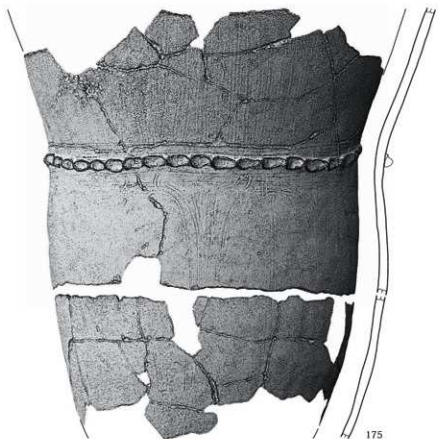
0 (1:4) 10cm

SB14B(1) : (172~174)

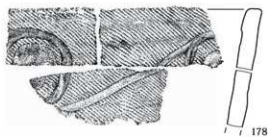
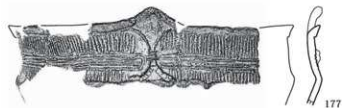


S B 14 B (1)

SB14B(2) : (175・176)

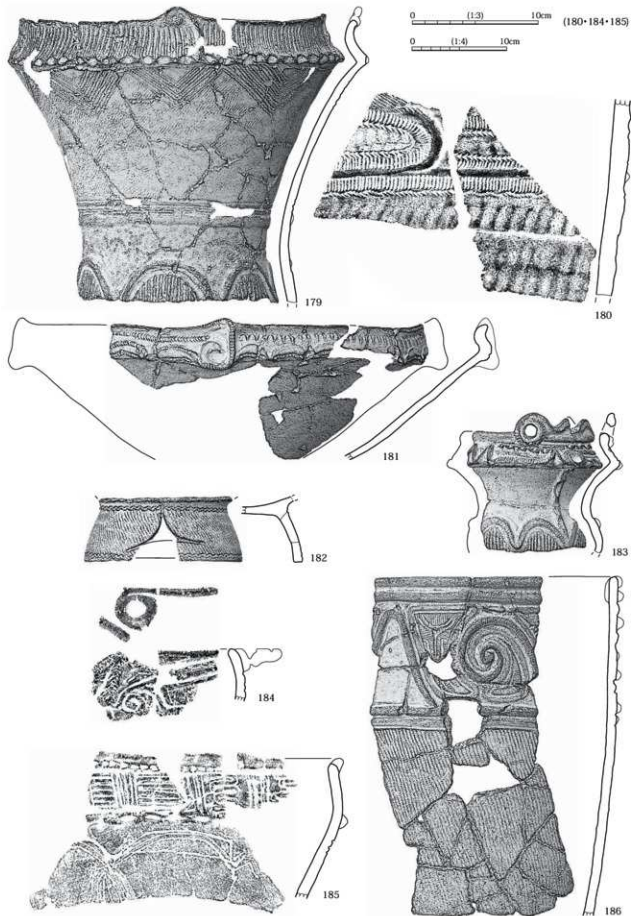


SB15(1) : (177・178)



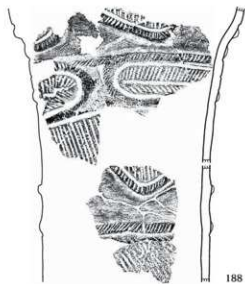
0 (1:3) 10cm (177)
0 (1:4) 10cm

SB15(2) : (179~186)

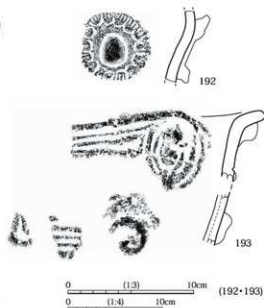
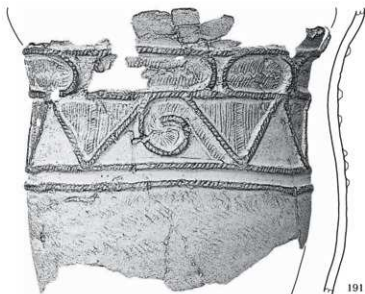
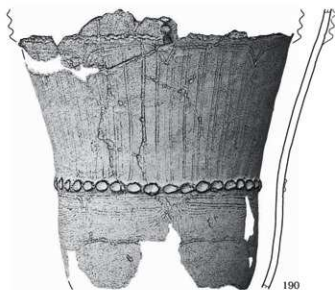
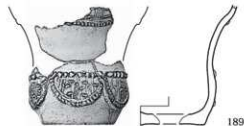


SB15 (2)

SB16A : (187・188)

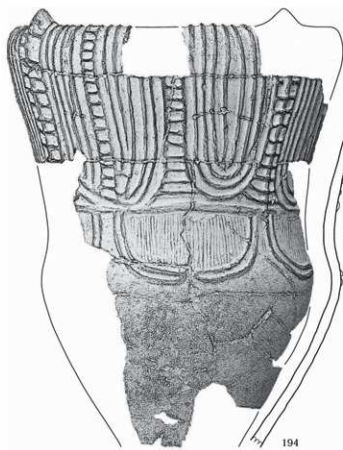


SB16B : (189~193)

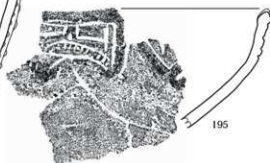


0 (1:3) 10cm (192-193)
0 (1:4) 10cm

SB17A : (194・195)

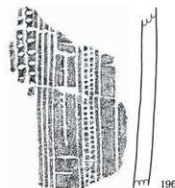


194



195

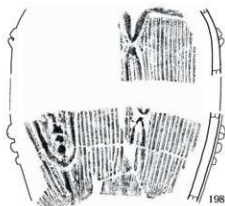
SB17B : (196~199)



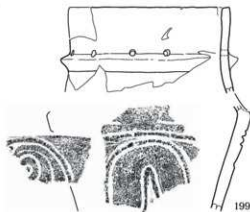
196



197



198



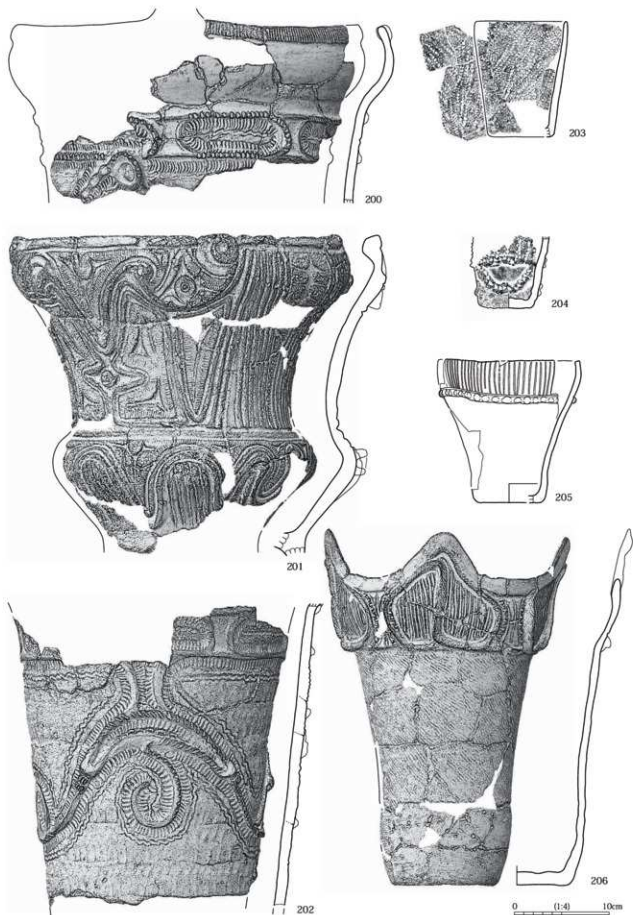
199

0 (1:3) 10cm (195-196)

0 (1:4) 10cm

S B 17 A ・ 17 B

SB18(1) : (200~206)

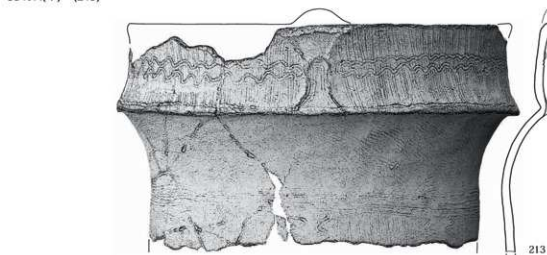


SB18(1)

SB18(2) : (207~212)



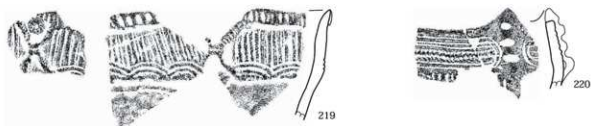
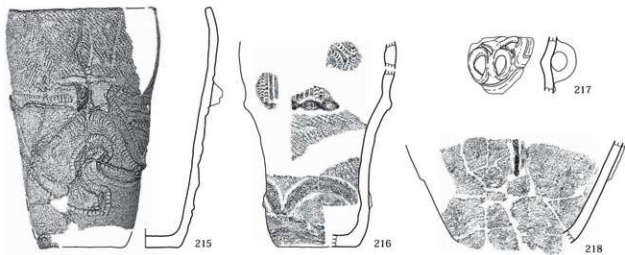
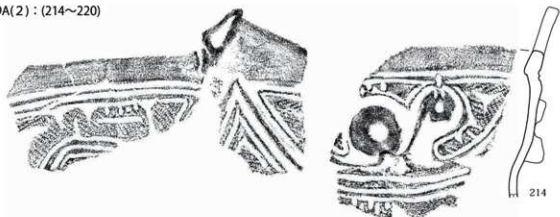
SB19A(1) : (213)



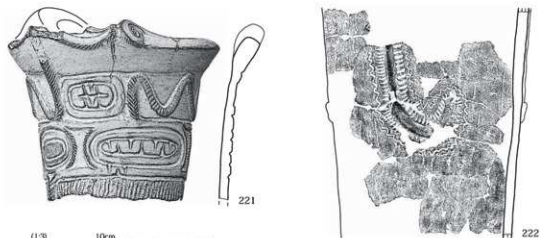
0 (1:3) 10cm (208~210)

0 (1:4) 10cm

SB19A(2) : (214~220)

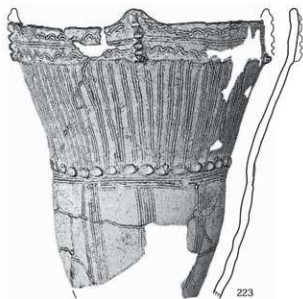


SB19B : (221・222)

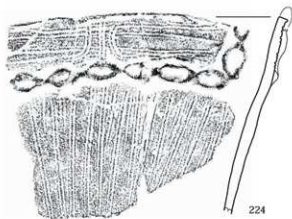


0 (1:3) 10cm (214・217・219・220)
0 (1:4) 10cm

SB23(1) : (223~229)



223



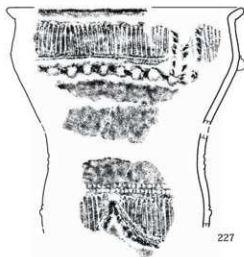
224



225



226



227



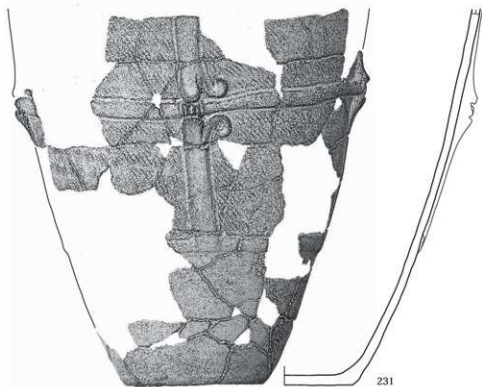
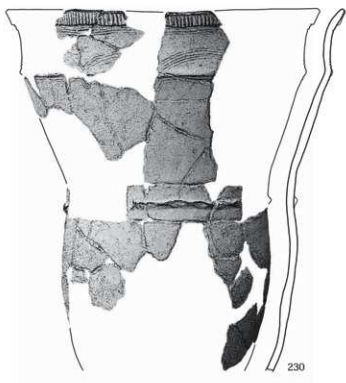
228



229

0 (1:3) 10cm (224・228・229)
0 (1:4) 10cm

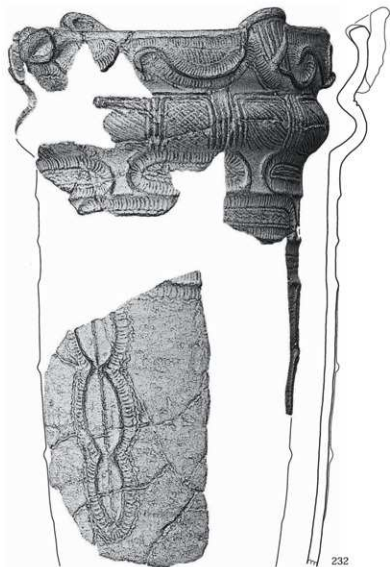
SB23(2) : (230・231)



0 (1:4) 10cm

S B 23 (2)

SB23(3) : (232)

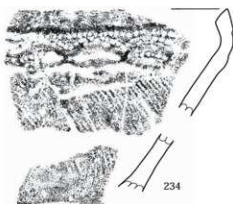


232

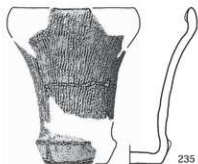
SB24(1) : (233~237)



233



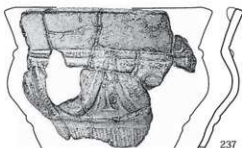
234



235



236



237

0 (1:3) 10cm (233-234)

0 (1:4) 10cm

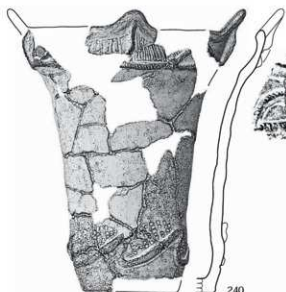
SB24(2) : (238~244)



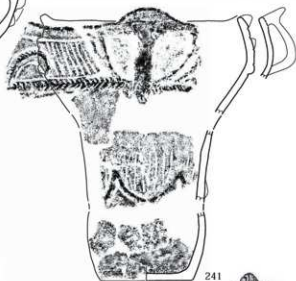
238



239



240



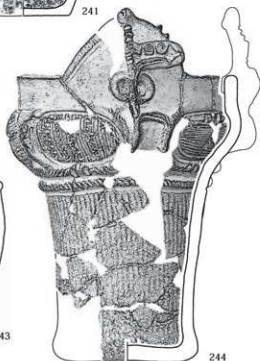
241



242



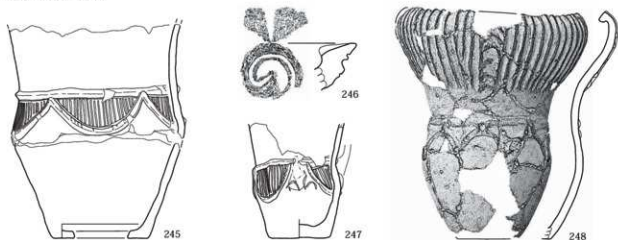
243



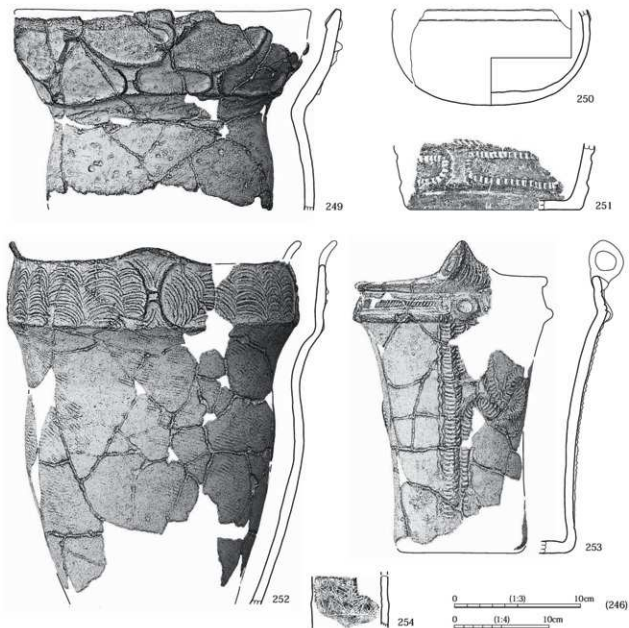
244

0 (1-4) 10cm

SB25 : (245~248)

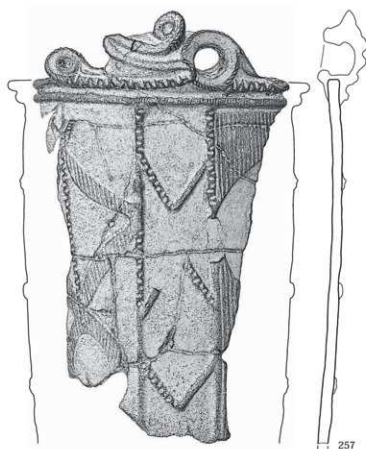


SB26(1) : (249~254)



S B 25 ・ 26 (1)

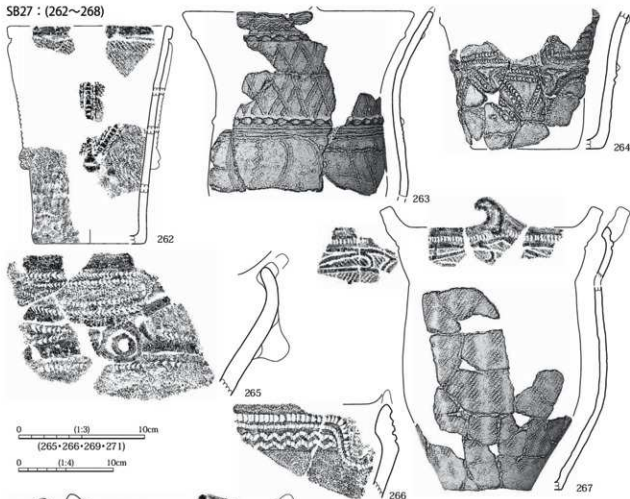
SB26(2) : (255~261)



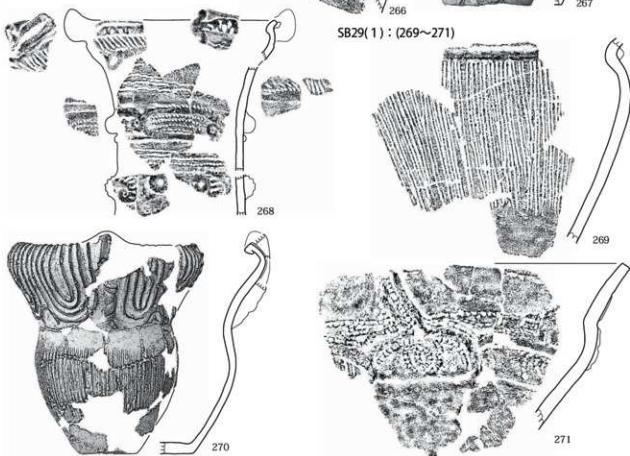
0 (1:3) 10cm (258~261)

0 (1:4) 10cm

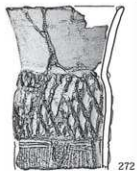
SB27 : (262~268)



SB29(1) : (269~271)

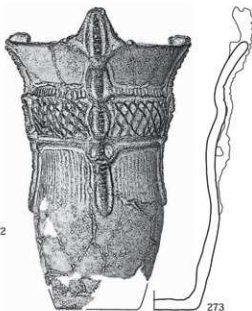


SB29(2) : (272~279)



272

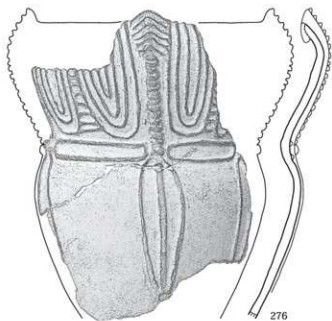
0 (1:4) 10cm



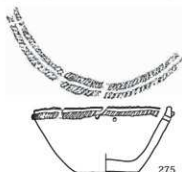
273



274



276



275



277

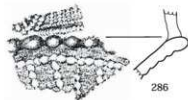
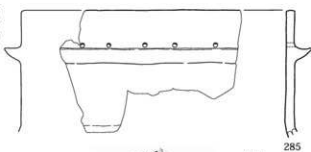
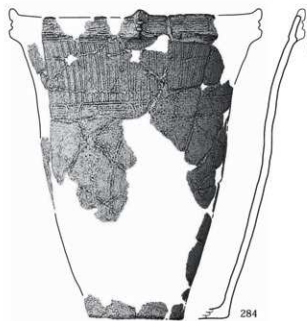
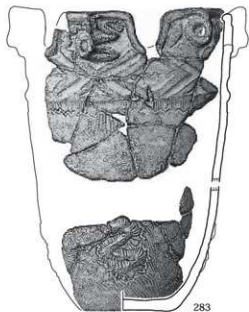
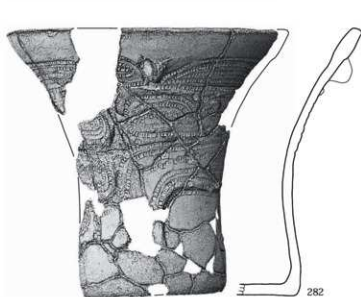
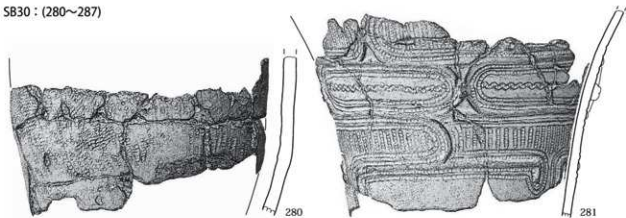


278



279

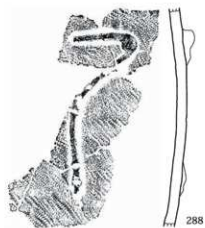
SB30 : (280~287)



0 (1:3) 10cm (286・287)

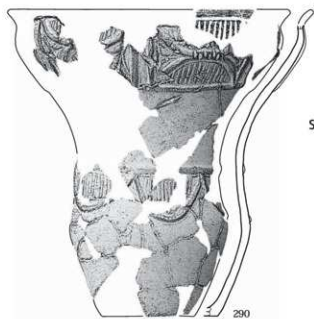
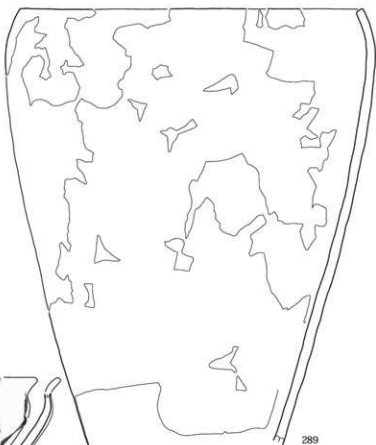
0 (1:4) 10cm

SB37 : (288~290)

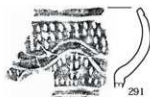


0 (1:3) 10cm (288・291~294)

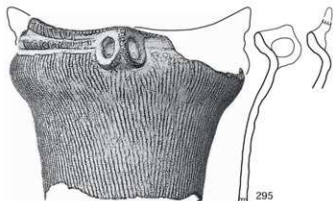
0 (1:4) 10cm



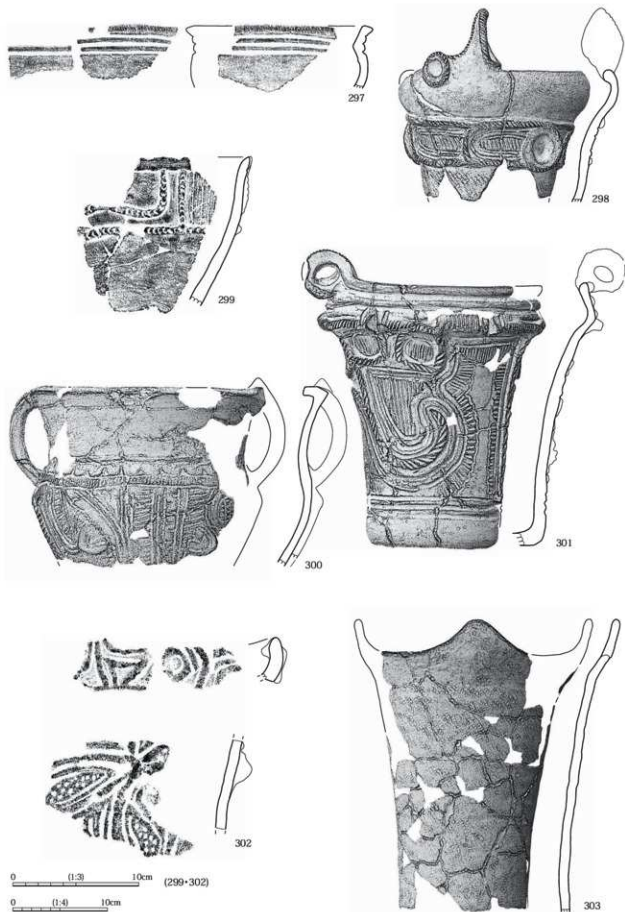
SB41 : (291~294)



SB42(1) : (295・296)

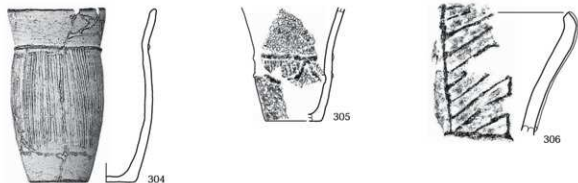


SB42(2) : (297~303)

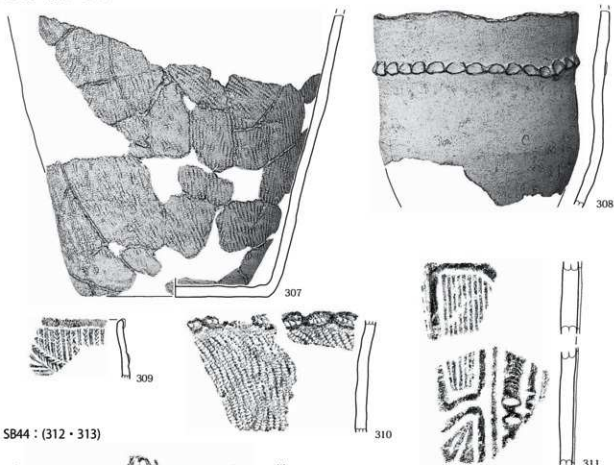


SB42(2)

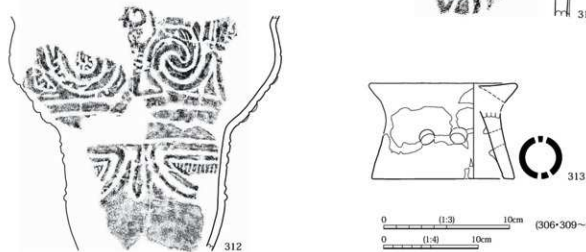
SB43A : (304~306)



SB43B : (307~311)



SB44 : (312・313)



0 (1:3) 10cm (306・309~311)

0 (1:4) 10cm

SB45 : (314~317)



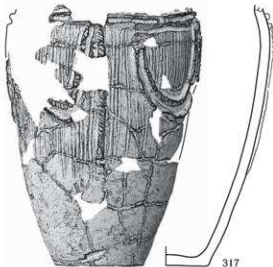
314



315

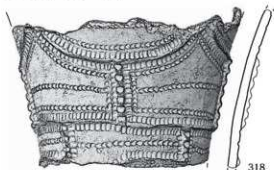


316

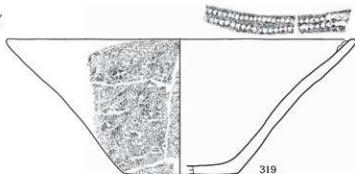


317

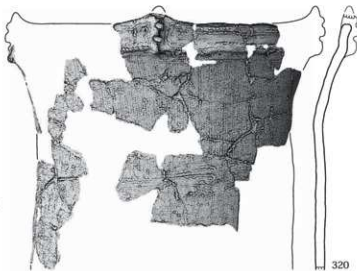
SB46 (1) : (318~320)



318



319



320

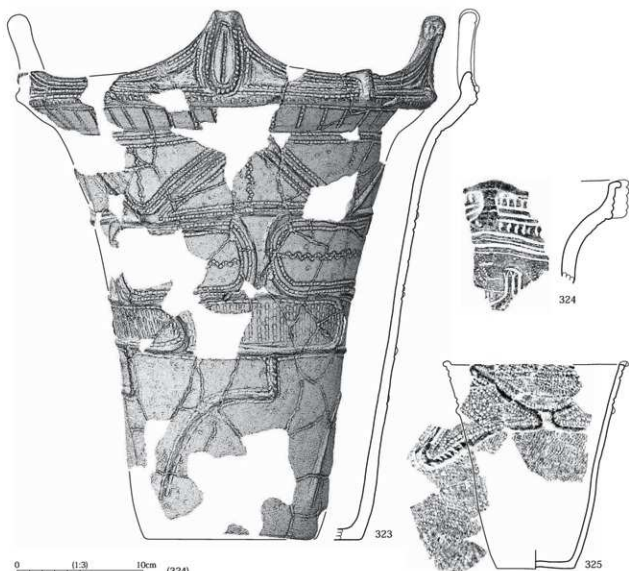
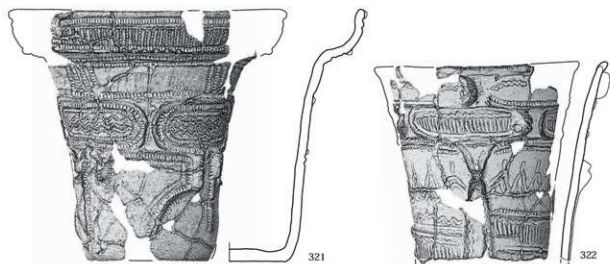
0 (1:3) 10cm

(314・315・316)

0 (1:4) 10cm

SB45・46 (1)

SB46(2) : (321~325)

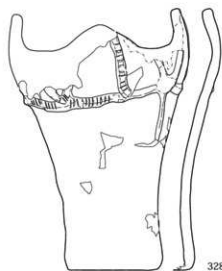
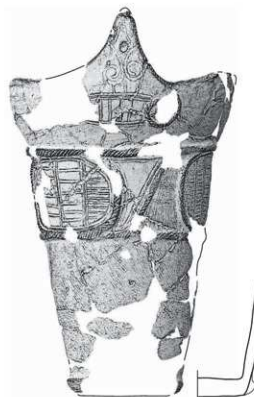
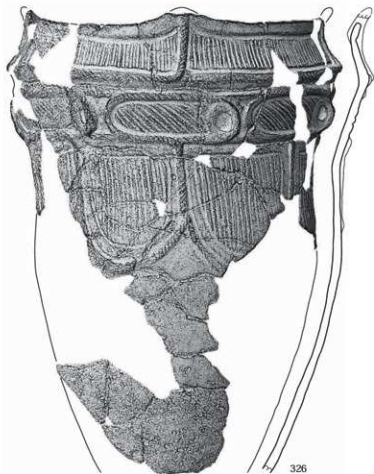


0 (1:3) 10cm (324)

0 (1:4) 10cm

S B 46 (2)

SB47(1) : (326~328)



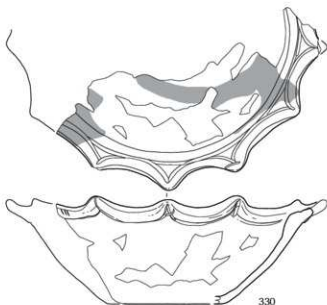
0 (1/4) 10cm

SB47(1)

SB47(2) : (329・330)

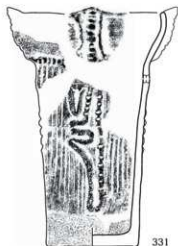


329

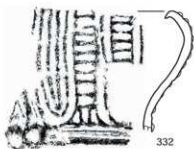


330

SB48 : (331~333)



331

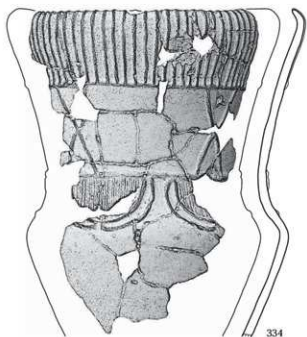


332



333

SB49(1) : (334・335)



334



335



SB49(2) : (336・337)



336



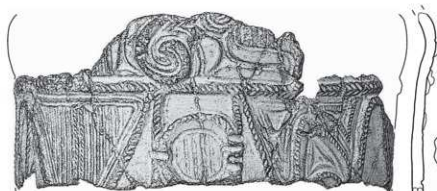
337

0 (1:3) 10cm

(336・345)

0 (1:4) 10cm

SB50 : (338~345)



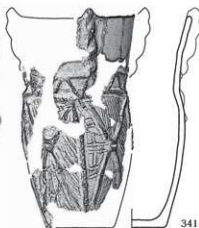
338



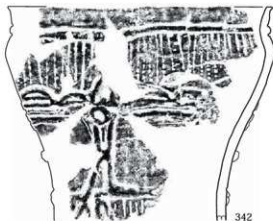
340



339



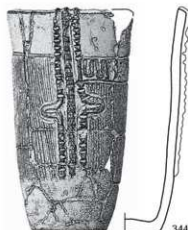
341



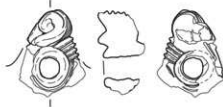
342



343

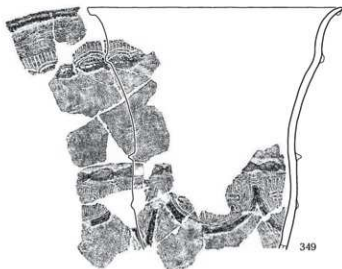
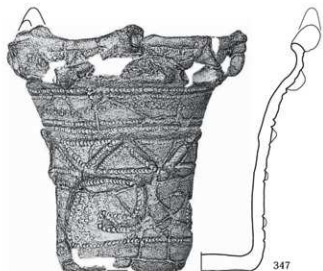
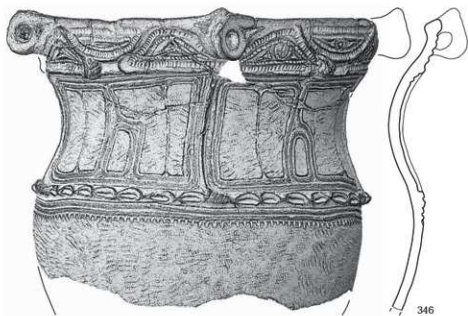


344



345

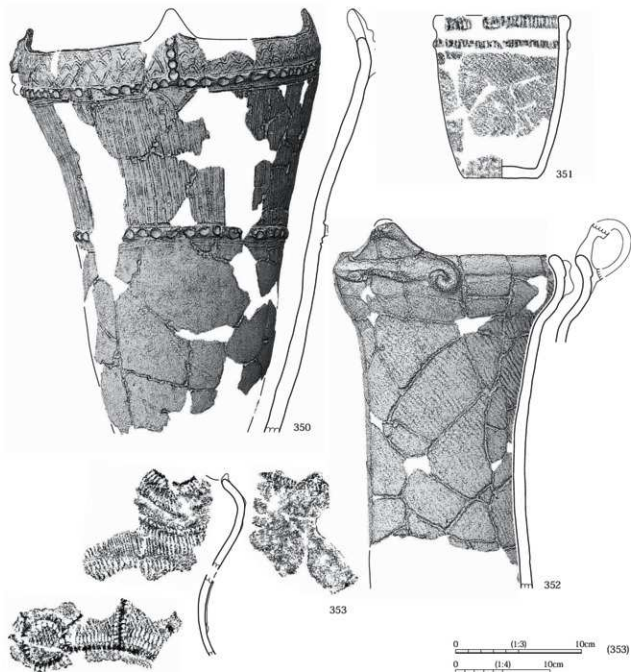
SB52(1) : (346~349)



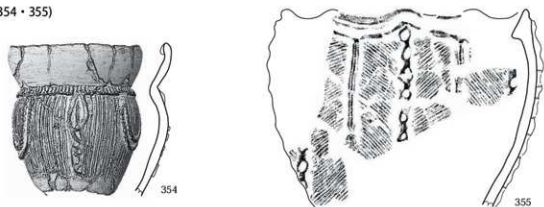
0 (1:4) 10cm

S B 5 2 (1)

SB52(2) : (350~353)



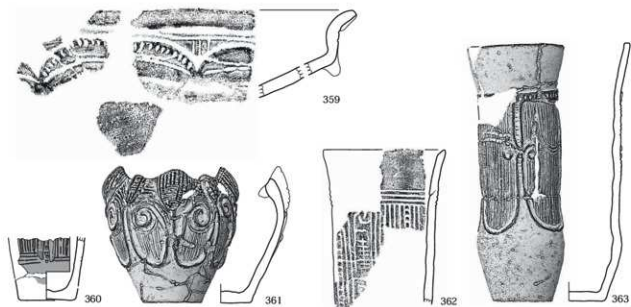
SB57 : (354・355)



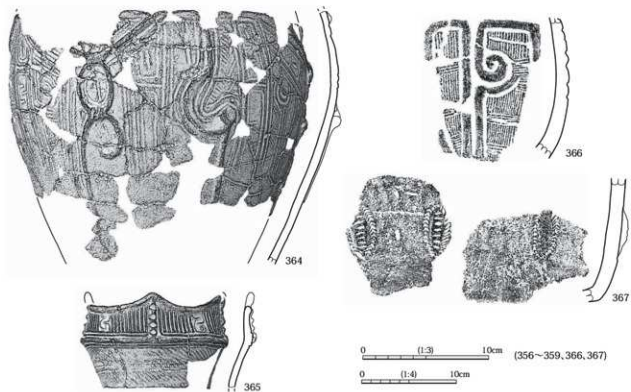
SB59 : (356~358)



SB60 : (359~363)

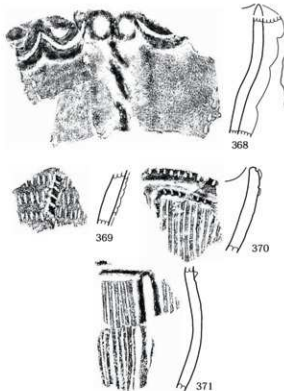


SB61 : (364~367)

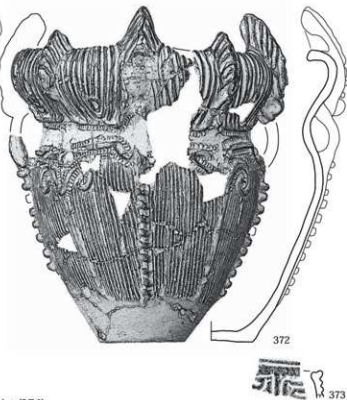


0 (1:3) 10cm (356~359, 366, 367)
0 (1:4) 10cm

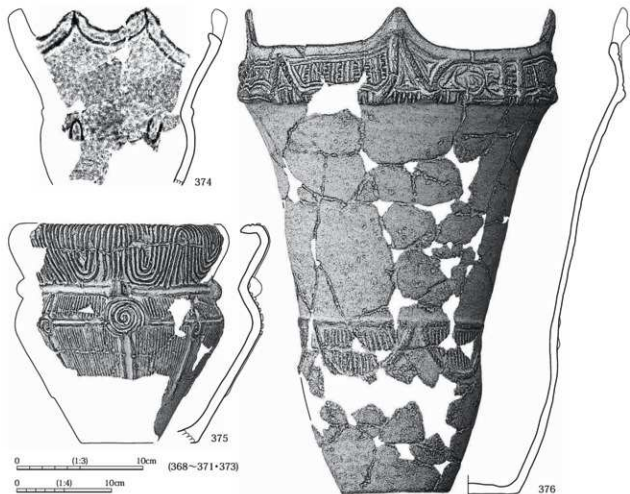
SB63 : (368~371)



SB64 : (372~375)



SB65(1) : (376)

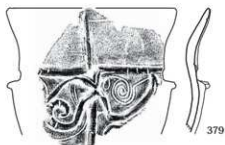
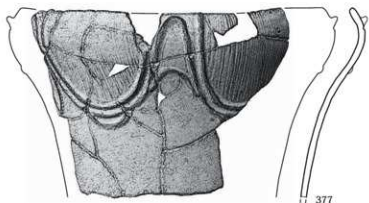


0 (1.3) 10cm

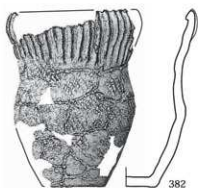
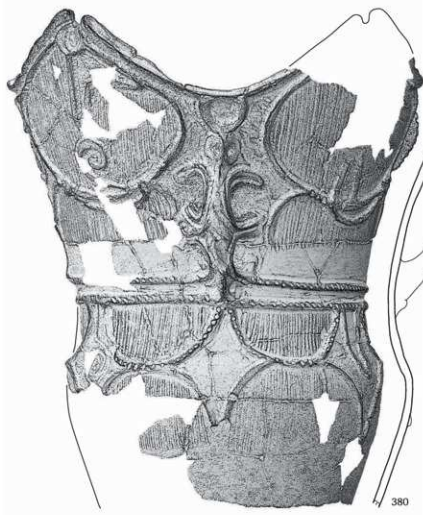
(368~371・373)

0 (1.4) 10cm

SB65(2) : (377~379)



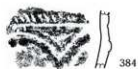
SB66 : (380~382)



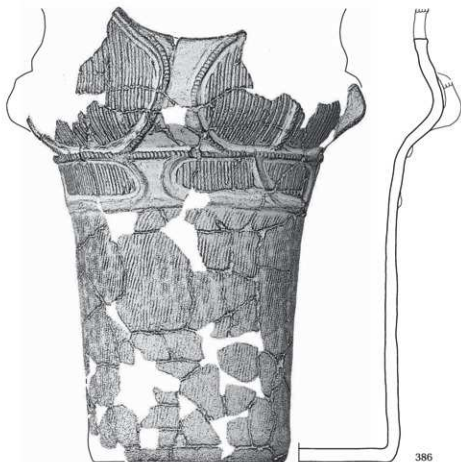
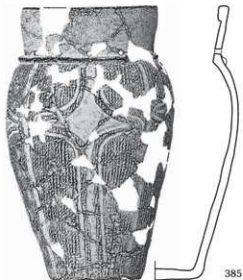
0 (1:3) 10cm (378)

0 (1:4) 10cm

SF 2 : (383・384)

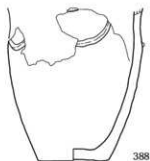


SF 3 : (385・386)

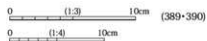


0 (1:3) 10cm (383・384)
0 (1:4) 10cm

SK42 : (387・388)



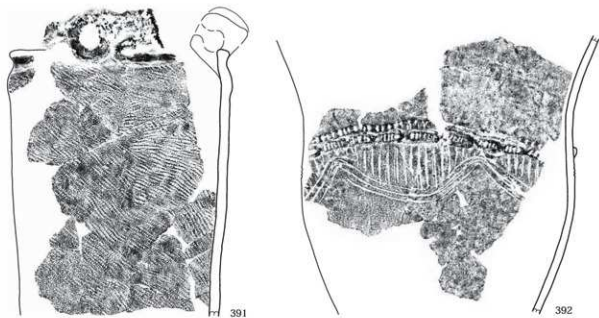
SK43 : (389)



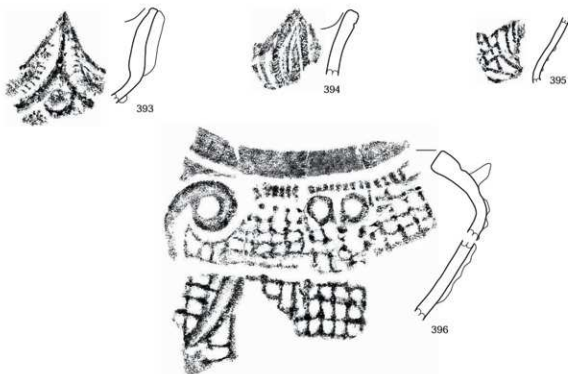
SK48 : (390)



SK49 : (391・392)



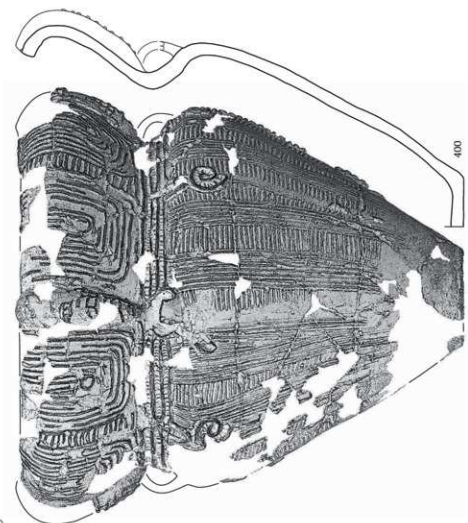
SK51 : (393~396)



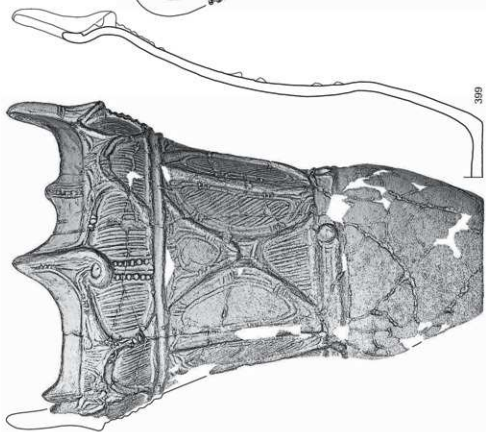
SK53 : (397・398)



UG 3 : (400)



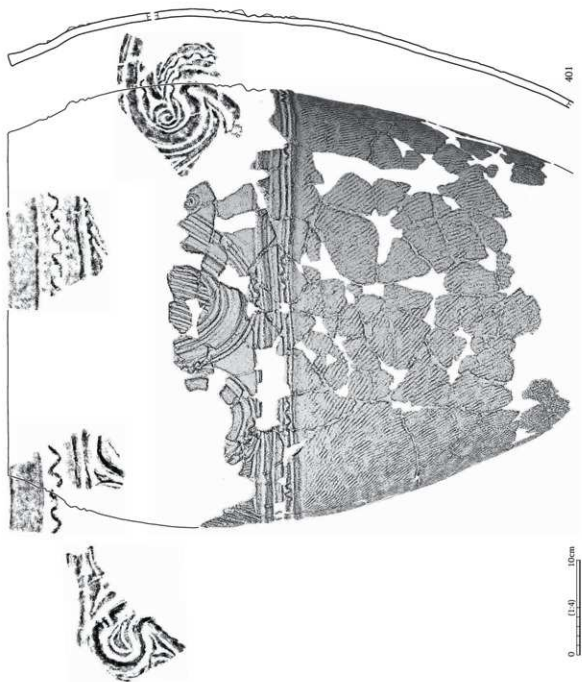
UG 1 : (399)



UG 1・3

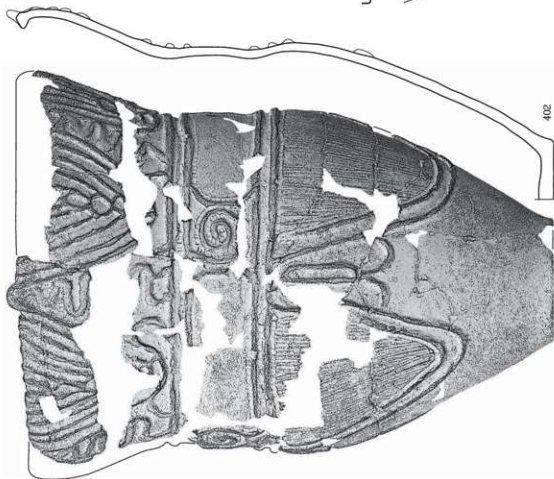


UG 2 : (401)

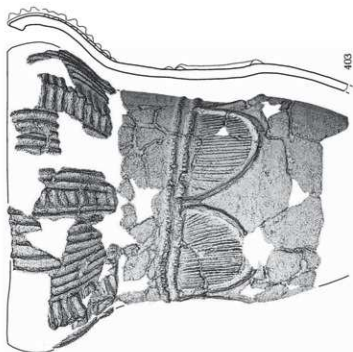


UG 2

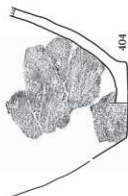
UG 4 : (402)



UG 5 : (403)



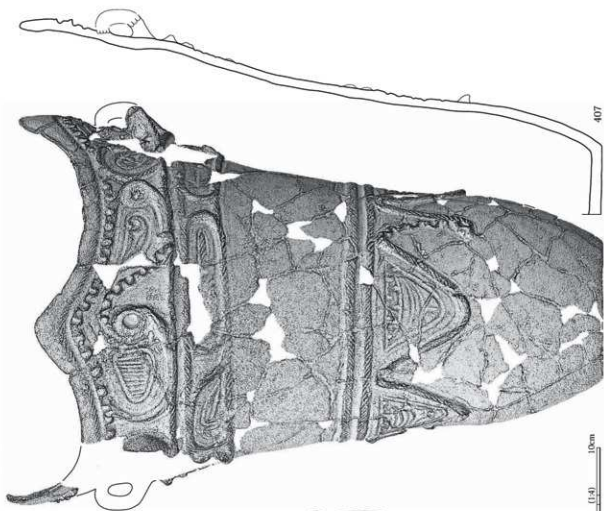
UG 6 : (404)



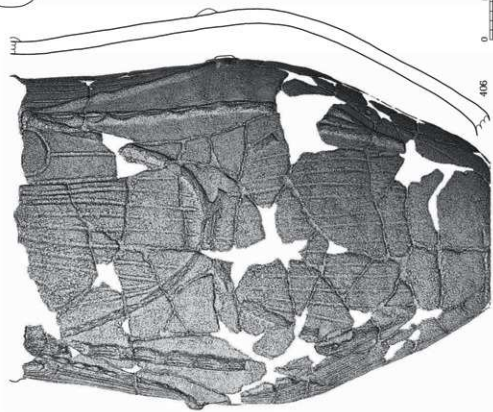
UG 7 : (405)



UG 9 : (407)

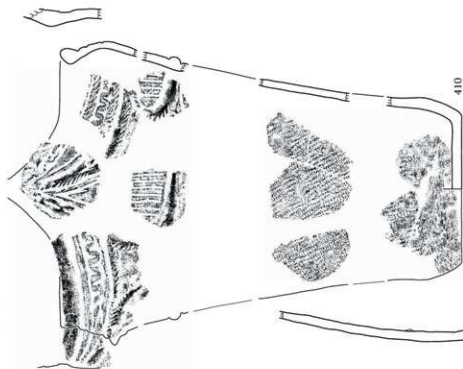


UG 8 : (406)

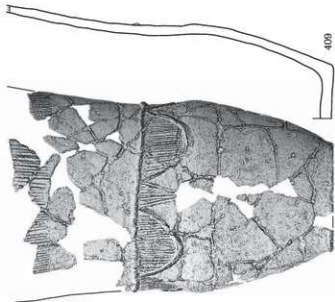


UG 8・9

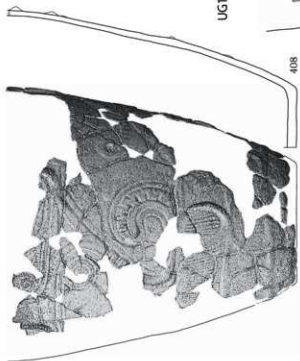
UG12 : (410)



UG11 : (409)



UG10 : (408)



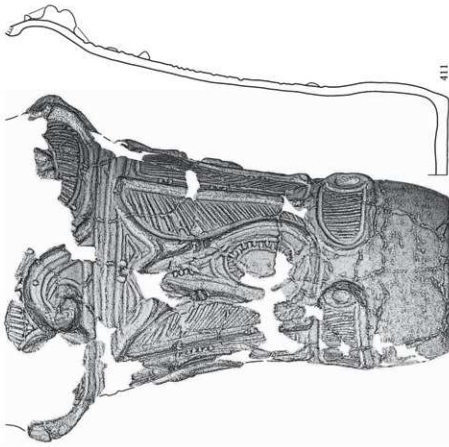
0 10cm (1:4) 20cm (408)

0 10cm (1:4)

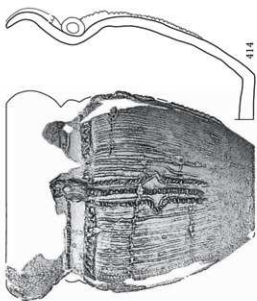
UG14 : (412)



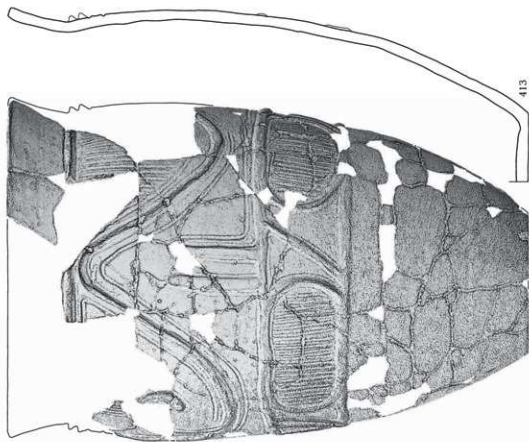
UG13 : (411)



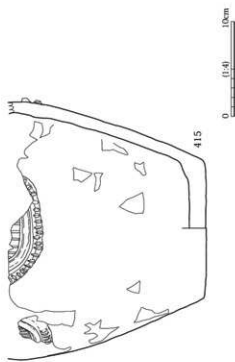
UG16 : (414)



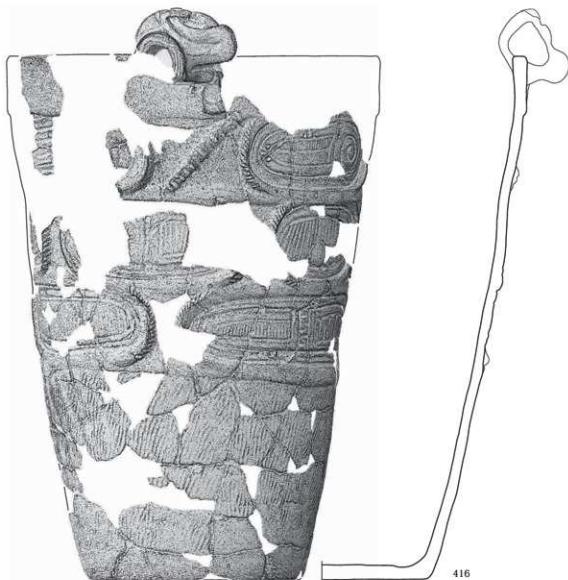
UG15 : (413)



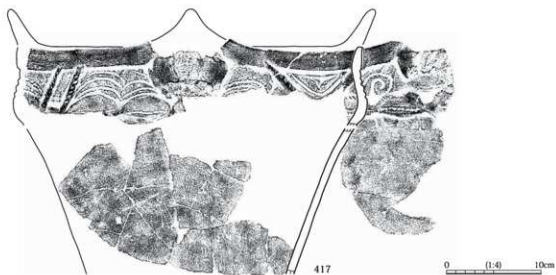
UG17 : (415)



UG18 : (416)

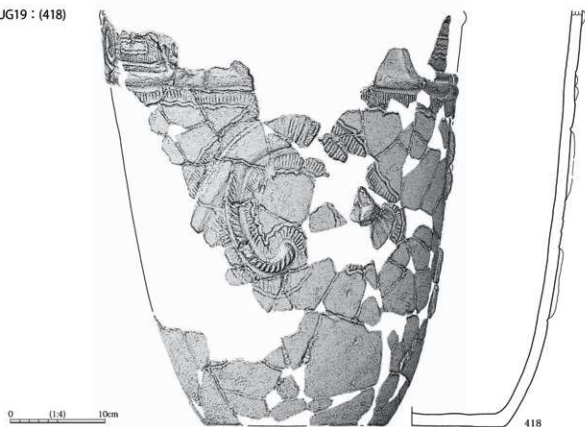


UG20 : (417)

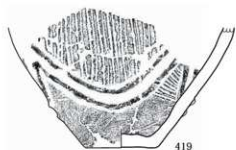


UG18・20

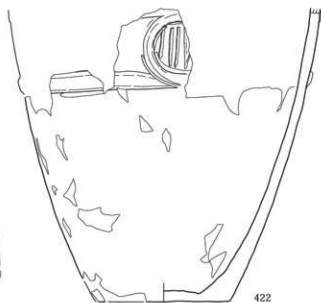
UG19 : (418)



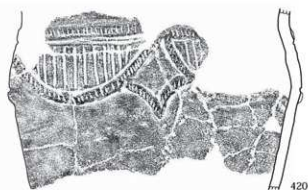
UG21 : (419)



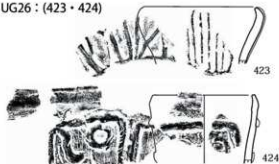
UG25 : (422)



UG22 : (420)



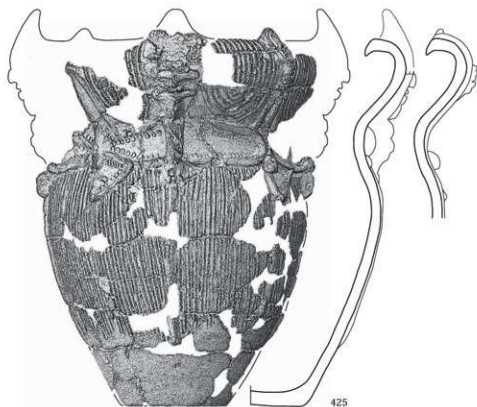
UG26 : (423・424)



UG23 : (421)



UG27 : (425)



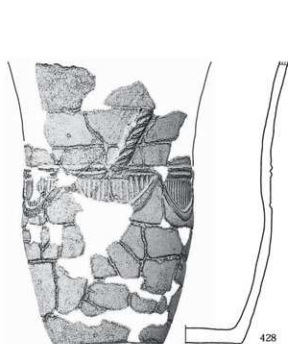
UG28 : (426)



UG29 : (427)



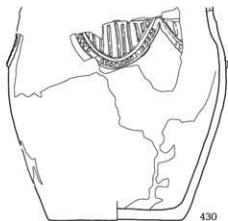
UG30 : (428)



UG31 : (429)



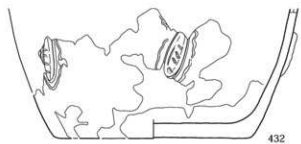
UG32 : (430)



UG33 : (431)



UG34 : (432)

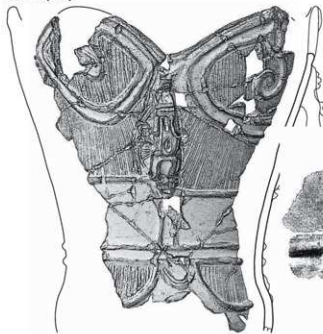


UG35 : (433・434)



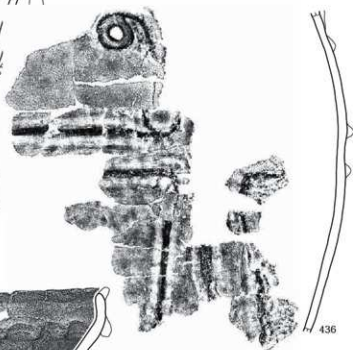
0 (1:4) 10cm

DS1 : (435)

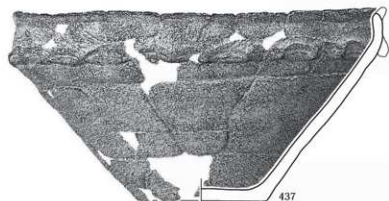


435

DS2 : (436~438)



436



437



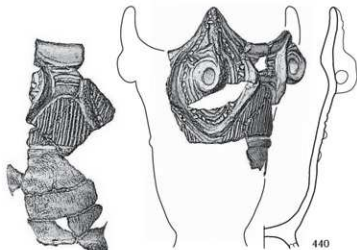
438

0 (1:4) 10cm

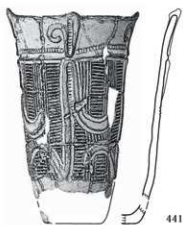
DS 4 : (439)



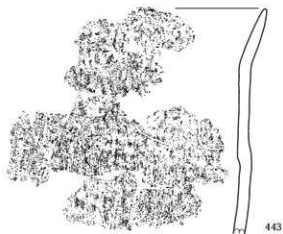
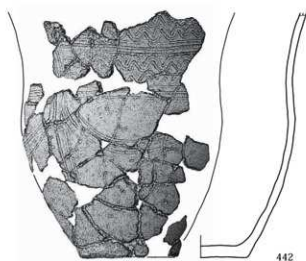
DS 5 : (440)



DS 7 : (441)



DS 8 : (442・443)



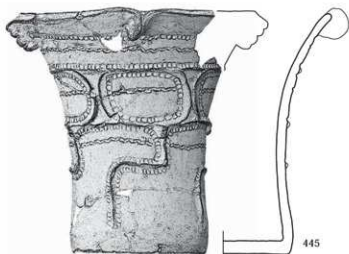
0 (1:3) 10cm (443)

0 (1:4) 10cm

DS9 : (444)



DS13 : (445)

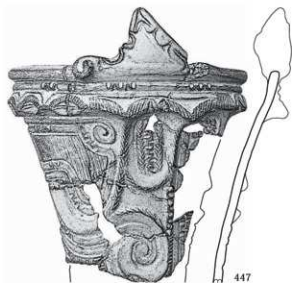


DS19 : (446)

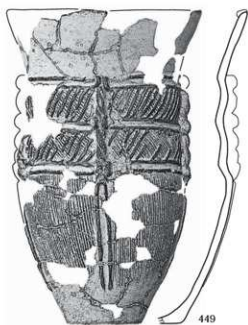


0 (1-4) 10cm

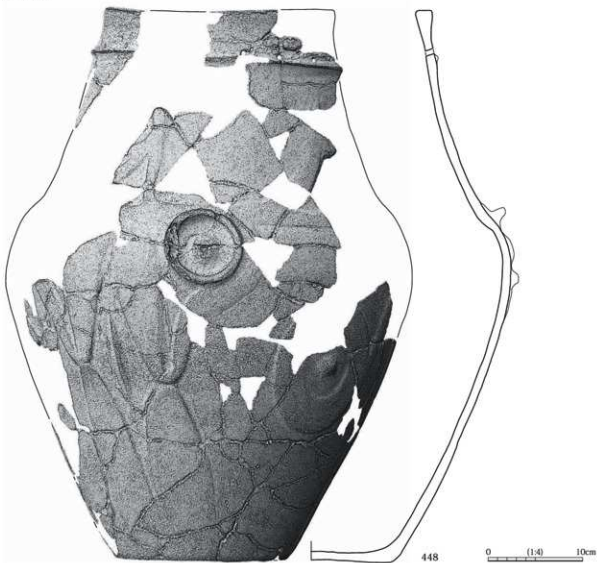
DS22 : (447)



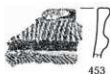
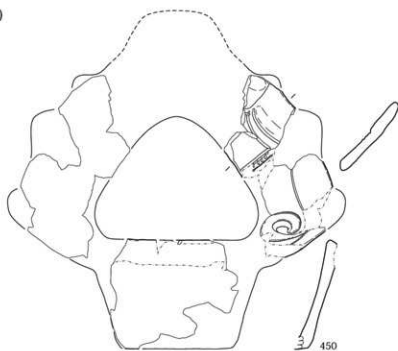
DS99 : (449)



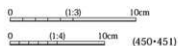
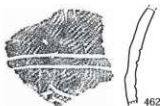
DS23 : (448)



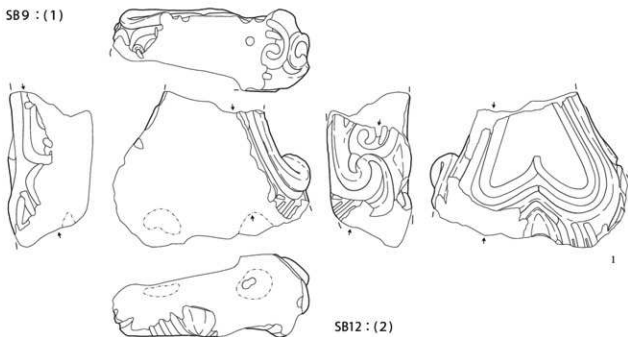
中期 遺構外：(450~455)



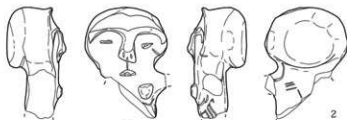
前期末葉~中期初頭 遺構外：(456~462)



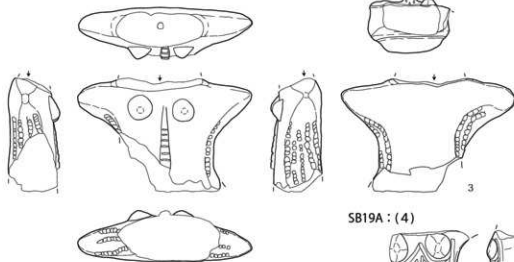
SB9 : (1)



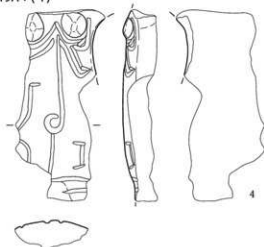
SB12 : (2)



SB15 : (3)

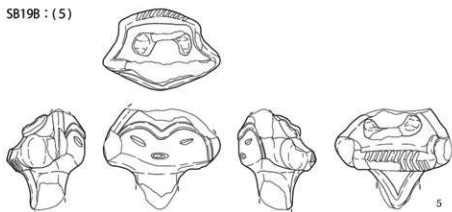


SB19A : (4)

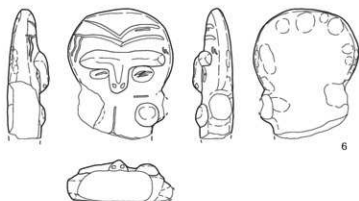


0 (1:2) 5cm

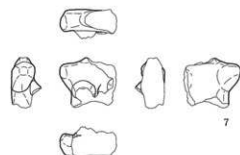
SB19B : (5)



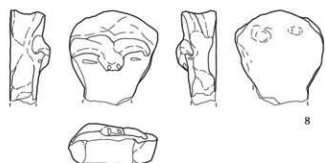
SB24 : (6)



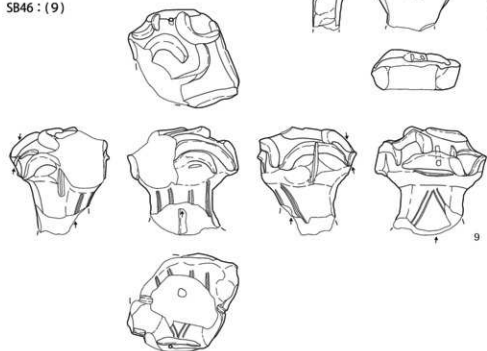
SB42 : (7)



SB43B : (8)

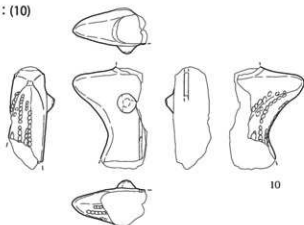


SB46 : (9)



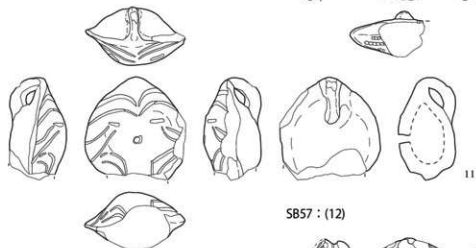
0 (1:2) 5cm

SB49 : (10)



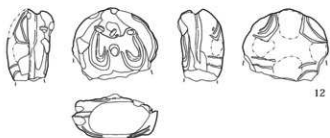
10

SB50 : (11)



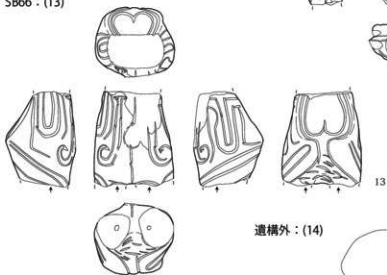
11

SB57 : (12)



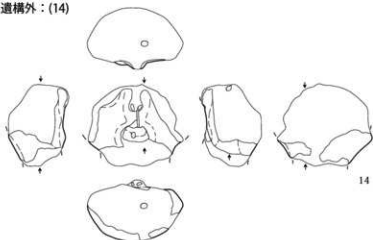
12

SB66 : (13)



13

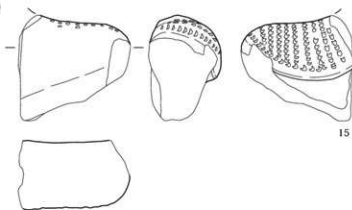
遺構外 : (14)



14

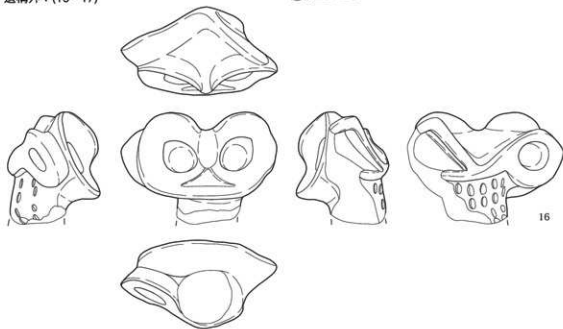
0 (1:2) 5cm

S B 46 : (15)

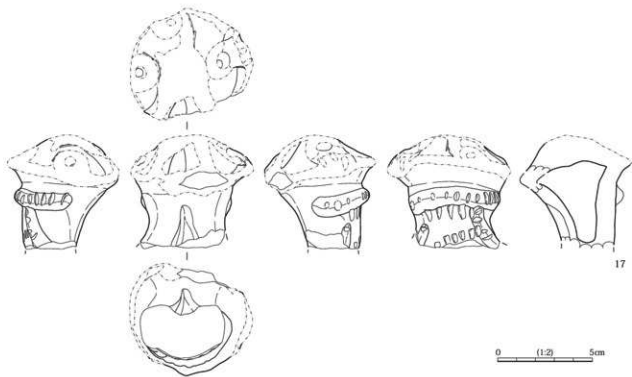


15

遺構外 : (16・17)



16



17

0 (1:2) 5cm

S B 46・遺構外

SB1 : (1)



SB4 : (2)



SB6 : (3)



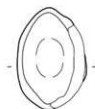
SB9 : (4~7)



SB13 : (8~10)



SB18 : (11・12)



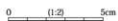
SB61 : (13)



SB63 : (14)

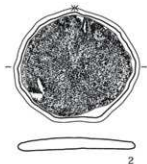
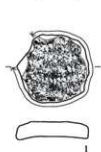


遺構外 : (15)

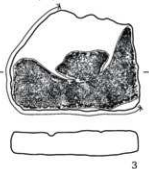


土製円板

SB10 : (1・2)



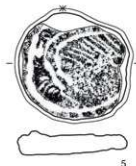
SB12 : (3)



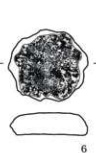
SB13 : (4)



SB19A : (5)



SB26 : (6)



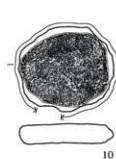
SB49 : (7・8)



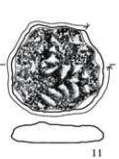
SB50 : (9)



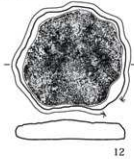
SB52 : (10)



SB57 : (11)



SB61 : (12)

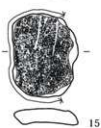


遺構外 : (13・14)



土器片錘

SB27 : (15)



SB30 : (16)



土鈴

SB47 : (17)

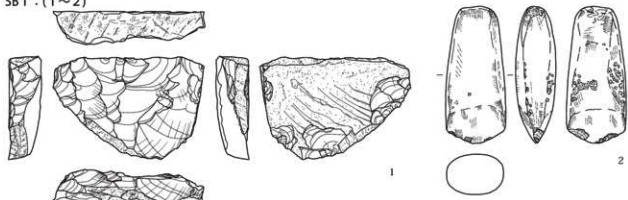


遺構外 : (18)

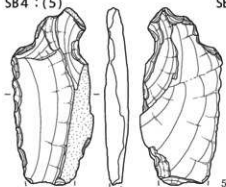


0 (1:2) 5cm

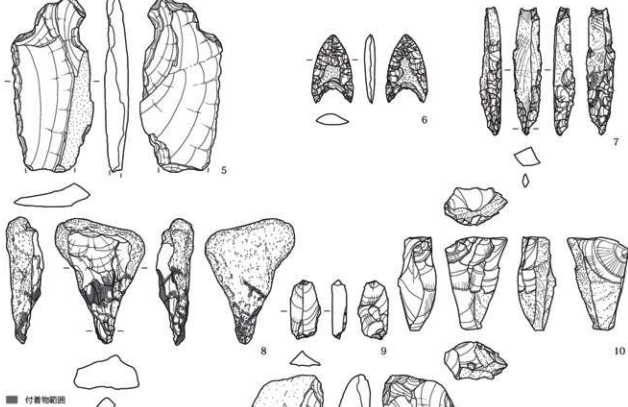
SB1 : (1~2)



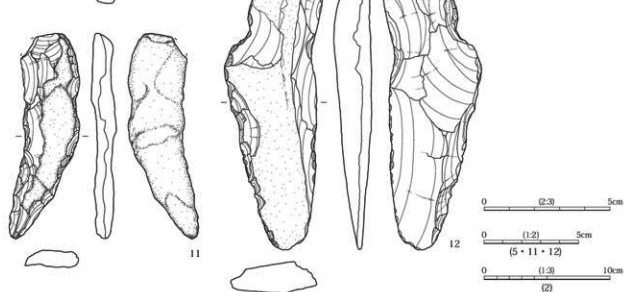
SB4 : (5)



SB9(1) : (6~12)



■ 付着物範囲



0 (2,3) 5cm

0 (1,2) 5cm

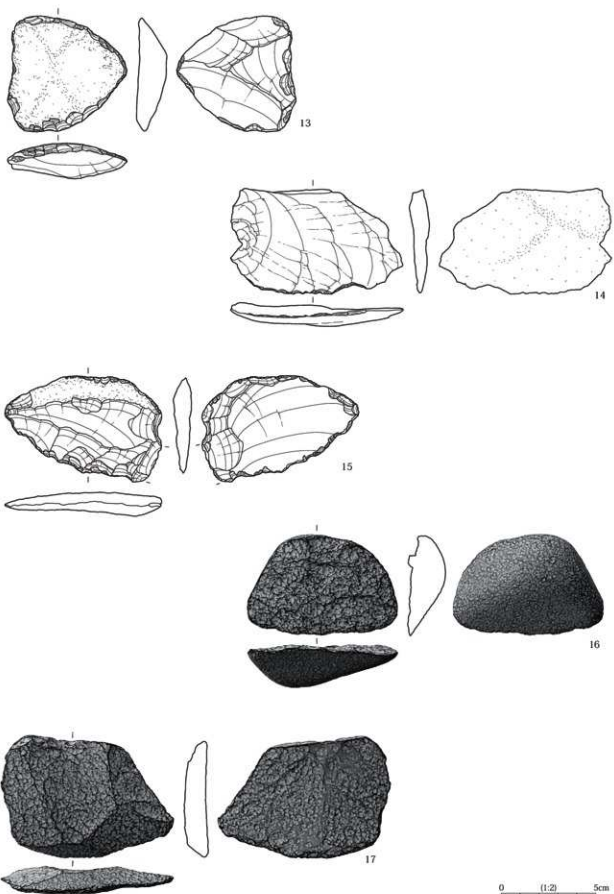
(5・11・12)

0 (1,3) 10cm

(2)

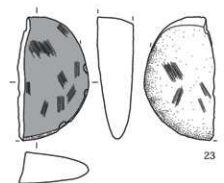
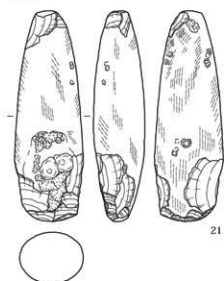
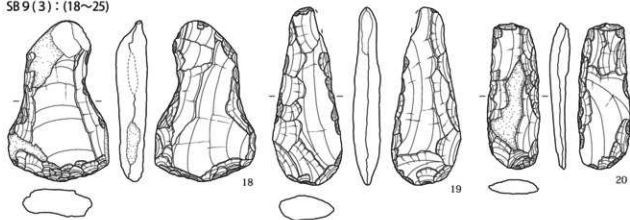
SB1・4・9 (1)

SB9(2) : (13~17)

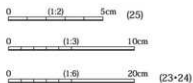
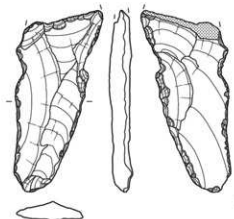


SB9(2)

SB9(3): (18~25)

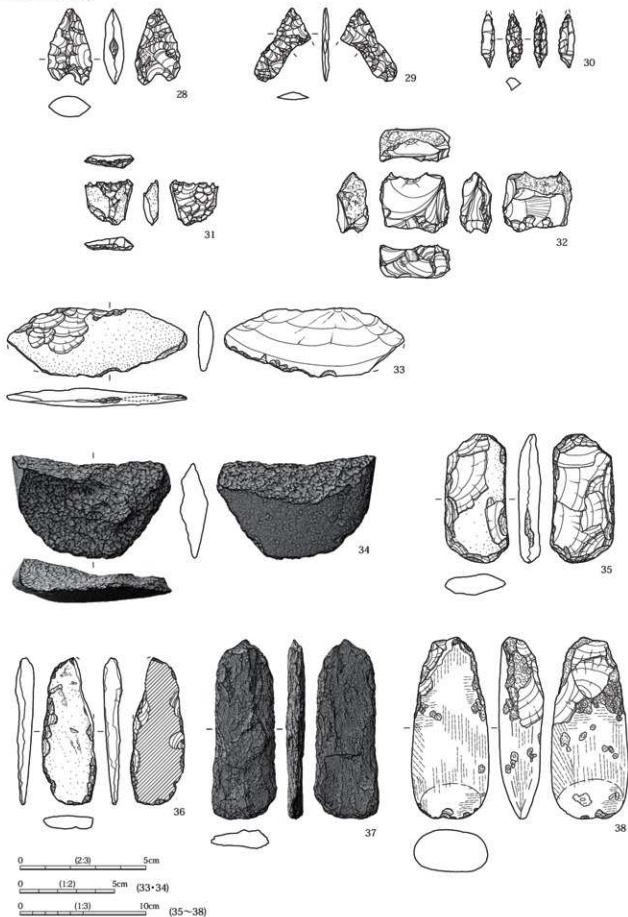


SB10

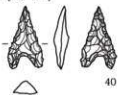


25
 磨面欠損

SB11 : (28~38)



SB12 : (40・41)

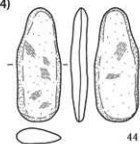


40



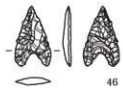
41

SB13 : (44)

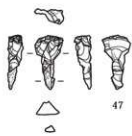


44

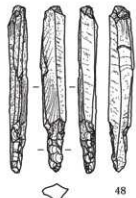
SB14B : (46~55)



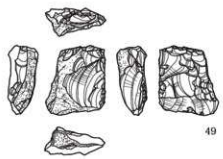
46



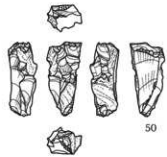
47



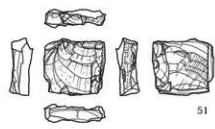
48



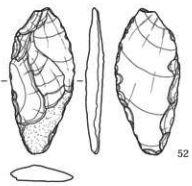
49



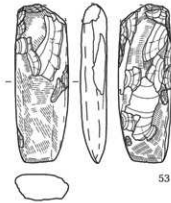
50



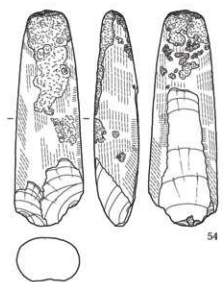
51



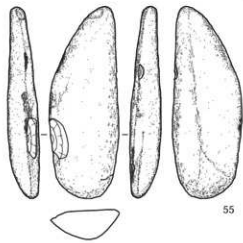
52



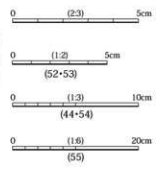
53



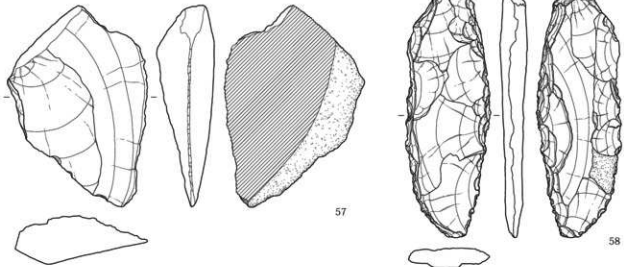
54



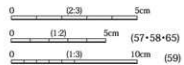
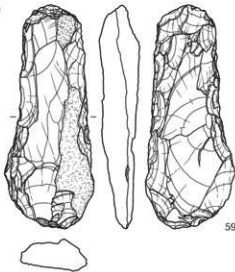
55



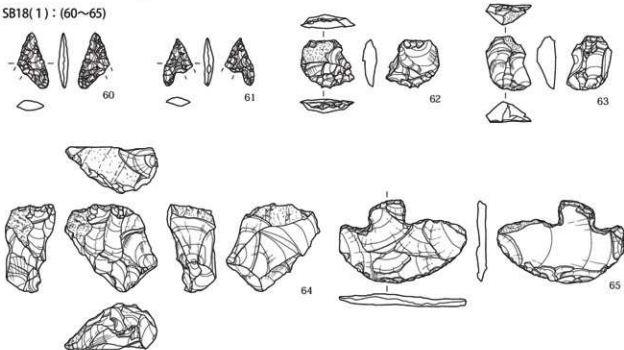
SB16A : (57・58)



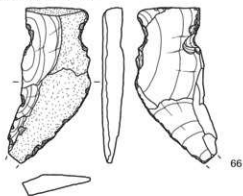
SB17A : (59)



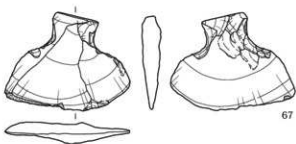
SB18(1) : (60~65)



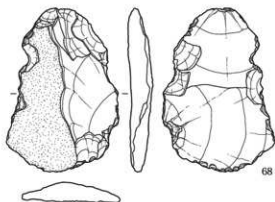
SB18(2) : (66~72)



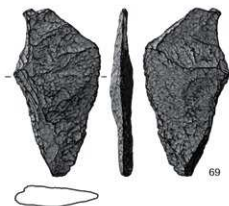
66



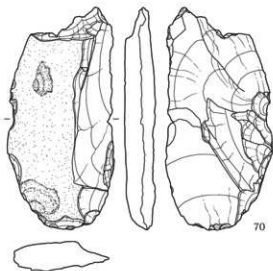
67



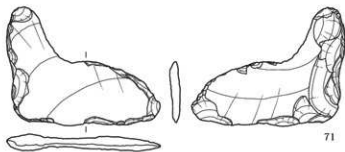
68



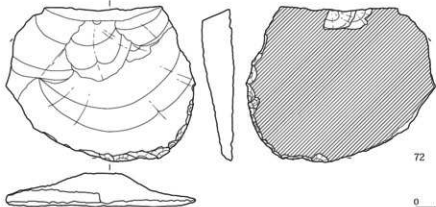
69



70



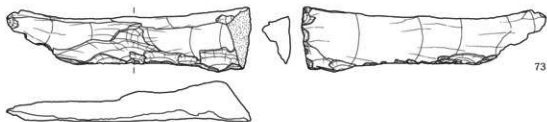
71



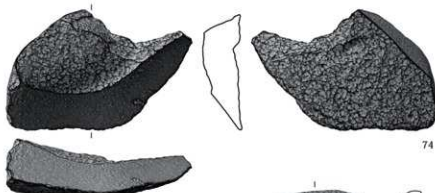
72

0 (1:2) 5cm

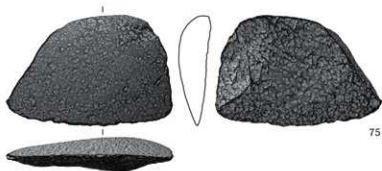
SB18(3) : (73~79)



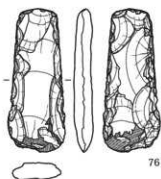
73



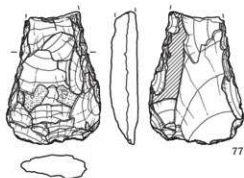
74



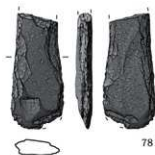
75



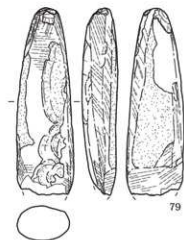
76



77



78



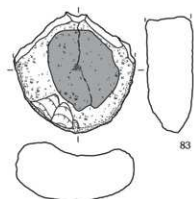
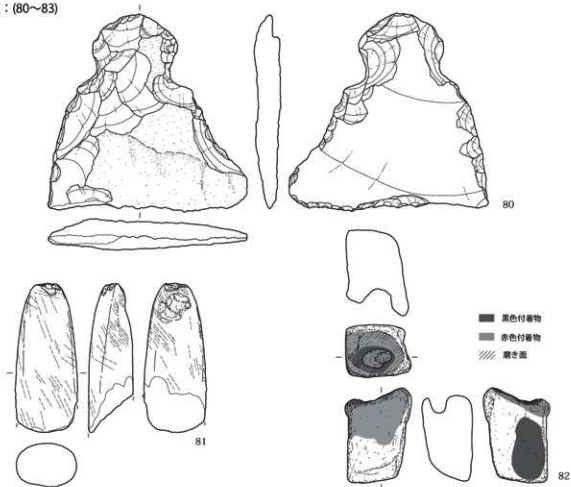
79

0 (1:2) 5cm (74・75)

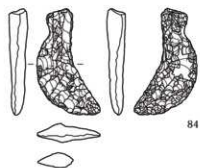
0 (1:3) 10cm

SB18(3)

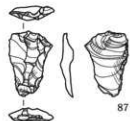
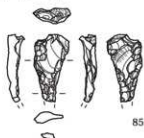
SB19A : (80~83)



SB19B : (84)



SB23(1) : (85~87)



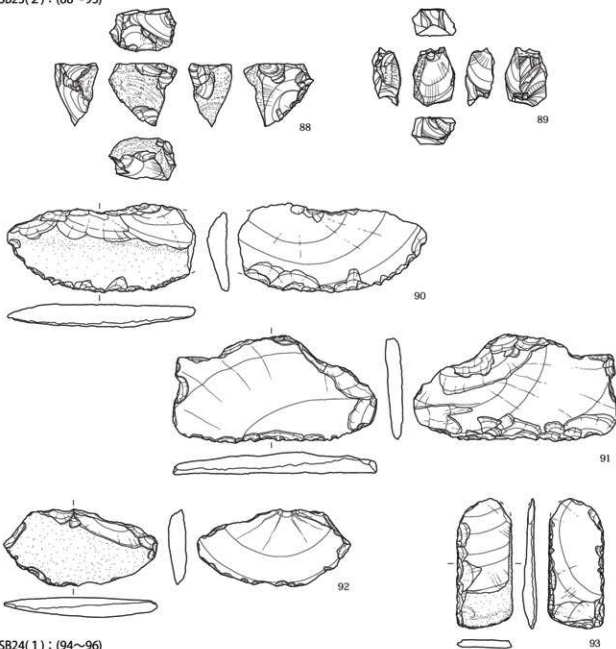
0 (2:3) 5cm

0 (1:2) 5cm (80-84)

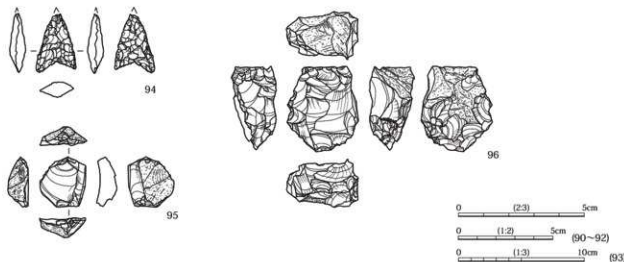
0 (1:3) 10cm (81)

0 (1:6) 20cm (83)

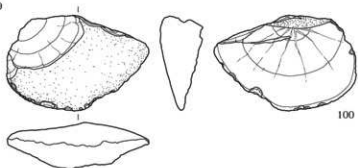
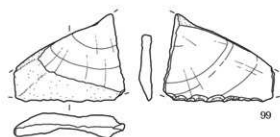
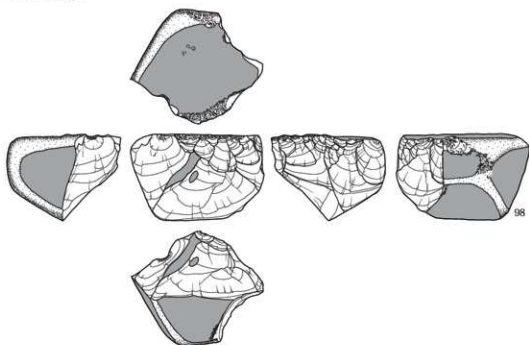
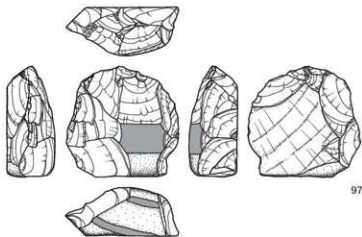
SB23(2) : (88~93)



SB24(1) : (94~96)



SB24(2) : (97~100)



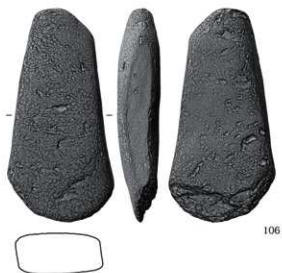
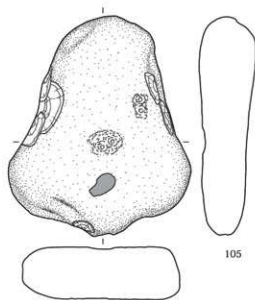
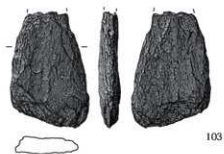
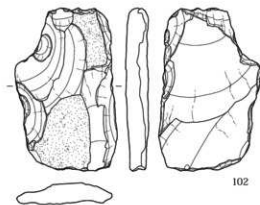
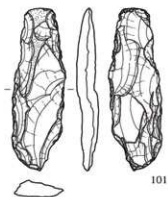
0 (1:2) 5cm

0 (1:4) 10cm

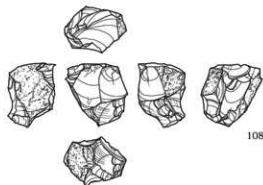
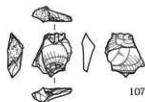
(97-98)

S B 2 4 (2)

SB24(3) : (101~103、105・106)



SB25(1) : (107・108)

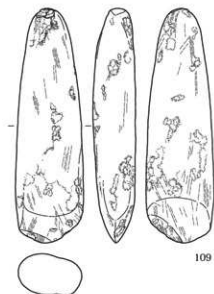


0 (2:3) 5cm (107・108)

0 (1:3) 10cm

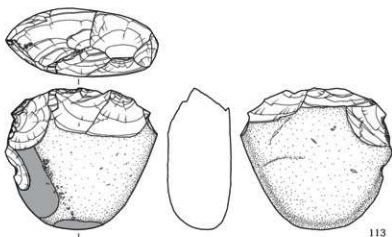
0 (1:6) 20cm (105)

SB25(2) : (109)



109

SB26 : (113)

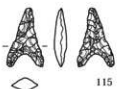


113

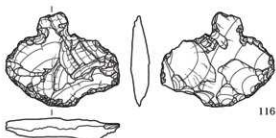
SB29 : (114~117)



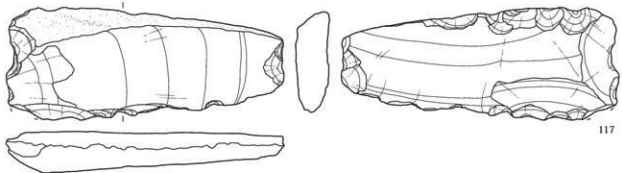
114



115

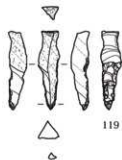


116



117

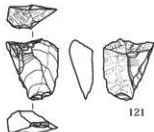
SB30(1) : (119~121)



119



120



121

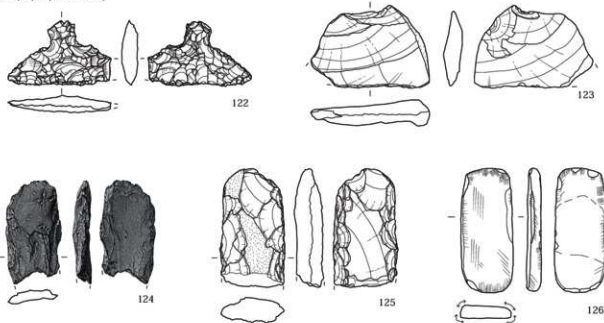
0 (2:3) 5cm

0 (1:2) 5cm (116-117)

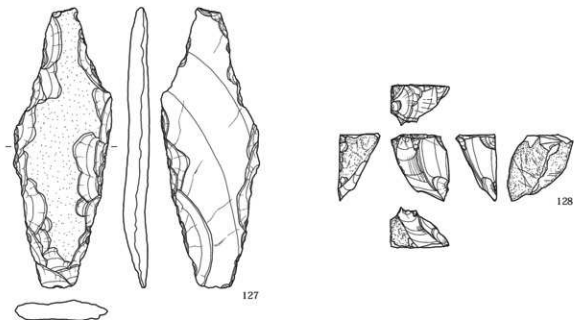
0 (1:3) 10cm (109)

0 (1:4) 10cm (113)

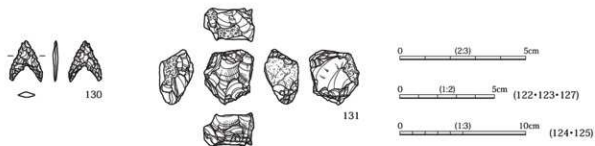
SB30(2) : (122~126)



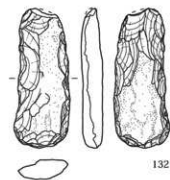
SB37 : (127・128)



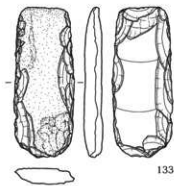
SB46(1) : (130・131)



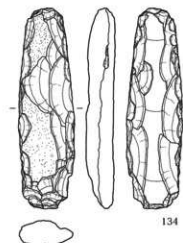
SB46(2) : (132~137・139)



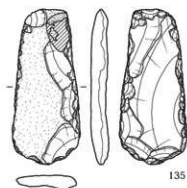
132



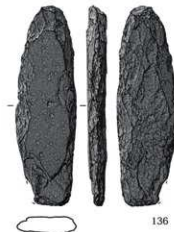
133



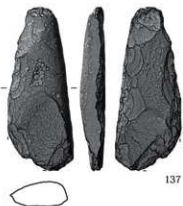
134



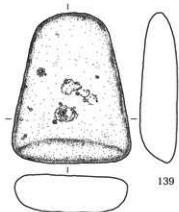
135



136



137

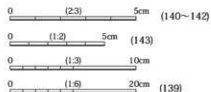


139

SB47 : (140~144)



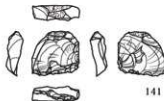
140



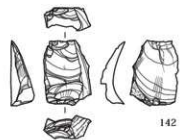
(140~142)

(143)

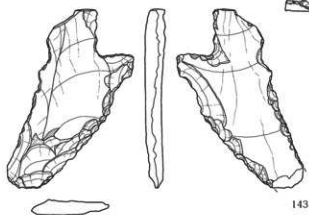
(139)



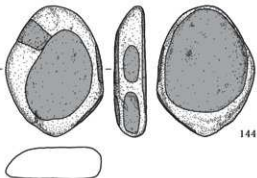
141



142

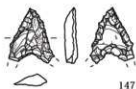


143



144

SB49 : (147・148)

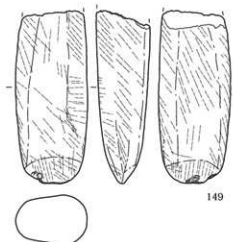


147

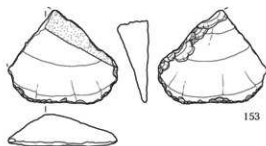


148

SB50 : (149)

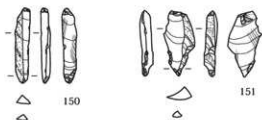


149



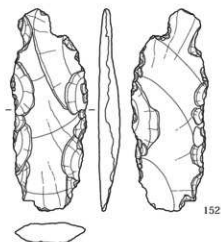
153

SB52(1) : (150~154)

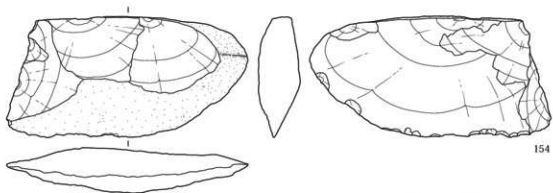


150

151



152



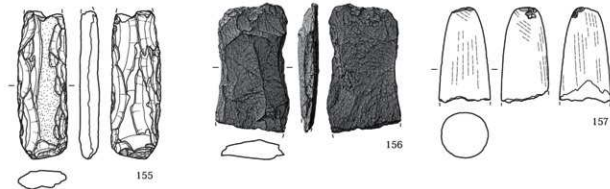
154

0 (2:3) 5cm

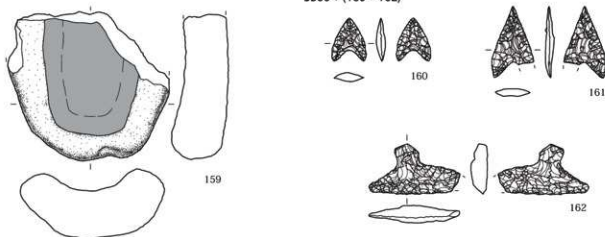
0 (1:2) 5cm (152~154)

0 (1:3) 10cm (149)

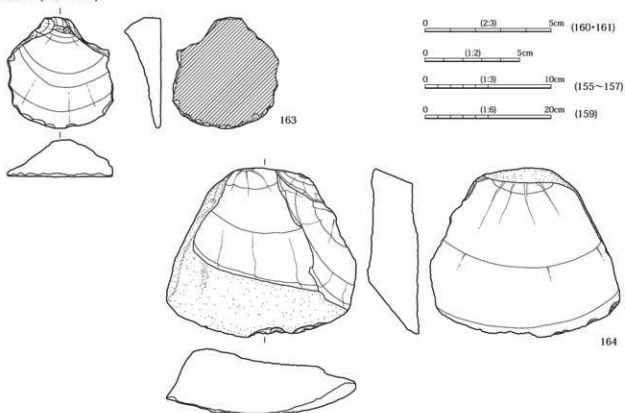
SB52(2) : (155~157・159)



SB60 : (160~162)



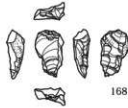
SB61 : (163・164)



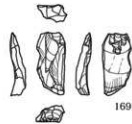
SB63(1) : (167~174)



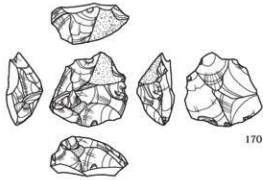
167



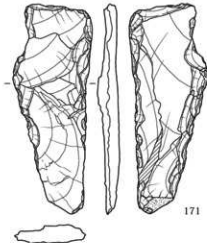
168



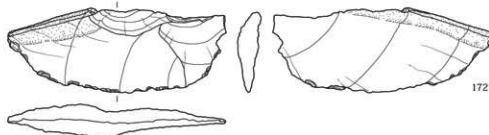
169



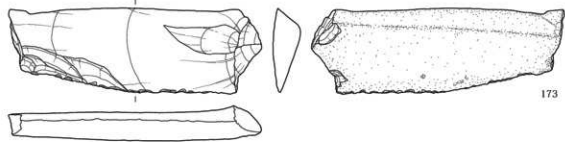
170



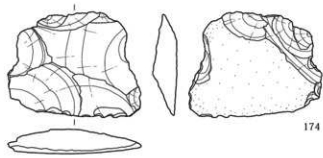
171



172



173

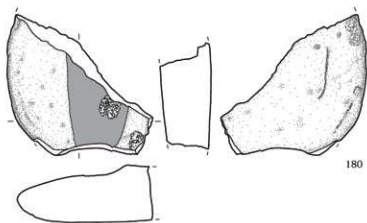
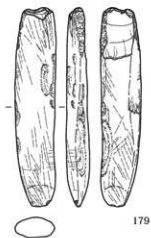
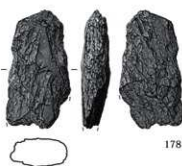
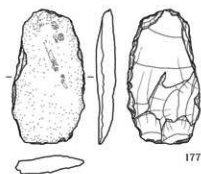
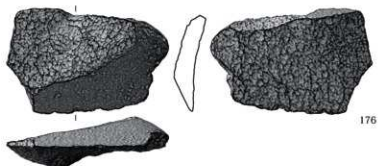
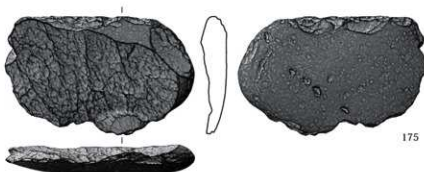


174

0 (2.3) 5cm

0 (1.2) 5cm (171~174)

SB63(2) : (175~180)

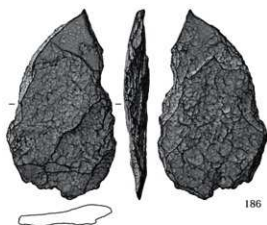
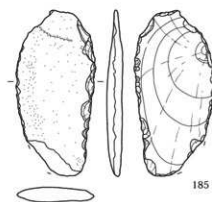
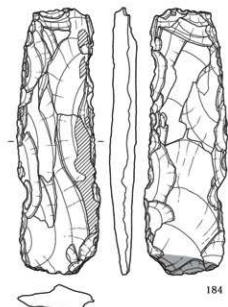
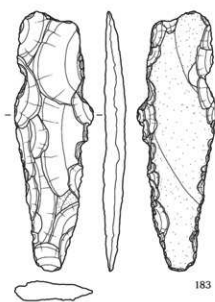
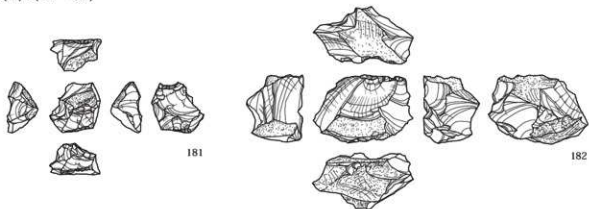


0 (1:2) 5cm (175・176)

0 (1:3) 10cm

0 (1:6) 20cm (180)

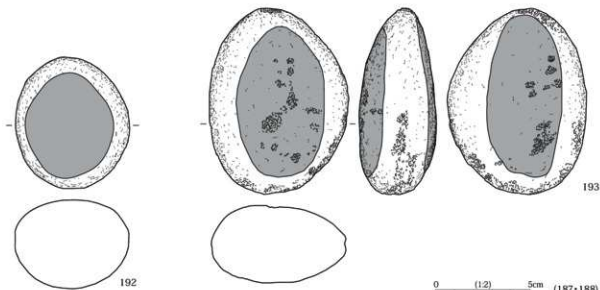
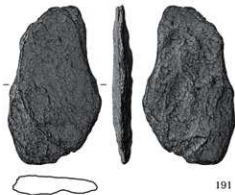
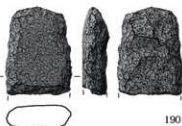
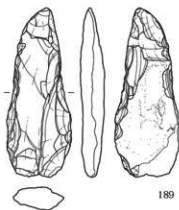
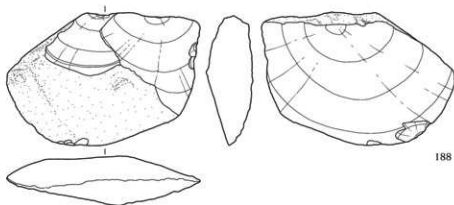
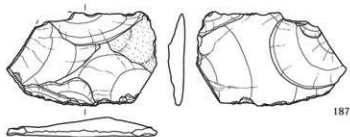
SB65(1) : (181~186)



0 (2/3) 5cm (181・182)

0 (1/2) 5cm

SB65(2) : (187~193)

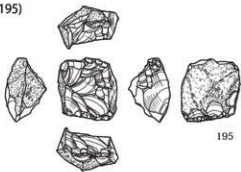


0 (1/2) 5cm (187・188)

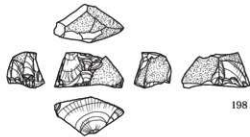
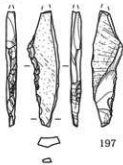
0 (1/3) 10cm

S B 6 5 (2)

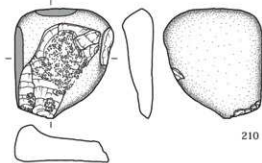
SK42 : (195)



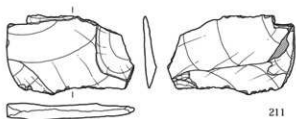
SK49 : (197・198)



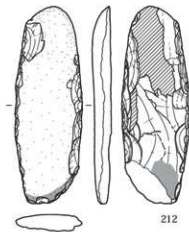
UG33 : (210)



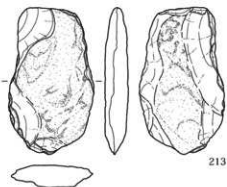
UG34 : (211)



UG35 : (212)



DS 2 : (213)



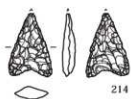
0 (2.3) 5cm

0 (1.2) 5cm (211)

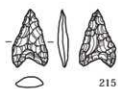
0 (1.3) 10cm (212-213)

0 (1.6) 20cm (210)

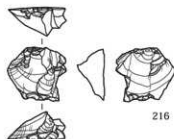
遺構外：(214~219)



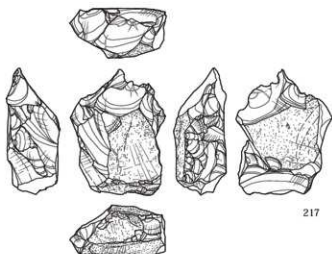
214



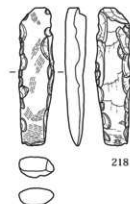
215



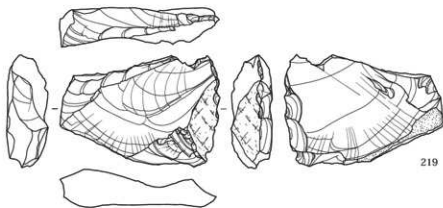
216



217



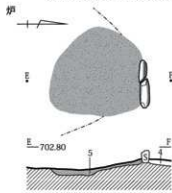
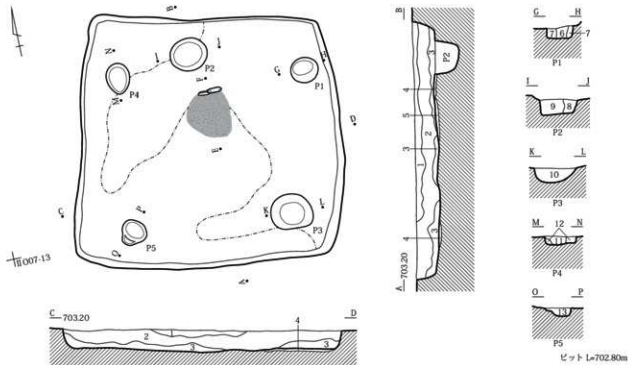
218



219

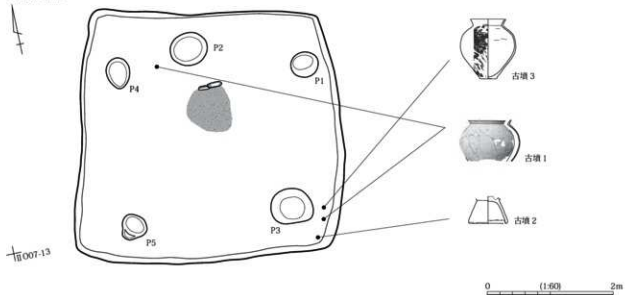
0 (219) 5cm

0 (12) 5cm (218)



- | | | |
|----|-----------------|--------------------------|
| 1 | 黒褐色(10YR3/1) | しまり強。粘性やや強。 |
| 2 | 暗褐色(10YR3/3) | 砂質。しまり・粘性やや強。 |
| 3 | 灰黄褐色(10YR4/2) | 砂質。しまり・粘性やや強。 |
| 4 | 明黄褐色(2.5YR7/6) | 砂質。しまり強。粘性やや弱。粘土。 |
| 5 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | しまり強。粘性やや強。焼土。炭化物混。 |
| 6 | 明黄褐色(10YR6/8) | 粘質。しまり中。粘性やや強。 |
| 7 | 明黄褐色(10YR6/8) | 粘質。しまりやや強。粘性やや弱。褐色ブロック混。 |
| 8 | 黄褐色(10YR5/6) | 砂質。しまり強。粘性弱。 |
| 9 | 灰黄褐色(10YR4/2) | しまりやや強。粘性中。黄褐色ブロック混。 |
| 10 | 黄褐色(10YR5/6) | 砂質。しまり強。粘性弱。 |
| 11 | 褐色(10YR4/4) | しまり強。粘性やや弱。 |
| 12 | 黄褐色(10YR5/8) | 砂質。しまりやや強。粘性やや弱。 |
| 13 | 明黄褐色(10YR6/8) | 砂質。しまり中。粘性やや弱。褐色ブロック混。 |

遺物出土状況



SB14A : (1~4)

